コンバイン

取扱説明書

MCH400



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

大豆コンバイン（MCH360～400）作物別調節基準一覧

2012.04

項目＼作物		大豆	ソバ	麦	ナタネ	雑穀（ヒエ イナキビ）	えごま	極小粒大豆	小豆（北海道）	大袖大豆（北海道）	菜豆（金時）（北海道）	手芒（北海道）
コンケーブ		大豆用コンケーブ（Φ25）	ソバ用（丸棒コンケーブ）	麦用コンケーブ クリンプ□16	大豆用コンケーブ（Φ25）	雑穀用コンケーブ クリンプ□12	雑穀用コンケーブ クリンプ□12	大豆用コンケーブ（Φ25）	前：大豆用コンケーブ 後：北海道専用コンケーブ	スパイラルコンケーブ（リード角35°）	スパイラルコンケーブ（リード角15°）	スパイラルコンケーブ（リード角35°）
ロータ回転数（RPM）		385	386	805	386	805	805	386	386	386	185	385
ロータ		標準	標準	標準	標準	標準	標準	標準	標準	2重扱歯	標準	標準
グレインシーブ（mm）		Φ15	Φ9	Φ15	Φ9	Φ9	Φ9	Φ15	Φ15	Φ15	Φ20	Φ15
送塵弁		5～11（ロスの出ない限り「開」の方向	9～11	9～11	9～11	9～11	9～11	5～6（ロスの出ない限り「開」の方向	5～6（ロスの出ない限り「開」の方向	6～11（ロスの出ない限り「開」の方向	5～8（ロスの出ない限り「開」の方向	6～8（ロスの出ない限り「開」の方向
チャフシーブ前（クリーンシフト）		3・4・5	1・2	3・4・5	3	3・4・5	3・4・5	3・4・5	3・4・5	3・4・5	5	4・5
チャフシーブ後		2・3	1・2	3・4	4	3・4	3・4	2・3	2・3	2・3	4	2・5
唐箕ファン	唐箕回転調節レバー	1～5	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1～5	1～5	1～5	4，5	3～5
	唐箕回転調節板	長穴「高」	長穴「低」	長穴「高」	長穴「低」	長穴「低」	長穴「低」	長穴「高」	長穴「高」	長穴「高」	長穴「高」	長穴「高」
	唐箕シャッタ下	無	有	無	有	有	有	無	無	無	無	無
	唐箕シャッタ上	無	無	無	有	有	有	無	無	無	無	無
	唐箕風路	標準（ダブルフロー	標準（ダブルフロー	標準（ダブルフロー	標準（ダブルフロー	標準（ダブルフロー	標準（ダブルフロー	標準（ダブルフロー	標準（ダブルフロー	標準（ダブルフロー	シングルフロー	シングルフロー
2番稈混入防止板		無	有	無	無	有	有	無	無	無	無	無
フロントデバイダ		無	左側取付	無	左右側取付	無	無	無	無	無	無	無
PFオーガとPF底板の隙間（mm）		12～15	6～8	6～8	6～8	6～8	6～8	12～15	12～15	12～15	最大	12～15
基本ヘッダ		リールヘッダ	リールヘッダ	リールヘッダ	リールヘッダ	リールヘッダ	リールヘッダ	リールヘッダ	※	※	※	※
必要オプション部品		オプション部品不要	ソバ部品（BW320－KSM）MCH380/400は（BW380－KSM） ソバ 麦共用部品（BW320－KKM）	麦部品（BW320－KMM） ソバ 麦共用部品（BW320－KKM）	ナタネ部品（BW360－KNM）MCH320可能 ソバ 麦共用部品（BW320－KKM）	雑穀部品（BW360－KZM） ソバ 麦共用部品（BW320－KKM）	雑穀部品（BW360－KZM） ソバ 麦共用部品（BW320－KKM） えごまキット（都度対応品）	小豆部品（RB320M）	小豆部品（RB320（H）） 切刃部品（B320－KIT,KIH）	仕様設定（十勝仕様）	菜豆キット（B320-K,KB） 下記セット 菜豆用減速プーリ部品（B320-K,KBA） 菜豆用コンケーブ部品（B320-K,KBC）	設定ナシ

・MCH380/400のソバ専用キットは受けアミなし。標準品をそのまま使用する。

・MCH320は雑穀の刈り取り不適。キット付くが脱穀～タンクで詰まるリスクあり。

※ロークロップヘッダを利用する場合があるが入手不可。

・末尾にMのないキット品は三菱梱包ではない。受注生産。

はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください

このたびは、**三菱コンバイン**をお買い上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は、本機の取り扱い方法と、使用上の注意事項について記載しています。
本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書を良くお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。
また、お読みになった後も、この取扱説明書をシート後のポケットに入れ、いつもお手元に置いて、必要に応じて活用してください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、この取扱説明書を本製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書および安全銘板を、紛失または損傷された場合は、速やかにお買い求め先にご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「1 章 安全な作業をするために必ずお守りください」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い求め先へご相談ください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容には、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

このコンバインは、路上（公道）走行できません。

このコンバインは、道路運送車輌法の保安基準に適合する装備をしておりませんので、法令により公道を自走することができません。公道を移動する場合は、必ずトラックなどにのせて運搬してください。※積載するトラックの選定など、道路交通法を守ってください。

説明記号の見方

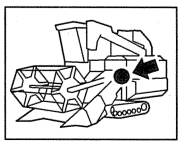
⚠危険　その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠警告　その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠注意　その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

[重要]　誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

[参考]　作業能率を良くしたり、誤った操作をしないための補足説明です。



3032130

説明箇所の位置と、見ている方向を示します。
●印:位置 ➡印:見ている方向

本製品の使用目的について

本製品は、大豆の他に、小豆・ソバ・麦の作物の刈取・収穫用の作業機としてご使用ください。使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。
大豆以外の場合は、専用キットに交換し、各部の調整を必ず行ってください。
(詳細は、専用キットの組替要領書をご覧ください。)
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。(詳細は、保証書をご覧ください。)

仕様について

本製品には下記の仕様があり、取扱説明書の内容で、仕様によっては該当しない項目もあります。

(例)MCH400 G C E S
- S:スプレッダ仕様
- E:排出コンベア仕様
- C:キャビン仕様
- G:グレンタンク仕様
- 型式

目次

はじめに 1

1章 安全な作業をするために必ずお守りください 6

1. 作業者の体調・服装について 6
2. 使用する機械について 6
3. 運転前・作業前点検をするとき 7
4. 運転・移動をするとき 10
5. 運搬するとき 12
6. 刈取作業をするとき 14
7. 作業後の手入れ・格納をするとき 16
8. 点検・整備をするとき 17
9. 安全銘板の貼り付け位置 20
10. 安全銘板の手入れについて 28

2章 保証とサービスについて 29

保証書は大切に保管してください 29
アフターサービスをお受けになるときは 29
排出ガス規制について 29

3章 各部のなまえ 30

1. 外観 30
2. ワンマンホッパ仕様 33
3. グレンタンク仕様 34
4. キャビン仕様 38

4章 各操作部のはたらき 39

1. エンジンコントロール関係 39
2. 作業関係 40
3. 走行関係 43
4. 電装関係 47
5. 液晶コンビネーションメータ 48
6. 自動定回転制御装置 50
7. 刈高さ自動制御装置 51
8. 刈取オートリフト・刈取オートセット装置 52
9. 車高水平制御装置 53
10. 排出コンベア装置（グレンタンク仕様のみ） 54
11. キャビン関係 56
12. その他 63

5章 運転前・作業前点検のしかた 67

1. 作業者の体調・服装について 67
2. 本機の点検のしかた 68

6章 運転・移動のしかた 69

1. コンバインへの乗降のしかた 69
2. シート位置の調節のしかた 69
3. ステアリングハンドルの前後調節のしかた 70
4. エンジンの始動のしかた 70
5. 寒冷時の始動のしかた 73
6. 暖機運転のしかた 74
7. エンジンの停止のしかた 74
8. 発進のしかた 75
9. 変速のしかた 77
10. 旋回のしかた 77
11. 停車のしかた 78
12. 駐車のしかた 79
13. 移動走行のしかた 80
14. トラックでの運搬のしかた 83
15. エアコンの使いかた（キャビン仕様のみ） 89
16. 作業灯用外部電源の使いかた 91

7章 刈取りできる作物とほ場の条件について 93

1. 大豆の場合 93
2. ソバの場合（オプションが必要です。） 97
3. 麦の場合（オプションが必要です。） 97

8章 刈取作業前の準備のしかた 99

1. ほ場の準備と刈取方法について 99
2. コンバインの準備のしかた 101
3. 刈取作業前の掃除のしかた 107
4. ほ場への出入りのしかた 108

9章　刈取作業のしかた..... 109

1. 刈取操作のしかた..... 109
2. 作物に合わせた収穫作業のポイント..... 114
3. 作物や作業条件に合わせた
   各部の調節のしかた..... 116
4. 定置脱こくのしかた..... 122
5. 警報装置が作動したときの処置のしかた..... 124
6. 自動装置について..... 126
7. こく粒の排出のしかた..... 138

10章 各部の脱着・オープンのしかた . 144

1. 各部脱着・オープン一覧..... 144
2. 主なカバーのなまえ..... 146
3. エンジンルームのオープンのしかた..... 148
4. ロータカバーのオープンのしかた..... 149
5. グレンタンクのオープンのしかた
   (グレンタンク仕様のみ)..... 150
6. 脱こくサイド上カバーのオープンのしかた... 152
7. ワンマンホッパのオープンのしかた
   (ワンマンホッパ仕様のみ)..... 152
8. 補助こく粒受台の開閉のしかた
   (ワンマンホッパ仕様のみ)..... 153
9. ヘッダ部の脱着のしかた..... 154

11章 作業後の手入れと格納について... 157

1. 機体の洗浄のしかた..... 157
2. 刈取部ストッパ(刈取部固定)の
   セットのしかた..... 158
3. 各部の掃除のしかた..... 159
4. 各部の注油のしかた..... 167
5. グリスアップのしかた..... 169
6. 格納のしかた..... 170

12章 点検・整備のしかた..... 172

1. 定期点検・整備の時期について..... 172
2. 主要消耗部品の点検・交換時期の目安表..... 173
3. オイル・グリス・不凍液一覧表..... 176
4. 給油・給水一覧表..... 176
5. 重要保安部品の点検・交換時期..... 177
6. 燃料の点検・補給のしかた..... 177
7. オイルの点検・補給・交換のしかた..... 178
8. 冷却水の点検・補給・交換のしかた..... 182
9. エンジンオイルエレメントの交換のしかた... 184
10. HSTフィルタの交換のしかた..... 185
11. ウォータセパレータと
    燃料コシ器エレメントの
    点検・掃除・交換のしかた..... 185
12. 燃料タンクのドレン抜きのしかた..... 186
13. 燃料の空気(エア)抜きのしかた..... 187
14. エアクリーナーの掃除・交換のしかた..... 187
15. プレクリーナーの掃除のしかた..... 188
16. 吸気口・ラジエータスクリーン・
    ラジエータフィンの掃除のしかた..... 189
17. ウォッシャー液の補充のしかた
    (キャビン仕様のみ)..... 192
18. バッテリの点検・整備のしかた..... 192
19. パイプ類の点検のしかた..... 195
20. 電気配線の点検のしかた..... 196
21. ヒューズの点検・交換のしかた..... 196
22. 刈刃の調節のしかた..... 198
23. プラットホーム底板と
    スクリューコンベアの
    すき間調節のしかた..... 199
24. プラットホーム底板と
    フィンガのすき間調節のしかた..... 199
25. フィーダチェンの張り調節のしかた..... 200
26. リールの調節のしかた..... 201
27. 各部チェンの点検・調節のしかた..... 203
28. 各部ベルトの点検・調節のしかた..... 206
29. 駐車ブレーキの点検・調節のしかた..... 215
30. クローラの点検・調節のしかた..... 216
31. 強力ピンの交換のしかた
    (グレンタンク仕様のみ)..... 217
32. 排気ガスの色について..... 218
33. クーラーガス(冷媒)の点検のしかた
    (キャビン仕様のみ)..... 218
34. 冷媒ガス(サービス缶)の取り扱い、
    および充てんの注意(キャビン仕様のみ)..... 221
35. 投げ口シートの交換のしかた..... 221

13章 不調診断のしかた 222

1. キースイッチを「始動」位置にしても スタータが回らない場合 222
2. スタータは回るがエンジンが 始動しない場合 222
3. 運転中に水温パイロットランプが点灯し、 ブザーが鳴る場合 223
4. 運転中に油圧パイロットランプが点灯し、 ブザーが鳴る場合 223
5. 運転中にチャージパイロットランプが点灯し、 ブザーが鳴る場合 223
6. 作物を搬送しない場合 223
7. 株の引き抜きがある場合 224
8. 刈取部でのロスが多い場合 224
9. リールに巻き上げや巻き付きがある場合 224
10. 土や石が入る場合 224
11. こぎ残しがでる場合 224
12. こく粒の飛散が多い場合 225
13. こぎ室内でゴトゴト音がして、 能率があがらない場合 225
14. 選別が悪い場合 225
15. 損傷粒が多い場合 225
16. 脱こくクラッチを切っても 車高が下がらない場合 226
17. キャビン内が冷えない場合 （キャビン仕様のみ） 226
18. キャビン内が冷えすぎる場合 （キャビン仕様のみ） 226
19. 自動装置関係 226
20. エンジンコントローラ自己診断について 228
21. 刈取コントローラ関係 229
22. 水平コントローラ関係 230
23. 排出コントローラ関係 （グレンタンク仕様のみ） 231
24. 油圧が作動しない場合 233

14章 その他 235

1. 主要諸元 235
2. オプション 236
3. 主要消耗部品 237

●ここに記載されている注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ず守ってください。
●ここに記載されている注意項目を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。
※ご購入された製品によっては、一部該当しない内容も記載していますのでご了承ください。

1. 作業者の体調・服装について

⚠警告

■ こんなときは、運転しない!

・過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
・酒を飲んだとき。
・妊娠しているとき。
・18才未満の人

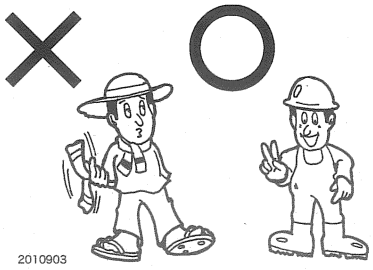
【守らないと】
思わぬ事故の原因になります。


2010902

■ 安全靴・作業帽・ヘルメット・つなぎなどの作業に適した服装をする

はち巻き・首巻き・腰タオルは禁止です。

【守らないと】
機械に巻き込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。


2010903

2. 使用する機械について

⚠警告

■ 使用する前には、必ず点検を行う

コンバインを使用するときは、運転前・作業前点検を行い、異常箇所は必ず整備してください。
また、作業終了時にも異常箇所がないか点検してください。

【守らないと】
整備不良による事故、機械の故障を引き起こすおそれがあります。

■ 電源取出し用コネクタ以外から電源を取り出して、電気機器を接続しない

電源取出し用コネクタを利用して、電気機器を付ける場合にも、制限容量を越えると火災のおそれがあります。

【守らないと】
火災のおそれがあります。

■ 機械を他人に貸すときは

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】
死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。



2035402

⚠注意

■ 必ず定期点検整備を受ける

1年ごとに定期点検整備を受け、各部の保守を行ってください。特に、燃料パイプは2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検してください。

【守らないと】
整備不良による事故、機械の故障を引き起こすおそれがあります。

3. 運転前・作業前点検をするとき

⚠危険

■ 注油・給油は、エンジンが冷えてから行う

エンジン回転中やエンジンが熱い間は、給油・注油を絶対にしないでください。

【守らないと】
燃料やオイルに引火して、ヤケドや火災の原因になります。

■ 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。

【守らないと】
燃料に引火して、ヤケドや火災の原因になります。



2035405

⚠警告

■ 点検は平坦で安定した場所で行う

点検・整備を行うときは、機械が倒れたり動いたりしない、平坦で安定した場所で行ってください。

【守らないと】
思わぬ事故の原因になります。

■ 燃料を補給した後は、燃料キャップを締め、こぼれた燃料は拭き取る

燃料キャップがゆるんでいると、燃料がこぼれ出ることがありますので、確実に締め込んでください。また、こぼれた燃料は、きれいに拭き取ってください。

【守らないと】
火災事故を引き起こし、ヤケドをするおそれがあります。

⚠警告

■ 燃料もれに注意する

燃料パイプが破損していると燃料もれを起こしますので、必ず点検してください。

【守らないと】
火災事故を引き起こし、ヤケドをするおそれがあります。

■ 電気部品やコードも必ず点検する

毎日の作業前には、配線コードが他の部品のエッジ部に接触していないか、コードの被覆がはがれていないか、コードの固定部がゆるんでいないか点検し、ある場合は必要な処置をしてください。

【守らないと】
ショートして、火災の原因になります。

■ バッテリ液を「下限(LOWER)」以下にしない

バッテリ液は「上限」と「下限」の間にあることを確認し、「下限」以下にしないでください。

【守らないと】
「下限」以下になると、容器内の極板接続部がバッテリ液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。



A2037549

⚠警告

■ 排気ガスには十分に注意

倉庫や車庫など、閉めきった屋内ではエンジンを始動しないでください。
エンジンを始動するときは、風通しのよい屋外で行ってください。やむを得ず屋内で始動するときは、十分に換気をしてください。

【守らないと】
排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

■ ブレーキの効きや各レバー類の作動点検を行う

ブレーキの効き具合や、ステアリングハンドル・各レバー類に著しいガタや遊びがないか点検し、ある場合は必要な処置をしてください。

【守らないと】
正常な走行ができず、死亡や傷害事故、機械の破損を引き起こすおそれがあります。

■ 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは、厚紙や板などを使って点検する

高圧噴油に手や体が、直接触れないようにしてください。もし、触れた場合は、直ちに医者の診断を受けてください。

【守らないと】
油が皮膚に侵入した場合、数時間以内に取り除かないと壊疽（えそ）にかかるおそれがあります。
※壊疽（えそ）：壊死の１つで、生体の局所の細胞・組織が死ぬこと。

⚠警告

■ 各部の脱着・オープン、点検・整備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止する

各部の脱着・オープン、点検・整備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてください。

【守らないと】
回転部に巻き込まれたり、思わぬ事故の原因になります。

■ 刈取部を上げて作業するときは、必ず刈取部ストッパをする

刈取部を上げて作業するときは、刈取部ストッパで必ず固定してください。

【守らないと】
刈取部が急に下がり、ケガをするおそれがあります。

⚠注意

■ 取り外したカバー類は、必ず取り付ける

点検・整備で取り外したカバー類は、必ず元通りに取り付けてください。

【守らないと】
回転部に巻き込まれたり、傷害事故を起こす原因になります。



2035416

⚠注意

■ エンジン始動前には、運転前・作業前点検を行う

エンジン始動前には、運転前・作業前の点検を行ってください。

【守らないと】
整備不良による機械の故障を引き起こす場合があります。

■ 回転部に注油するときは、必ずエンジンを停止する

回転部などへ注油するときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。

【守らないと】
ケガをするおそれがあります。

■ 刈刃の手入れ・交換には、厚手の手袋を着用し刃先をさわらない

刈刃の手入れ・交換時には、厚手の手袋を着用し刃先をさわらないでください。
また刈刃は重いので、取り付け・取り外しは、必ず2人以上で行ってください。

【守らないと】
ケガをするおそれがあります。

■ 点検・整備を行うときは、高温部分が十分に冷めてから

点検・整備を行うときは、高温部分が十分に冷めてから行ってください。

【守らないと】
ヤケドをするおそれがあります。

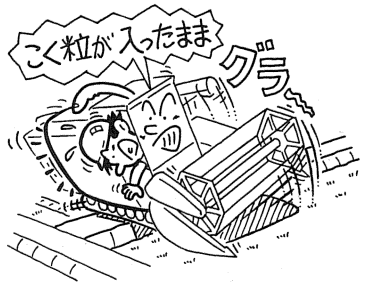
4. 運転・移動をするとき

⚠危険

■ グレンタンク内にこく粒が入っているときは、あぜ越え、トラックへの積み・降ろし、急旋回、坂道（前後左右10度以上）での作業走行はしない

グレンタンク内にこく粒が入っていると、本機の重心が高くなり危険ですので、あぜ越え、トラックへの積み・降ろし、急旋回、坂道（前後左右10度以上）での作業・移動走行はしないでください。

【守らないと】
バランスをくずし、転倒のおそれがあります。



2035450

⚠警告

■ 寒冷時には必ず暖機運転を行う

寒冷時に運転する場合は、エンジンを始動してから暖機運転（15分）を必ず行ってください。

【守らないと】
主変速ワイヤー・駐車ブレーキワイヤーなどが凍結していると、誤動作する可能性があります。

■ 運転席から離れるときは、必ず駐車ブレーキをかける

【守らないと】
突然機械が動き出し、ケガをするおそれがあります。

⚠警告

■ 道路の端に、寄りすぎないように注意

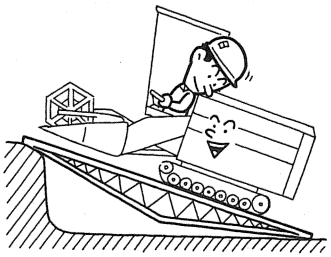
走行時は、道路の端に寄りすぎないでください。

【守らないと】
路肩がくずれ、横倒しになって、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 溝や高いあぜを渡るときは、アユミ板を使用する

ほ場に入るとき、溝や高いあぜを渡るとき、軟弱な場所を通るときは、必ずアユミ板を使用してください。アユミ板は、幅・長さ・強度が機械に適したものを使用してください。

【守らないと】
バランスがくずれて転倒し、傷害事故を引き起こす原因になります。


2039110

■ エンジン始動時は、周囲の安全を確認する

エンジン始動時は、必ず運転席に座り、各スイッチとレバー位置、周囲の安全を確認してください。

【守らないと】
急に機械が動き出し、傷害事故を起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 坂道では下記項目を必ず守る

・坂道の途中では駐車しないでください。
・坂道では、副変速を操作しないでください。
・坂道では、高速（移動）走行、急旋回をしないでください。
・坂道では、斜め走行をしないでください。

【守らないと】
機械が不意に動き出し、事故の原因になります。また、バランスをくずして転倒し、傷害事故の原因になるおそれがあります。

■ 高速走行（移動）時は、急旋回をしない

高速走行（移動）時は、急旋回をしないで、必ず速度を落としてください。

【守らないと】
接触・転倒事故のおそれがあります。

⚠注意

■ デバイダヘッドを取り外し、排出コンベア・補助こく粒受台を収納する

デバイダヘッドを取り外し、排出コンベア（グレンタンク仕様のみ）をコンベアレストに収納してください。補助こく粒受台（ワンマンホッパ仕様のみ）についても収納してください。

【守らないと】
人や物に接触して、思わぬ事故を引き起こす原因になります。

■ 刈取作業のとき以外は、E モードスイッチは「切」位置にする

【守らないと】
「入」位置にしたままでは、アクセルダイヤルでのエンジン回転調節ができないため、思わぬ事故の原因になります。

⚠注意

■ 移動走行するときは、水平自動切替スイッチを「OFF」位置にする

【守らないと】
思わぬ事故の原因になります。

■ 関係法規を守り、ヘルメットを必ず着用する

移動走行時は関係法規を守り、安全のためにヘルメットを着用してください。

【守らないと】
思わぬ傷害事故を引き起こす原因になります。

■ 周囲に合図し、ゆっくり発進する

発進するときは、周囲に合図をして、安全を確認しながらゆっくり発進してください。

【守らないと】
思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 運転者以外の人を乗せない

走行中は、他の人を機械に乗せたり、周囲に近づけたりしないでください。

【守らないと】
思わぬ傷害事故を引き起こす原因になります。

■ 移動走行するときは、旋回モード切替ノブを「標準モード」に切り替える

【守らないと】
旋回時に自動減速しないため、思わぬ傷害事故を引き起こす原因になります。

5. 運搬するとき

⚠警告

■ トラックへの積み・降ろしをするときは、長さ・強度・幅の十分あるアユミ板を使用する

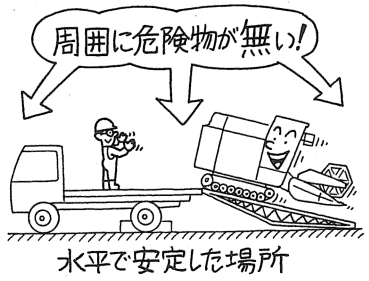
アユミ板は、丈夫ですべり止めのある基準に合ったもので、トラックの荷台に設置したときに、傾斜角度が15度以下になる長さのものを使用してください。

【守らないと】
アユミ板が折れて転倒し、傷害事故を引き起こす原因になります。

■ 積み・降ろしは、水平で安定した場所で行う

トラックなどへの積み・降ろしは、周囲に危険物が無く、水平で安定した場所で行ってください。

【守らないと】
転落・転倒事故をまねくおそれがあります。



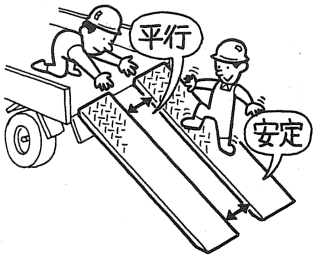
2035421

⚠警告

■ トラックへの積み・降ろしをするときは、アユミ板の平行や安定を確認する

アユミ板を設置するときは、平行や安定を必ず確認してください。特に本体がアユミ板とトラックの継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わるので、速度にも十分注意してください。

【守らないと】
バランスがくずれて転倒し、傷害事故を引き起こす原因になります。



2034627

■ 運搬をするときは、コンバインのエンジンを停止し、駐車ブレーキをかける

トラックに積み込んだら、コンバインのエンジンを停止し、駐車ブレーキを必ずかけてください。

【守らないと】
運搬中、荷台から機械が転落して、事故を引き起こす原因になります。

■ 機械をトラックに、ロープで確実に固定する

丈夫なロープをコンバインのロープフックに掛け、トラックと確実に固定してください。

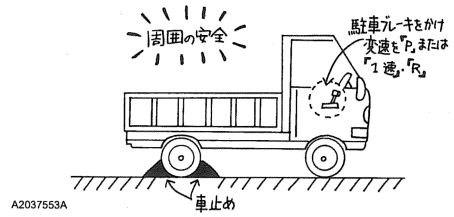
【守らないと】
運搬中、荷台から機械が転落して、事故を引き起こす原因になります。

⚠警告

■ 積み込むトラックには、必ず車止めをする

コンバインを積み込むトラックは、エンジンを停止し、変速を「P」または「1速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけて、タイヤに車止めをしてください。

【守らないと】
トラックが動いて、転落事故を引き起こすおそれがあります。



■ 積み・降ろし作業は、誘導者を付けて行う

トラックへの積み・降ろし作業は、補助者を付けて、周囲の安全を十分に確認しながら行ってください。また補助者は、機械の直前・直後には立たないでください。

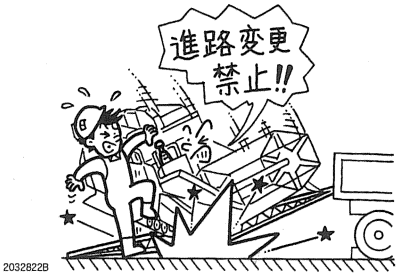
【守らないと】
転落などの事故を引き起こすおそれがあります。



⚠警告

■ 傾斜した荷台・アユミ板の上では、進路変更禁止

【守らないと】
バランスがくずれて、転倒事故を起こすおそれがあります。



■ トラックでの輸送時には機体の各カバーを固定する

カバー類、折りたたみ部品などは、風圧で破損・脱落のおそれがありますので、確実にロックをして閉じ、ロープなどで確実に固定するか、外して荷台に置いてください。

【守らないと】
風圧で脱落し、事故を引き起こすおそれがあります。

6. 刈取作業をするとき

⚠危険

■ サヤクズの上では絶対に作業をしない

サヤクズおよびワラクズが堆積している付近に機械を止めて、作業をしないでください。

【守らないと】
マフラーの熱でサヤクズおよびワラクズが高温になり、火災を引き起こすことがあります。



2039112

■ 作業中は絶対に人を近づけない

作業をするときは、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。

【守らないと】
死亡事故や重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 作業前に、補助者と作業の段取りを打ち合せる

補助者と組んで作業をするときは、作業の段取りを、補助者とよく打ち合せしてください。また作業中は、ホーンなどでお互いに合図し合って行ってください。

【守らないと】
傷害事故を引き起こす原因になります。

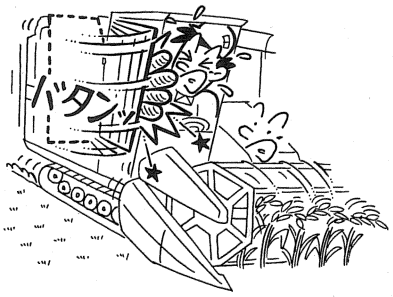
⚠警告

■ 手刈りしたものを、プラットホームに投げ込まない

【守らないと】
回転している刃やリールに巻き込まれ、重大な傷害事故をまねくおそれがあります。

■ ドアを開放したまま作業しない

【守らないと】
作業中の衝撃などにより、不意にドアが閉まって手や身体が挟まれるおそれがあります。



2038458

■ 詰まりを取り除くときは、エンジンを停止する

脱こく部の詰まりを取り除くときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。また、コンベア部・チェン部に手を入れないでください。

【守らないと】
回転するこぎ歯に触れてケガをしたり、コンバインが急に動きだして、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

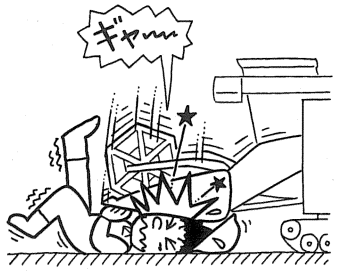
⚠警告

■刈取部の下に入るときは、必ずロックをして、下がらないように固定する

刈取部は、刈取部ストッパで固定してください。

【守らないと】

下敷きになり、重大な傷害事故を招くおそれがあります。



2035440

■エンジンやマフラー、プーリー駆動部の周辺のゴミは取り除く

作業中は、エンジンやマフラー、プーリー駆動部に付着しているサヤクズ・ゴミ・燃料などを、時々取り除いてください。また、取り除くときは、必ずエンジンを停止して、駐車ブレーキをかけ、作業関係レバーを全て「切」位置にしてください。

【守らないと】

付着物が引火して、火災事故を引き起こし、ヤケドをするおそれがあります。

■異常と思ったらエンジンをすぐに停止させ、各部のベルトを確認し、塵だまりを掃除する

作業中に詰まりなどでベルトがスリップした場合や、白煙やこげ臭いにおいが発生した場合には、ベルトを純正ベルトに交換し、塵だまりを掃除してください。

【守らないと】

ベルトの切損やスリップにより、思わぬ機械の損傷や火災の原因になることがあります。

⚠警告

■異常と思ったらエンジンをすぐに停止する

異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業関係レバーを全て「切」にしてから点検をしてください。

【守らないと】

思わぬ破損、傷害事故になります。

⚠注意

■畦畔を乗り越えるときは、最低速度で、畦畔に対して前進で直角に渡る

畦畔を乗り越えるときは、斜めに渡らないでください。必ず畦畔に対して前進で直角に渡ってください。

【守らないと】

バランスをくずし、転倒などによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■夜間作業をするときは、作業灯を使用する

夜間作業をするときは、作業灯を点灯し周囲が確認できる状態で作業してください。

【守らないと】

周囲の状況がわかりにくく、思わぬトラブルを引き起こします。



2035499

⚠注意

■ 排出コンベアを操作するときは、周囲の障害物に注意する

排出コンベアを上昇・下降・旋回させるときは、周囲に障害物がないことを確かめ、ゆっくりと操作してください。

【守らないと】
接触事故を起こすおそれがあります。

■ こく粒排出作業中は、排出口に手を入れない

こく粒排出作業中は、排出オーガ内部でコンベアが回転しているので排出口に手を入れないでください。

【守らないと】
ケガをするおそれがあります。

7. 作業後の手入れ・格納をするとき

⚠危険

■ エンジンが熱いときは、シートをかけない

エンジンが高温のときは、絶対にシートをかけないでください。

【守らないと】
火災の原因になります。

⚠警告

■ グレンタンクをオープンするときは、以下の事項を必ず守る

- 必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
- グレンタンク内を空にしてください。
- 機体を水平な状態にしてください。

【守らないと】
グレンタンク回動部が破損したり、回転部でケガをするおそれがあります。

■ ロータカバーの開閉時には、以下の事項に注意する

- 必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
- ロータの切刃に注意し、素手でさわらないでください。
- ロータカバーを閉じるときは、ロックレバーが「ロック」位置にあることを確認してください。

【守らないと】
回転部などでケガをするおそれがあります。また、作業中にロータカバーが開いたときには、ロータ内からの飛散でケガをするおそれがあります。

⚠警告

■ 高い場所の整備や手入れを行う場合は、脚立などを使用する

【守らないと】
高いところから落ちてケガをするおそれがあります。

■ 掃除をするときには、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかける

掃除をするときには、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。

【守らないと】
回転刃や刈刃などで手をはさまれて、ケガをするおそれがあります。

■ 格納時には、バッテリを本機から取り外し、キーを抜いておくこと

格納するときは、バッテリを本機から取り外し、キーを抜いて保管してください。

【守らないと】
事故を起こすおそれがあります。

■ 作業終了後は、各部の掃除をする

作業が終ったら、必ず点検・整備を行い、各部の掃除をして、ゴミなどを完全に取り除いてください。

【守らないと】
火災の原因になります。

■ 平坦な場所に機械を保管する

機械は、平坦な場所に刈取部を接地させ、駐車ブレーキをかけて保管してください。

【守らないと】
機械が動き出し、思わぬ事故の原因になります。

8. 点検・整備をするとき

⚠危険

■ ラジエータが熱いときは、ラジエータキャップを外さない

ラジエータが高温のときは、ラジエータキャップを絶対に外さないでください。

【守らないと】
熱湯が吹き出して、ヤケドをするおそれがあります。



2034606

■ バッテリ点検時は火気厳禁

液槽キャップを開けると、バッテリの液槽口から爆発性のあるガスがでます。バッテリを点検するときや液槽キャップを開けるときは、火気を近付けないでください。

【守らないと】
ガスに引火して、ヤケドや火災を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ バッテリ点検時には、保護メガネとゴム手袋を着用し、バッテリ液を体や衣服に付けないように

バッテリ液を体や衣服に付けないように注意してください。万一、付着したときは、すぐに水で洗い流してください。また、目に入ったときや飲み込んだときは、すぐに水でよく洗った後、必ず医師の治療を受けてください。

【守らないと】
バッテリ液は希硫酸です。衣服が破れたり、失明やヤケドをします。

⚠ 警告

■ バッテリの取り付け・取り外しは、正しい手順でする

バッテリ端子は、取り付けるときは（＋）側を先に取り付け、取り外すときは（－）側から取り外してください。

【守らないと】
ショートして、ヤケドや火災の原因になります。

■ 必ず指定のバッテリを使用する

バッテリを交換するときは、必ず取扱説明書で指定された型式のバッテリを使用してください。

【守らないと】
ショートして、ヤケドや火災の原因になります。

■ 点検・整備を行うときは、エンジンを停止して、駐車ブレーキをかけ、回転部の停止を確認する

点検・整備は、平坦な場所でエンジンを停止させ、刈取昇降ロックを行い、駐車ブレーキをかけて、クローラに歯止めをしてから行ってください。また、各レバーを「切」位置にして、回転部の停止を確認してから行ってください。

【守らないと】
機械が動き出し、回転部に巻き込まれたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告

■ ブレーキの点検整備は必ず行う

ブレーキの効きが悪かったり、片効きになると、たいへん危険です。必ず点検・整備を行ってください。

【守らないと】
死亡や傷害事故、機械の破損を引き起こすおそれがあります。

■ ステアリングハンドルや操作レバー・スイッチ類は、必ず点検整備をする

ステアリングハンドルや各操作レバー類に、著しいガタや遊びがないか点検し、ある場合は必要な処置をしてください。

【守らないと】
正常な走行ができず、死亡や傷害事故、機械の破損を引き起こすおそれがあります。

■ ステアリングハンドルのきき具合を、必ず点検・整備する

ステアリングハンドルの切角と旋回半径（きき具合）が同じか点検し、違う場合は、点検・整備に出してください。

【守らないと】
片効きになり、死亡事故や重大な傷害事故の原因になります。

■ バッテリ液は「下限(LOWER)」以下にしない

バッテリ液は「上限」と「下限」の間にあることを確認し、「下限」以下にしないでください。

【守らないと】
「下限」以下になると、容器内の極板接続部がバッテリ液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。

⚠警告

■ バッテリの上面および周辺は、常に清潔にする

バッテリの上面および周辺は、常に清潔にし、バッテリや配線に付着しているワラクズ・ゴミを取り除き、排気穴をふさがないようにしてください。

【守らないと】
破損や火災の原因になります。

⚠注意

■ 廃油や冷却水などの廃棄物をむやみに捨てない

地面へのたれ流しや河川・沼への廃棄は絶対にしないでください。
廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリ・その他の有害物質を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

【守らないと】
法令や処理方法を義務づけているものもあり、処罰されることがあります。

■ 取り外したカバー類は、必ず取り付ける

点検・整備で取り外したカバー類は、必ず元通りに取り付けてください。

【守らないと】
回転部に巻き込まれたり、傷害事故を起こす原因になります。



2035416

⚠注意

■ クローラの磨耗やキズを点検する

クローラが著しく磨耗していたり、キズが付いていないか点検し、ある場合は新しいクローラと交換してください。

【守らないと】
横滑りや、転倒事故の原因になります。

■ 刈刃を交換するときは、厚手の手袋を着用し、刃先にさわらない

【守らないと】
素手で刃先にふれると、ケガをするおそれがあります。

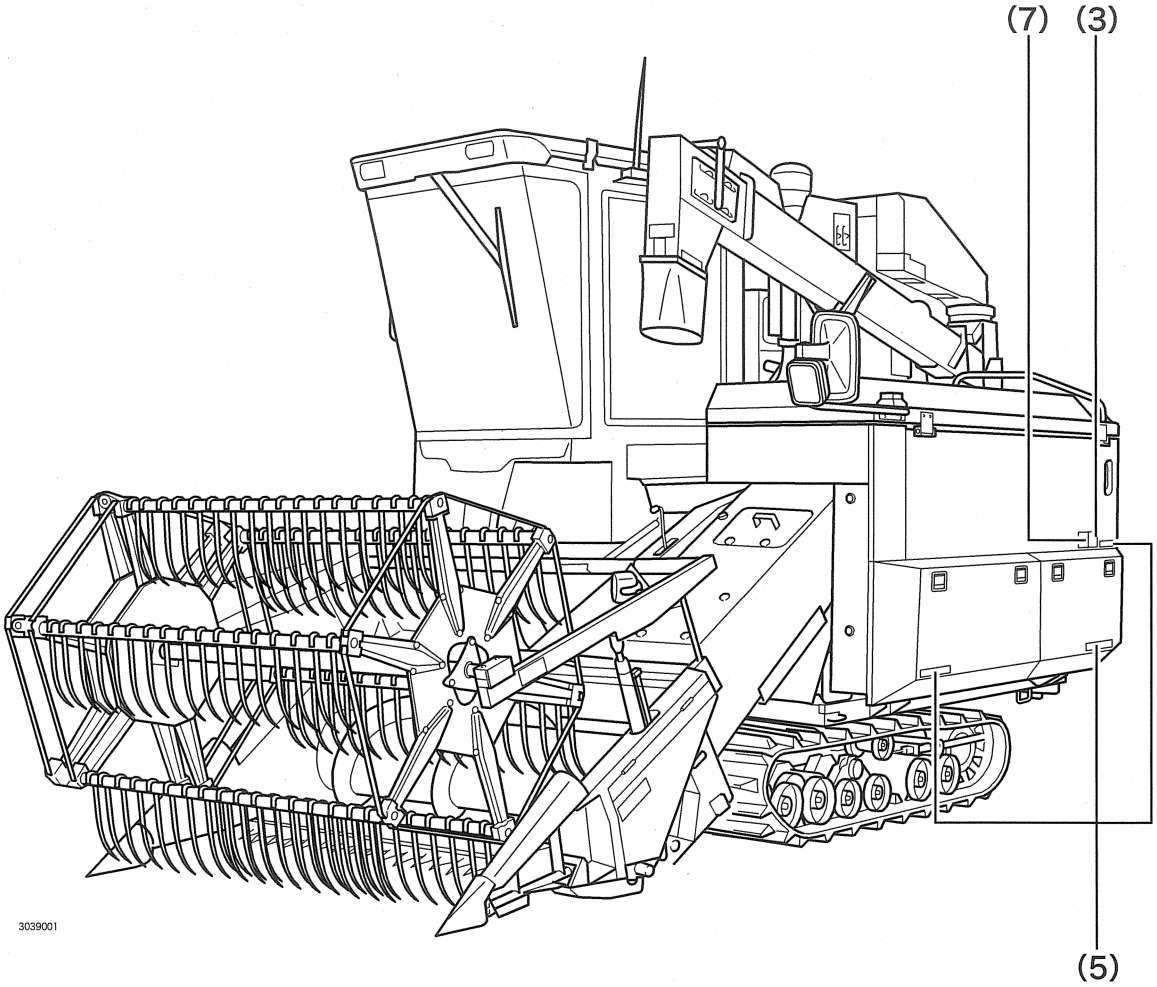
■ 定期点検・整備を受ける

燃料パイプやラジエータホース、オイルドレンホースなどのゴムホース類は２年ごとに交換し、電気配線は50時間ごと、または1年ごと（どちらか早いほう）に点検してください。ゴムホース類は時間が経過すると劣化します。

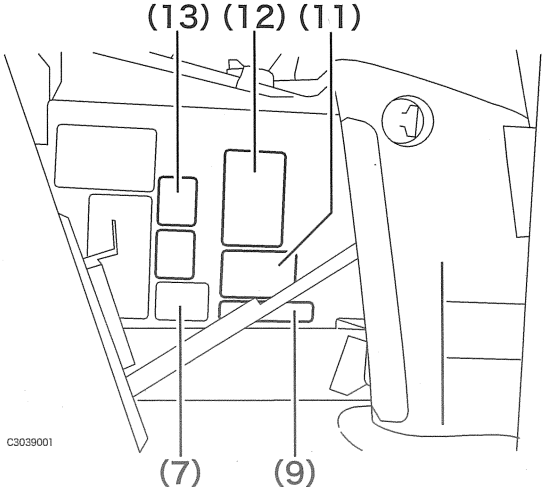
【守らないと】
整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。

9. 安全銘板の貼り付け位置

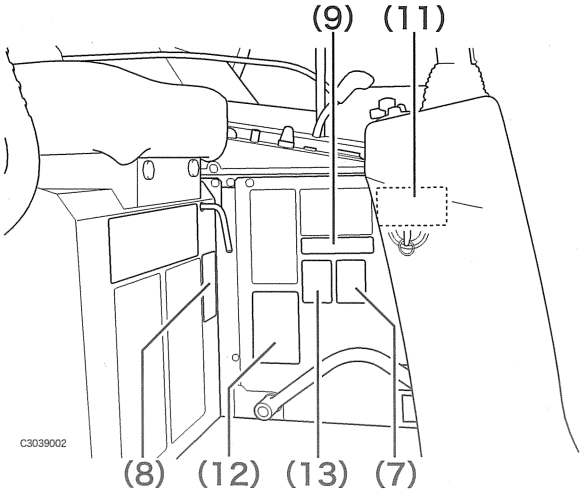
安全に作業していただくために安全銘板の貼り位置を示したものです。
安全銘板は、作業を始める前に必ず読んで、安全に作業を行っていただくための事項が記載されています。
常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。

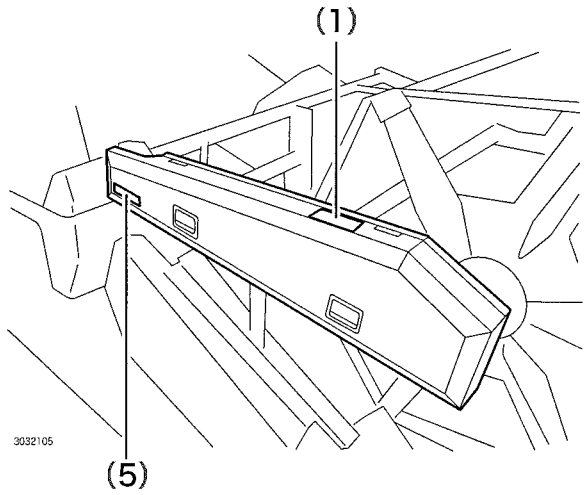


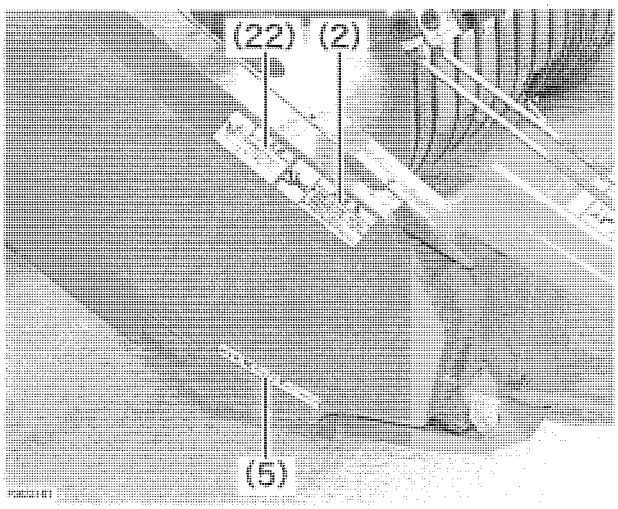
キャビン仕様の場合

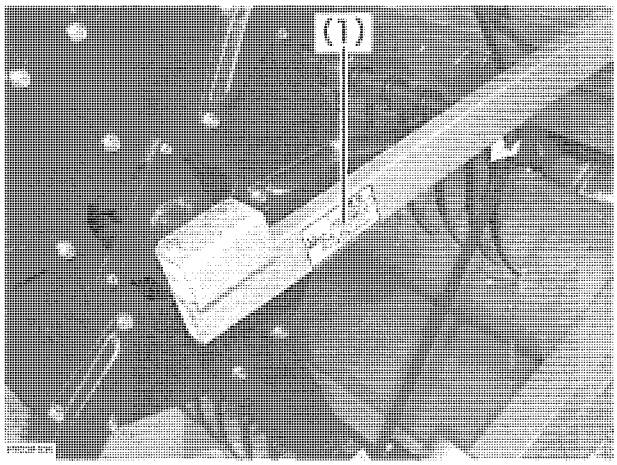


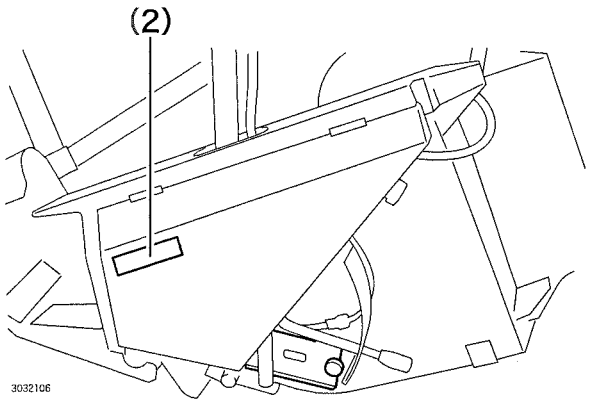
キャビンなし仕様の場合

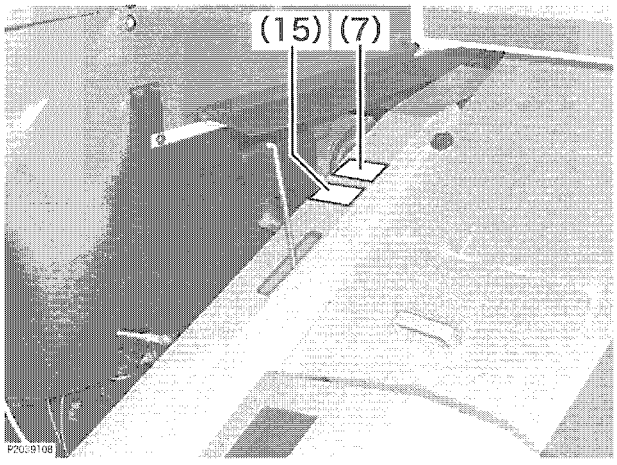


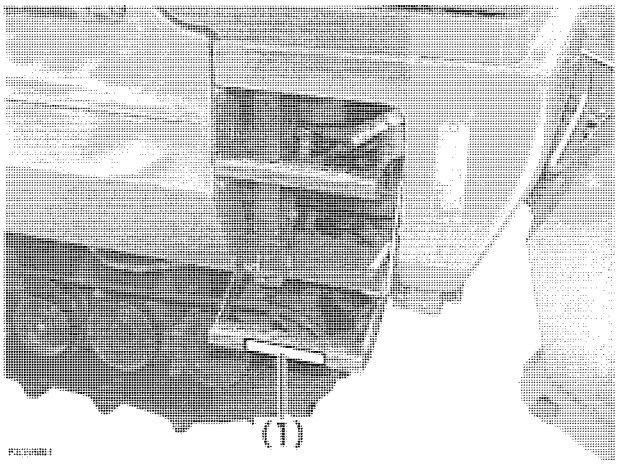

(1)
3032105
(5)

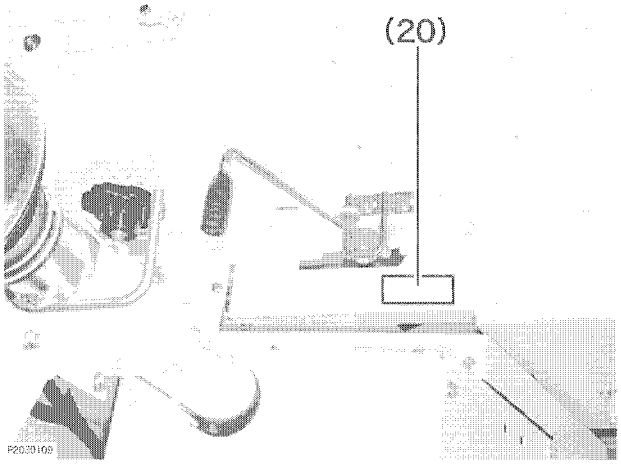

(22)
(2)
(5)

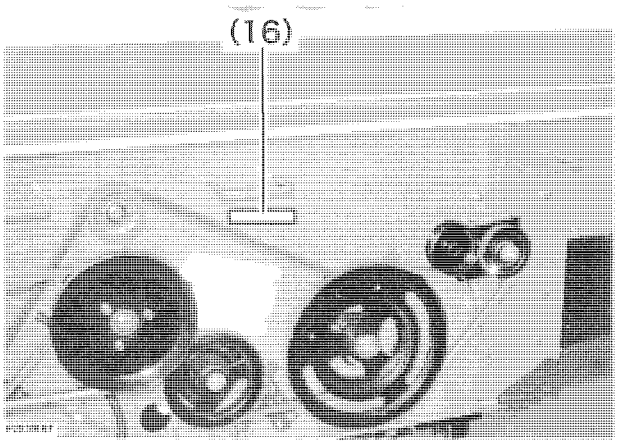

(1)


(2)
3032106

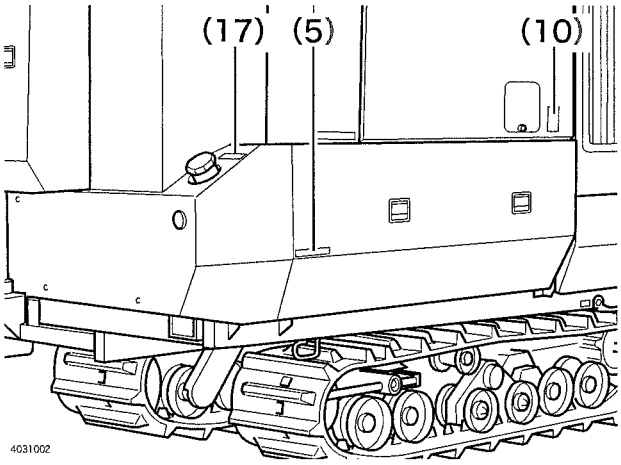

(15)
(7)

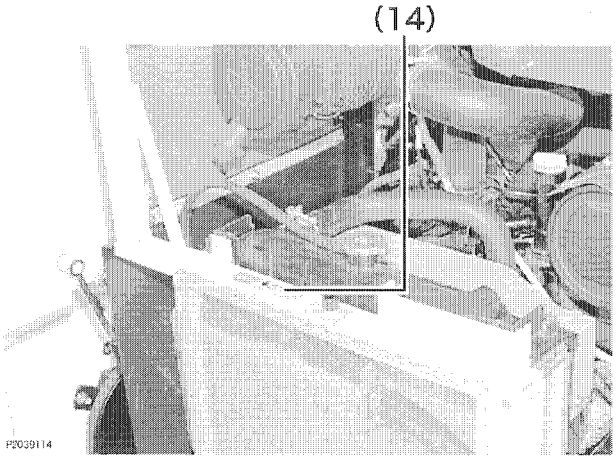

(1)



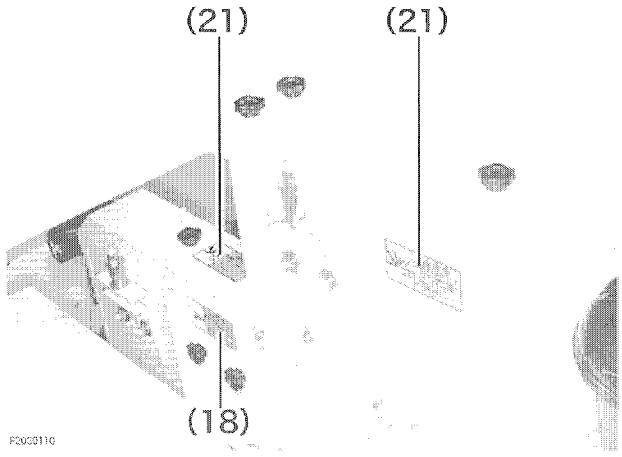


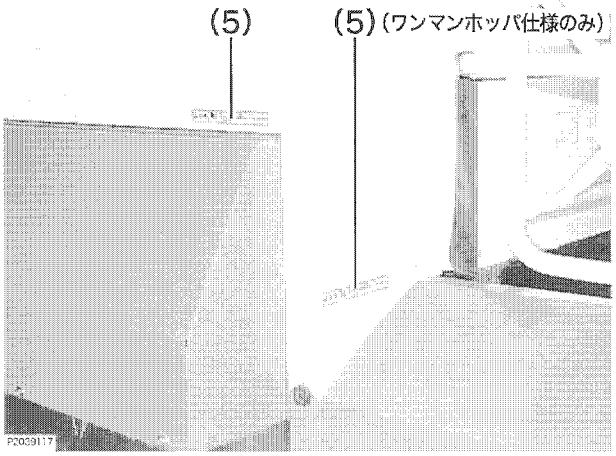
※脱こく左後カバーを取り外しています。



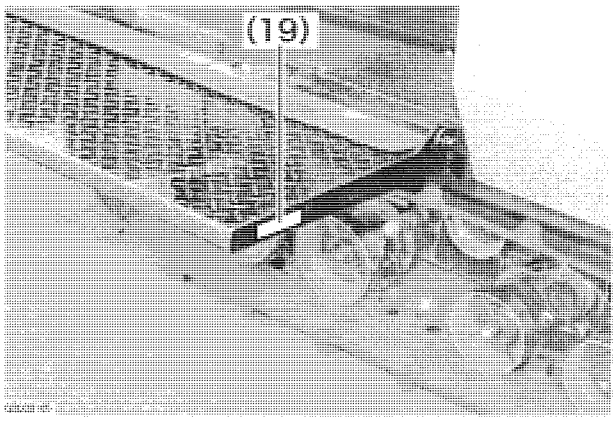


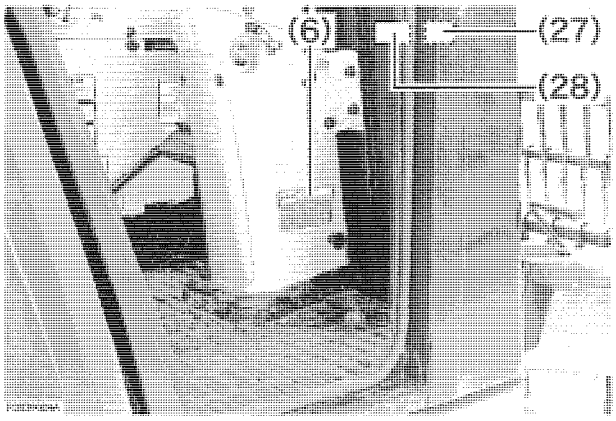
※エンジンルームをオープンしています。



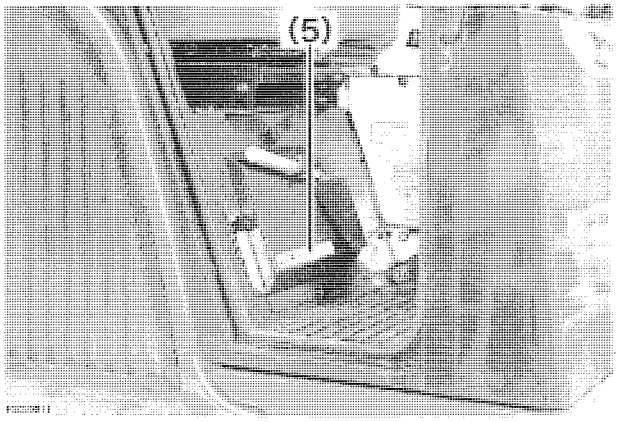


ワンマンホッパ仕様のみ

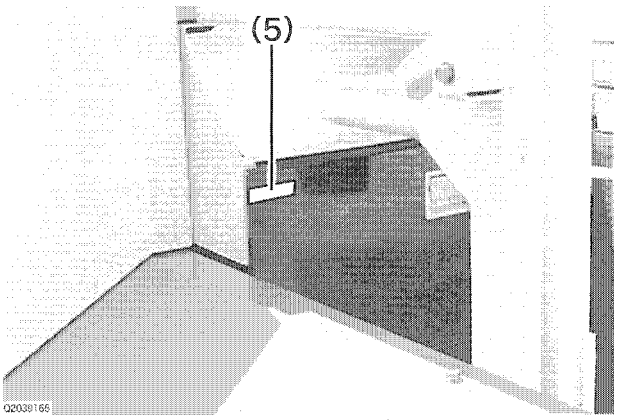




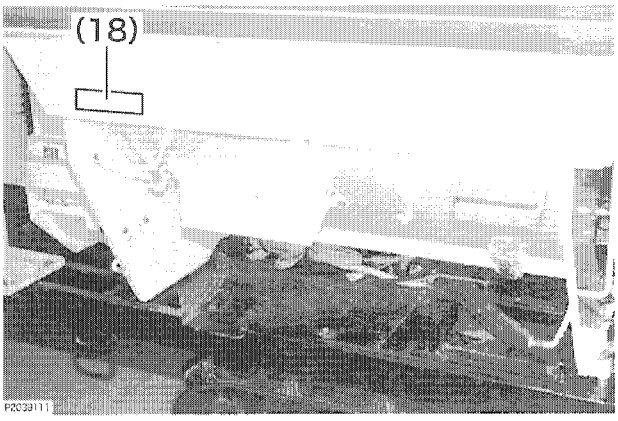
キャビン仕様のみ



ワンマンホッパ仕様のみ

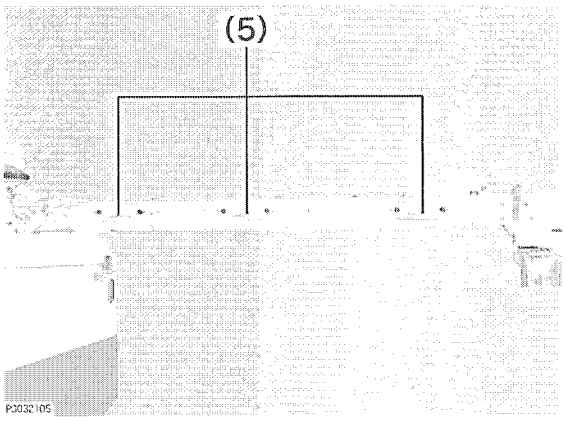


グレンタンク仕様のみ

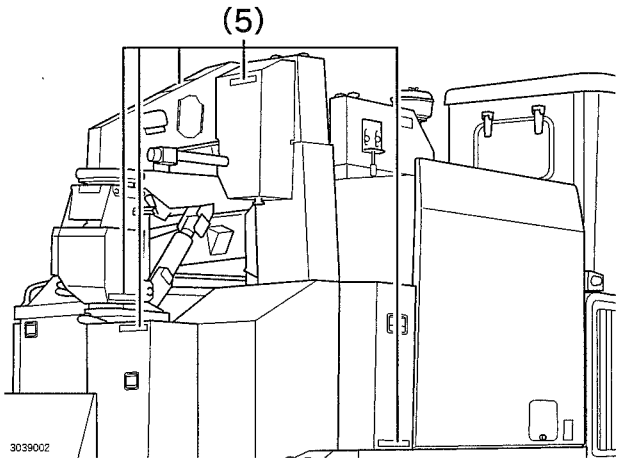


※下部カバーを取り外しています。

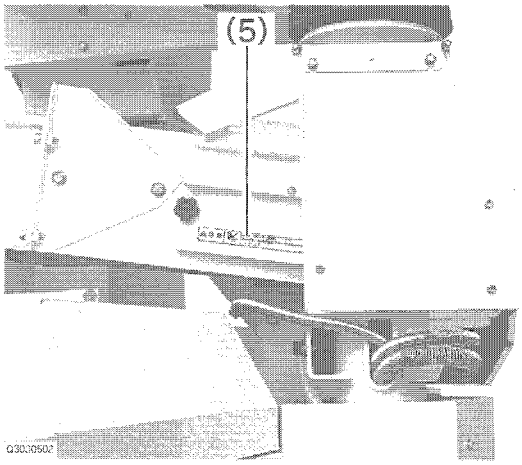
グレンタンク仕様のみ



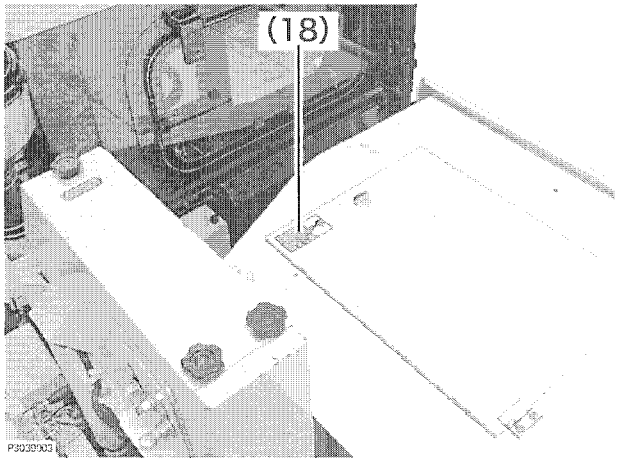
グレンタンク仕様のみ



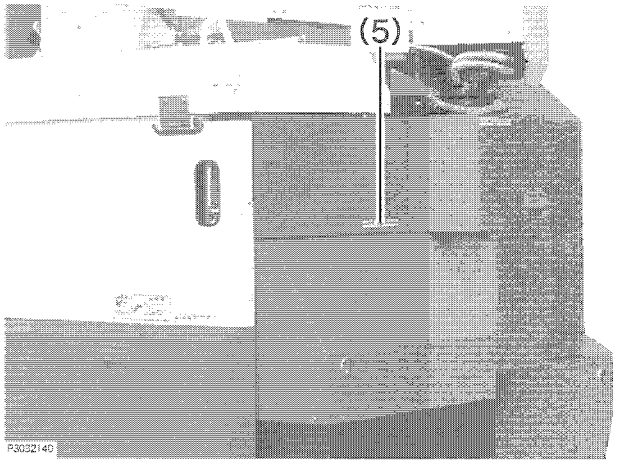
グレンタンク仕様のみ



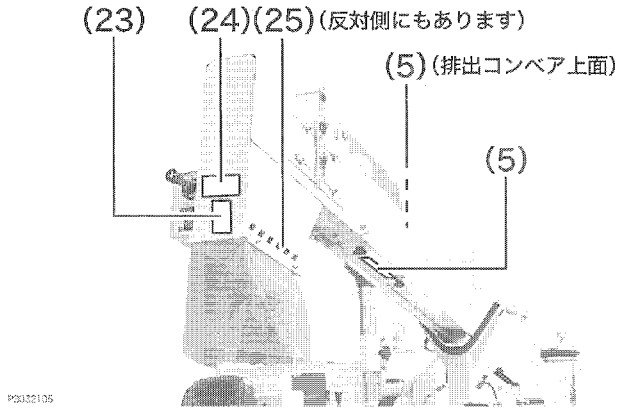
グレンタンク仕様のみ



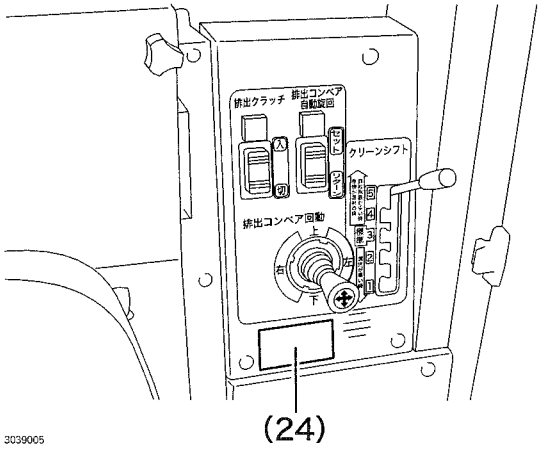
グレンタンク仕様のみ



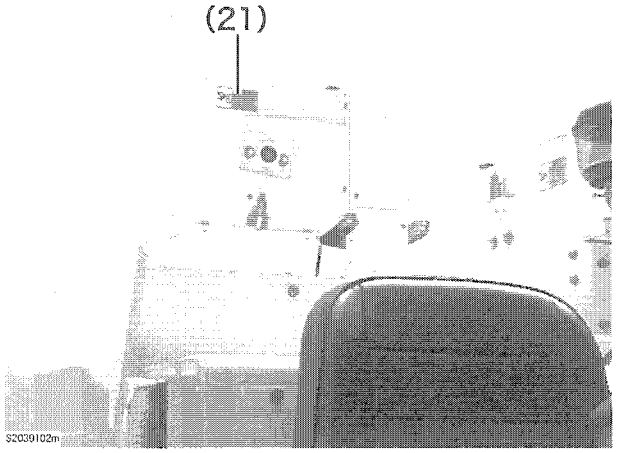
グレンタンク仕様のみ



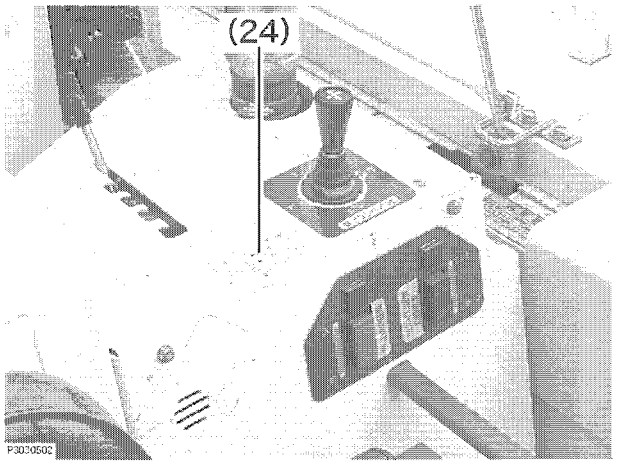
キャビン・グレンタンク仕様のみ

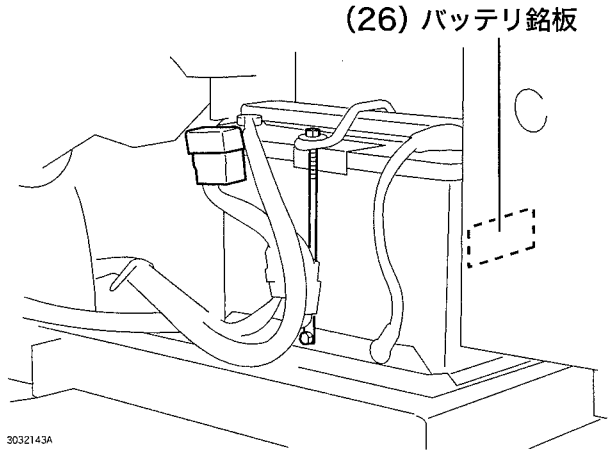


グレンタンク仕様のみ

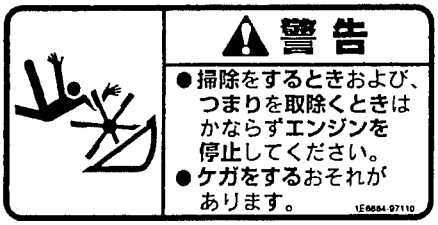


グレンタンク仕様のみ

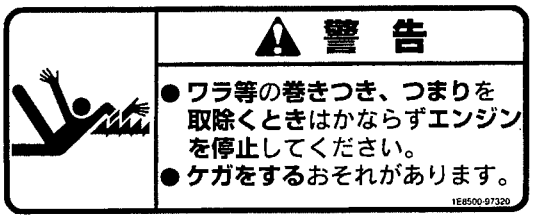




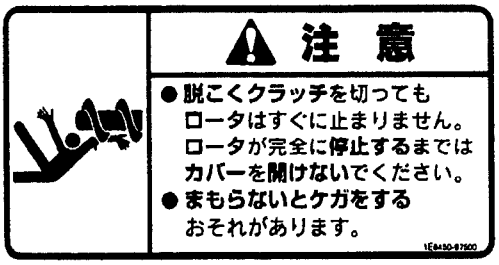
(1)9469 0070 200 警告(リール)



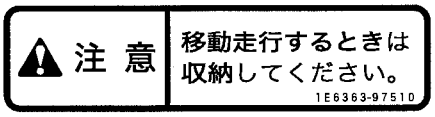
(2)9469 0070 240 警告(点検A)



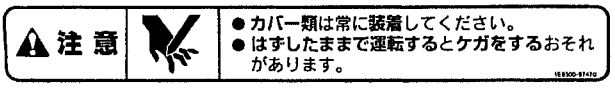
(3)9469 0070 610 注意(ロータ)



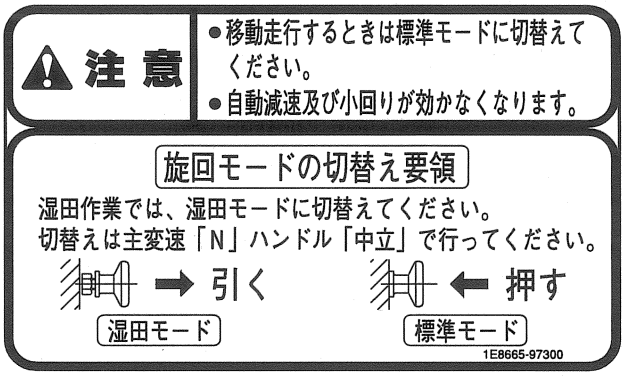
(4)9469 0070 370 注意(収納)



(5)9469 0070 360 注意(ベルトカバーC)



(6)9719 0000 020 注意(旋回モード)
(キャビン仕様の場合)
(6)9719 0000 030 注意(旋回モード)
(キャビンなし仕様の場合)



(7)1002 0070 160 注意(エンジン停止)



(8)9719 0000 040 警告(ルームオープンB)



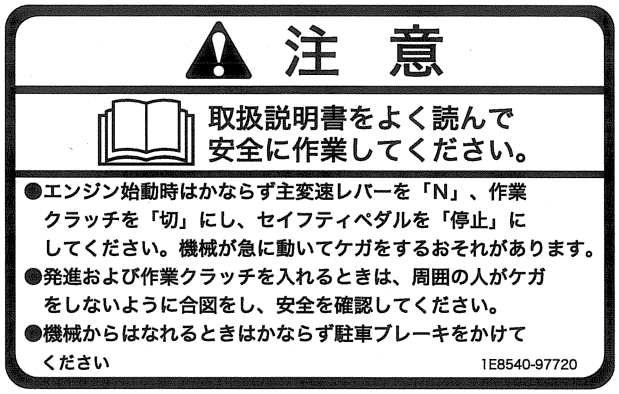
(9)9469 0070 600 注意(水平自動)



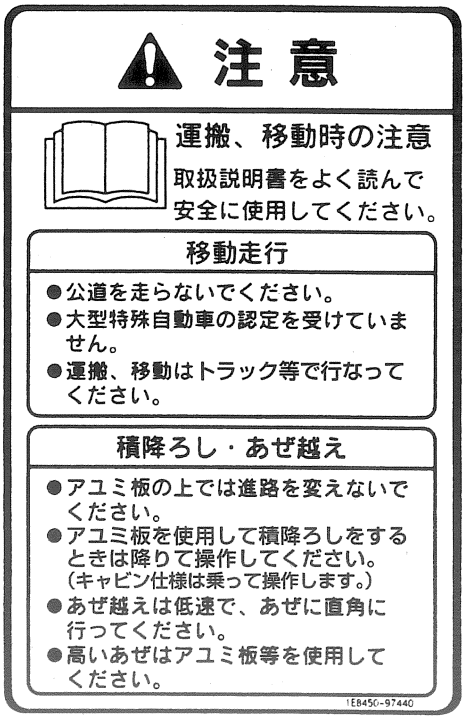
(10)9469 0070 330 警告(点検E)



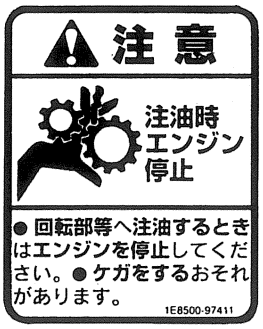
(11)9719 0000 060 注意(取扱S)



(12)9469 0070 290 注意(走行　積降)



(13)9469 0070 301 注意(注油)



(14)9030 0029 400 危険(ラジエータ)



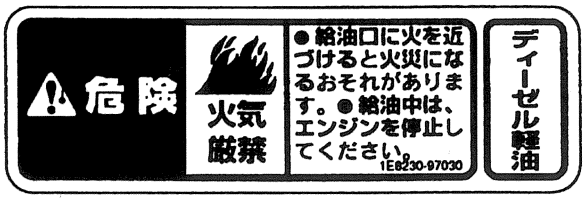
(15)9469 0070 220 警告(刈取点検)



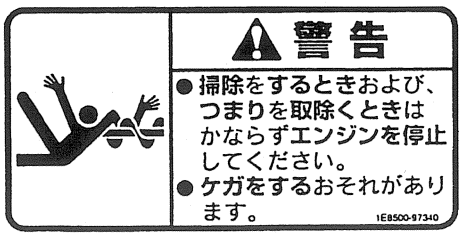
(16)9469 0070 230 注意(コンベア樋)



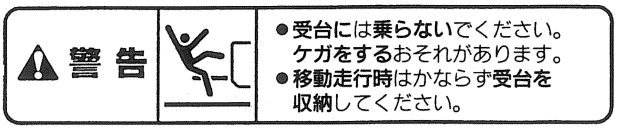
(17)9469 0070 270 危険(火気厳禁B)



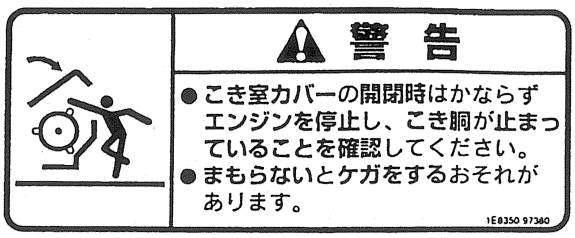
(18)9469 0070 240 警告(点検C)



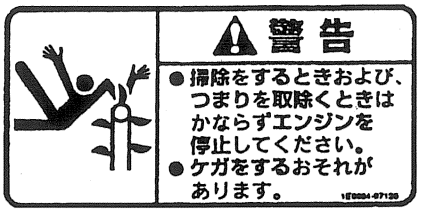
(19)9709 0014 110 警告(受け台)



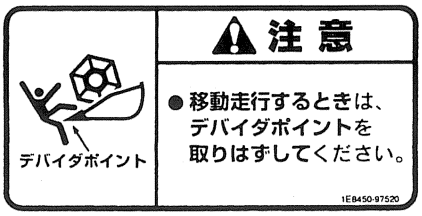
(20)9469 0070 260 警告(こぎ室カバーB)



(21)9469 0070 250 警告(バケット)



(22)9495 0001 600 注意(デバイダ)



(23)9719 0020 170 警告(点検E)



(24)9719 0020 160 注意(排出操作)



(25)9469 0074 230 安全マークA



(26)9030 0030 400 危険(バッテリー)



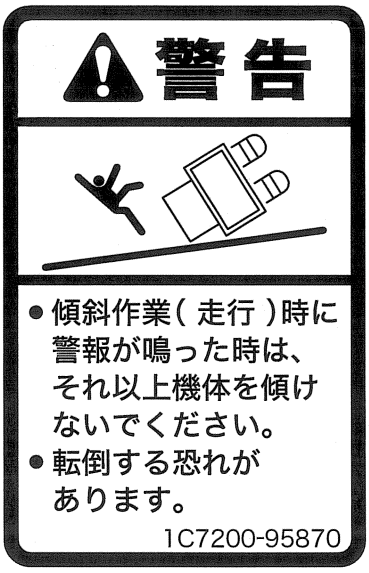
火気禁止　メガネ着用　こども禁止　硫酸注意　説明書熟読　爆発注意

危険

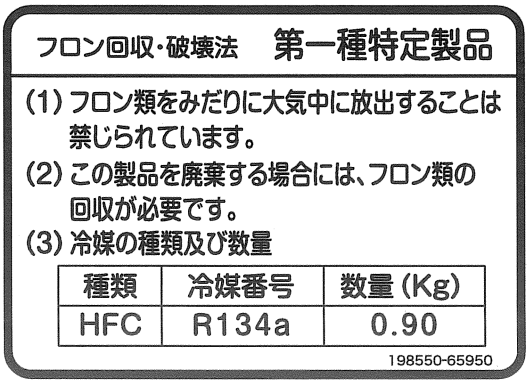
バッテリーは水素ガスの発生があり、取扱いを誤ると引火爆発のおそれがあります。
- この12Vバッテリはエンジン始動用です。他の用途には使用しないでください。
- 充電は風通しのよいところで行い、ショートやスパークをさせないでください。
- ブースタケーブルの使用は車両またはバッテリの取扱説明書をお読みください。

バッテリー液(希硫酸)で失明ややけどをすることがあります。目、皮膚、衣服、物についたときはすぐに多量の水で洗い、飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入ったときや飲み込んだときは医師の治療は受けてください。
液面がLOWER　LEVEL近くになったら補水し、UPPER　LEVEL以上入れないでください。

(27)9733 0000 100 警告(ケイシャ)



(28)9725 0009 720 銘板(フロン回収)



種類	冷媒番号	数量(Kg)
HFC	R134a	0.90

10.安全銘板の手入れについて

■ 安全銘板は、いつもきれいにして、傷つけないようにしてください。安全銘板が汚れているときは、石鹸水を付けた布で拭き、やわらかい布で水分を拭き取ってください。

■ 高圧洗浄機の高圧水を、安全銘板に当てないでください。剥がれるおそれがあります。

■ 安全銘板を破損や紛失したときは、新しい安全銘板を元の位置に貼ってください。安全銘板は、お買い求め先に注文してください。

保証書は大切に保管してください

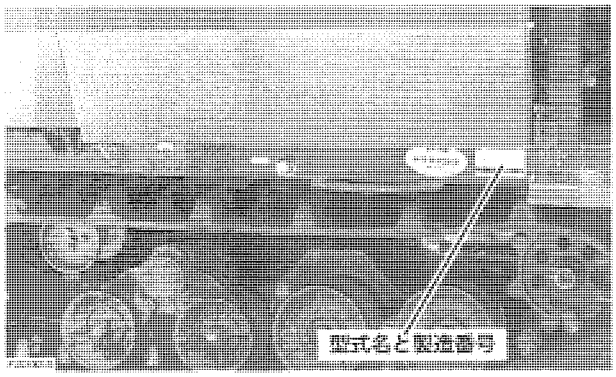
「保証書」は、お客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

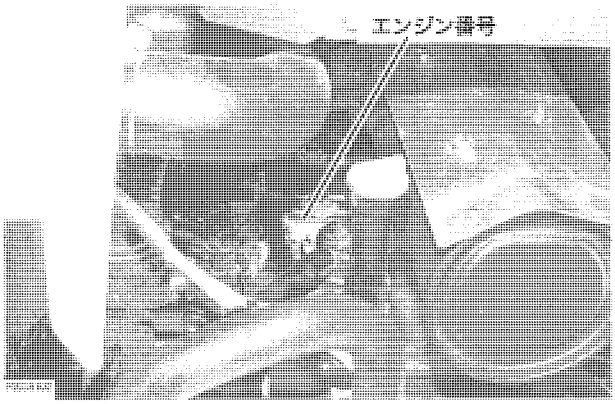
アフターサービスをお受けになるときは

機械の調子が悪いときに222ページの「13章 不調診断のしかた」に従って、点検・処置しても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い求め先までご連絡ください。

《連絡していただきたい内容》

- 型式名と製造番号
- エンジンの場合はエンジン番号
- ご使用状況は？
  （何速で、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか？
  （約□□アールまたは約□□時間使用後）
- 不具合が発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えください。





※写真は、エンジンルームをオープンしています。

《補修部品の供給年限について》

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9 年です。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

《メーカー純正部品・オイルについて》

純正部品・純正オイルは、厳密なテストを重ね、きびしい品質検査に合格したもので、安心して使用していただけます。
部品・オイルを交換する場合には、必ず純正部品・純正オイルとご指定ください。



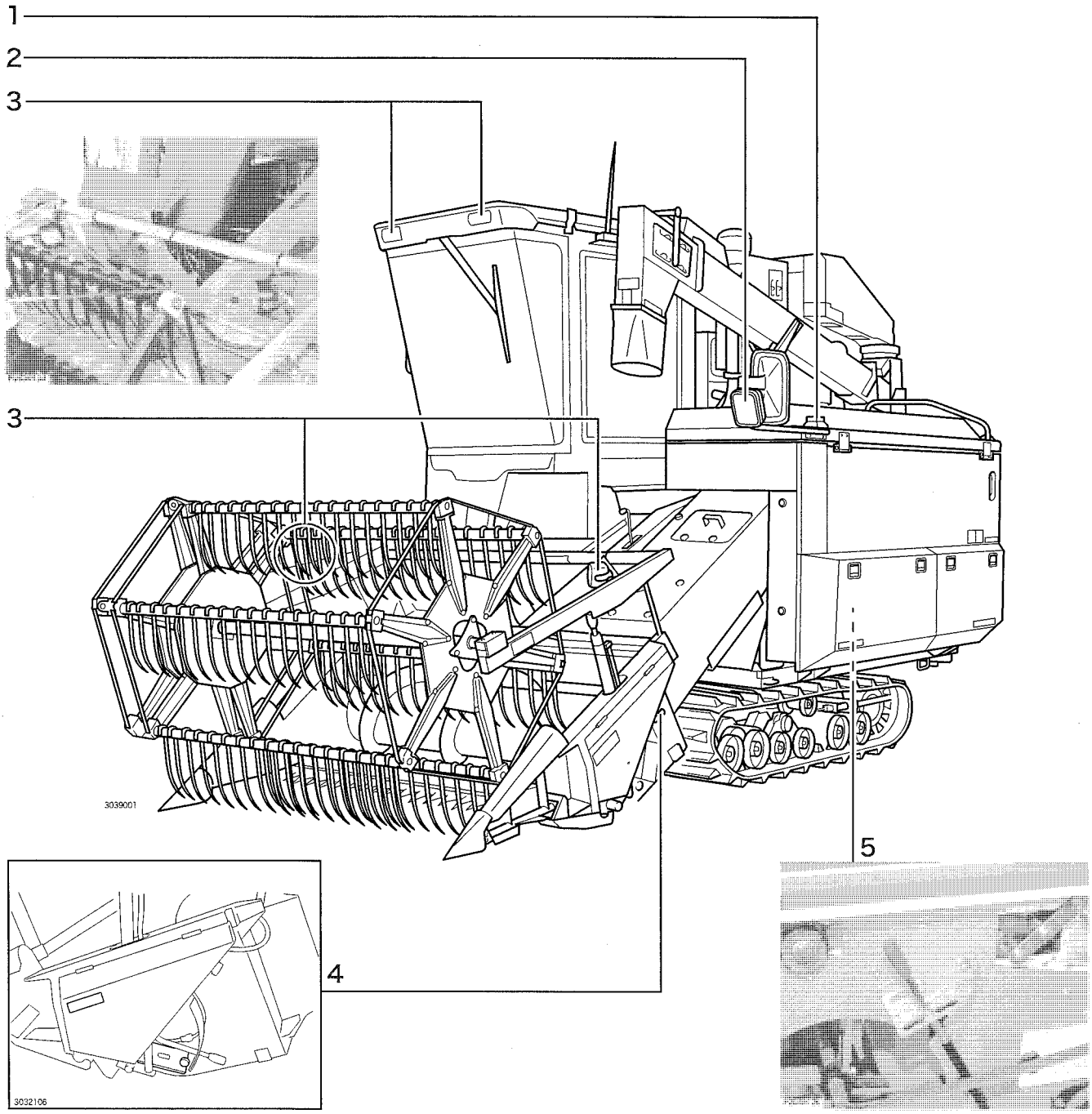
2034455

排出ガス規制について

このコンバインは、特定特殊自動車の排出ガスに関する法律（オフロード法）の排出ガス規制に適合しています。
規制適合を維持していくためには「2. 主要消耗部品の点検・交換時期の目安表」（173 ページ）に従って、エンジンオイル・オイルフィルタ・燃料フィルタ、およびエアクリーナーエレメントなどの交換とエンジン以外も含む、定期メンテナンスを励行することが必要です。
定期的なメンテナンスを怠り、排ガス基準値をクリアできなかった場合は、罰則が課せられる場合があります。

3章　各部のなまえ

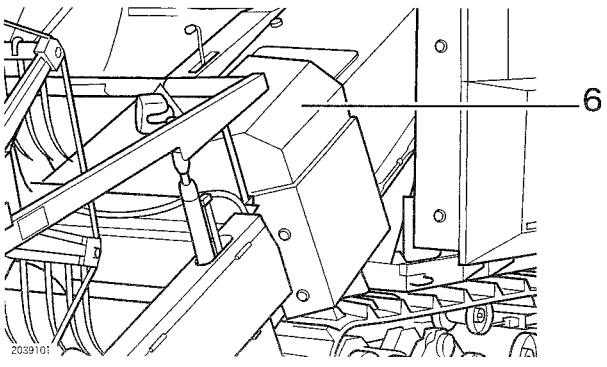
1. 外観

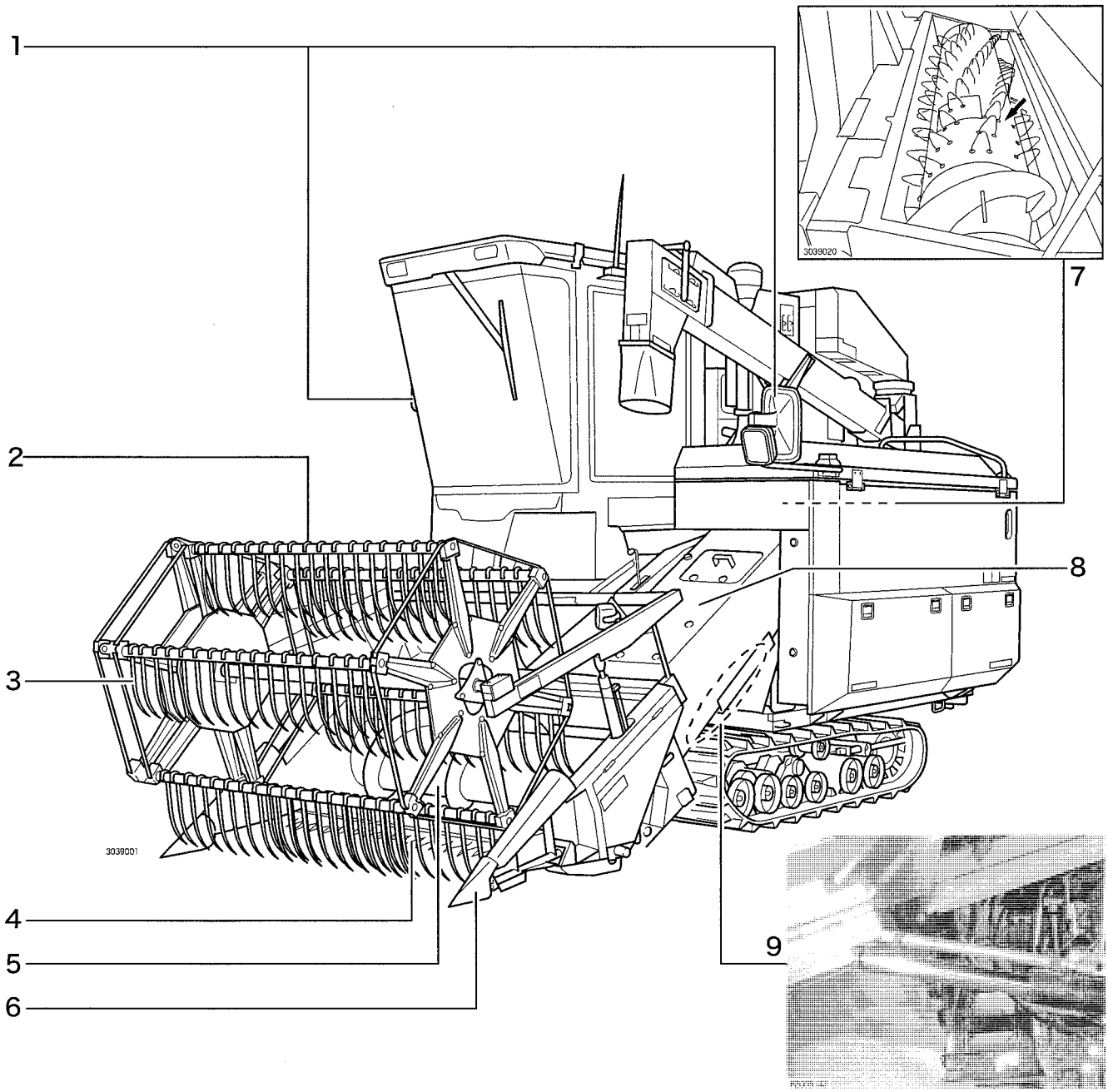


参照ページ

1. 方向指示器（左）
2. ヘッドライト
3. 作業灯
4. 刈高さ切換レバー 43
5. 唐箕回転調節レバー 42
6. 防塵ファン（キャビンなし仕様のみ） 65

キャビンなし仕様のみ



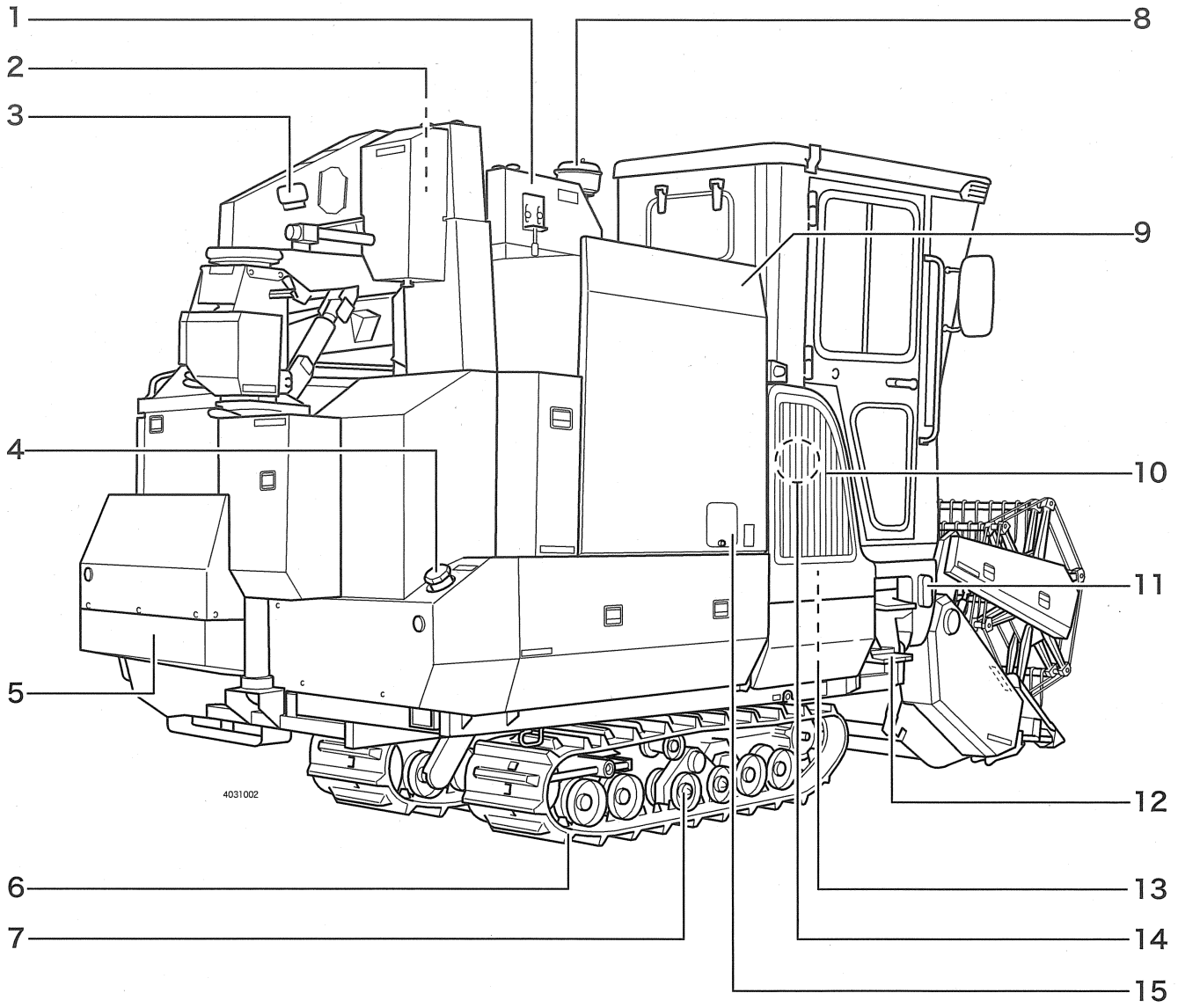


参照ページ

1. バックミラー
2. リール
   作物を引き起こし、刈刃で刈り取った作物を取り込みます。
3. タイン
4. 刈刃
   作物を刈取ります。
5. プラットホームオーガ
   刈取った作物を、フィーダハウスへ搬送します。

参照ページ

6. デバイダ
7. ロータ
   刈取った作物を脱こくします。
8. フィーダハウス
   プラットホームオーガから送られてきた作物を、脱こく部へ送ります。
9. 刈取部ストッパ.....64
   刈取部を上げて点検・整備するときに、刈取部が下がらないようにロックします。



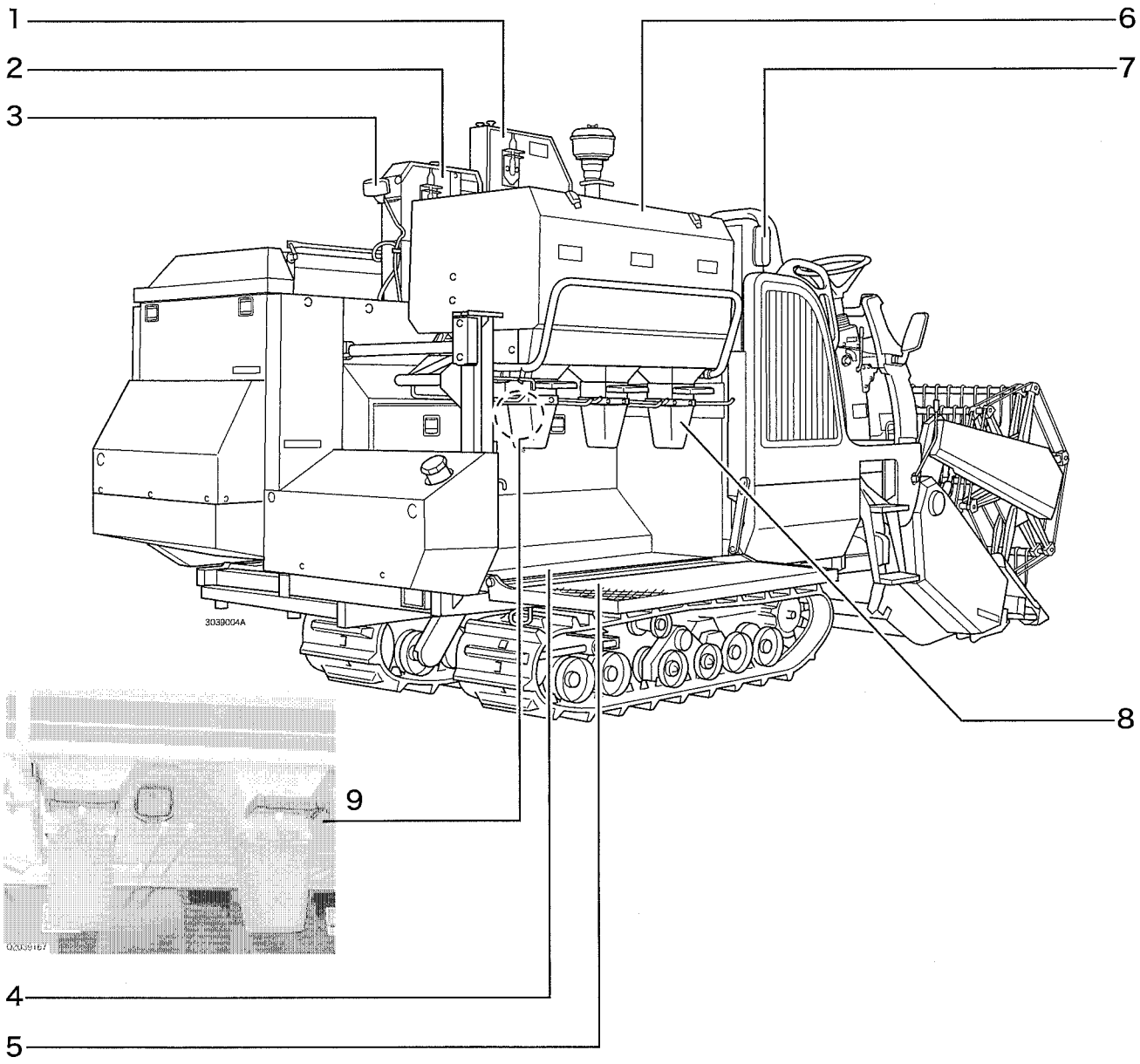
参照ページ

1. バケットコンベア
2. スラットコンベア
3. バックランプ
4. 燃料給油口
5. 排塵カバー
6. クローラ
7. イコライザ
   田面の凹凸に対して、転輪が上下に動き、安定した走行を行います。
8. プレクリーナー
   空気中に含まれる砂塵を取り除きます。

参照ページ

9. グレンタンク
   脱こくされたこく粒を、溜めておくタンクです。
10. エンジンルーム
11. 方向指示器（右）
12. 乗降ステップ 65
13. エンジン
14. エアクリーナー
15. グレンタンク点検窓 143

2. ワンマンホッパ仕様



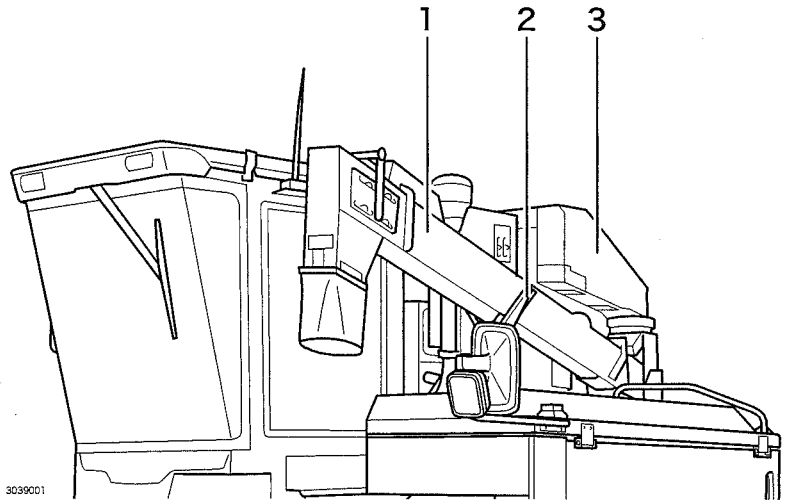
参照ページ

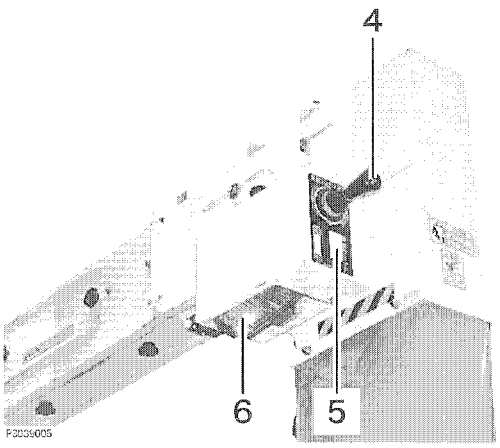
1. バケットコンベア
2. スラットコンベア
3. バックランプ
4. こく粒受台
5. 補助こく粒受台 153

参照ページ

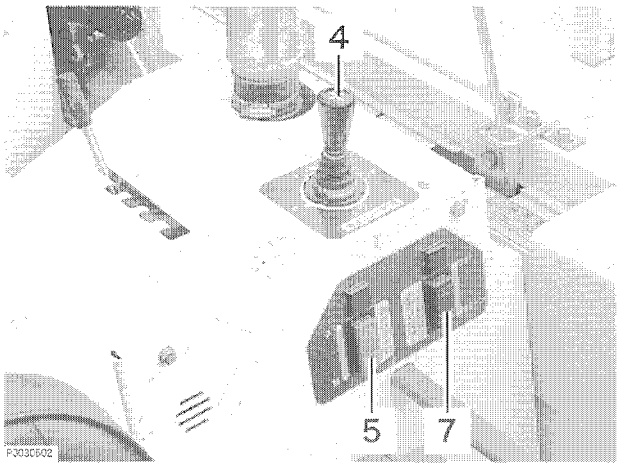
6. ワンマンホッパ 152
7. 方向指示器（右）
8. こく粒口
9. 作業灯（作業ランプ）

3. グレンタンク仕様

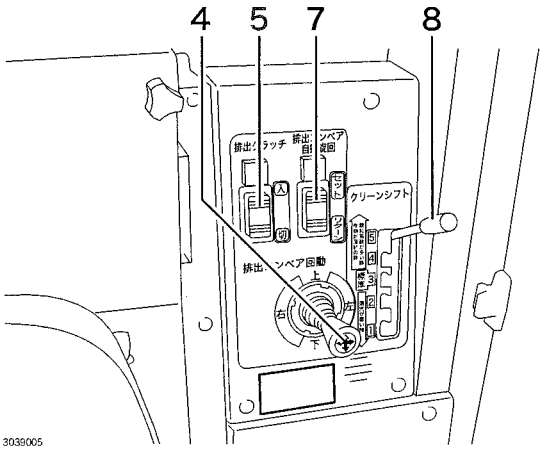




キャビンなし仕様



キャビン仕様

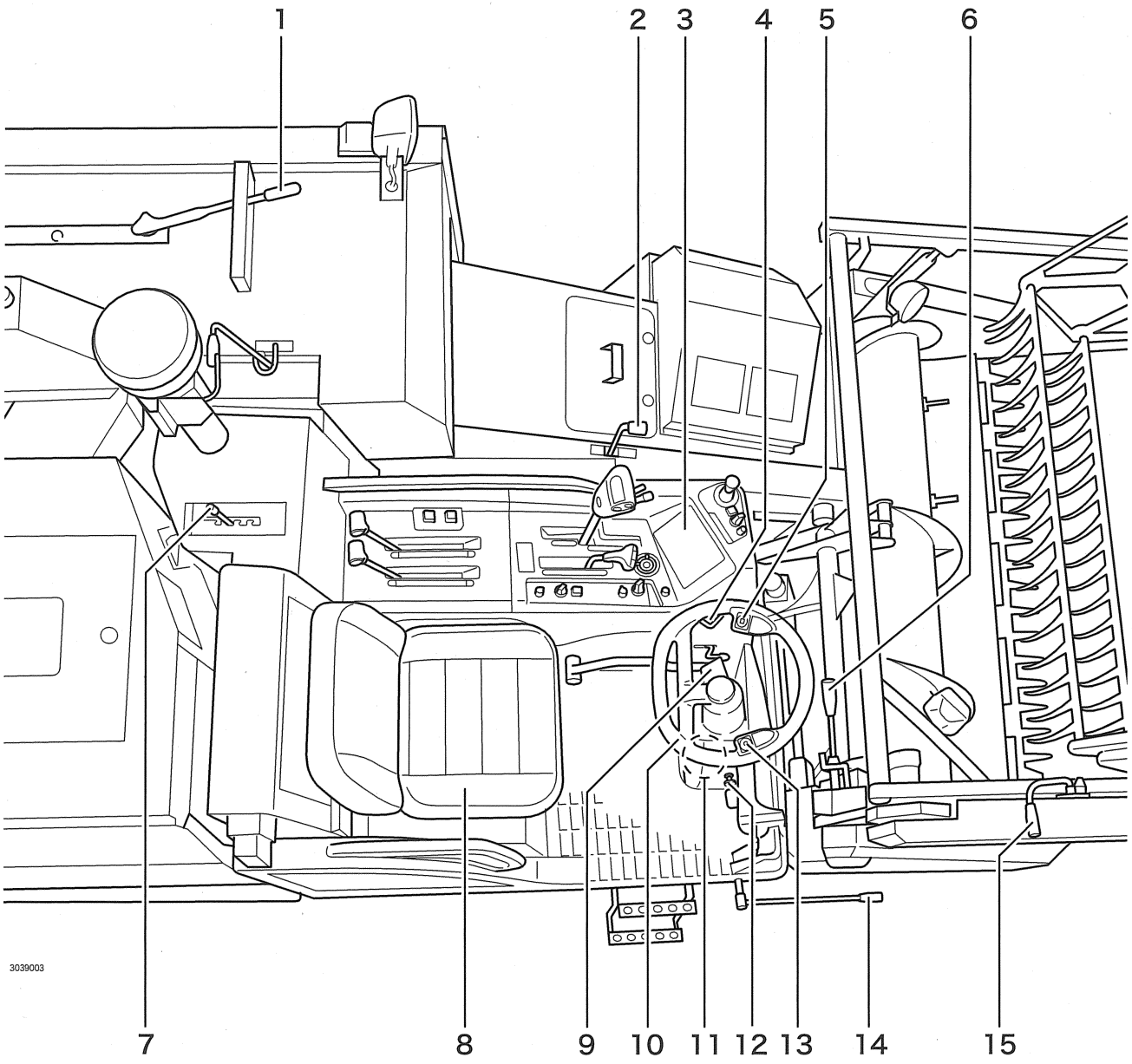


参照ページ

1. 排出コンベア
2. コンベアレスト
3. 受継コンベア装置
4. 排出コンベアクロスレバー 54

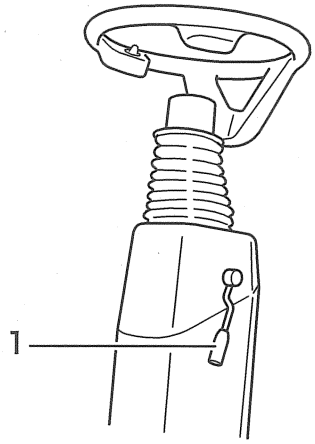
参照ページ

5. 排出クラッチスイッチ 55
6. 作業灯（排出コンベア先端）
7. 排出自動旋回スイッチ 55
7. クリーンシフトレバー 42

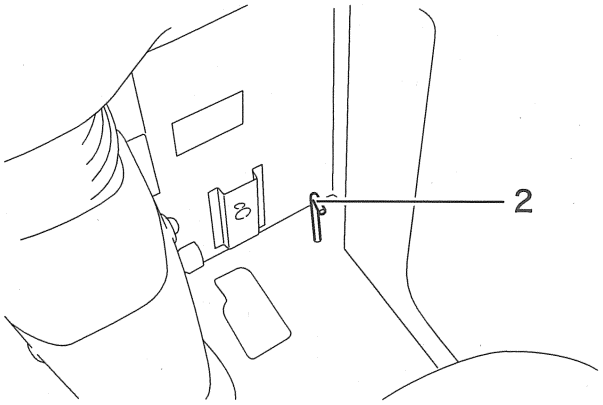


	参照ページ
1. 送塵調節レバー	41
2. 刈取部ストッパレバー	64
3. 液晶コンビネーションメータ	48
4. 駐車ブレーキロックレバー	45
5. ホーンボタン	
6. 刈刃・リールクラッチレバー	41
7. クリーンシフトレバー	42
8. ドライバーシート	
9. セフティペダル	45
10.ステアリングハンドル	43

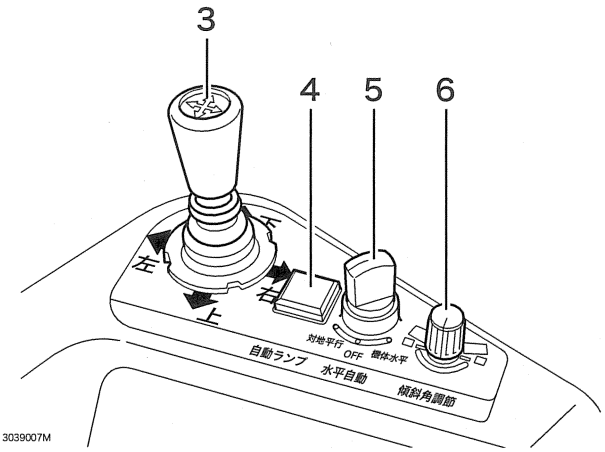
	参照ページ
11.キースイッチ	39
12.旋回モード切替ノブ	46
13.刈高さ・リール前後スイッチ	40
14.駐車ブレーキレバー（キャビンなし仕様のみ）	46
15.リール変速レバー	40



3032108



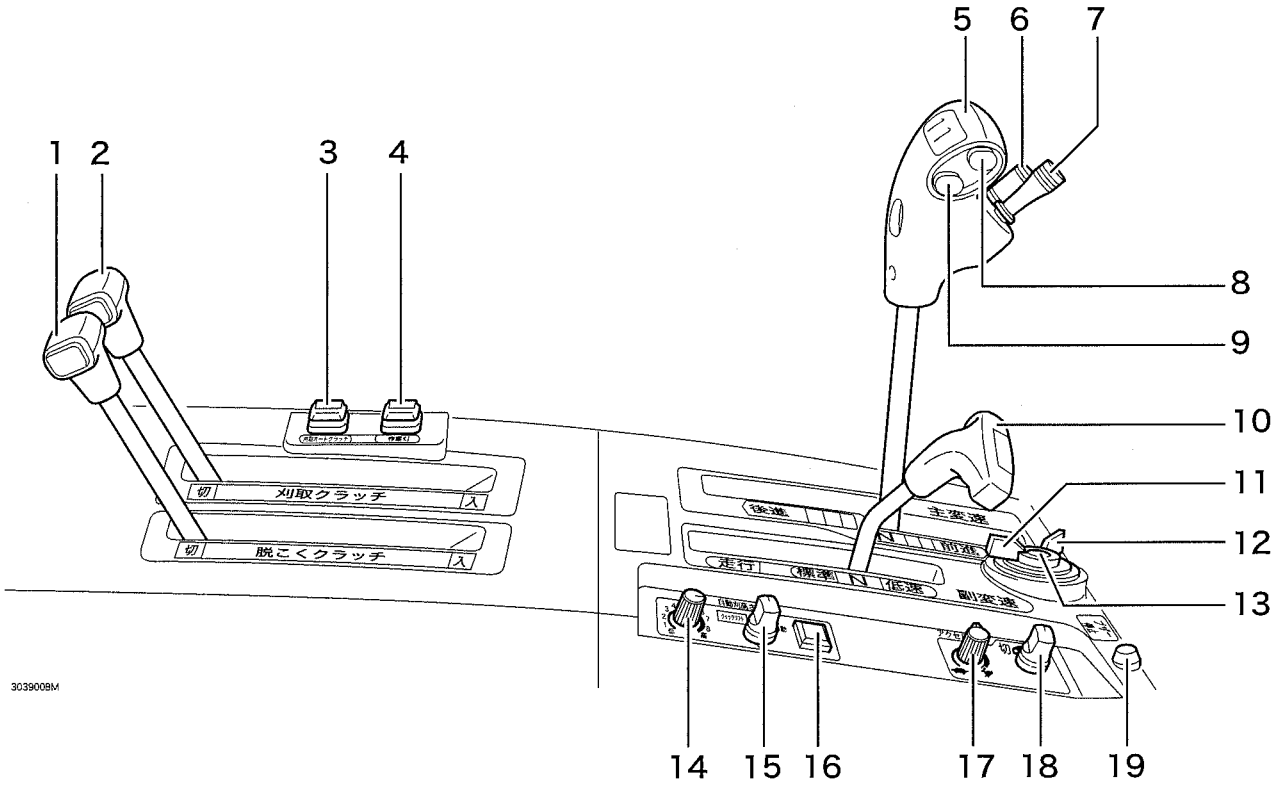
3039006



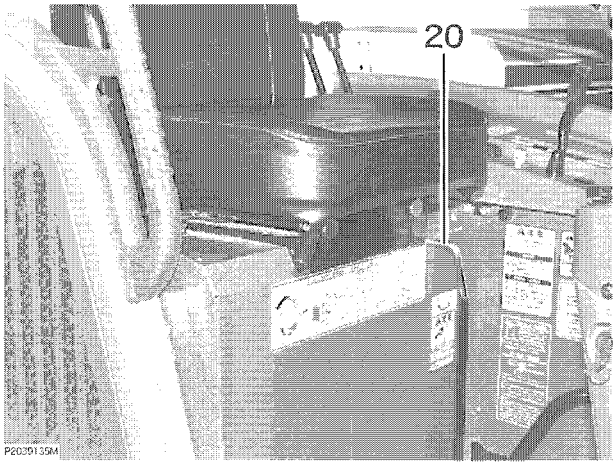
3039007M

参照ページ

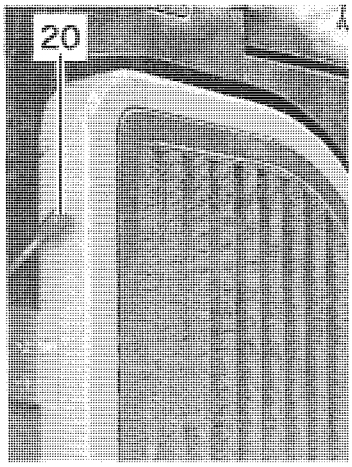
1. チルトレバー 64
2. 乗降ステップ操作レバー 65
3. 車高調節レバー 53
4. 水平自動ランプ 53
5. 水平自動切替スイッチ 53
6. 傾斜角調節ダイヤル 54



キャビンなし仕様の場合



キャビン仕様の場合



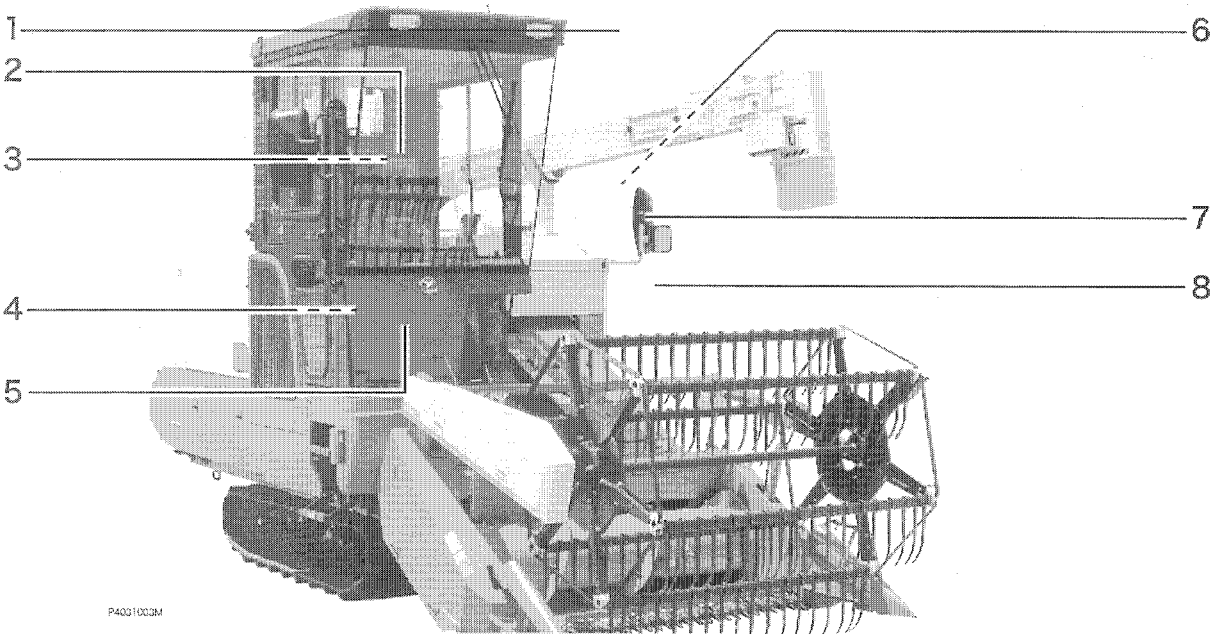
参照ページ

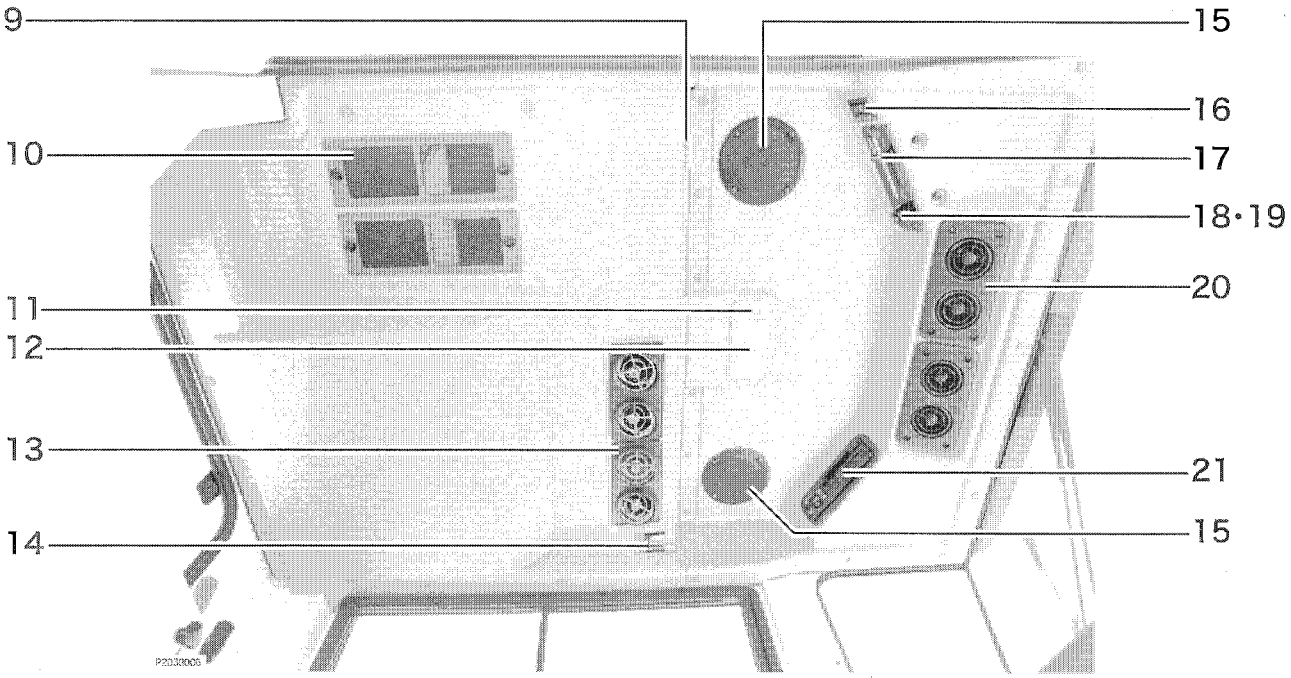
1. 脱こくクラッチレバー……40
2. 刈取クラッチレバー……40
3. 刈取オートクラッチスイッチ……41
4. 作業灯スイッチ……47
5. 主変速レバー……44
6. リール高さ調節レバー……43
7. 刈高さ調節レバー……42
8. オートリフトボタン……52
9. オートセットボタン……52
10. 副変速レバー……44

参照ページ

11. ウインカスイッチ……47
12. ライトスイッチ……47
13. ホーンボタン……47
14. 刈高さ調節ダイヤル……51
15. 自動刈高さスイッチ……51
16. 自高ランプ……51
17. アクセルダイヤル……39
18. Eモードスイッチ……50
19. ブザー停止ボタン……50
20. エンジンルームロックレバー……64

4. キャビン仕様





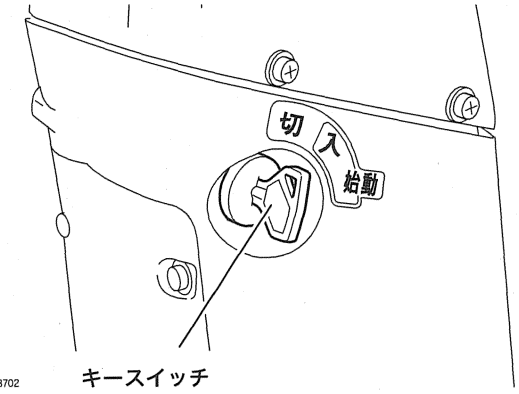
	参照ページ
1. アンテナ	58
2. ドアウインドウ	62
3. リヤウインドウ	62
4. ドアロックボタン	57
5. ドアハンドル	56
6. サイドウインドウ	62
7. ワイパー	58
8. 灰皿	63
9. ヒューズボックス	
10.フィルター	

	参照ページ
11.ルームランプスイッチ	59
12.ルームライト	59
13.風向グリル（後方吹出口）	62
14.吹出口切替レバー	61
15.スピーカー	
16.ワイパー＆ウォッシャースイッチ	58
17.温度コントロールレバー	61
18.ファンスイッチ	60
19.エアコンスイッチ	61
20.風向グリル（前方吹出口）	62
21.FM・AM付CDラジオ	59

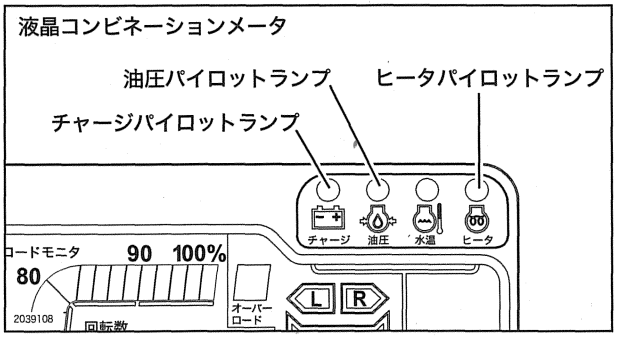
1. エンジンコントロール関係

(1) キースイッチ

エンジンの始動・停止に使用します。



●「切」位置……エンジン停止時に使用する。
（電流は流れず、キーを抜き取れる）
●「入」位置……各電装スイッチに電流が流れる。
エンジンが停止している場合は、液晶コンビネーションメータの油圧パイロットランプとチャージパイロットランプが点灯する。
（48ページ参照）
●「始動」位置…セルモータが回転し、エンジンが始動する。
エンジンが始動したらキーから手を離す。キーは自動的に「入」位置に戻り、連続運転に入る。

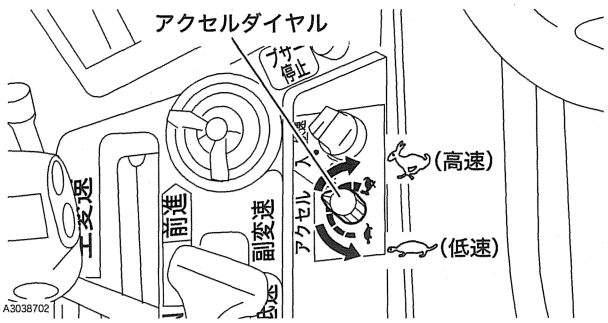


[参考]

●寒冷時にキースイッチを「入」位置にすると、自動的にエアヒータが作動し、エンジン始動を容易にします。（エアヒータが働いているときは、液晶コンビネーションメータのヒータパイロットランプが点灯します。また、エンジンが始動すると、エアヒータの通電が停止し、ヒータパイロットランプも消灯します。）

(2) アクセルダイヤル

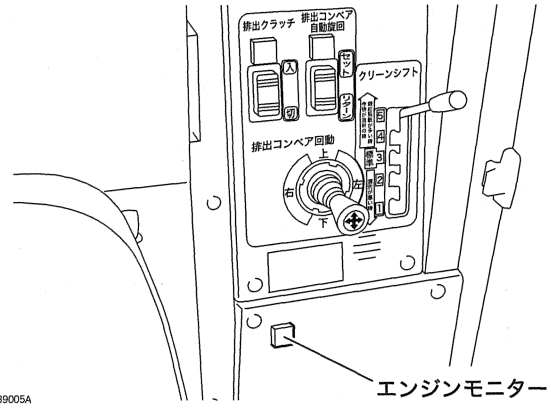
エンジン回転の上げ下げに使用します。



●右へ回す……エンジンの回転が上がる
●左へ回す……エンジンの回転が下がる

(3) エンジンモニター

エンジン関係のセンサやコントローラに異常が発生したときに、エンジンモニターの点滅回数により異常を知らせます。

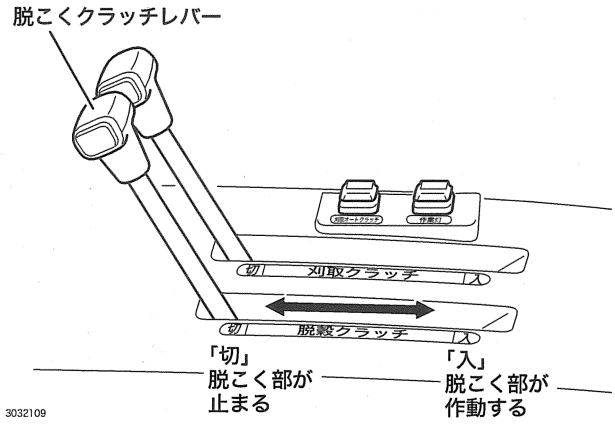


通常（正常時）はキースイッチを「始動」位置にした後、2秒間ランプが点灯してから消灯します。（ランプ切れの確認に利用できます。）
異常が発生した場合は、ランプの点滅回数で異常内容を知らせます。詳細は「エンジンコントローラ自己診断について」（228ページ参照）を参照してください。

2. 作業関係

(1) 脱こくクラッチレバー

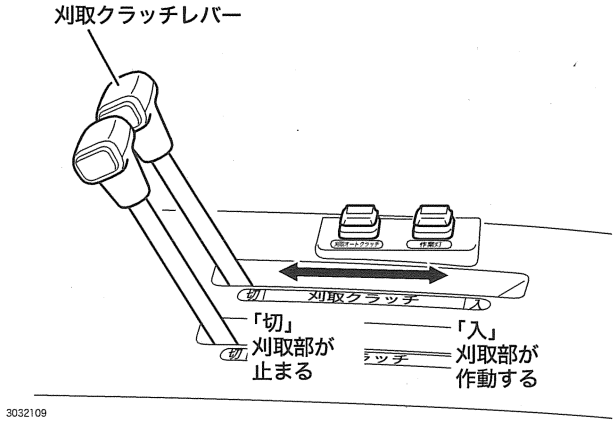
脱こく部の作動・停止に使用します。



- 「入」位置……脱こく部が作動する
- 「切」位置……脱こく部が停止する

(2) 刈取クラッチレバー

刈取部の作動・停止に使用します。



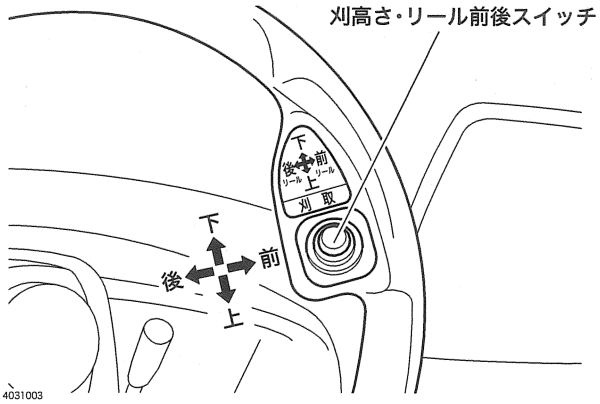
- 「入」位置……刈取部が作動する
- 「切」位置……刈取部が停止する

[参考]

- 刈取クラッチは、脱こくクラッチと連動しているため、脱こくクラッチレバーを「切」位置にすると、刈取部も同時に停止します。
- 刈取クラッチレバーを「入」位置にすると、脱こくクラッチレバーも同時に「入」位置になります。

(3) 刈高さ・リール前後スイッチ

ハンドルを握ったままで、刈取部の上昇・下降およびリールの前後位置を調節するときに使用します。



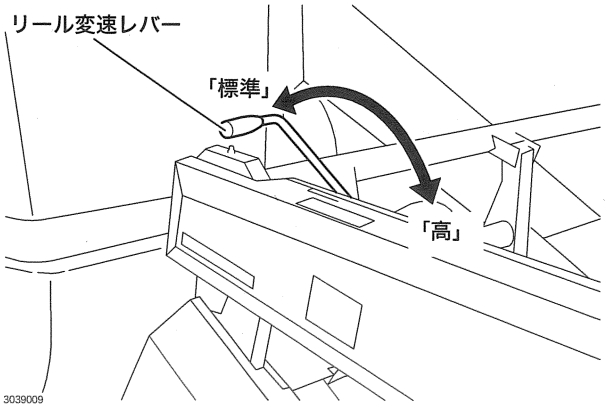
- 「前」側……リールが前方へ動く
- 「後」側……リールが後方へ動く
- 「下」側……刈取部が下がる
- 「上」側……刈取部が上がる

[重要]

- 主変速レバー部の刈高さ調節レバーとハンドル部の刈高さ・リール前後スイッチを同時に逆方向に使用したときには、刈取部の上昇・下降が止まります。
- 刈取部の昇降は、エンジンを始動しないとできません。

(4) リール変速レバー

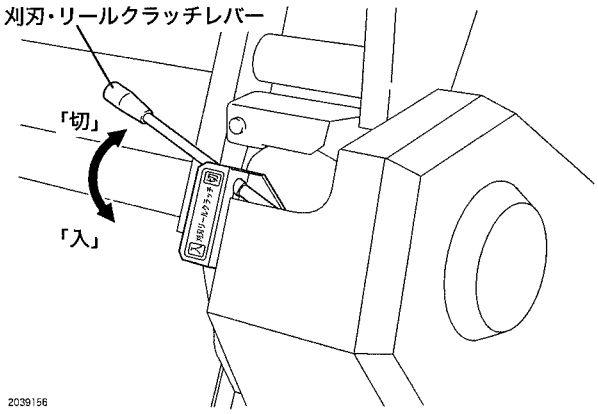
リールの回転速度を調節するときに使用します。



- 「標準」位置… リールの回転速度が遅くなる
  （立毛・向い刈り倒伏時）
- 「高」位置…… リールの回転速度が速くなる
  （追い刈り倒伏時）

(5) 刈刃・リールクラッチレバー

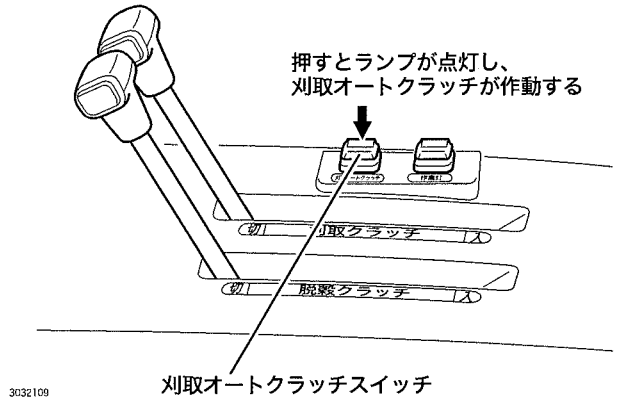
プラットホームに作物を投げ込んで、定置脱こくするときに使用します。



●「入」位置……刈刃とリールが作動する
●「切」位置……刈刃とリールが停止する

(6) 刈取オートクラッチスイッチ

刈取部の駆動・停止を、刈取部の昇降に連動して自動的に行うときに使用します。

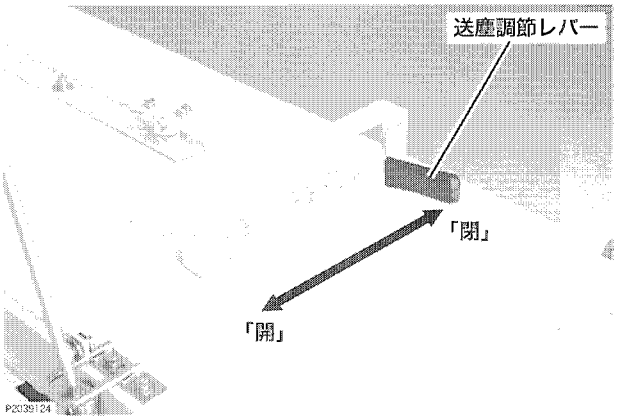


刈取オートクラッチ機構は、刈取部が駆動している状態で、オートリフトボタン・オートセットボタンで刈取部を昇降したときに作動します。

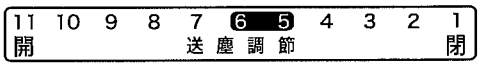
●「入」（ランプ点灯）…オートリフトボタンで刈取部を上昇させたときに、刈取部が自動的に停止する
オートセットボタンで刈取部を下降させたときに、刈取部が自動的に駆動する
●「切」（ランプ消灯）…刈取オートクラッチ機構は作動しない

(7) 送塵調節レバー

こぎ室内の作物の流れを、作物の種類や条件に応じて調節するときに使用します。



レバー位置の銘板



標準的な作物の調節位置
大豆……「5」～「6」
ソバ……「9」～「11」
麦……「3」～「6」
小豆……「8」～「11」

⇩

作物の条件により下記の目安で上手に使用してください。
大豆・麦：ロスがでない限り ➡「開」側へ動かす
ソバ　：水分の多いとき ➡「開」側へ動かす

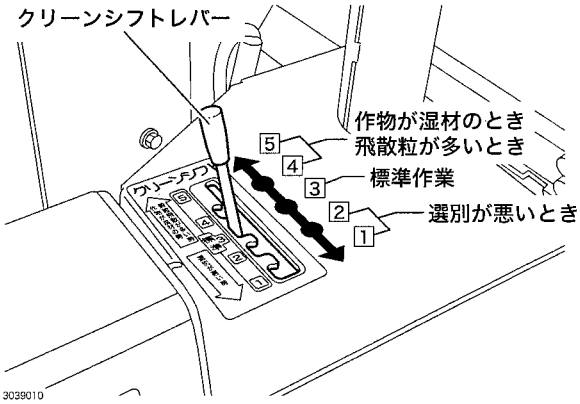
[重要]

●「閉」側にしすぎると、ロータにサヤクズなどがたまりやすくなり、こぎ室から異音が出る場合があります。

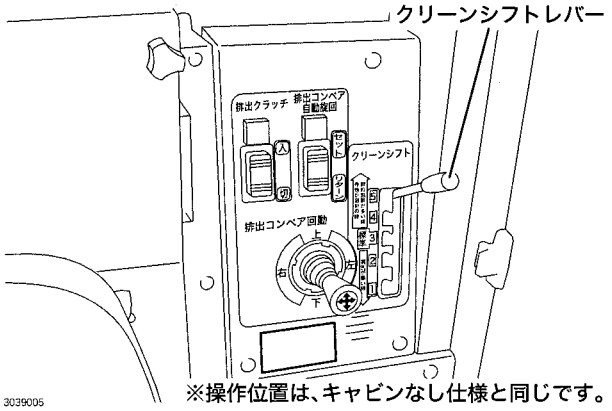
(8) クリーンシフトレバー

脱こく内部のクリーンシフトの角度を、作物の条件に応じて調節するときに使用します

キャビンなし仕様の場合



キャビン仕様の場合



※操作位置は、キャビンなし仕様と同じです。

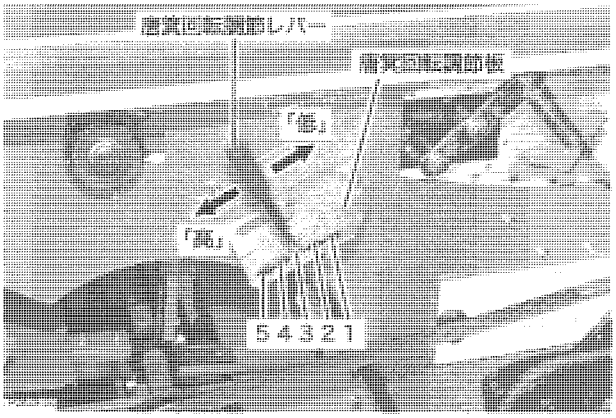
- 「1」「2」位置……選別が悪いとき
- 「3」位置…… 標準作業
- 「4」「5」位置……作物が湿材のとき・こく粒飛散が多いとき

[重要]

- クリーンシフトレバーの調節を誤ると、詰まりやロスの原因になるので、特に注意してください。

(9) 唐箕回転調節レバー

作物の選別の精度を良くするときに使用します。



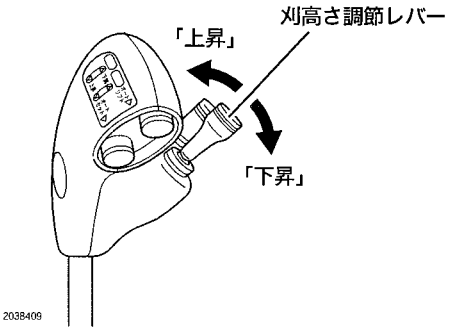
- 「高」側……選別が悪いとき
- 「低」側……乾材などで3番にロスが多いとき

[参考]

- 唐箕回転調節レバーを調節しても不具合が改善されないときは、唐箕回転調節板を調節してください。(102ページ参照)
- 標準位置は、唐箕回転調節板を「高」側いっぱいに寄せた状態で、「3」位置です。

(10)刈高さ調節レバー

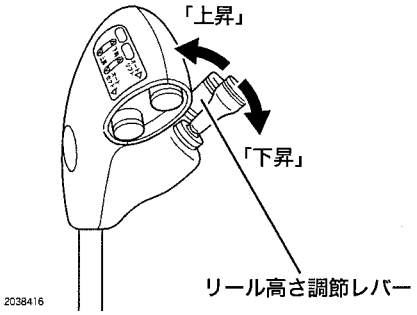
刈取部の上昇・下降に使用します。



- 「下降」側……刈取部が下がる
- 「上昇」側……刈取部が上がる

(11)リール高さ調節レバー

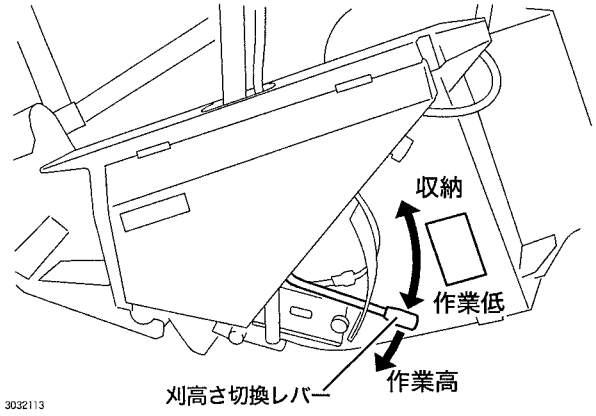
リールの上昇・下降に使用します。



●「下降」側……リールが下がる
●「上昇」側……リールが上がる

(12)刈高さ切換レバー

刈高さ自動制御中の刈取部の下降高さを調節するときに使用します。



●「作業」位置…作業をするとき（センサソリが出る）に使用し、次の2つの切換がある
●「作業低」……通常作業に使用
●「作業高」……高刈作業時に使用
●「収納」位置…積み・降ろし、移動するとき刈取部を脱着するとき（センサソリが収納される）

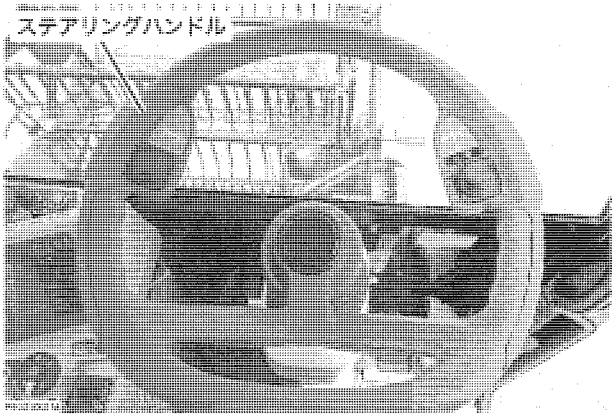
[参考]

●刈高さ切換レバーを操作するときは、レバーを押し込みながら行ってください。

3. 走行関係

(1) ステアリングハンドル

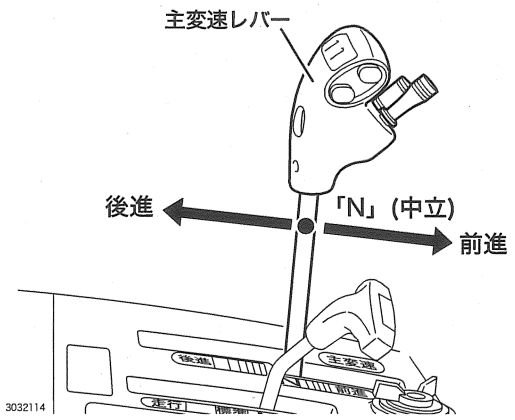
機体を旋回するときに使用します。



ハンドルを右へ回すと機体が右へ旋回し、左へ回すと機体が左へ旋回します。
さらにハンドルを右または左へ回すと、左右のクローラが逆転し、旋回半径が小さくなります。

(2) 主変速レバー(HST)

前進・後進の進行方向と走行速度の調節、および走行の停止に使用します。



- 「前進」側……機体が前進する
- 「後進」側……機体が後進する
- 「N」(中立)位置……機体が停止する

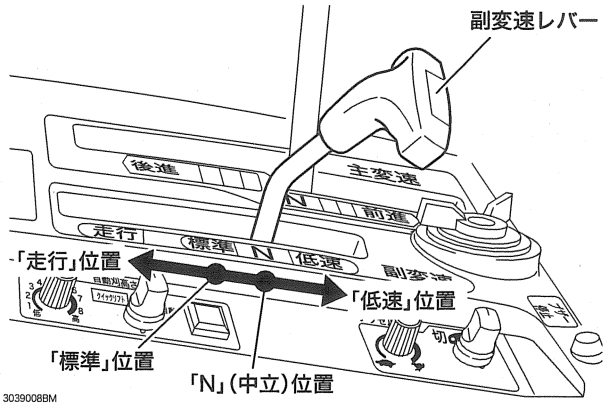
走行速度は、レバーの操作量によって無段階に選べます。

[重要]

- 駐車ブレーキレバーが「ブレーキ」位置、またはセフティペダルを踏み込んでいるときは、主変速レバーは「N」(中立)位置に戻り、主変速レバーの操作はできません。(駐車ブレーキレバーは、キャビン仕様にはありません。)

(3) 副変速レバー

使用目的や条件により、「低速」「標準」「走行」の3段階の走行速度が選べます。



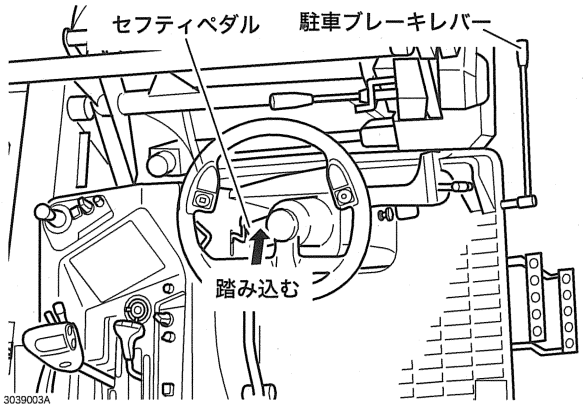
- 「低速」位置……半倒伏や悪条件作物
- 「標準」位置……標準的な刈取作業
- 「走行」位置……移動走行
- 「N」(中立)位置……走行しない

[重要]

- 副変速レバーによる変速は、主変速レバーを、必ず「N」(中立)位置にして、機体が完全に停止してから変速してください。
- セフティペダルを踏み込まない方が、スムーズに変速できます。
- 坂道では変速しないでください。

(4) セフティペダル

エンジン始動時、および走行中の緊急停止時に使用します。



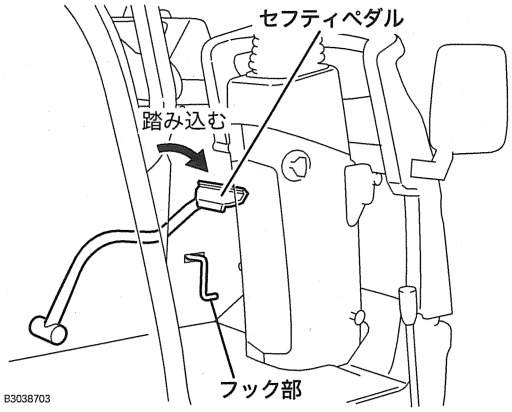
セフティペダルを踏み込むと、主変速レバーが「N」(中立) 位置に戻り、本機が停止し、ブレーキが効きます。

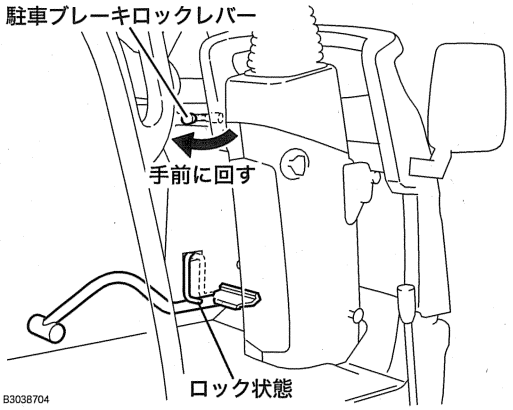
[参考]

- 通常の走行停止は、主変速レバーを「N」(中立) 位置にして行ってください。

(5) 駐車ブレーキロックレバー

ドライバーシートに座って、駐車ブレーキをかけるときに使用します。





セフティペダルをいっぱいに踏み込んで、駐車ブレーキロックレバーを手前に引いて、セフティペダルにフック部をかけると、駐車ブレーキがかかります。

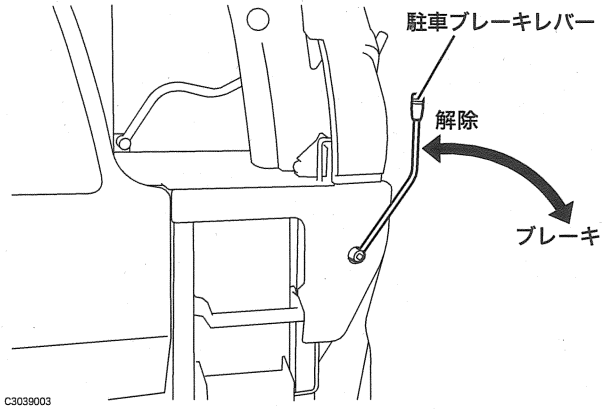
解除するときは、セフティペダルをいっぱいまで踏み込むと、駐車ブレーキロックレバーが前方に戻り、フックが外れ解除できます。

[参考]

- 駐車ブレーキをかけると、主変速レバーは「N」(中立) 位置に戻ります。

(6) 駐車ブレーキレバー（キャビンなし仕様のみ）

機体から降りて、駐車ブレーキをかけるときに使用します。



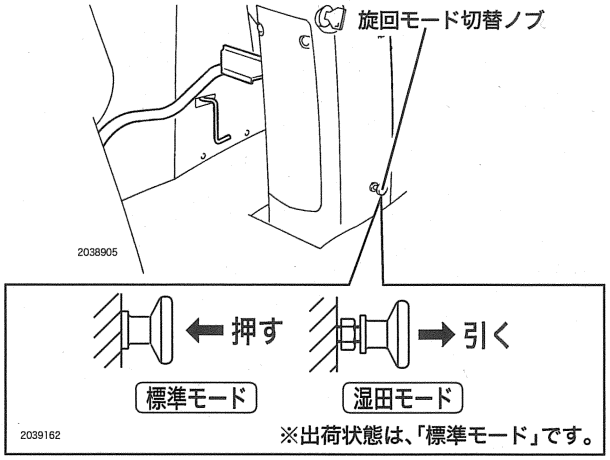
●「ブレーキ」位置……駐車ブレーキがかかる
●「解除」位置……駐車ブレーキが解除される

[参考]

●駐車ブレーキをかけると、主変速レバーは「N」（中立）位置に戻ります。

(7) 旋回モード切替ノブ

旋回モードを切り替えるときに使用します。



旋回モード切替ノブは、主変速レバーを「N」（中立）位置、ステアリングハンドルを「中立」にして操作してください。

●ノブを押し込む……標準モード
（スピンターンする）
●ノブを引き出す……湿田モード
（スピンターンしない）

[参考]

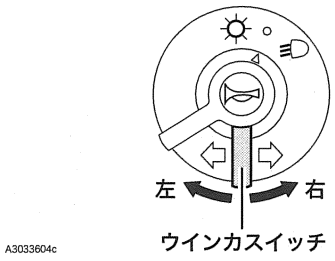
●「標準モード」では、旋回時に自動減速が働いて小回りができますが、「湿田モード」では、自動減速せずに大回りになります。移動走行するときは、「標準モード」にしてください。
●乾田作業・移動走行では、「標準モード」を使用してください。湿田作業をする場合は、「標準モード」でも十分に作業は可能ですが、機体の沈下が著しい場合は、「湿田モード」に切り替えると、さらに湿田性能が向上します。

	標準モード	湿田モード
旋回時の車速	減速する	減速しない
副変速「標準」での旋回	スピンターンする（小回り）	スピンターンしない（大回り）
乾田での旋回	◎	○
湿田での旋回	○ ※ハンドルを切りすぎない	◎（旋回力大）
移動走行性能	◎	×（使用不可）
車庫入れ性能	◎	×（使用不可）

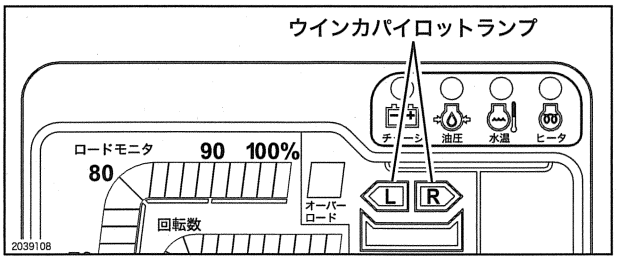
4. 電装関係

(1) ウインカスイッチ

方向指示器（ウインカ）を点滅させるときに使用します。

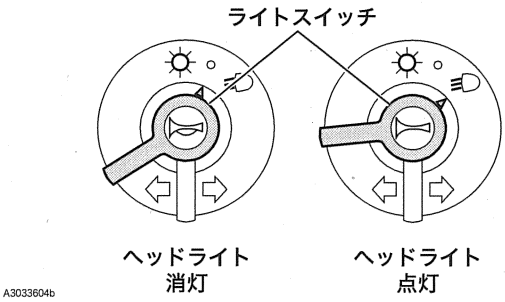


キースイッチを「入」位置にして、旋回する側の矢印方向にスイッチを回すと、方向指示器が点滅します。同時に液晶コンビネーションメータのウインカパイロットランプも点滅します。



(2) ライトスイッチ

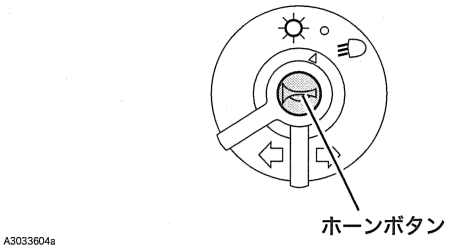
ヘッドライトを照射させるときに使用します。



キースイッチが「入」位置のとき、ライトスイッチを右（点灯）側に回すとヘッドライトが照射し、左（消灯）側に回すと消灯します。

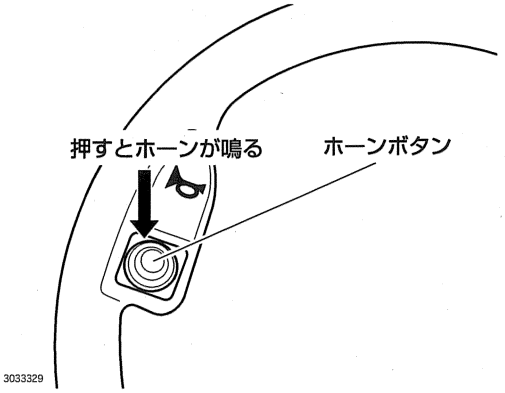
(3) ホーンボタン

ホーン（警笛）を鳴らすときに使用します。



キースイッチが「入」位置のとき、ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

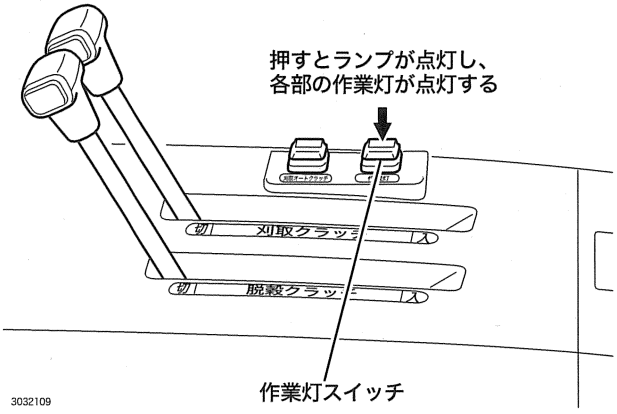
〈ハンドル部〉
ホーン（警笛）を鳴らすときに使用します。



キースイッチを「入」位置にして、ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

(4) 作業灯スイッチ

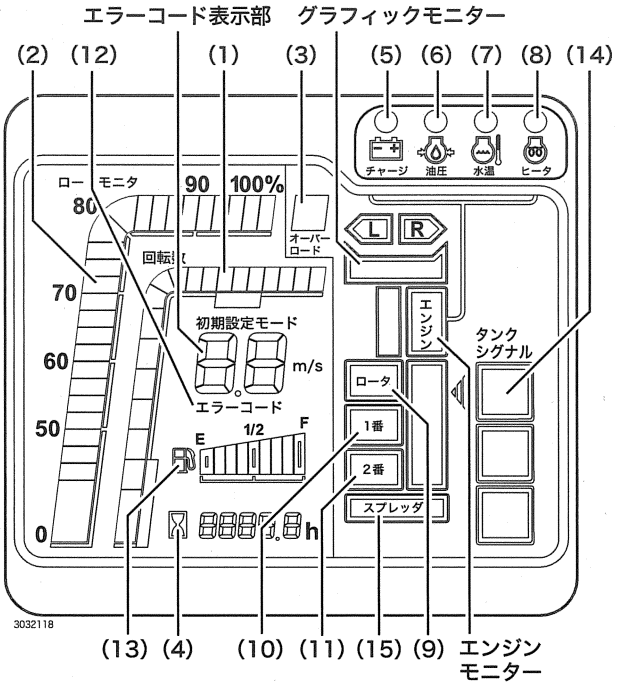
作業灯を点灯するときに使用します。



キースイッチが「入」位置のとき、作業灯スイッチを押して「入」（ランプ点灯）にすると、作業灯が点灯します。

5. 液晶コンビネーションメータ

運転中の各部の状態や、異常があった場合の警報装置で、異常箇所を液晶グラフィックモニターとブザーで知らせます。



- 異常箇所は、脱こくクラッチレバーを「切」位置にしても点滅したままなので、確認が容易です。
- キースイッチを「切」位置にすると、表示をリセットできます。
- キースイッチが「入」位置のときに、水温パイロットランプ（7）以外の全てのランプが数秒間点灯し、ランプ切れのチェックが行えます。切れている場合は、販売店に交換を依頼してください。

(1) 回転計

エンジン回転数を表示します。

(2) ロードモニター

エンジンの負荷を表示します。

(3) オーバーロードモニター

エンジン負荷が過負荷になったときに、黄色のモニターが点滅し、ブザーが断続音で鳴ります。
（124ページ参照）

(4) アワメータ

エンジンの使用時間を表示します。（エンジンを始動すると、カウントを始めます。）

(5) チャージパイロットランプ

エンジン回転中にバッテリに充電しなくなったときに、赤ランプが点灯し、エンジンモニターも赤く点滅し、ブザーが連続で鳴ります。（124ページ参照）

(6) 油圧パイロットランプ

エンジン潤滑油の油圧が低下したときに、赤ランプが点灯し、エンジンモニターも赤く点滅し、ブザーが連続で鳴ります。（124ページ参照）

(7) 水温パイロットランプ

エンジンの冷却水温が異常に上がったときに、赤ランプが点灯し、エンジンモニターも赤く点滅し、ブザーが連続で鳴ります。（124ページ参照）

(8) ヒータパイロットランプ

エアヒータ作動時に点灯します。

(9) ロータパイロットランプ

脱こくクラッチレバーが「入」位置のとき、ロータの負荷が過負荷になり、ロータの回転数が低下すると、赤ランプが点滅し、ブザーが連続で鳴ります。
（124ページ参照）

(10)1番パイロットランプ

●脱こくクラッチレバーが「入」位置のとき、1番コンベア上部にこく粒が詰まると、赤ランプが点灯し、ブザーが連続で鳴ります。
(124ページ参照)

(11)2番パイロットランプ

●脱こくクラッチレバーが「入」位置のとき、2番スラットコンベアにこく粒が詰まると、赤ランプが点滅し、ブザーが連続で鳴ります。
(124ページ参照)
●エンジン回転がアイドリング状態のとき、脱こくクラッチレバーを「入」位置にすると、ブザーが鳴ることがあります。

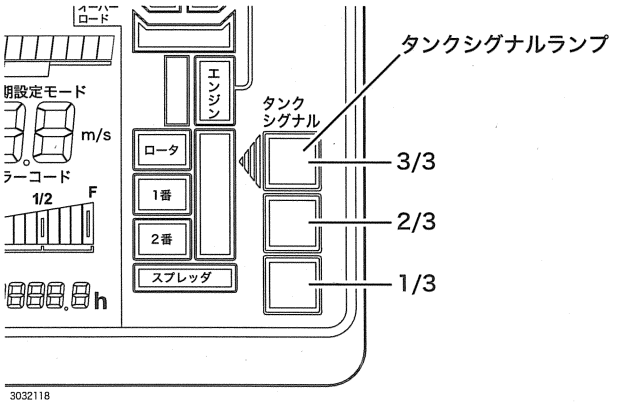
(12)エラーコードモニター

センサやコントローラに異常が生じたときに、「エラーコード」の文字が点滅し、エラーコード表示部にエラーコードを表示します。
(エラーコード表示部にエラーコードを表示させるときは、ブザー停止ボタンを5秒間押してください。)
(226ページ参照)

(13)燃料残量モニター

燃料の残量を表示します。また、燃料の残量が少なくなったときに⛽マークが点滅し、ブザーが断続音で鳴ります。ブザー停止ボタンを押すとブザーが鳴り止みます。⛽マークは点滅したままです。

(14)タンクシグナルランプ



〈グレンタンク仕様〉
グレンタンク内のこく粒の充てん状況をランプで表示します。ほぼ満量になるとタンクシグナルランプの「3/3」が点滅し、ブザーが断続で鳴ります。ブザー停止ボタンを押すと、ブザーは鳴り止みますが、「3/3」のランプは点滅したままです。

充てん状況	警報の方法 ブザー	内容
3/3	断続	グレンタンク内に、こく粒がほとんど満量に充てんされています。できるだけ早く排出してください。
2/3	鳴りません	グレンタンク内に、こく粒が2/3充てんされています。
1/3	鳴りません	グレンタンク内に、こく粒が1/3充てんされています。

〈ワンマンホッパ仕様〉
ワンマンホッパにこく粒がほぼ満量になると、タンクシグナルランプの「1/3」「2/3」が点灯、「3/3」が点滅して、ブザーが断続で鳴ります。ブザー停止ボタンを押すと、ブザーは鳴り止みますが、「1/3」「2/3」は点灯、「3/3」は点滅したままです。

[参考]
●ワンマンホッパ仕様は、ワンマンホッパ内の充てん経過のランプ表示はしません。満量になったときにいっせいに点灯・点滅します。

(15)スプレッダパイロットランプ

脱こくクラッチレバーが「入」位置のとき、スプレッダの負荷が過負荷になり、スプレッダの回転数が低下すると、赤ランプが点滅し、ブザーが連続で鳴ります。(124ページ参照)

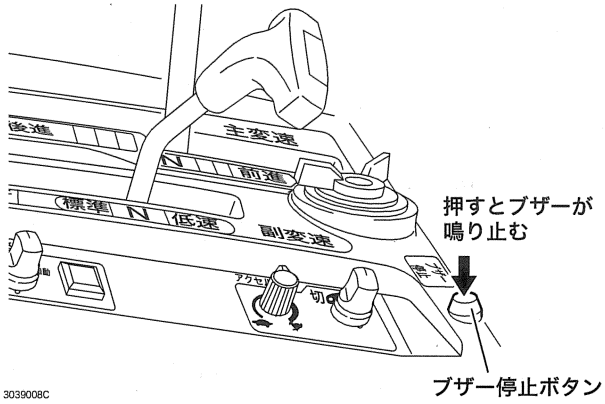
[参考]
●スプレッダは、仕様およびオプションです。

(16)傾斜警報ブザー (グレンタンク・キャビン仕様のみ)

傾斜センサの働きにより、機体が14度以上に傾くと、ブザーが連続的に鳴ります。

(17)ブザー停止ボタン

警報ブザーを停止するときに使用します。



次の警報の場合は、ブザー停止ボタンを押すとブザーが鳴り止みます。

- エンジン系統（チャージ・油圧・水温）
- こく粒満量
- 燃料残量

次の警報の場合は、ブザー停止ボタンを押してもブザーは鳴り止みませんが、脱こくクラッチレバーを「切」位置にすると、ブザーは鳴り止みます。

- ロータ
- 1番
- 2番
- スプレッダ（オプション）

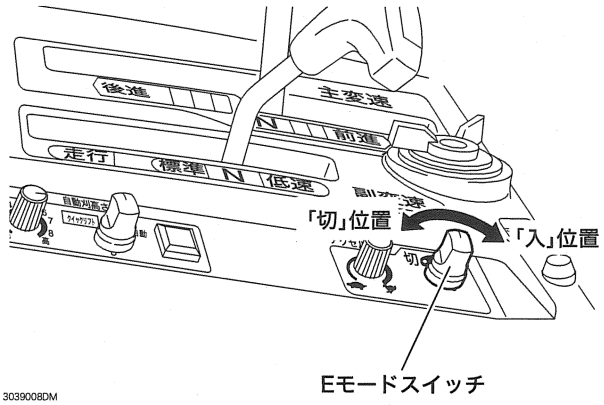
[参考]

- 警報装置については、124・125ページを参照してください。

6. 自動定回転制御装置

Eモードスイッチ

エンジン回転を、自動的に制御したいときに使用します。



- 「切」位置……アクセルダイヤルでエンジン回転の調節ができる
- 「入」位置……自動的にエンジン回転が、液晶コンビネーションメータの回転計の目盛が示す「グリーンゾーン」位置（定格回転2800rpm）になる

Eモードスイッチが「入」位置で、下記の条件のときに、自動的にエンジン回転が液晶コンビネーションメータの回転計の目盛が示す「グリーンゾーン」位置になります。

- 主変速レバーを前方・後方に倒して前後進する（移動走行）
- 脱こくクラッチレバーを「入」位置にする
- 排出クラッチレバーを「入」位置にする

その他のときは、自動的にローアイドリング（低回転）に保ちます。

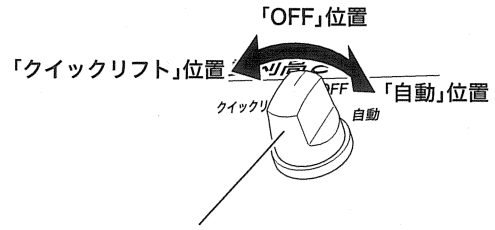
[参考]

- Eモードスイッチが「入」位置のときは、アクセルダイヤルでのエンジン回転の調節はできません。
- 脱こくクラッチレバーを「切」位置にし、排出クラッチスイッチを「切」にして、走行を停止しても、エンジン回転はすぐにはローアイドリング（低回転）になりません。エンジン回転は、約5秒間「グリーンゾーン」位置（定格回転）に保たれます。

7. 刈高さ自動制御装置

(1) 自動刈高さスイッチ

刈高さを自動制御するときに使用します。



●「クイックリフト」位置… センサソリが刈高さ調節ダイヤルで調節した高さ以下になったときに、自動的に刈取部を上昇させる
●「自動」位置…… 自高ランプが点灯し、刈高さ調節ダイヤルで調節した刈高さに自動調節する
●「OFF」位置……刈高さ自動制御が働かない

[参考]

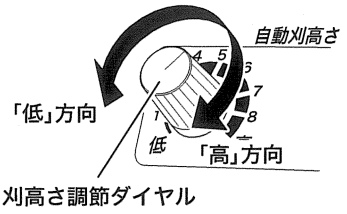
●自動刈高さスイッチが「OFF」位置のときは、刈高さ調節レバーで調節してください。

[重要]

●クイックリフトは、上昇のみ作動します。下降は作動しません。
●刈高さ自動制御が作動中に、刈高さ調節レバーを操作すると、その操作(手動操作)が優先されます。
●後進するときは、センサソリが土を引っ掛けないように、必ず刈取部を上げてから行ってください。

(2) 刈高さ調節ダイヤル

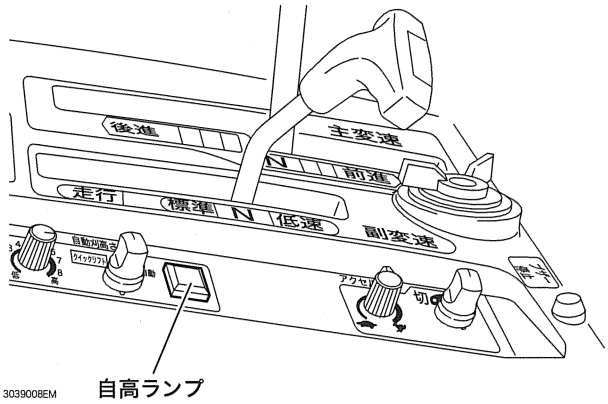
刈高さ自動制御の刈高さを調節するときに使用します。



●「高」方向に回す……刈取部が上がる
●「低」方向に回す……刈取部が下がる

(3) 自高ランプ

自動刈高さ制御中に点灯します。



脱こくクラッチレバーと刈取クラッチレバーが「入」位置のときに、自動刈高さスイッチを「自動」位置にすると点灯し、刈高さ自動制御中を表示します。

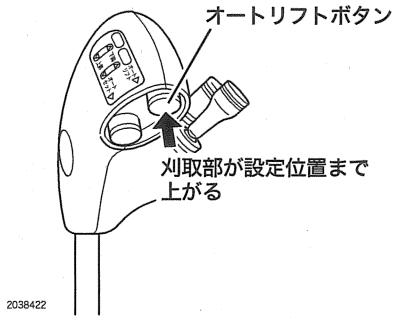
[重要]

●エンジンが停止している場合でも、刈取クラッチレバーとキースイッチが「入」位置になると、刈取部が下降することがありますので注意してください。

8. 刈取オートリフト・刈取オートセット装置

(1) オートリフトボタン

設定している高さに、刈取部を上昇させるときに使用します。



刈取クラッチレバーが「入」位置のとき、オートリフトボタンを押すと、刈取部が設定位置まで上昇します。(127ページ参照)
刈取オートクラッチスイッチが「入」(ランプ点灯)になっているときは、刈取部が上昇すると同時に、刈取部およびフィーダチェンの駆動が止まります。(刈取オートクラッチ機構)

[参考]

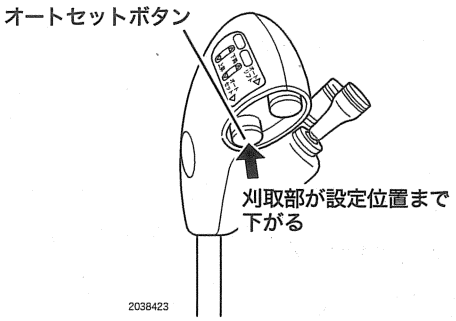
- 出荷時の設定位置は刈刃の高さが、約70～80cmの高さに設定されています。

[重要]

- エンジンが停止している場合でも、刈取クラッチレバーとキースイッチが「入」位置になると、刈取部が下降することがありますので注意してください。

(2) オートセットボタン

設定している適正な刈高さに、刈取部を下降させるときに使用します。



刈取クラッチレバーが「入」位置で、刈高さ切換レバーが「作業」位置のときに、オートセットボタンを押すと、刈取部が設定位置まで下降します。
(127ページ参照)
刈取オートクラッチスイッチが「入」(ランプ点灯)になっているときは、刈取部が下降すると同時に、刈取部およびフィーダチェンが駆動されます。(刈取オートクラッチ機構)

[参考]

- 自動刈高さスイッチが「自動」位置または「クイックリフト」位置のときは、刈高さ調節ダイヤル設定高さまで下降します。
- 自動刈高さスイッチが「OFF」位置のときは、刈取部のセンサソリが接地するまで下降します。

[重要]

- エンジンが停止している場合でも、刈取クラッチレバーとキースイッチが「入」位置になると、刈取部が下降することがありますので注意してください。

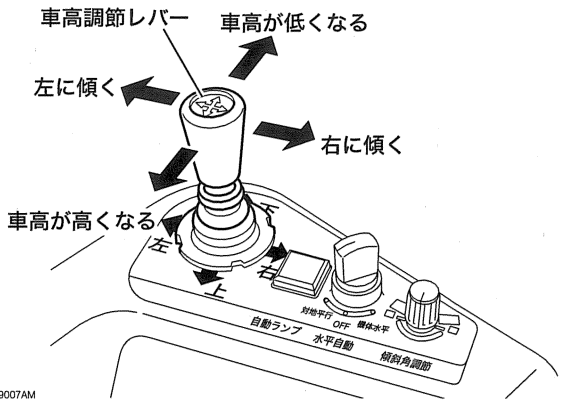
9. 車高水平制御装置

⚠注意

●傾斜地の走行、および積み・降ろしをするときは、必ず水平自動切替スイッチを「OFF」（ランプ消灯）にして、車高調節レバーで車高を最も低い位置まで下げてください。機械が急に傾き転倒し、ケガをするおそれがあります。

(1) 車高調節レバー

手動で車高を調節するときに使用します。

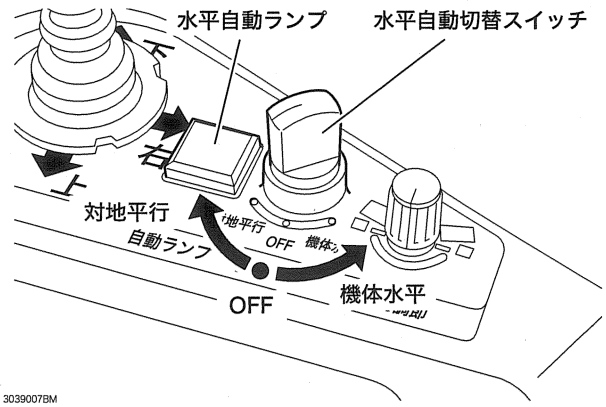


3039007AM

●前方に倒す……車高が低くなる
●後方に倒す……車高が高くなる
●左に倒す……車体が左に傾く
●右に倒す……車体が右に傾く

(2) 水平自動切替スイッチ

車体の水平を自動制御するときに使用します。

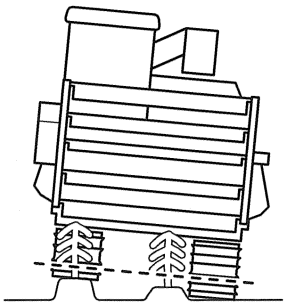


3039007BM

車高水平制御装置（機体水平制御と対地平行制御）は、脱こくクラッチレバーが「入」位置のときに作動します。（132ページ参照）

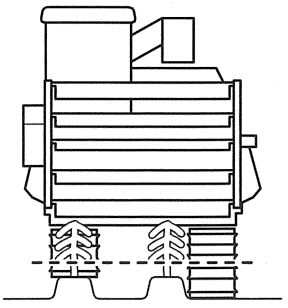
●「対地平行制御」位置 …… 対地平行制御が働く
（水平自動ランプ点灯または点滅）
●「機体水平制御」位置 …… 機体水平制御が働く
（水平自動ランプ点灯または点滅）
●「OFF」位置…… 車高水平制御が切れる
（水平自動ランプ消灯）

〈対地平行制御〉
高さの異なるうねや傾斜地で、刈取部をうねに対して平行に保ちます。



3032149

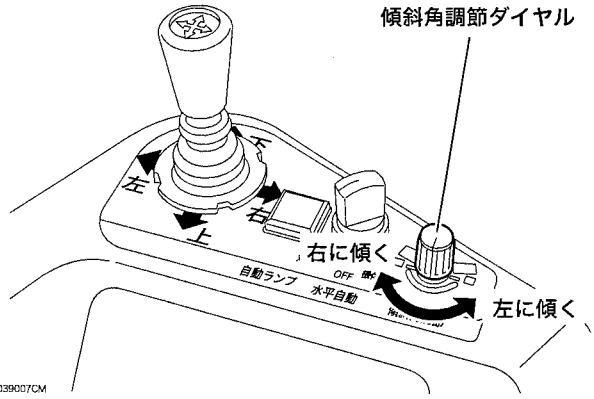
〈機体水平制御〉
ほ場の起伏やうねの高さが変化しても、常に機体を水平に保ちます。



3032148

(3) 傾斜角調節ダイヤル

車体の角度を一定に保ちたいときに使用します。



- 中央位置…… 車体が水平になる
- 方向に回す……車体が右に傾く
- 方向に回す……車体が左に傾く

[参考]

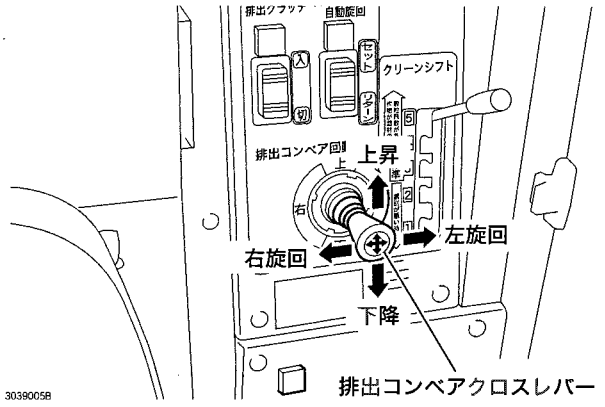
- 対地平行制御時は、傾斜角調節ダイヤルは使用できません。常に刈取部を地面に対して平行に保ちます。

10.排出コンベア装置 (グレンタンク仕様のみ)

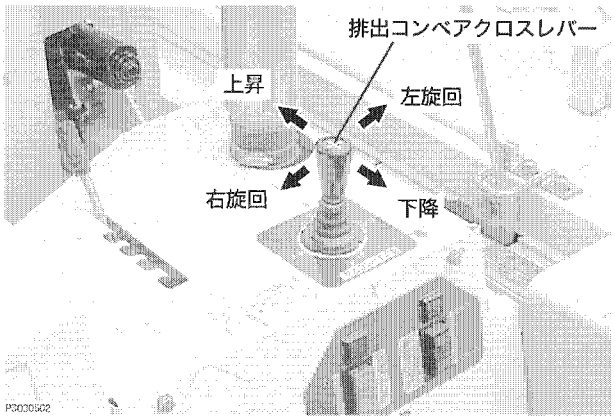
(1) 排出コンベアクロスレバー(運転席側)

排出コンベアの昇降・左右旋回させるときに使用します。

〈キャビン仕様〉



〈キャビンなし仕様〉

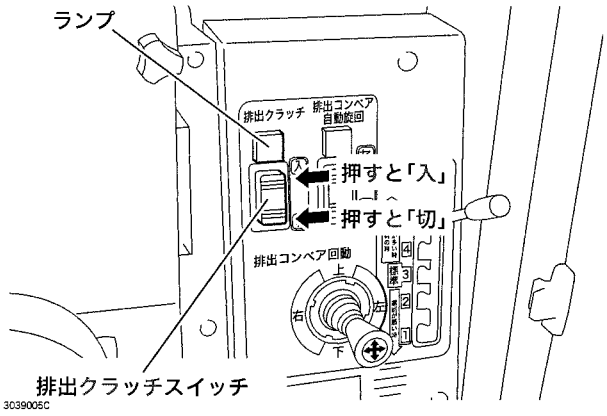


- 「上昇」位置……排出コンベアが上昇する
- 「下降」位置……排出コンベアが下降する
- 「右旋回」位置……排出コンベアが右に旋回する
- 「左旋回」位置……排出コンベアが左に旋回する

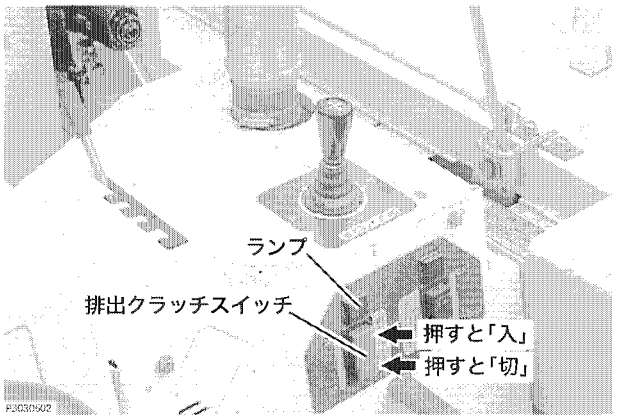
(2) 排出クラッチスイッチ(運転席側)

グレンタンクのこく粒を、排出コンベアの先端から排出するときに使用します。

〈キャビン仕様〉



〈キャビンなし仕様〉



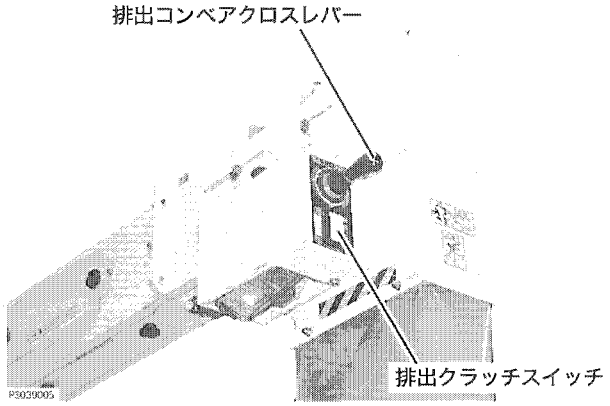
●「入」位置……ランプが点灯し、こく粒が排出される

●「切」位置……ランプが消灯し、こく粒の排出が停止する

(3) 排出クラッチスイッチ(排出コンベア先端)
(4) 排出コンベアクロスレバー(排出コンベア先端)

排出クラッチスイッチと排出コンベアクロスレバーは、排出コンベア先端にもあります。

トラック荷台上から、こく粒排出作業と排出コンベア位置の調節をするときに使用します。



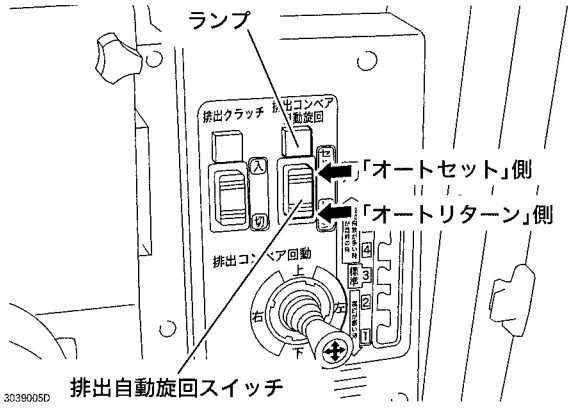
[参考]

●操作要領は、運転席側のものと同じです。ただし、排出コンベアクロスレバーの操作は、排出コンベア先端で操作した方が運転席側で操作するより、排出コンベアはゆっくり動きます。

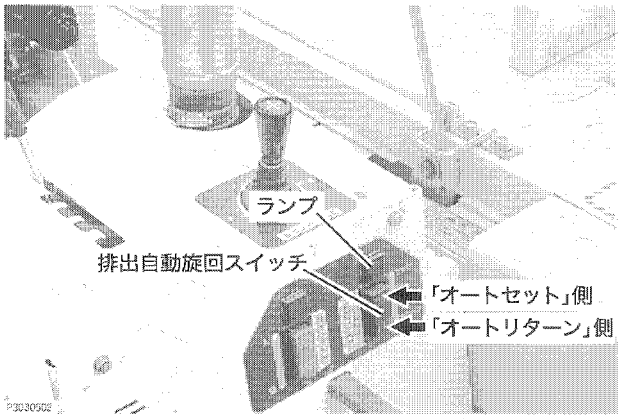
(5) 排出自動旋回スイッチ(オートセット、オートリターン装置)

排出コンベアを自動的に排出位置へ旋回、またはコンベアレストに収納するときに使用します。

〈キャビン仕様〉

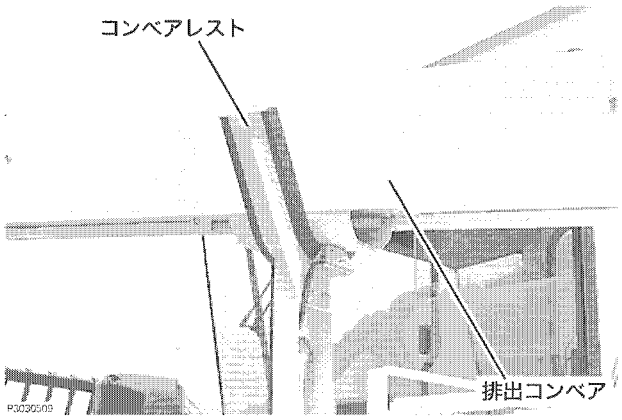


〈キャビンなし仕様〉



●「オートセット」側を押す……ランプが点灯し、排出コンベアが自動的に本機の真後ろ側まで旋回する

●「オートリターン」側を押す…排出コンベアが自動的にコンベアレストに収納される



[参考]

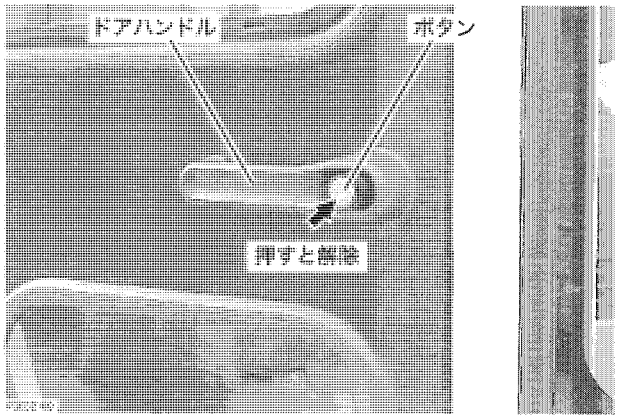
●オートセット・オートリターン装置が作動中に、排出コンベアクロスレバーを操作すると、排出コンベアクロスレバーの操作（手動操作）が優先します。(排出自動旋回スイッチのランプは消灯します。)

11.キャビン関係

(1) ドアハンドル(外側・内側)

車外からドアを開閉するときに使用します。

●外側



〈開けかた〉

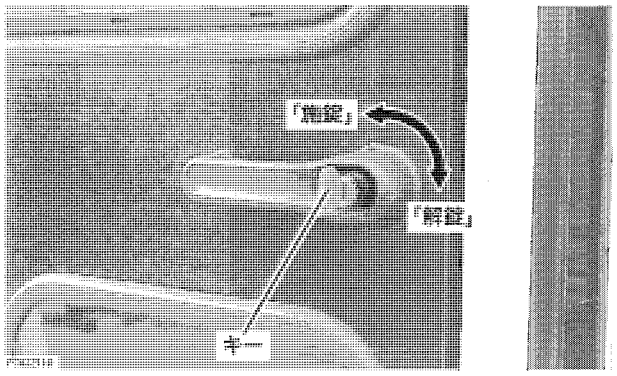
ドアハンドルを持ち、ボタンを押してロックを解除した後、ドアを開いてください。

〈閉めかた〉

ドアハンドルを持ち、確実にロックされるまで閉めてください。

[参考]

●ドアを閉めたときは、半ドアになっていないか必ず確認してください。



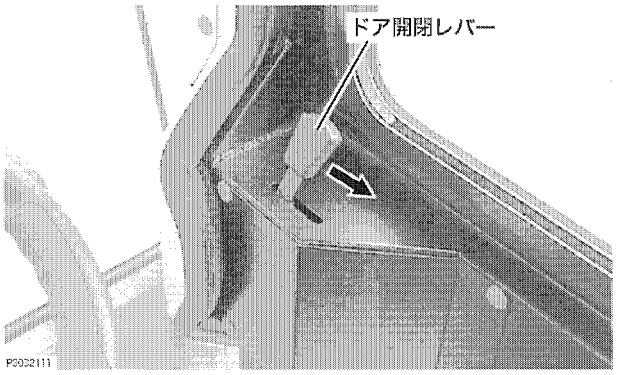
〈施錠のしかた〉

1. ドアハンドルのボタン部にキーを差し込み、左側に90度回してください。ドアが施錠されます。
2. キーを抜いてください。

〈解錠のしかた〉

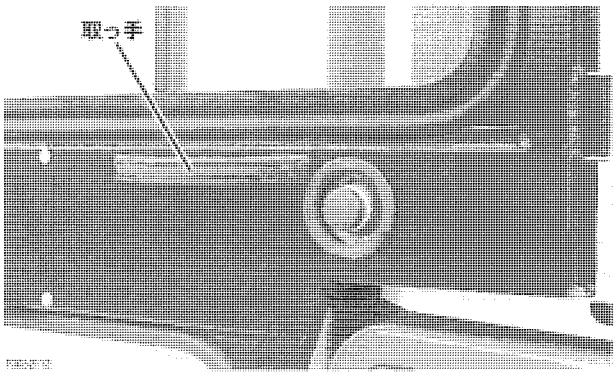
1. ドアハンドルのボタン部にキーを差し込み、右側に90度回してください。ドアが解錠されます。
2. キーを抜いてください。

●内側



〈開けかた〉

ドア開閉レバーを後方に引いてください。ドアが開きます。



〈閉めかた〉

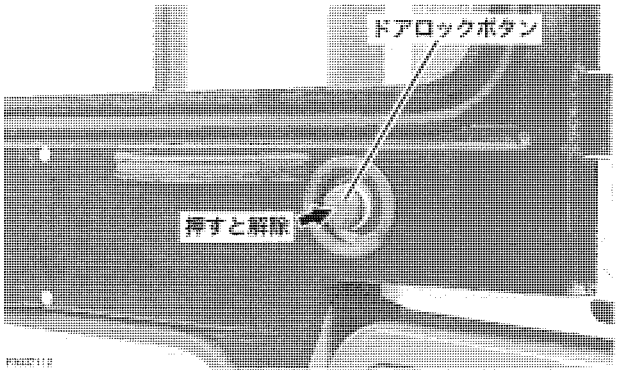
取っ手を持ち、確実にロックされるまで閉めてください。

[参考]

● ドアを閉めたときは、半ドアになっていないか必ず確認してください。

(2) ドアロックボタン

ドアを開けて作業をするときに使用します。



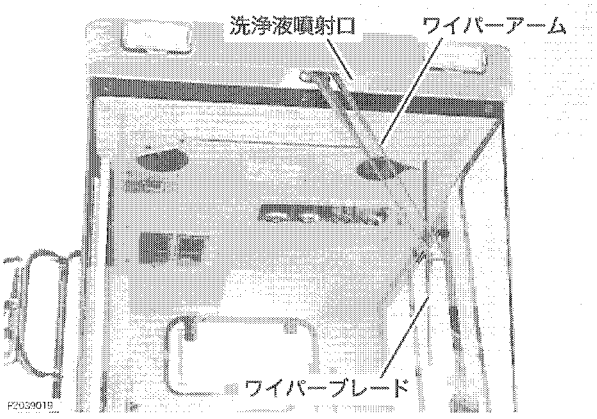
〈開けかた〉

ドアを後方に、いっぱいまで開いてください。ドアは自動的に固定されます。

〈閉めかた〉

ドアロックボタンを押してください。ドアの固定が解除されます。

(3) ワイパー

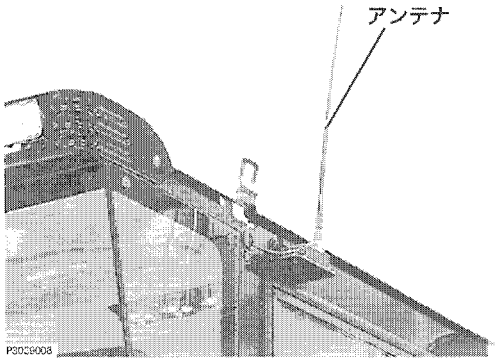


[参考]

●操作のしかたは、「(5) ワイパー&ウォッシャースイッチ」の項目ページを参照してください。

(4) アンテナ

FM・AMラジオを使用するときに使用します。



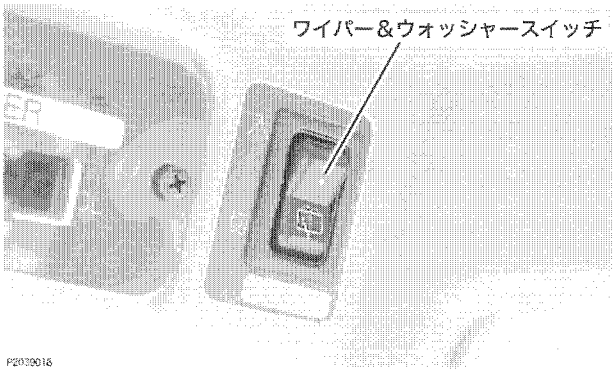
[重要]

●FM・AM付CDラジオを使用しないときは、必ずアンテナを収納してください。

●格納するときは、必ずアンテナを収納してください。

(5) ワイパー&ウォッシャースイッチ

ワイパーの作動と、ウォッシャー液を噴出するときに使用します。



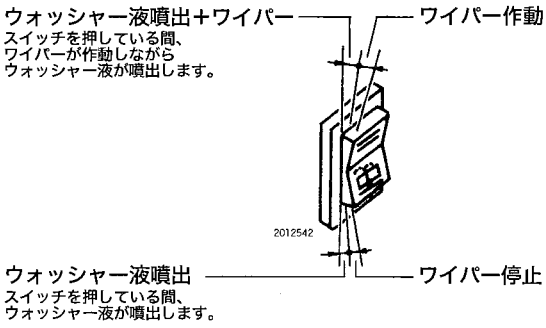
キースイッチが「入」位置のとき

●スイッチの上側を1段押す
……ワイパーが作動する

●スイッチの上側を最後まで押す
……押している間は、ワイパーが作動しながらウォッシャー液が洗浄液噴出口から噴出する

●スイッチの下側を1段押す
……ワイパーが停止する

●スイッチの下側を最後まで押す
……押している間は、ウォッシャー液が洗浄液噴出口から噴出する

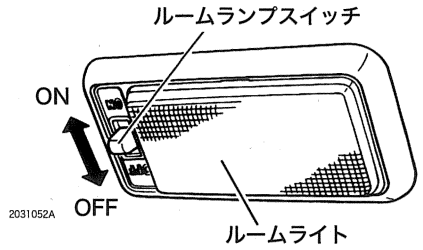


[重要]

- ウインドウガラスが乾いているときは、ワイパーを作動させないでください。ガラスやワイパーが傷つくおそれがあります。必ず、ウォッシャー液で濡らしてからワイパーを作動させてください。
- ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。ウォッシャー液が出ない状態で作動させるとウォッシャーモータの故障の原因になります。
- 寒冷時、ワイパーブレード（ゴム部）がガラス面に張りつくことがあります。張りついたまま作動させると、ワイパーが破損するおそれがありますので、吹出口切替レバーを「フロントガラス側」位置にして、温風でフロントガラスを暖めてください。
- エンジン停止状態でワイパーを長時間使用しますと、バッテリ容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

(6) ルームランプスイッチ

キャビン内で作業するときに使用します。



キースイッチが「入」位置のとき

- 「ON」位置……ルームライトが点灯する
- 「OFF」位置……ルームライトが消灯する

[参考]

- 「ON」と「OFF」の中間位置ではルームライトは点灯しません。

(7) FM・AM付CDラジオ

取り扱いについては、付属の取扱説明書をお読みください。
また、ラジオを使用するときはアンテナを立ててください。（58ページ参照）

〈ハーネスの接続について〉
FM・AM付CDラジオへの電源の供給のしかたは変更できます。キャビンインナーカバー内のフィルタを外して、中にあるハーネスの接続を行ってください。

〈通常の接続について〉
ハーネスの接続は、赤白とピンクが接続されています。

[参考]

- 通常の接続では、キースイッチを「切」位置にすると、本体から電源が切れて、プリセットメモリーおよび時計表示が消えますので、再セットが必要です。
  この接続状態は、バッテリ放電防止のために、バックアップ電源をキースイッチ「切」位置で切ってしまうためで、故障ではありません。

〈農繁期などで、コンバインを頻繁に使用するときの接続について（バックアップ電源「入」時）〉

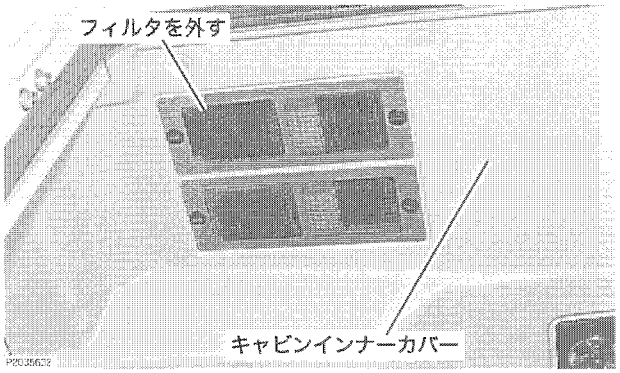
1. 通常の接続（赤白とピンク）を外してください。
2. 赤黒（バックアップ電源用）とピンクを接続してください。

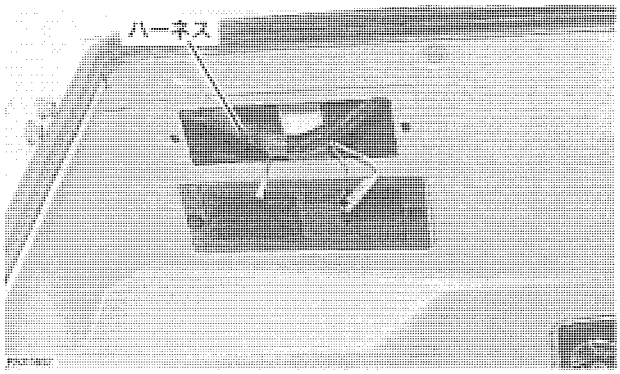
[参考]

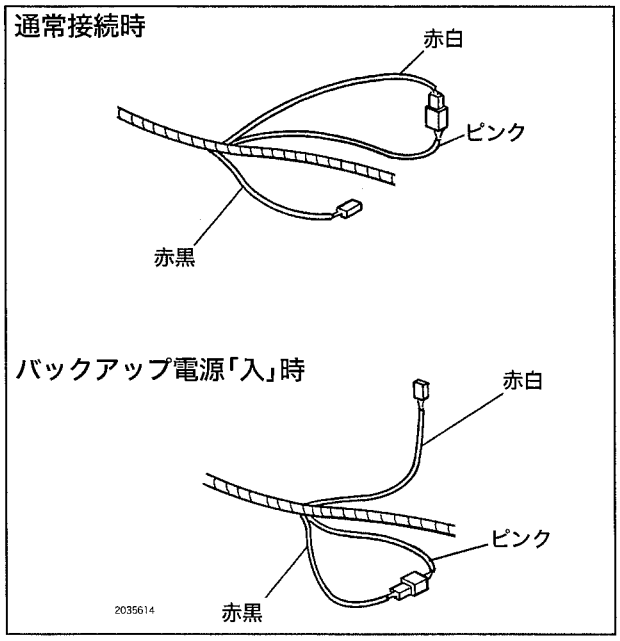
- この接続状態では、プリセットメモリーおよび時計表示は、キースイッチの「入」「切」位置に関係なく作動します。

[重要]

- 赤黒とピンクを接続した状態では、長期間（1ヵ月以上）使用しないと、バッテリが放電して使用できなくなることがあります。必ず赤黒（バックアップ電源用）を外し、通常の接続状態（赤白とピンク）に戻してください。

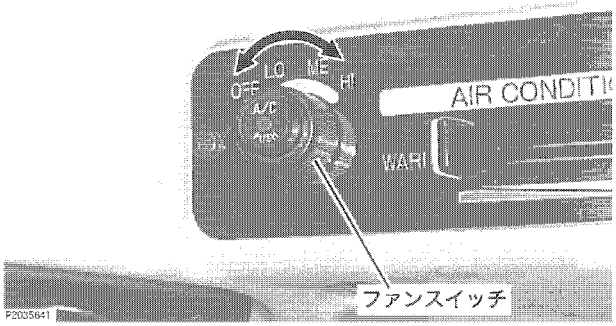






(8) ファンスイッチ

風量を調節するときに使用します。



風量を3段階に調節できます。

●「OFF」位置……ファン回転停止

エアコンスイッチの青ランプが点灯しているとき

●「LO」位置…… 弱風

●「ME」位置…… 弱風と強風の中間

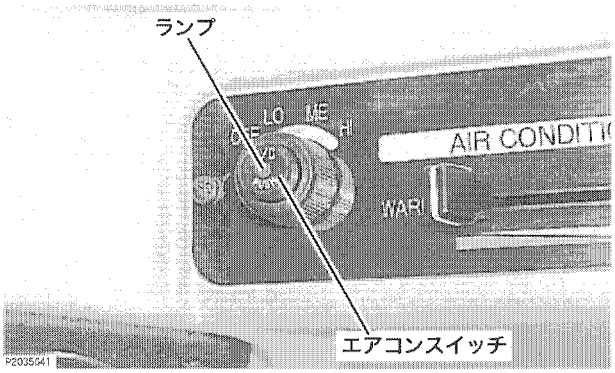
●「HI」位置……強風

[参考]

●エアコンスイッチを入れる前に、ファンスイッチを希望の風量位置にセットしておきます。

(9) エアコンスイッチ

エアコン電源を「ON」「OFF」するときに使用します。



キースイッチが「入」位置のとき

●1回押す…… エアコン「ON」
（ランプ点灯）

●ランプ点灯時に押す…… エアコン「OFF」
（ランプ消灯）

[重要]

●エアコンスイッチは、コンプレッサなどに無理な力をかけないために、エンジンを始動してから「ON」（ランプ点灯）にしてください。

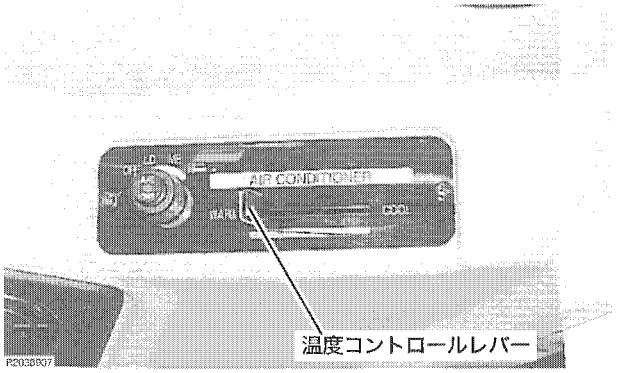
●エアコンスイッチ「ON」（ランプ点灯）の状態で、風が出ない、風力が弱い状態が続く、または冷房不良の場合は、エアコンスイッチを「OFF」（ランプ消灯）にしてください。異常な状態での連続運転は、ブロアモータやコンプレッサの損傷につながります。お買い求め先で点検を受けてください。

[参考]

●ファンスイッチが「OFF」位置のときは、エアコンスイッチを「ON」（ランプ点灯）にしてもエアコンは作動しません。

(10)温度コントロールレバー

エアコンの風の温度を調節するときに使用します。



●「WARM」側…近づけるほど風の温度は高くなる

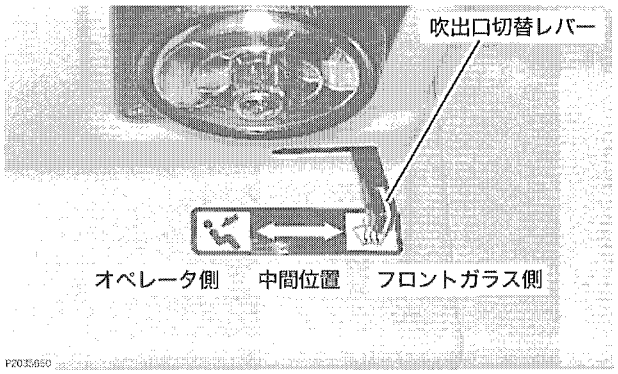
●「COOL」側…近づけるほど風の温度は低くなる

[参考]

●除湿をするときは、「WARM」と「COOL」の中間位置にしてください。

(11)吹出口切替レバー

温風・冷風の吹出口を切り替えるときに使用します。



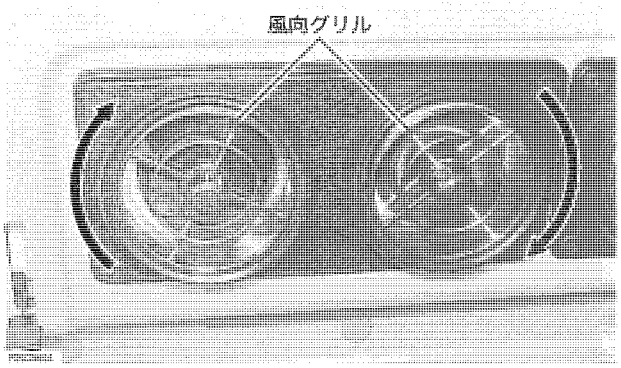
●オペレータ側…… オペレータ側に吹き出す

●フロントガラス側…… フロントガラスに向かって吹き出す

●中間位置…… オペレータ側・フロントガラス側からの吹き出し量が変わる

(12)風向グリル

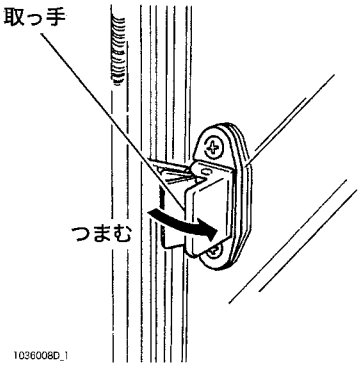
風量を変更するときに使用します。
風向グリルは、キャビン内の前方と後方にあります。



吹出口の風向グリルを矢印方向（右回転）に回転すると風量が少なくなり、反回転（左回転）にすると風量が多くなります。

(13)ドアウインドウ・サイドウインドウ

開閉することができます。

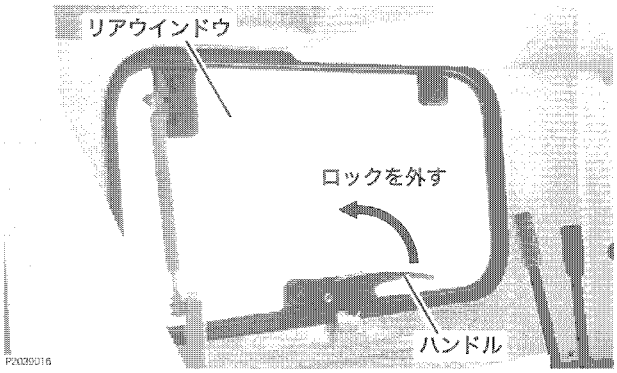


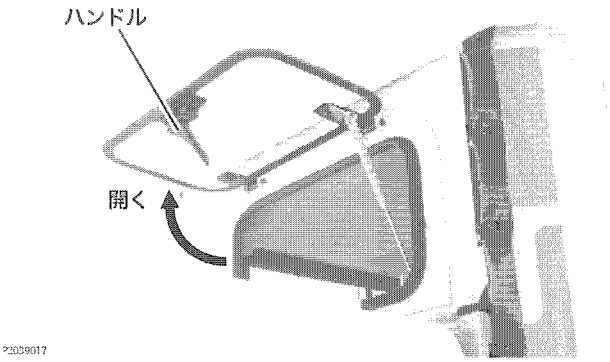
〈開けかた〉
ウインドウの取っ手をつまんで横に引いてください。

〈閉めかた〉
ウインドウをいっぱいまで閉めると、自動的にロックされます。

(14)リアウインドウ

開閉することができます。





〈開けかた〉
ハンドルを回してロックを外し、そのまま外側に押してください。窓が自動的に開きます。

〈閉めかた〉
ハンドルを持って手前に引き寄せ、ハンドルを回してロックしてください。

(15)灰皿

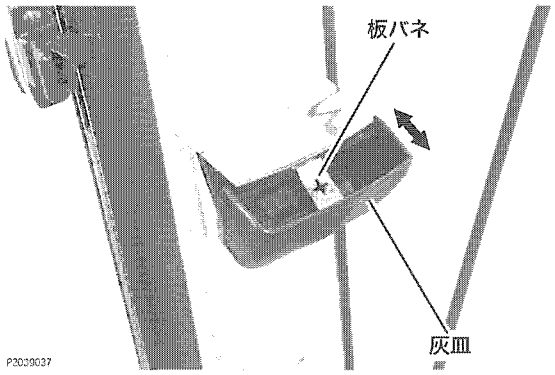
⚠注意

●灰皿を掃除するときは、灰皿内のたばこの火が確実に消えて、灰皿が十分に冷えてから行ってください。

〈使いかた〉
灰皿はキャビン内の左前方にあります。
灰皿を開いて使用してください。使用後は、灰皿を押して収納してください。

〈灰皿の取り外しかた〉
灰皿を掃除するときは、下記の要領で脱着してください。

1. 灰皿を開いてください。
2. 板バネを軽く押えながら、灰皿を引き出してください。

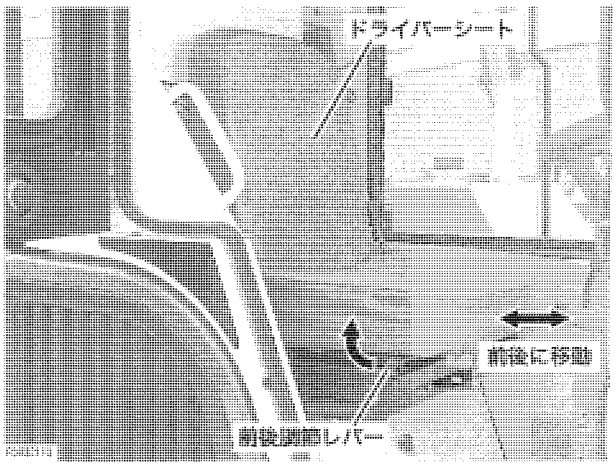


〈灰皿の取り付けかた〉
取り外しの逆手順で取り付けてください。

12.その他

(1) ドライバーシート

運転者の体格に合わせて、前後に6段階の調節ができます。

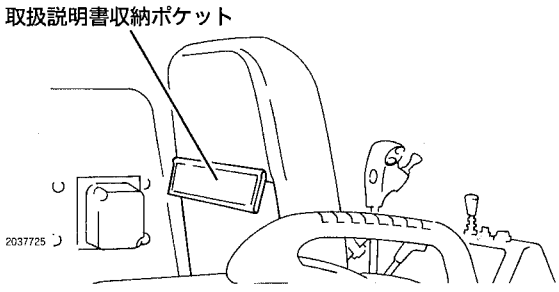


前後調節レバーを矢印方向に引き上げて、ドライバーシートを前後にスライドさせ、操作しやすい位置に調節してください。(69ページ参照)
また、キャビン仕様のドライバーシートは前方に倒すことができます。

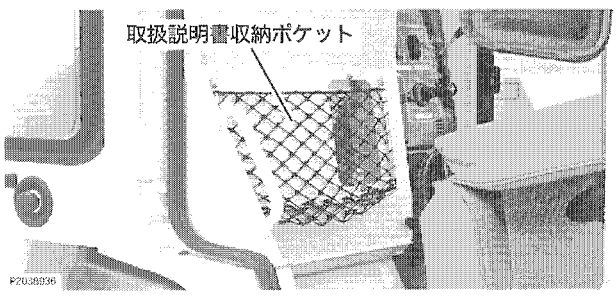
(2) 取扱説明書収納ポケット

取扱説明書を収納するポケットが、ドライバーシートの後にあります。

〈キャビンなし仕様の場合〉

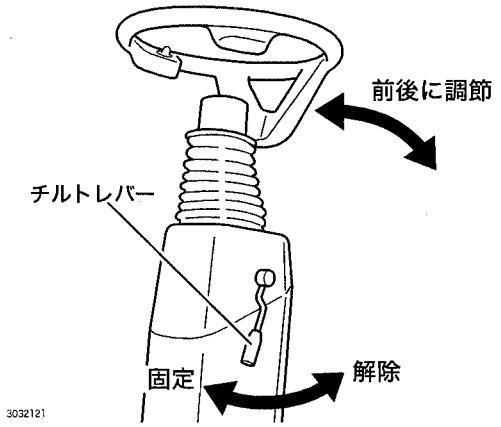


〈キャビン仕様の場合〉



(3) チルトレバー

ステアリングハンドルの前後の角度を、調節するときに使用します。

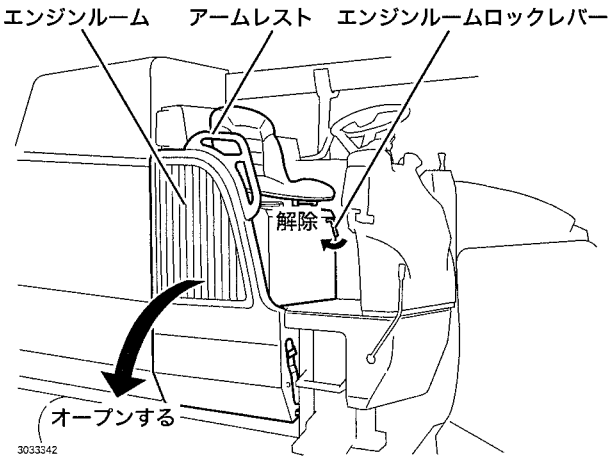


●「解除」方向……ハンドルの固定が解除される
●「固定」方向……ハンドルが固定される

好みの角度に調節し、調節後は確実に固定してください。(70ページ参照)

(4) エンジンルームロックレバー

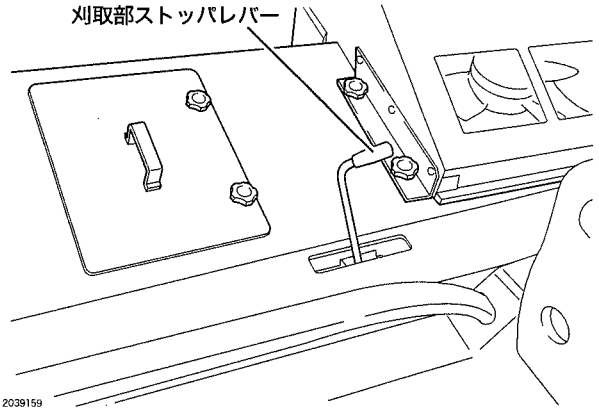
エンジンルームの開閉に使用します。

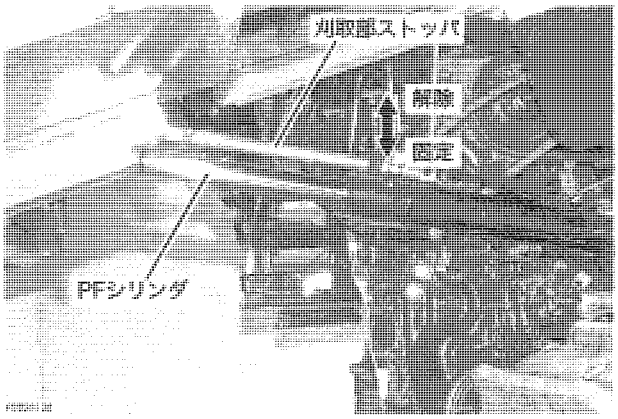


エンジンルームをオープンするときは、エンジンルームロックレバーを「解除」方向に引いてください。エンジンルームを閉めたときは、ロックが確実にできているか確認してください。
(148ページ参照)

(5) 刈取部ストッパレバー

刈取部とフィーダハウスの下降を、機械的に固定するときに使用します。

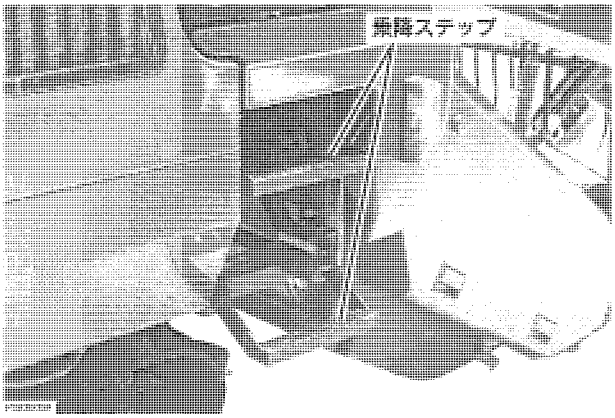


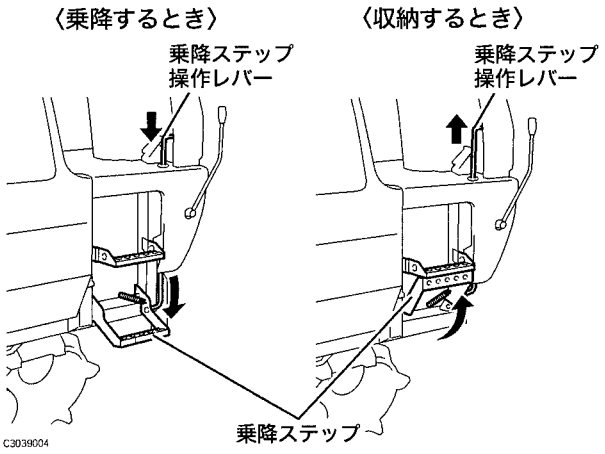


刈取部およびフィーダハウスの下で点検・整備するときには、刈取部ストッパを固定位置(PFシリンダ)に掛けてください。(158ページ参照)

(6) 乗降ステップ操作レバー

乗降ステップのセット、および収納するときに使用します。





[重要]

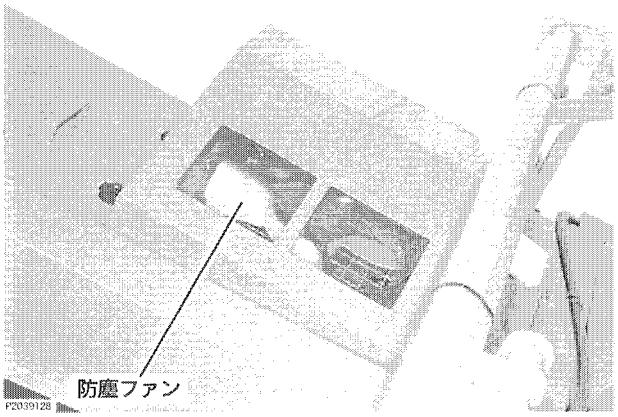
- 移動走行するときは、乗降ステップを収納してください。
- 乗降ステップレバーは、手で操作してください。足で押し込むと、破損するおそれがあります。

[参考]

- 機体から降りたときに、乗降ステップの出し入れをするときは、乗降ステップ自体を手で持って行ってください。
- 乗降ステップは、下段のみ出し入れできます。上段は固定されています。

(7) 防塵ファン(キャビンなし仕様のみ)

オペレータを塵・ホコリから守るはたらきがあります。



キースイッチが「入」位置のときに、刈取クラッチレバーを「入」位置にすると、自動的に作動します。

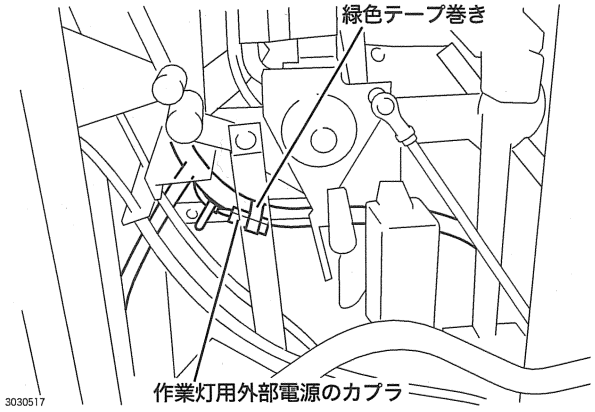
[参考]

- 刈取部を、旋回などで刈取部高さ検出センサが作動する高さまで上げると、自動的に防塵ファンは停止します。
- 刈取クラッチレバーが「切」位置では、防塵ファンは作動しません。

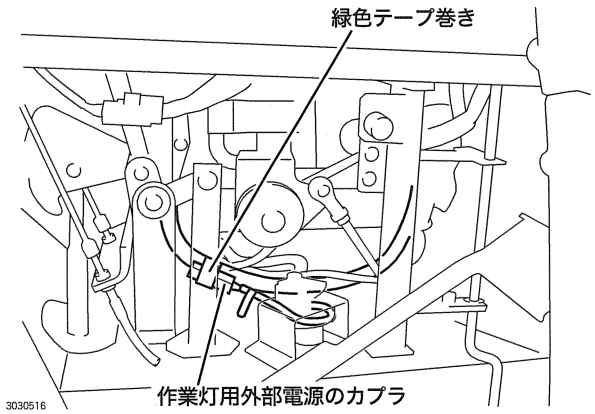
(8) 作業灯用外部電源

作業灯用の外部電源取出し用として使用します。

キャビンなし仕様の場合



キャビン仕様の場合



作業灯用外部電源の使いかたは、91ページを参照してください。

⚠警告

- 記載された制限容量（合計70W以下）を越えて使用しないでください。火災の原因になります。

⚠危険

- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、注油・給油を絶対にしないでください。守らないと、ヤケドや火災のおそれがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。守らないと、火災の原因になります。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。守らないと、こぼれた燃料に引火して、ヤケドや火災のおそれがあります。

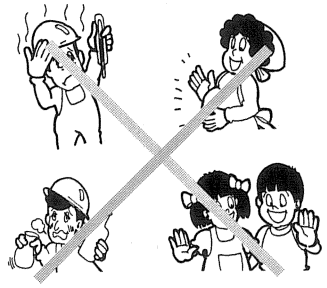
⚠警告

- 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは厚紙や板などを使って点検し、高圧油に直接、手や体が触れないようにしてください。
  万一、触れた場合は、直ちに医者の診断を受けてください。守らないと、油が皮膚に浸入した場合、えそにかかるおそれがあります。
- 点検・整備・調節を行うときは、平坦で安定した場所で行ってください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- 点検・整備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてください。守らないと、回転部に巻き込まれたり、思わぬ事故の原因になります。
- 点検・整備・調節後は、全てのカバーを取り付けてください。

1. 作業者の体調・服装について

体調について

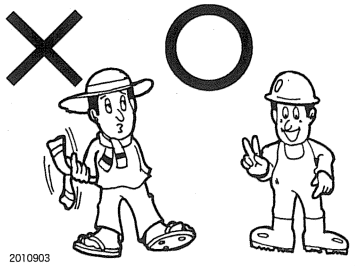
作業を行うときは、健康な状態で行ってください。過労・病気・薬物の影響、その他の理由で作業に集中できないときには、作業を行わないでください。特に、お酒を飲んで酔っている・妊娠している・18才未満の人は作業を行わないでください。



2010902

服装について

- 操作レバーや機械部品に引っかからない、だぶつきのない服装をしてください。
- 安全靴などのすべり止めの付いた靴を着用してください。
- ヘルメットを着用してください。
- 作業によっては、保護メガネ・マスク・手袋などの保護具を必ず着用してください。
- タオルをはち巻き・首巻き・腰にはさんで作業を行わないでください。



2010903

2. 本機の点検のしかた

運転・作業を行う前の点検は、次の順序で行ってください。

点検順序	点検箇所	参照ページ
前日の異常箇所	●前日の作業中に異常を感じたところはありませんか	222
本機の周りを回ってみて  1039507D	●各部の変形・損傷・汚れ・ボルトのゆるみはありませんか	
	●燃料の量と燃料もれはありませんか	176・177・195
	●クローラの損傷・ゆるみはありませんか	216
	●各部注油箇所の油切れはありませんか	167
	●各部ベルト・チェンのゆるみや折損はありませんか	203
エンジンルームを開けてみて	●エンジンオイルの量と汚れ、油もれはありませんか	178
	●燃料の量と燃料もれ、水もれ、オイルもれはありませんか	176・177・195
	●冷却水の量と水もれ、ホースの損傷はありませんか	182
	●エアクリーナー・プレクリーナーの汚れはありませんか	187・188
	●冷却ファンベルトの張りと損傷はありませんか	210
	●エンジン防塵装置のほこりやゴミはありませんか	189
	●配線コードの被覆のはがれや、接続部のゆるみはありませんか	177・196
ドライバーシートに座ってみて	●ランプ・メータ・スイッチの作動状態は正常ですか	48
	●ドライバーシートの状態は、体格に合っていますか	69
	●ステアリングハンドルが、チルト機構により固定されていますか、また作業に適正な位置になっていますか	70
エンジンを始動してみて	●エンジン始動後に異音はありませんか	
	●排気ガスの色は正常ですか	218
	●各レバー・スイッチの作動状態は正常ですか	
	●セフティペダルの作動具合は正常ですか	45
	●ステアリングハンドルで、機体の旋回が行えますか	77
	●刈高さ・リール前後スイッチ、または刈高さ調節レバーで、刈取部の昇降が行えますか	40・42
	●リール高さ調節レバーで、リールの昇降が行えますか	43
	●脱こくクラッチレバーで、脱こく部の作動・停止が行えますか	40
	●刈取クラッチレバーで、刈取部の作動・停止が行えますか	40
オプションについて	●それぞれの取扱説明書に従って点検してください	

1. コンバインへの乗降のしかた

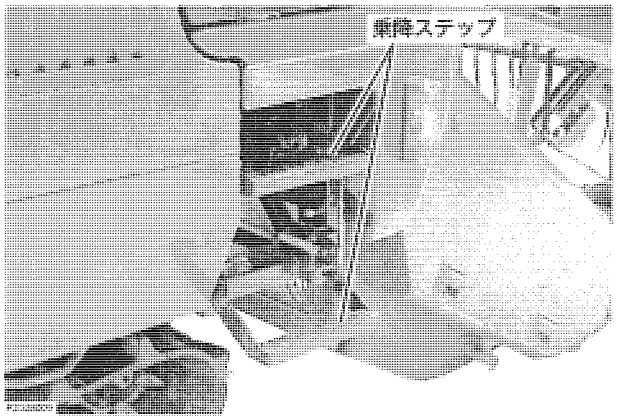
乗降のしかた

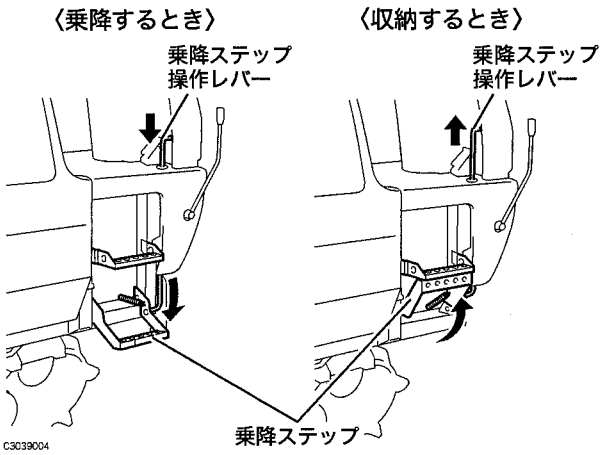
運転席右側より乗降してください。

⚠注意

- コンバインへの飛び乗り、飛び降りは、あぶないので行わないでください。
- エンジンルームが、エンジンルームロックレバーで確実に固定されているか確認してください。

乗り降りのときには、必ず乗降ステップを下図のようにセットしてください。(65ページ参照)





[重要]

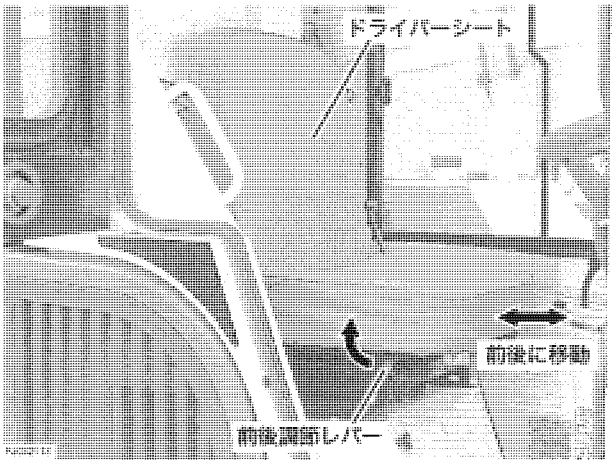
- 移動走行するときやコンクリート畦畔などの横で作業するときは、ステップを収納してください。ステップの破損・変形を防ぐことができます。
- 乗降ステップ操作レバーを操作すると、ステップが飛び出しますので注意してください。

2. シート位置の調節のしかた

運転者の体格や作業状態に合わせて、ドライバーシートの前後位置を調節してください。

〈調節のしかた〉

1. 前後調節レバーを矢印方向に引き上げてください。
2. ドライバーシートを、作業しやすい位置に前後移動してください。(6段階)
3. 前後調節レバーから手を離してください。ドライバーシートが固定されます。

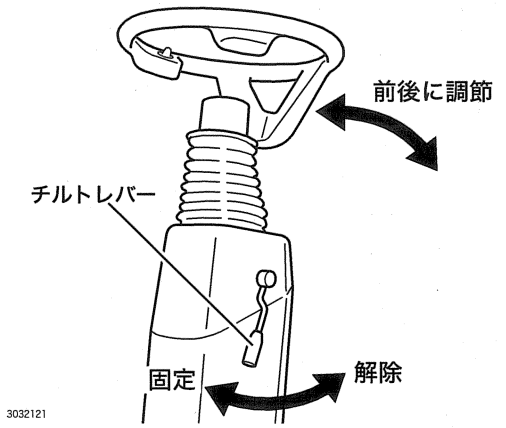


3. ステアリングハンドルの前後調節のしかた

ステアリングハンドルの前後角度を、運転者の体格に合わせて調節してください。

〈調節のしかた〉

1. チルトレバーを「解除」位置にしてください。ハンドルの固定がゆるみます。
2. ステアリングハンドルの前後の角度を、作業しやすい位置に調節してください。
3. チルトレバーを「固定」位置にしてください。ハンドルが固定されます。



[重要]

●ステアリングハンドルを調節したときは、チルトレバーで確実にハンドルを固定してください。

4. エンジンの始動のしかた

⚠警告

●エンジンの始動および暖機運転は、閉めきった屋内で行わないでください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分換気をしてください。排気ガスによる中毒で、死亡事故につながるおそれがあります。

●エンジン始動時は、必ず運転席に座って、スイッチとレバーの位置、および周囲の安全を確認してください。
急に機械が動きだして、傷害事故を起こすおそれがあります。

⚠注意

●エンジンを始動する前に、運転前・作業前の点検を行ってください。点検せずにエンジンを始動すると、整備不良のために、傷害事故や機械の故障を引き起こす場合があります。

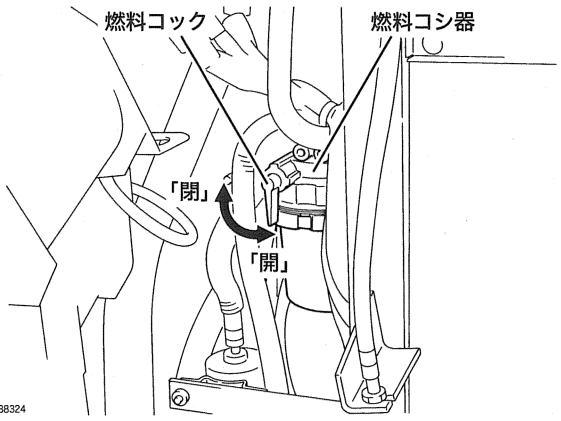
[重要]

●走行中または作業中にエンジンが停止したときは、副変速レバーを「N」（中立）位置にしないと、エンジンがかからない場合があります。

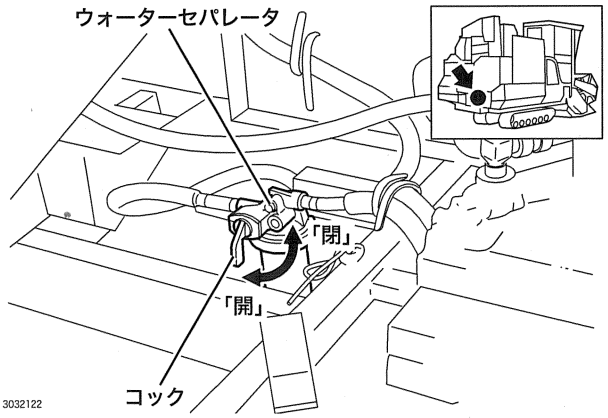
●作業中にエンジンが停止したときは、キースイッチをいったん「切」位置にしてから、再度始動してください。

(1) エンジン始動前の確認・準備

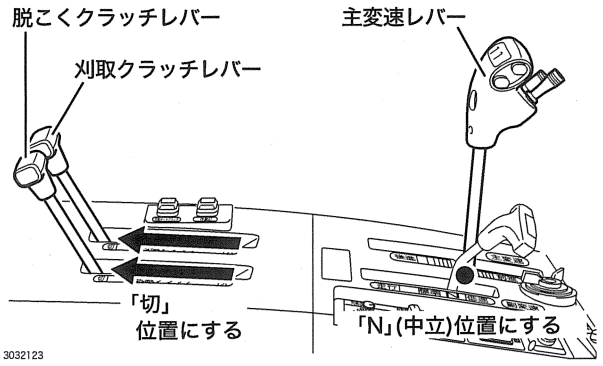
1. グレンタンク仕様の場合は、グレンタンクをオープンして（150 ページ参照）ください。ワンマンホッパ仕様の場合は、ワンマンホッパをオープンして（152ページ参照）、脱こく右カバーとエンジン後カバーを取り外して（147ページ参照）ください。
2. 燃料コシ器の燃料コックを「開」位置にしてください。



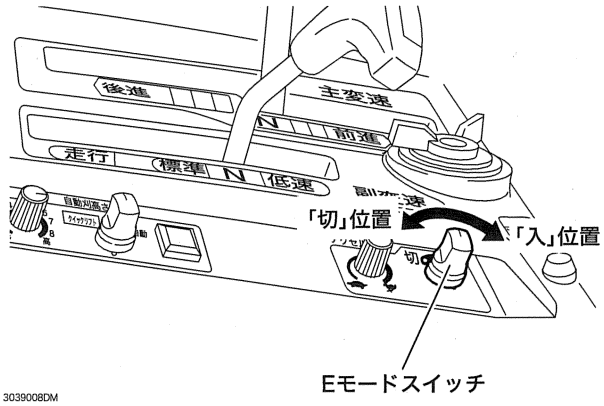
3. ウォーターセパレータのコックを「開」位置にしてください。



4. 取り外した部品を取り付け、グレンタンク仕様の場合はグレンタンクを、ワンマンホッパ仕様の場合はワンマンホッパを、オープンの逆の手順で閉じてください。
5. ドライバーシートに座ってください。
6. 主変速レバーを「N」(中立)位置にしてください。
7. 脱こくクラッチレバーと、刈取クラッチレバーを「切」位置にしてください。



8. Eモードスイッチを「切」位置にしてください。

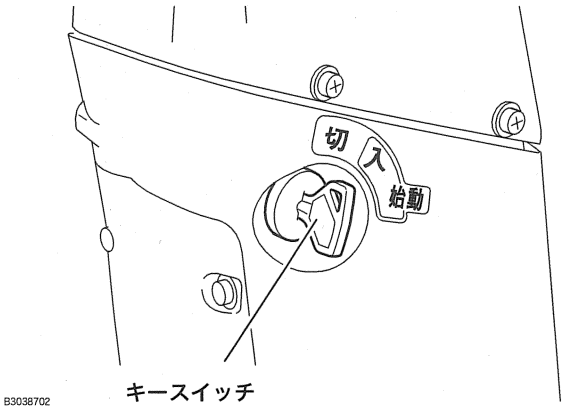


[参考]

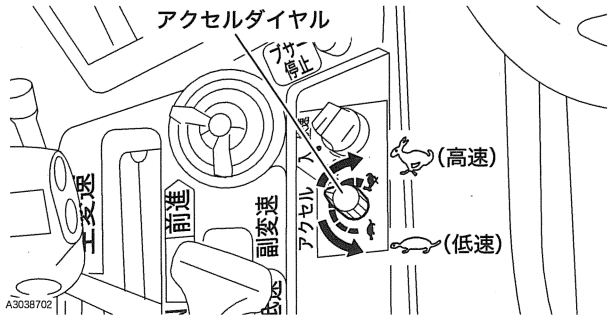
- E モードスイッチが「入」位置でもエンジンの始動はできますが、アクセルダイヤルでエンジン回転の調節ができなくなりますので、「切」位置にしておいてください。

(2) エンジン始動操作のしかた

1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。
2. キースイッチにキーを差し込んで、「入」位置にしてください。

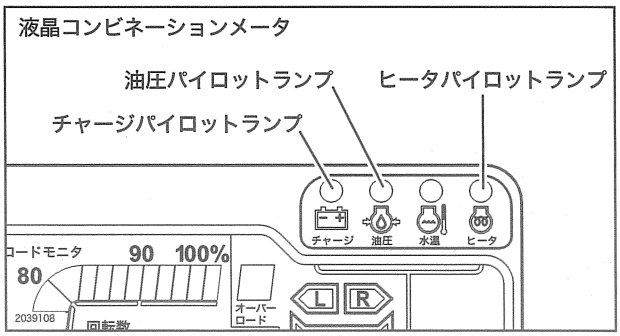


3. Eモードスイッチを「切」位置にして、アクセルダイヤルを「高」位置にしてください。
エンジン回転が上がります。

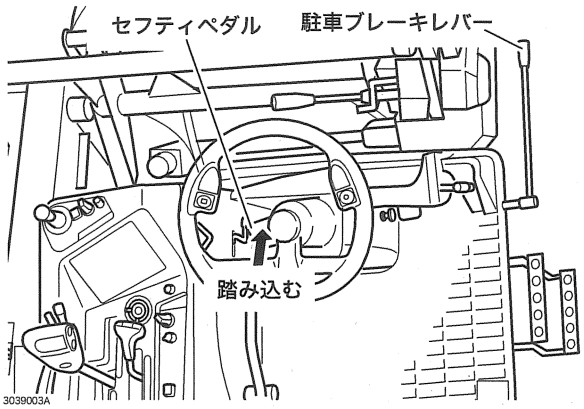


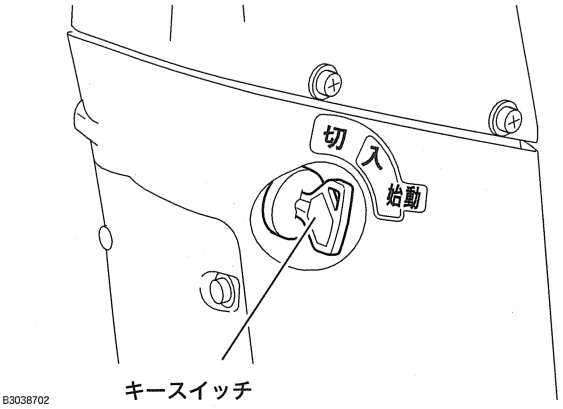
[参考]

- エアヒータに通電しているときは、液晶コンビネーションメータのヒータパイロットランプが点灯します。
- このとき、液晶コンビネーションメータの各ランプは、数秒間点灯してから消灯しますが、チャージパイロットランプと油圧パイロットランプは、エンジンが始動しないと消えません。



4. セフティペダルをいっぱいに踏み込んで、キースイッチを「始動」位置に回してください。





[重要]

- セフティペダルをいっぱいまで踏み込まないと、エンジンの始動ができません。
- セルモータは、大電流を消費しますので、10秒以上の連続使用は絶対にしないでください。
10秒以内で始動しなかった場合は、いったんキースイッチを「切」位置にして、1分以上経ってから、再び始動してください。
- 脱こくクラッチレバー、および刈取クラッチレバーが「入」位置では、エンジンの始動ができません。必ず脱こくクラッチレバー、および刈取クラッチレバーを「切」位置にしてから、エンジンを始動してください。

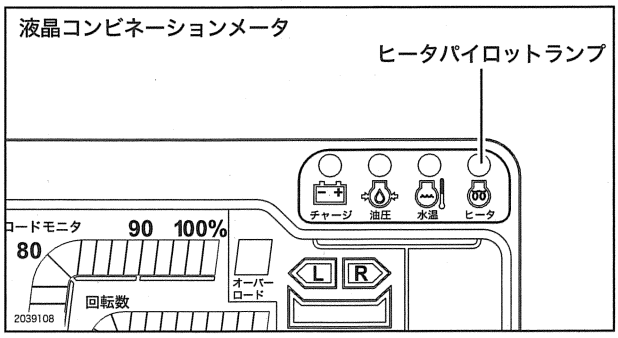
5. エンジンが始動したら、速やかにキースイッチから手を離してください。キースイッチは、自動的に「入」位置に戻ります。

[重要]

- **エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「始動」位置にしないでください。セルモータが破損することがあります。**

5. 寒冷時の始動のしかた

始動方法は、前述の「4. エンジンの始動のしかた」と同じですが、キースイッチを「入」位置にすると、ヒータパイロットランプが点灯し、エアヒータ通電中を表示します。ヒータパイロットランプが消灯してから、キースイッチを「始動」位置にしてください。



[参考]

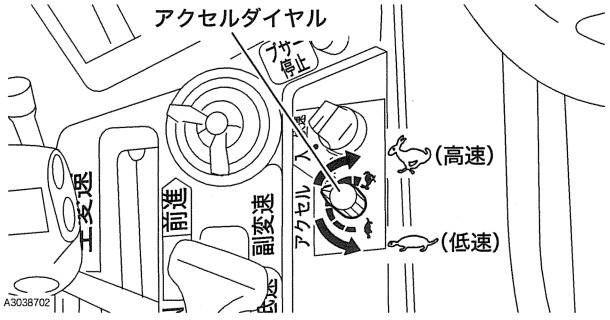
- エンジンを始動した後は、暖機運転（15分以上）を行ってください。

6. 暖機運転のしかた

⚠警告

●倉庫や車庫など、閉めきった屋内ではエンジンを始動しないでください。
エンジンを始動するときは、風通しのよい屋外で行ってください。やむを得ず屋内で始動するときは、十分に換気をしてください。
守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

1. エンジン始動後、駐車ブレーキをかけてください。(79ページ参照)
2. Eモードスイッチを「切」位置にして、アクセルダイヤルを「低」位置にしてください。エンジン回転が下がります。



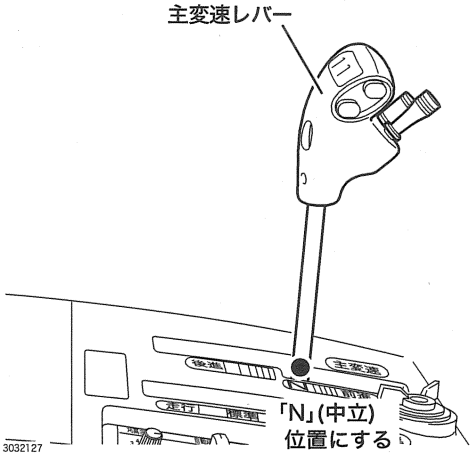
3. 約5分間は作業をせずに、エンジンをかけたままにしておいてください。

[参考]

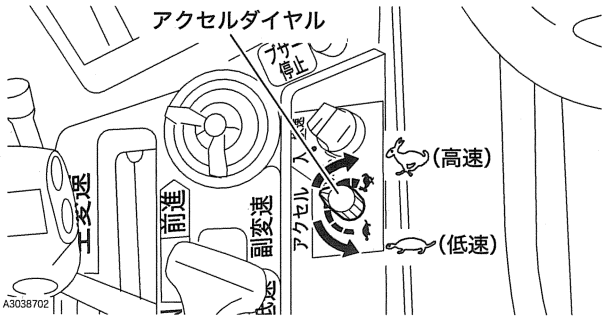
●寒冷時は、暖機運転を15分以上行ってください。
●寒冷時には、エンジンアイドリング回転数が少し上がります。

7. エンジンの停止のしかた

1. 主変速レバーを「N」(中立)位置にしてください。



2. Eモード切替スイッチを「切」位置にして、アクセルダイヤルを「低」位置にしてください。エンジン回転が下がります。



3. キースイッチを「切」位置にしてください。エンジンが停止します。
4. キーを抜いてください。

[重要]

●主変速レバーが「N」(中立)位置でないときは、キースイッチを「切」位置にしないでください。エンジンの再始動が行いにくくなることがあります。

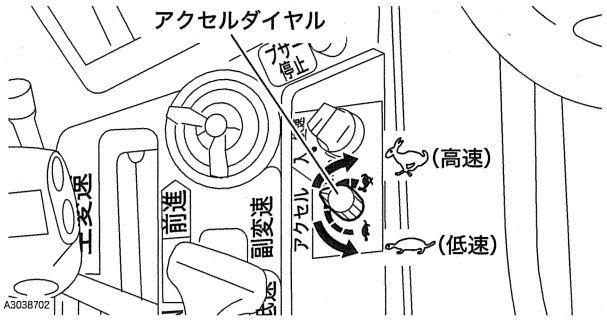
8. 発進のしかた

⚠警告

- できるだけ低速で走行し、急発進・急旋回・急停止は絶対にさけてください。
- 坂道や凹凸、カーブの多い道路では、高速運転しないでください。

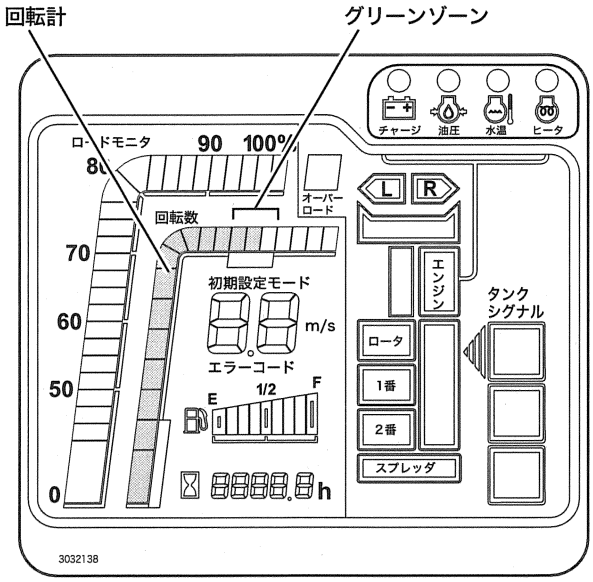
(1) 発進前の準備

1. セフティペダルをいっぱいまで踏み込んでください。駐車ブレーキが解除されます。
   (80ページ参照)
2. エンジンを始動してください。
   (70ページ参照)
3. Eモードスイッチを「切」位置にして、アクセルダイヤルを「高」位置にしてください。
   エンジン回転が上がります。

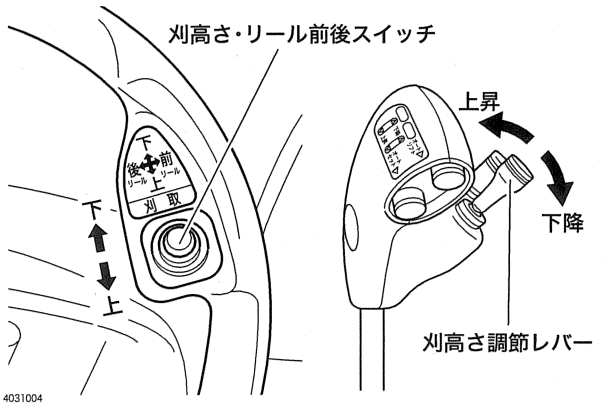


[参考]

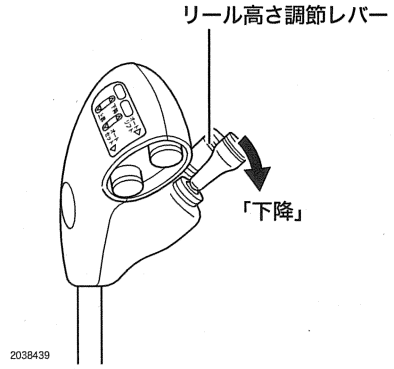
- エンジン回転は、必ず液晶コンビネーションメータの回転計の目盛が示す「グリーンゾーン」位置にしてください。



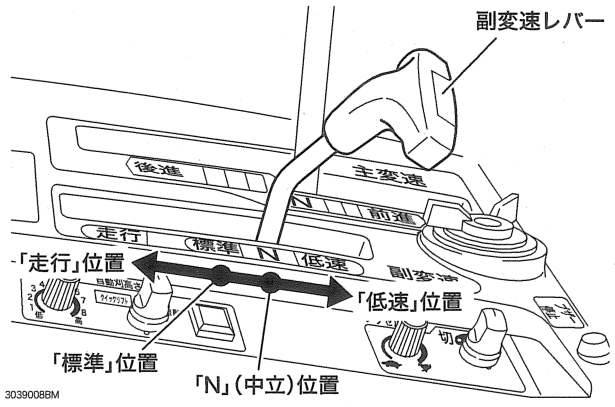
4. 刈高さ・リール前後スイッチを「上」側、または刈高さ調節レバーを「上昇」側にしてください。刈取部が上昇します。



5. リール高さ調節レバーを「下降」側にしてください。リールが下降します。

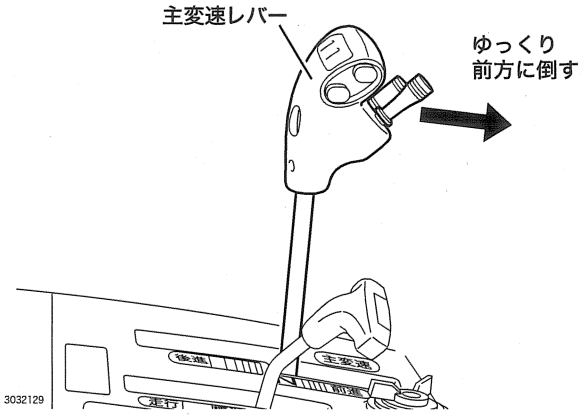


6. 副変速レバーを希望の位置にしてください。
(44ページ参照)



(2) 発進操作のしかた

1. 駐車ブレーキを解除してください。
(80ページ参照)
2. ステアリングハンドルを右手で持ってください。
3. 左手で主変速レバーをゆっくり前方へ倒してください。機体が発進します。
   1) 周囲の安全を十分に確認する。
   2) 主変速レバーをゆっくり前方に倒して発進する。
   3) 発進後、必要に応じて主変速レバーをさらに前方へ倒してスピードを上げる。

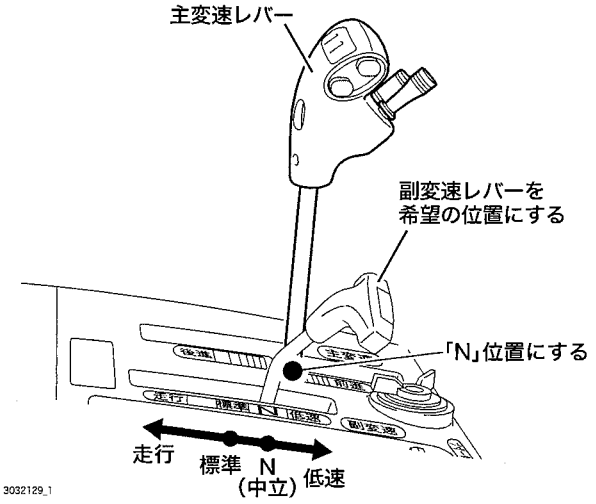


[重要]

- 本機はHSTミッションのため、走行時はエンジン回転を、液晶コンビネーションメータの回転計の目盛が示す「グリーンゾーン」位置にしてください。
- 主変速レバーは、セフティペダルを踏み込まずに操作してください。セフティペダルを踏み込むと、主変速レバーが「N」(中立) 位置で固定されます。
- 主変速レバーを「前進」から「後進」、または「後進」から「前進」に操作する場合は、必ず機体が完全に停止してから行ってください。動いているときに行うと、機械が破損することがあります。

9. 変速のしかた

1. 主変速レバーを「N」(中立) 位置にしてください。機体が停止したことを確認してください。
2. 副変速レバーを希望の位置にしてください。



[重要]

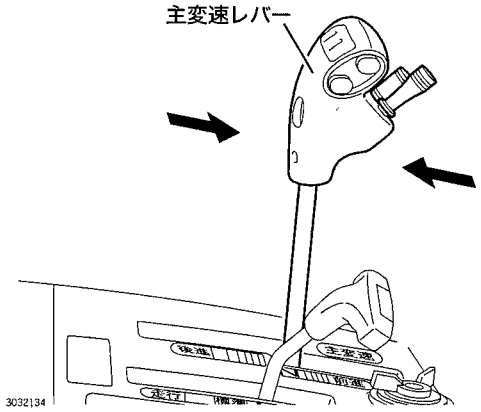
- 副変速レバーを操作する場合は、必ず機体が完全に停止してから行ってください。動いているときに行うと、機械が破損することがあります。
- セフティペダルを踏み込まない方が、スムーズに変速できます。
- 坂道では変速しないでください。

10.旋回のしかた

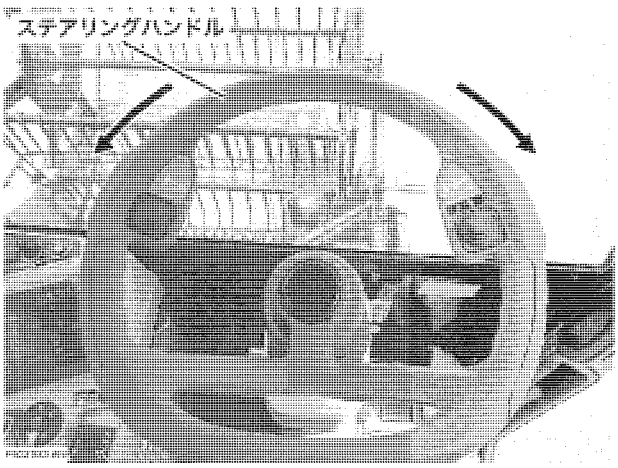
⚠警告

- 副変速レバーが「走行」位置での高速移動時は、急旋回しないでください。必ず速度を落として行ってください。守らないと、接触・転倒事故のおそれがあります。

1. 主変速レバーで走行スピードを下げてください。



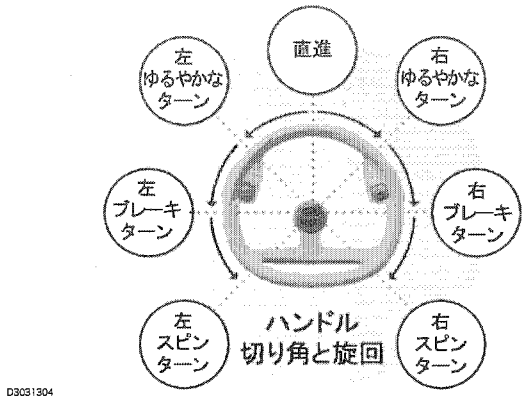
2. 旋回したい方向へステアリングハンドルを回すと、その方向へ機体が旋回します。



ステアリングハンドルの操作量と旋回角度について

ハンドルの操作量によって、旋回角度の調節ができます。ハンドルを回した側のクローラが徐々に減速され、約1/4回転（約90°）で、クローラの速度がゼロになり、ブレーキターンの状態になります。
さらにハンドルを回すと、徐々にクローラが逆転し始め、約135°でスピンターンの状態になります。

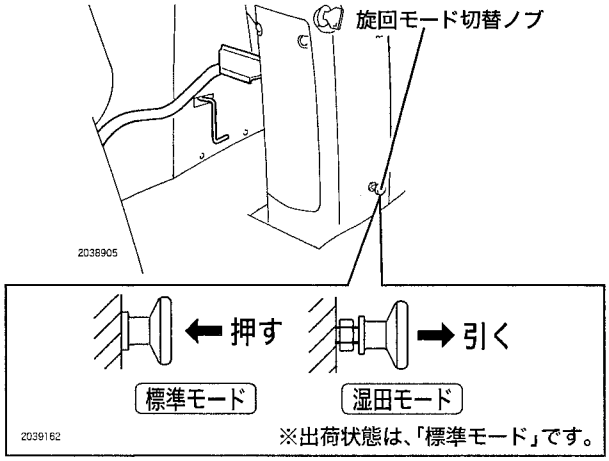
〈ハンドル切角と旋回状態〉



〈旋回モードの切り替えについて〉

旋回モード切替ノブで、旋回モードを切り替えることができます。

- 「標準モード」位置……乾田作業・移動走行時
- 「湿田モード」位置……湿田作業時

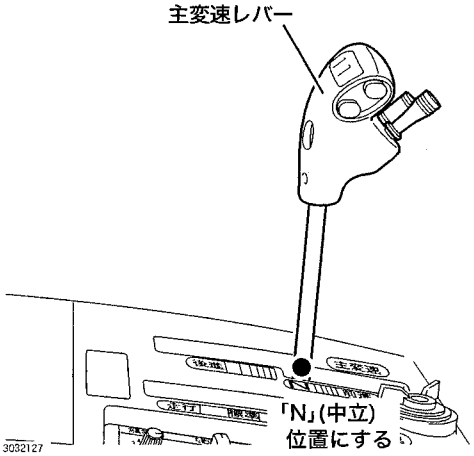


[参考]

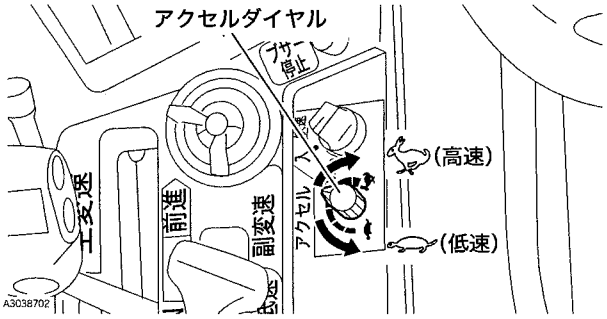
- 「標準モード」でも十分に作業は可能ですが、機体の沈下が著しい場合は、「湿田モード」に切り替えると、さらに湿田性能が向上します。

11.停車のしかた

1. 主変速レバーを「N」（中立）位置にしてください。機体が停止したことを確認してください。



2. 駐車ブレーキをかけてください。
（79ページ参照）
3. アクセルダイヤルを「低」位置にしてください。エンジン回転が下がります。



4. キースイッチを「切」位置にしてください。エンジンが停止します。

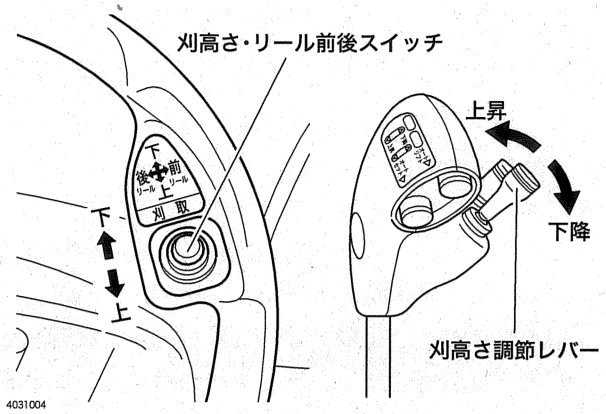
12.駐車のしかた

⚠注意

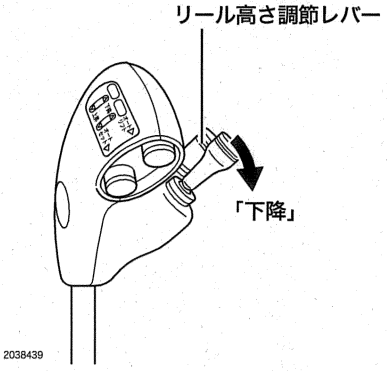
●やむを得ず坂道で駐車するときは、クローラに歯止めをしてください。

〈駐車ブレーキのかけかた〉

1. 平坦で安全な場所に機体を移動してください。
2. 刈高さ・リール前後スイッチを「下」側、または刈高さ調節レバーを「下降」側にしてください。刈取部を地面に接地させます。



3. リール高さ調節レバーを「下降」側にしてください。リールが下降します。

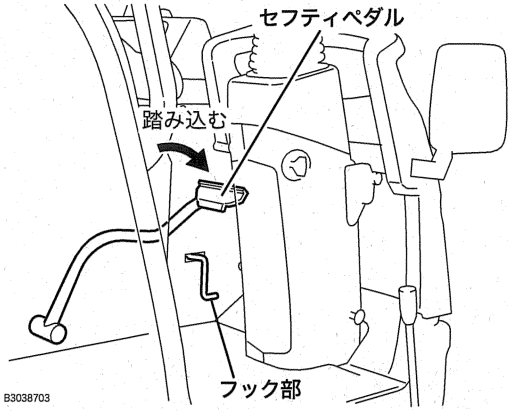


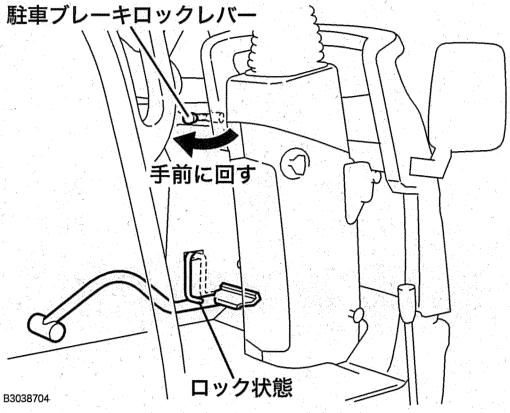
4. エンジンを停止してください。(74ページ参照)
5. セフティペダルをいっぱいに踏み込んでください。

[参考]

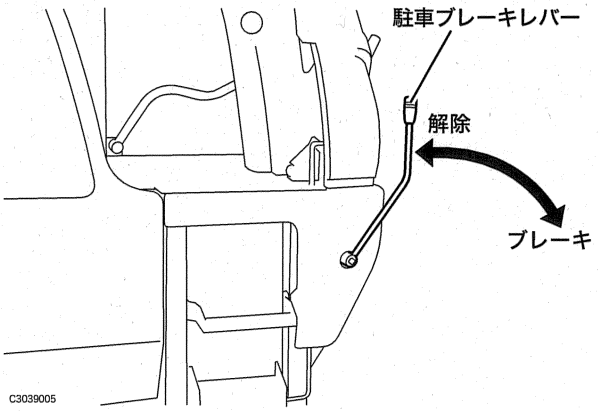
●セフティペダルをいっぱいまで踏み込むと、主変速レバーは「N」(中立) 位置に戻ります。

6. 駐車ブレーキロックレバーを手前に引いて、セフティペダルにフック部をかけると、駐車ブレーキがかかります。





7. キャビンなし仕様の場合は、機体から降りて行うこともできます。駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にしてください。駐車ブレーキがかかります。



8. 運転席から離れる場合は、安全のためにキーを抜いてください。

[参考]

●駐車ブレーキレバーをかけると、主変速レバーは「N」(中立) 位置に戻ります。

駐車ブレーキの解除のしかた

1. 駐車ブレーキを解除するときは、セフティペダルをいっぱいに踏み込んでください。駐車ブレーキロックレバーが前方に戻り、フック部が外れて解除できます。
2. 駐車ブレーキレバーで駐車ブレーキをかけている場合は、駐車ブレーキレバーを「解除」位置にしてください。（キャビンなし仕様のみ）

[参考]

- セフティペダルがフック部で固定されている場合は、駐車ブレーキレバーを「解除」位置にしても、駐車ブレーキは解除できません。前記1.の要領でセフティペダルを解除してください。

13.移動走行のしかた

⚠危険

- グレンタンクおよびワンマンホッパ内にこく粒が入っていると、本機の重心が高くなり、転倒のおそれがあり大変危険です。必ずタンクは空にしてください。
- 排出コンベアは必ず、コンベアレストに収納してください。排出コンベア取付部が破損したり、当たってケガをするおそれがあります。

⚠警告

- 発進するときは、周囲の安全を確かめて発進してください。
- 運転者の他に、人を乗せないようにしてください。
- 前後・左右とも10度を越える傾斜地は走行しないでください。転倒・ケガをするおそれがあります。
- キャビン仕様の場合は、機体の左右の傾きが14度以上になると、警報ブザー（連続音）でお知らせします。警報ブザーが鳴ったときは、それ以上機体を傾けず、10度以下に戻してください。転倒事故につながります。
- 安全のために、ヘルメットを着用してください。
- 移動走行時は、路肩に十分注意して、スピードを落として走行してください。

⚠注意

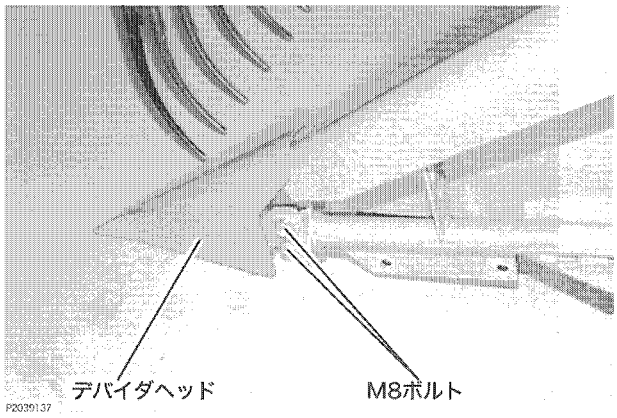
- デバイダヘッドを外して、補助こく粒受台（ワンマンホッパ仕様）を収納してください。破損したり、当たってケガをするおそれがあります。
- 傾斜地の走行、および積み・降ろしをするときは、水平自動切替スイッチを必ず「OFF」（水平自動ランプ消灯）にしてください。機体が急に傾いて転倒し、ケガをするおそれがあります。
- 車高調節レバーで、車高を最も低い位置にセットしてください。車高が高いと、機体の重心が高くなり、転倒し、ケガをするおそれがあります。
- 移動時は、刈取部の高さを地面より20cm程度上げてください。
- 移動走行するときは、旋回モード切替ノブを「標準モード」に切り替えてください。守らないと、旋回時に自動減速しないため、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

[重要]

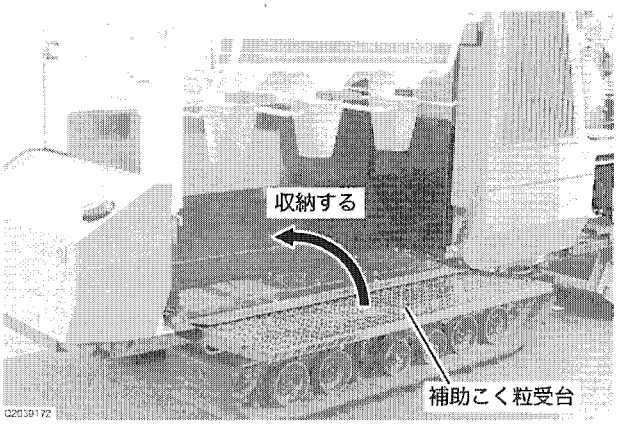
- 移動走行するときは、乗降ステップを収納してください。ステップの破損・変形を防ぐことができます。

(1) 本機の走行姿勢について

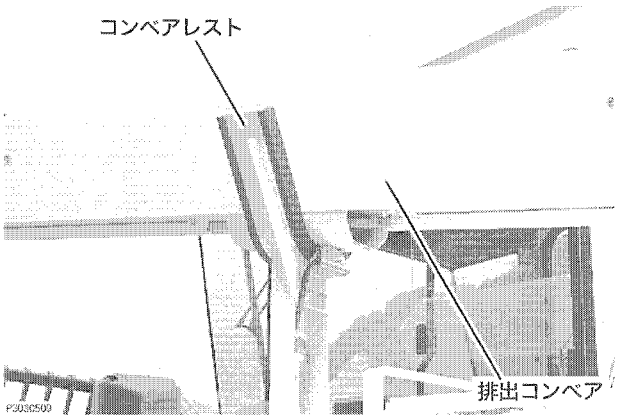
1. 左右のデバイダヘッドを、M8ボルト（2本）を外して取り外してください。



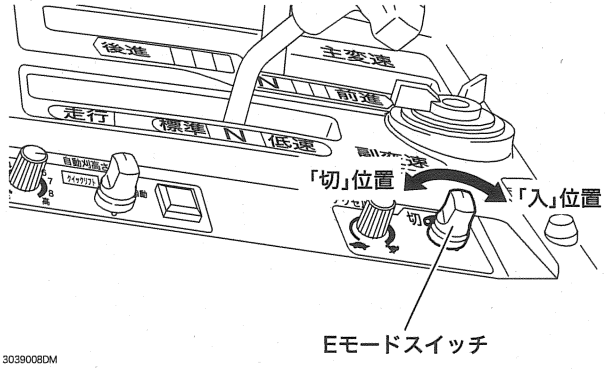
2. ワンマンホッパ仕様の場合は、補助こく粒受台を収納してください。（153ページ参照）



3. グレンタンク、およびワンマンホッパ内のこく粒を全て排出してください。（138ページ参照）
4. グレンタンク、およびワンマンホッパは、収納してください。（150・152ページ参照）
5. 排出コンベアを、コンベアレストに収納してください。



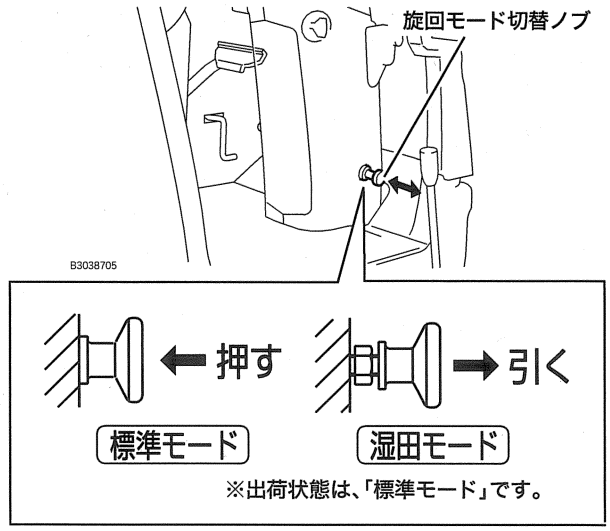
6. Eモードスイッチを「切」位置にしてください。



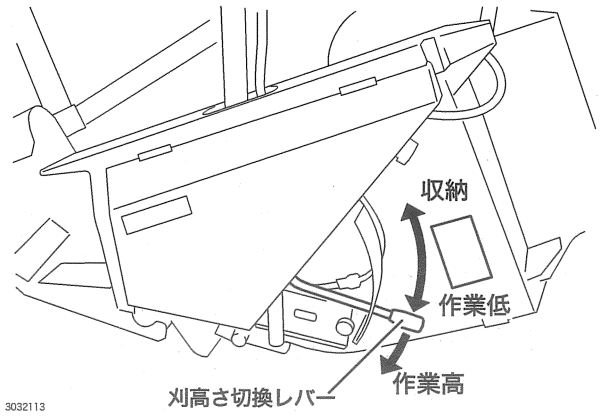
[参考]

●E モードスイッチが「入」位置のときに、主変速レバーを操作すると、エンジン回転が急に上がり、アクセルダイヤルでエンジン回転の調節はできません。

7. 旋回モード切替ノブを「標準モード」にしてください。

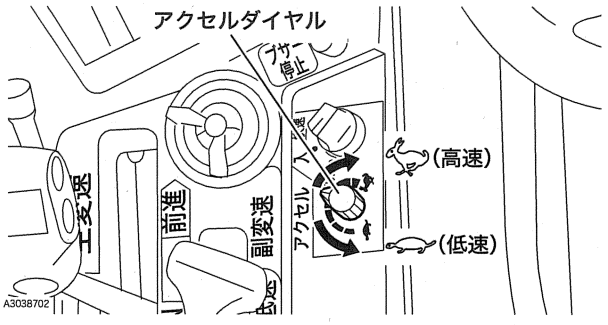


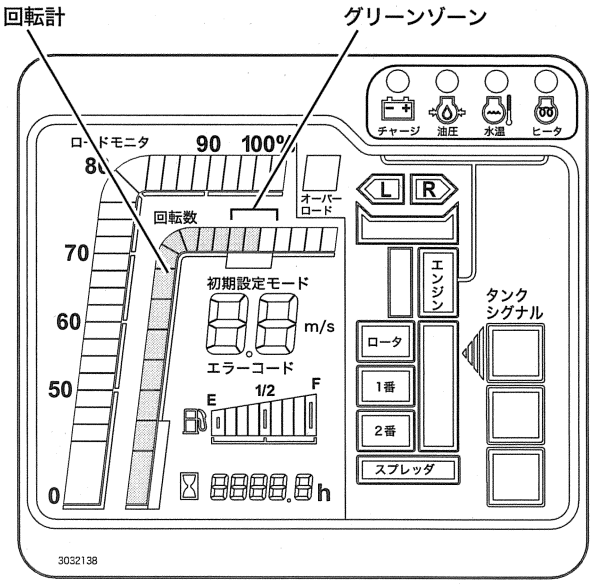
8. 刈高さ切換レバーを「収納」位置にしてください。センサソリが収納されます。



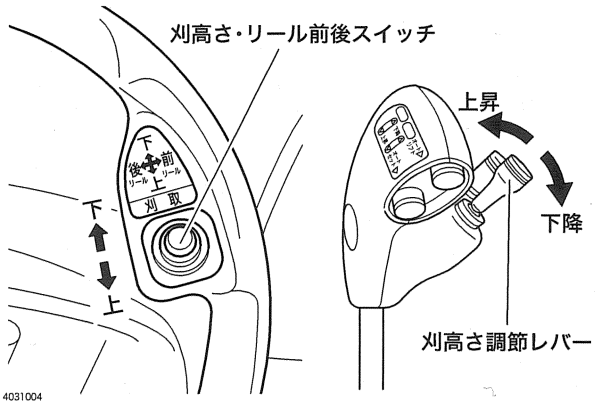
(2) 移動走行操作のしかた

1. 乗降ステップを収納してください。
(69ページ参照)
2. エンジンを始動してください。
(70ページ参照)
3. 駐車ブレーキを解除してください。
(80ページ参照)
4. アクセルダイヤルを「高」位置にしてください。エンジン回転が上がります。(エンジン回転は、液晶コンビネーションメータの回転計の目盛が示す「グリーンゾーン」位置にしてください。)

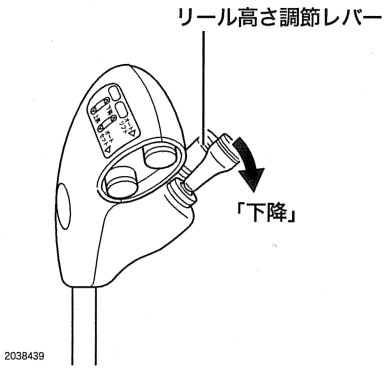




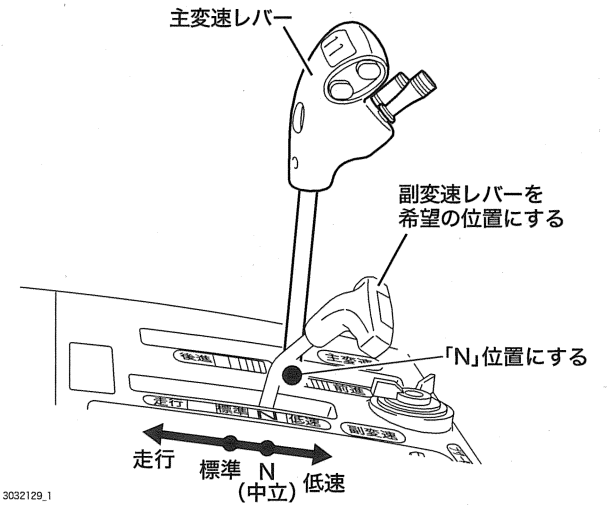
5. 刈高さ・リール前後スイッチを「上」側、または刈高さ調節レバーを「上昇」側にして、刈取部を地面から20cm程度上げてください。



6. リール高さ調節レバーを「下降」側にしてください。リールが下降します。



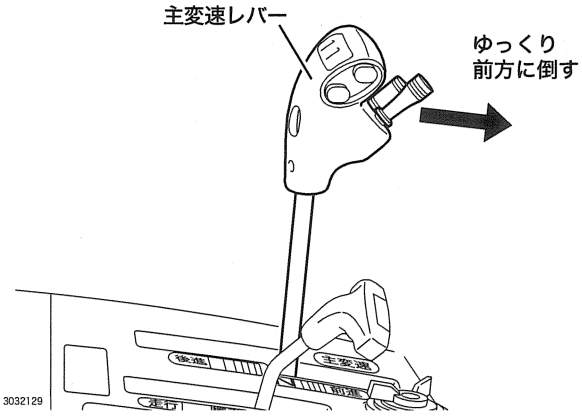
7. 主変速レバーを「N」(中立) 位置にして、副変速レバーを希望の位置にしてください。



[参考]

- このとき、セフティペダルを踏み込む必要はありません。

8. 主変速レバーを少しずつ前進方向に倒して、ゆっくりと発進し、徐々にスピードを上げてください。



[重要]

- 走行スピードは、主変速レバーで調節してください。
- エンジン回転は、液晶コンビネーションメータの回転計の目盛が示す「グリーンゾーン」位置を保ってください。
- 進路変更するときは、ウインカスイッチで方向指示器を点滅させ、旋回方向を他の車に知らせてください。
- バックミラーで後続車に注意して、追い越しの妨害にならないようにしてください。
- 移動走行中は、作業灯を点灯させないでください。点灯させると、他の交通の妨害になります。

14.トラックでの運搬のしかた

⚠警告

- 積み・降ろしをする場所は、平坦で安定した、交通などの危険がない場所を選んでください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- 積み込むトラックは、車止めなどで動かないように処置してください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- アユミ板は、基準に合ったものを使用してください。守らないと、転落事故の原因になります。
- 積み・降ろしの機体方向は、「(3) 本機の積み込みかた」(85ページ参照) の表に従い行ってください。守らないと、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因になります。
- アユミ板の上では、進路変更を絶対に行わないでください。クローラがアユミ板から外れて、転倒するおそれがあります。
- 機械が不意に動いたときにあぶないので、本機の直前・直後には、絶対に立たないでください。
- 本機がアユミ板とトラックの継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わるので、十分に注意してください。特に、スピードの速いときは、転倒のおそれがありますので、必ず遅いスピードで行ってください。
- トラックの荷台に積み込んだ機体は、エンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてください。また、機体は丈夫なロープで確実に固定してください。守らないと、転落事故の原因になります。

⚠注意

- 積み・降ろしをするときは、水平自動切替スイッチを必ず「OFF」(水平自動ランプ消灯) にしてください。機体が急に傾いて転倒し、ケガをするおそれがあります。
- 車高が最下位置になっていることを確認してください。

(1) トラックの準備

1. トラックは、平坦で安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車してください。
2. トラックの変速は「P」または「1速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけてください。
3. タイヤに車止めをしてください。
4. トラックの荷台に、アユミ板のフックを段差ができないように、確実に掛けてください。

(2) アユミ板について

アユミ板は、下記の基準に合ったものを使用してください。

〈アユミ板の基準〉

- 長さ…トラックの荷台高さの4倍以上
- 幅……45cm以上
- 強度…1枚が3500kgに十分耐えられるもの
- 表面…すべらないよう処理してあるもの
- トラックの荷台に引っ掛けるためのフックが付いているもの

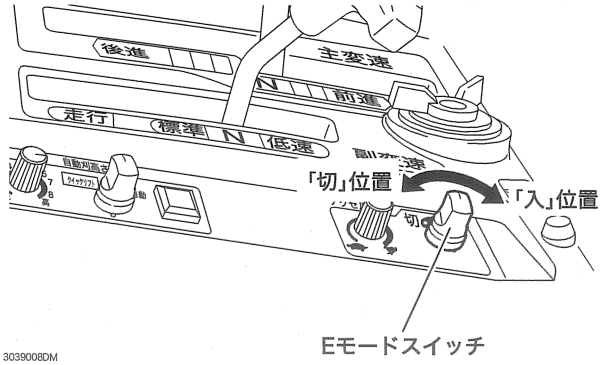
(3) 本機の積み込みかた

1. 本機は、移動走行と同じ状態にしてください。(80ページ参照)

[重要]

- 乗降ステップは、必ず収納してください。セットしたまま行うと、ステップの破損・変形の原因になります。

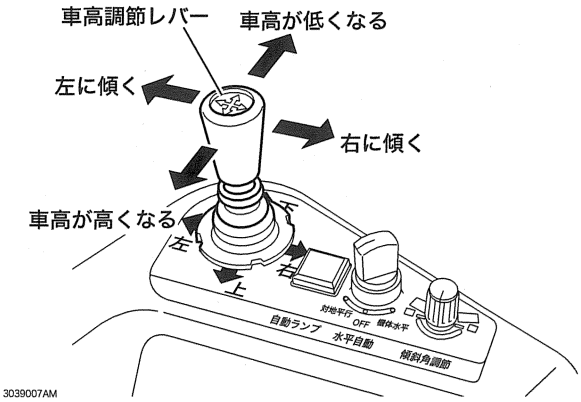
2. Eモードスイッチを「切」位置にしてください。



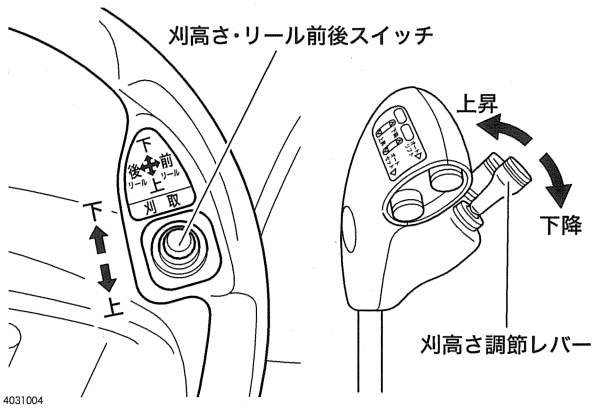
[参考]

●Eモードスイッチが「入」位置のときに、主変速レバーを操作すると、エンジン回転が急に上がり、アクセルダイヤルでエンジン回転の調節はできません。

3. 車高調節レバーを前方に倒して、車高最下位置にしてください。



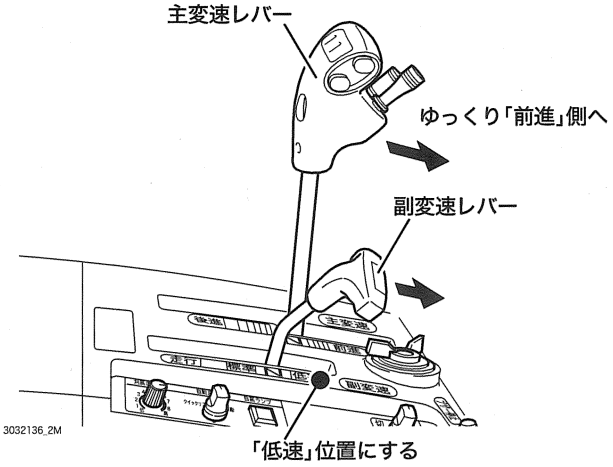
4. アユミ板の上で進路変更をしなくてよいように、本機の方向を、アユミ板に対してまっすぐに定めてください。
5. 刈高さ・リール前後スイッチを「上」側、または刈高さ調節レバーを「上昇」側にして、刈取部がアユミ板に接触しないようにできるだけ上げてください。



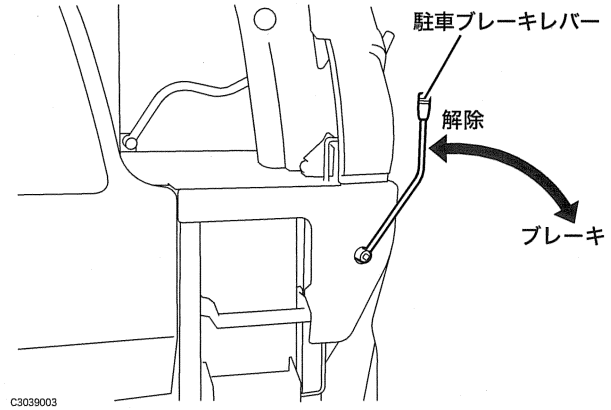
6. 本機の積み込み方向は、下記の表を参照してください。

進行方向	積み込み	前　進
	降ろし	後　進

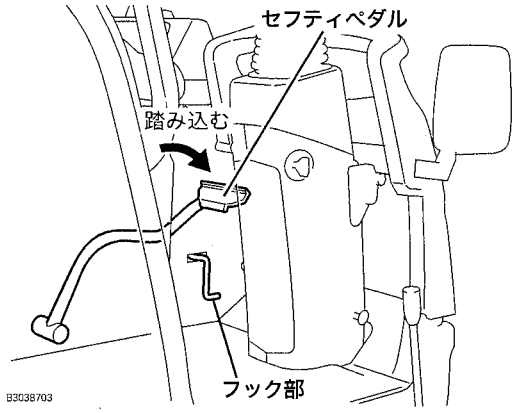
7. 副変速レバーを「低速」位置にして、主変速レバーをゆっくり「前進」側に倒してください。機体はゆっくり動き始めます。

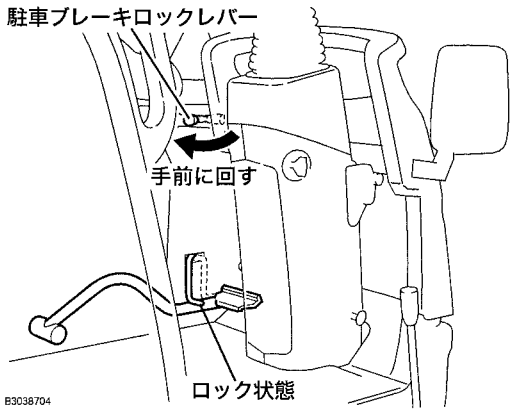


8. キャビンなし仕様の場合は、運転者は機体から降りて、常に駐車ブレーキレバーが操作できる位置にいてください。また、キャビン仕様の場合は、乗車したまま行ってください。



9. 〈キャビン仕様の場合〉
   1) 本機をトラックに積み込んだら、主変速レバーを「N」(中立) 位置にして、機体を停止する。
   2) セフティペダルをいっぱいまで踏み込み、駐車ブレーキロックレバーを手前に引いて、セフティペダルにフック部をかけ、駐車ブレーキをかける。

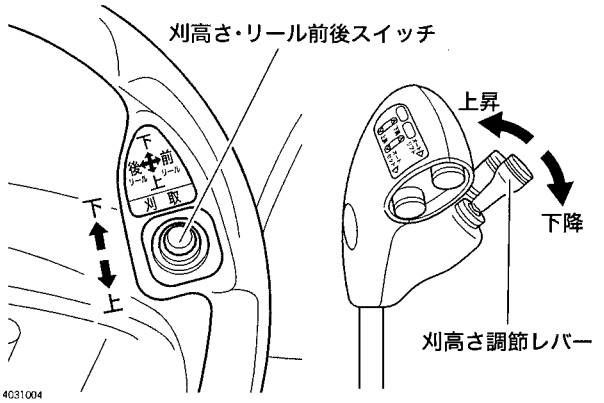




〈キャビンなし仕様の場合〉
本機をトラックに積み込んだら、駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にしてください。機体が停止します。

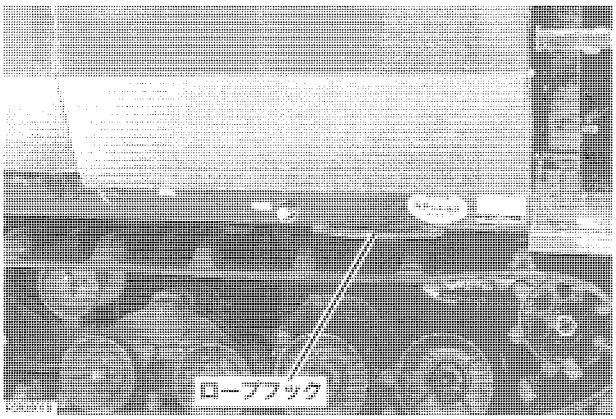
(4) トラックに積み込んだら

1. キャビンなし仕様の場合は、機体に乗り込んでください。
2. 刈高さ・リール前後スイッチを「下」側、または刈高さ調節レバーを「下降」側にしてください。刈取部をトラックの荷台に接地させます。

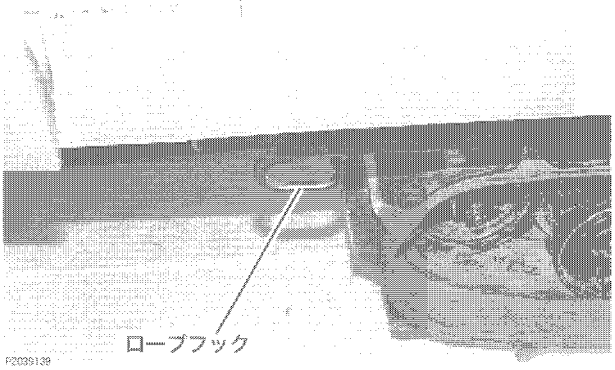


3. エンジンを停止してください。(74ページ参照)
4. 機体左右のロープフック (4か所) に、十分に強度のあるロープを掛けて、機体を確実に固定してください。

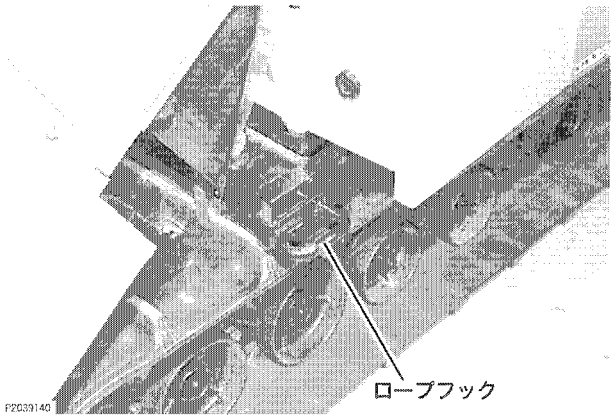
〈本機右前〉



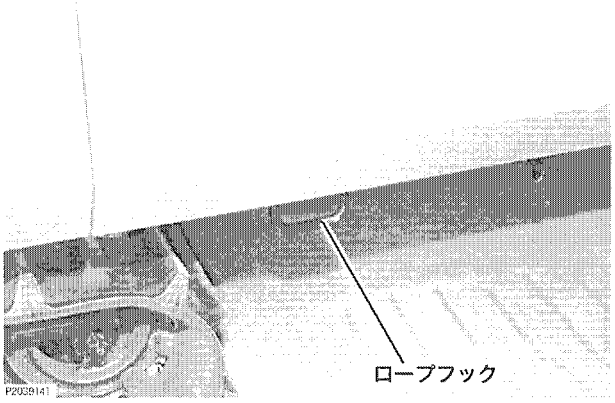
〈本機右後〉



〈本機左前〉



〈本機左後〉

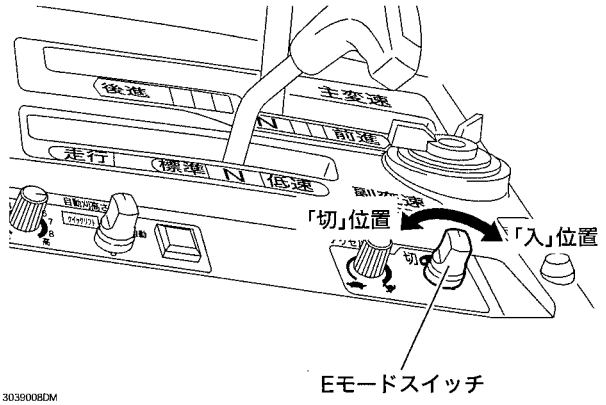


[重要]

- ロープフック以外には、ロープを掛けないでください。破損するおそれがあります。
- ロープを強く締めすぎないでください。変形などのおそれがあります。

(5) 本機の降ろしかた

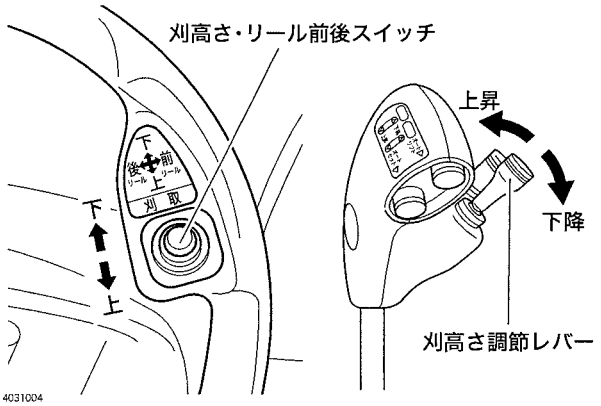
1. 機体を固定しているロープを外してください。
2. エンジンを始動してください。
   (70ページ参照)
3. Eモードスイッチを「切」位置にしてください。



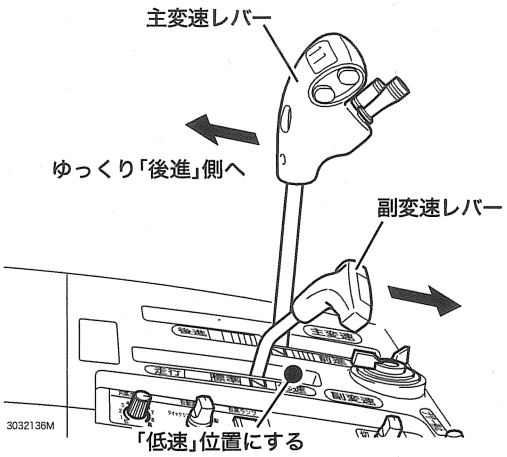
[参考]

- Eモードスイッチが「入」位置のときに、主変速レバーを操作すると、エンジン回転が急に上がり、アクセルダイヤルでエンジン回転の調節はできません。

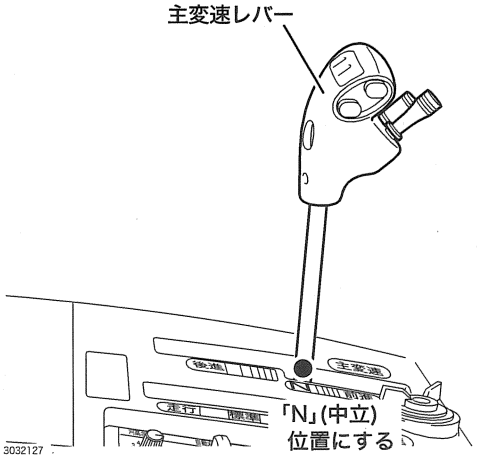
4. 刈高さ・リール前後スイッチを「上」側、または刈高さ調節レバーを「上昇」側にしてください。刈取部が上昇します。



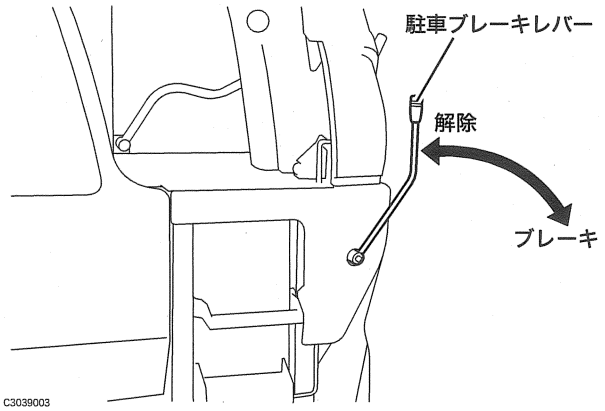
5. 副変速レバーを「低速」位置にして、主変速レバーをゆっくり「後進」側に倒してください。機体がゆっくりと動き始めます。



6. アユミ板の上で進路変更をしなくてよいように、本機の方向を、アユミ板に対してまっすぐに定めてください。
7. キャビンなし仕様の場合は、運転者は機体から降りて、常に駐車ブレーキレバーが操作できる位置にいてください。また、キャビン仕様の場合は、乗車したまま行ってください。
8. 〈キャビン仕様の場合〉
機体を完全にトラックから降ろせたら、主変速レバーを「N」(中立) 位置にして、機体を停止し、駐車ブレーキをかけてください。



〈キャビンなし仕様の場合〉
機体を完全にトラックから降ろせたら、駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にして、機体を停止してください。

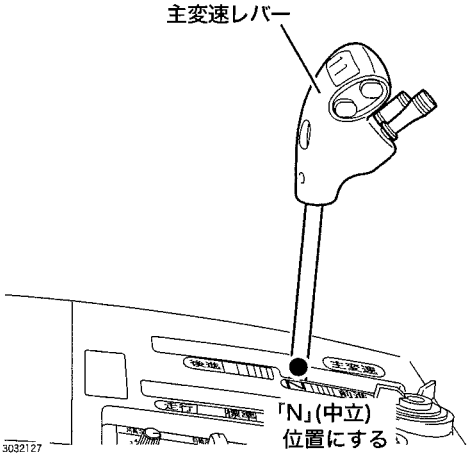


9. エンジンを停止してください。(74ページ参照)
10. 外したデバイダヘッド部を取り付けてください。
各部の取り付けは、取り外しの逆手順で行ってください。

(6) 積み・降ろし中の機体の停止・発進のしかた

〈キャビン仕様の場合〉

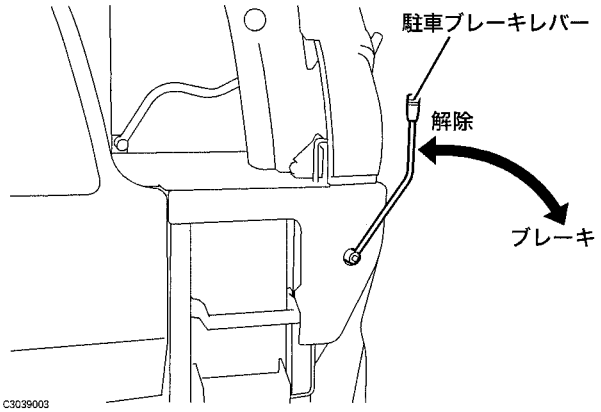
1. 主変速レバーを「N」(中立) 位置にして、機体を停止します。



2. 再度動かすときは、主変速レバーを操作して、機体をゆっくりと動かしてください。
(82ページ参照)

〈キャビンなし仕様の場合〉

1. 駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にしてください。主変速レバーが「N」(中立) 位置に戻り、機体が停止します。

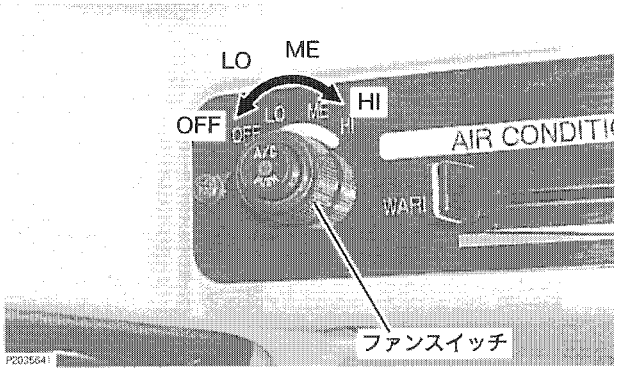


2. 再度動かすときは、駐車ブレーキレバーを「解除」位置にしてください。(80ページ参照)
3. 主変速レバーを操作して、機体をゆっくりと動かしてください。

15.エアコンの使いかた(キャビン仕様のみ)

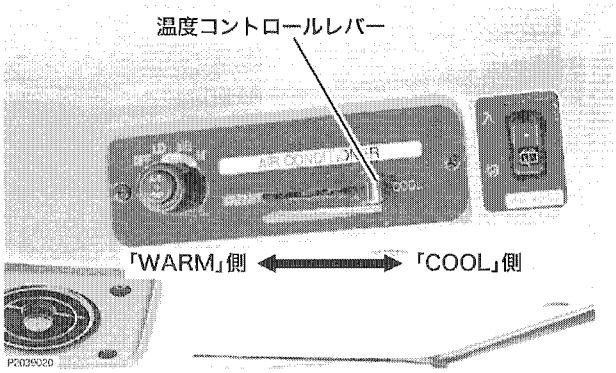
暖房・冷房・除湿のしかた

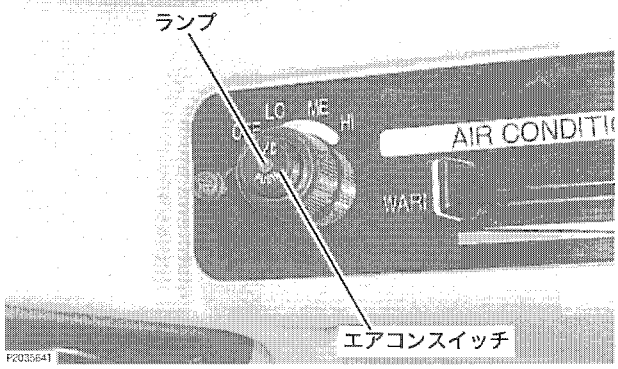
1. エンジンを始動してください。
2. ファンスイッチを希望の風量位置にセットしてください。



- 「LO」位置……弱風
- 「ME」位置……弱風と強風の中間
- 「HI」位置…… 強風

3. 温度コントロールレバーとエアコンスイッチで「暖房」「冷房」「除湿」の選択をしてください。





エアコンスイッチを押すことにより、コンプレッサの運転・停止が切り替ります。

- 「ON」(ランプ点灯) ……コンプレッサ運転
- 「OFF」(ランプ消灯) …コンプレッサ停止

暖房にするとき
レバーを「WARM」側に動かし、エアコンスイッチを「OFF」（ランプ消灯）にしてください。

冷房にするとき
レバーを「COOL」側に動かし、エアコンスイッチを「ON」（ランプ点灯）にしてください。

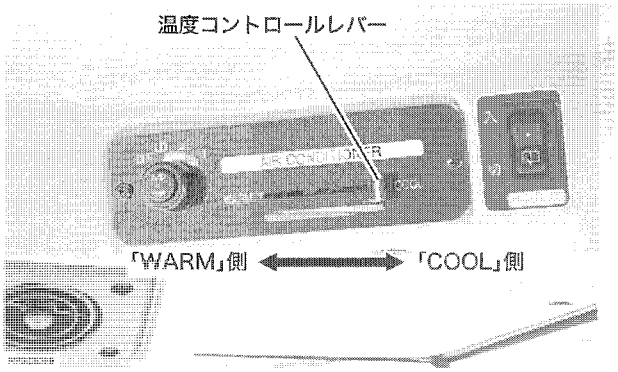
除湿にするとき
レバーを「WARM」と「COOL」の中間位置にし、エアコンスイッチを「ON」（ランプ点灯）にしてください。

[重要]

- **エアコンスイッチは、コンプレッサなどに無理な力をかけないために、エンジンを始動してから「ON」（ランプ点灯）にしてください。**
- **エアコンスイッチ「ON」（ランプ点灯）の状態で、風が出ない、風力が弱い状態が続く、または冷房不良の場合は、エアコンスイッチを「OFF」（ランプ消灯）にしてください。異常な状態での連続運転は、ブロアモータやコンプレッサの損傷につながります。お買い求め先で点検を受けてください。**

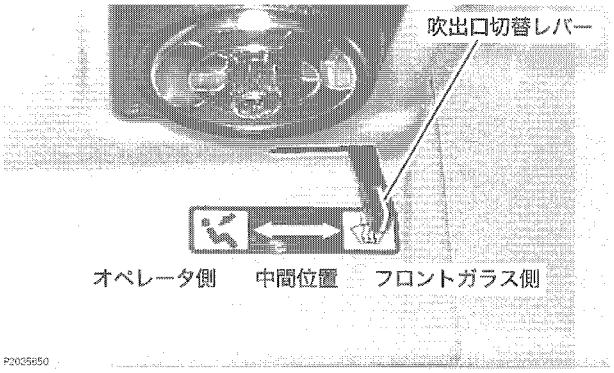
温度調節のしかた

キャビン内の温度を高くしたいときは、温度コントロールレバーを「WARM」側に、低くしたいときは「COOL」側に動かしてください。



風吹出口の切り替えかた

吹出口切替レバーで温風・冷風の吹出口を切り替えることができます。



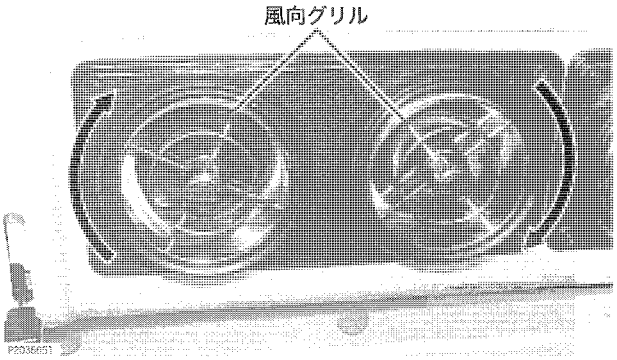
- **「オペレータ側」にすると**
  後方の吹出口風向グリルより、オペレータ側に吹き出します。

- **「フロントガラス側」にすると**
  前方の吹出口風向グリルより、フロントガラスに向って吹き出します。
  ガラスが曇っているときや凍結しているときに使用してください。

- **「中間位置（3段階）」にすると**
  両吹出口から吹き出す量を変えることができます。

エアコン吹出口の風力調節のしかた

吹出口の風向グリルを矢印の方向に回転すると風量が少くなり、反対の方向に回転すると風量が多くなります。



16.作業灯用外部電源の使いかた

⚠警告

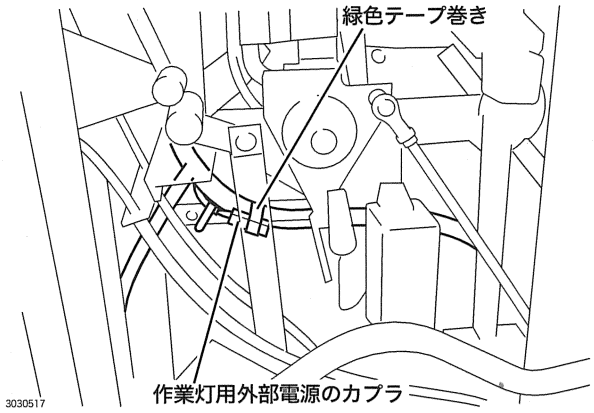
- 作業灯用外部電源のカプラ以外から電源を取り出して、電気機器を接続しないでください。火災の原因になります。
- 作業灯用外部電源のカプラに接続できる作業灯は、合計で70W以下です。制限容量を越えて使用しないでください。火災の原因になります。
- ヒューズに見合った線径ハーネス（自動車用低圧電線 AVS3.0mm^2 相当以上）を使用してください。線径の細いハーネスを使用すると火災の原因になります。
- 作業灯用外部電源ですので、作業灯以外のものを接続しないでください。思わぬ事故の原因になるおそれがあります。
- 作業灯用外部電源のカプラに接続したハーネスが、レバーなど可動部に当たらないように注意してください。思わぬ事故の原因になることがあります。

作業灯用外部電源は、作業灯専用です。
作業灯用外部電源のカプラに接続できる作業灯は、合計で70W以下です。使用する配線は、自動車用低圧電線AVS3.0mm^{2}相当以上を使用してください。
作業灯用外部電源のヒューズは、予備電源30Aを使用しています。極性は、右図のようになっています。

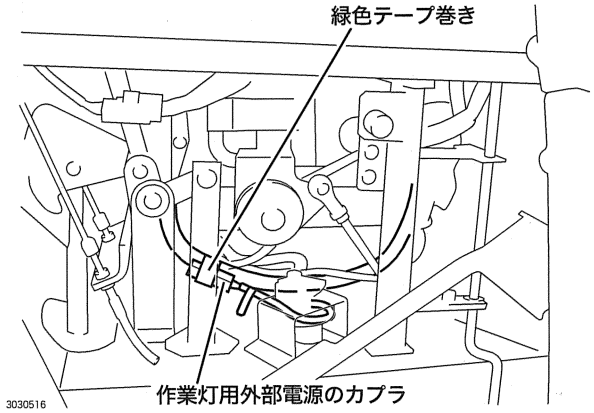
〈接続のしかた〉

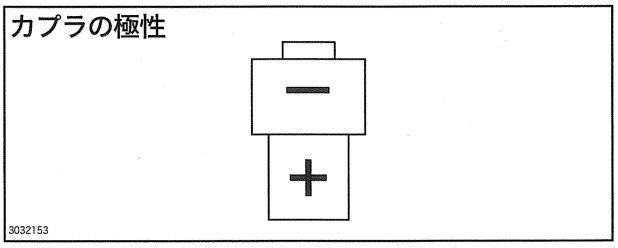
1. サイドコラムカバーを取り外してください。（146ページ参照）
2. 作業灯用外部電源のカプラ（緑色テープ巻き）に確実に接続してください。

キャビンなし仕様の場合



キャビン仕様の場合





[重要]

- 端子の「+」「−」を間違えないでください。間違えると、ヒューズが切れることがあります。
- レバーなどの可動部に当たらないように配線を行ってください。

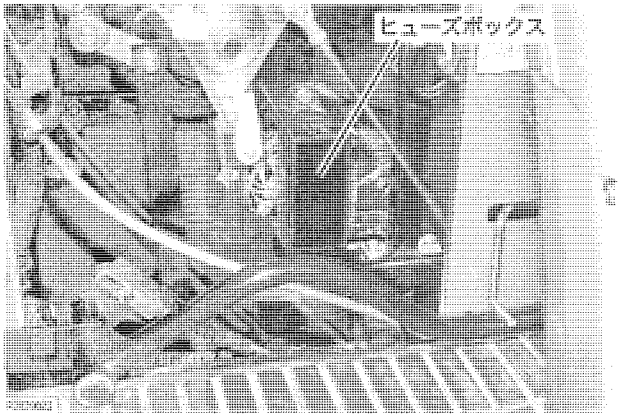
〈取り外しかた〉

1. カプラを外し、接続した配線を完全に取り除いてください。
2. サイドコラムカバーを元通りに取り付けてください。

〈ヒューズの場所〉

キャビンなし仕様の場合

ヒューズは、サイドコラムの中にあります。サイドコラムカバーを取り外してください。
(146ページ参照)



メータパネル 5A	キースイッチ/燃料ポンプ 5A
走行装置 5A	エンジン電装 10A
フラッシャ 10A	作業灯 20A
保安装置 15A	防塵モータ 15A
リール前後 30A	排出クラッチ 15A
刈取クラッチ 15A	排出コンベアモータ 30A
作業機電磁弁 20A	排出コントローラ 5A
刈取コントローラ 5A	
水平制御 5A	
予備電源 30A	予備 30A

〈予備〉 5A 10A 15A 20A

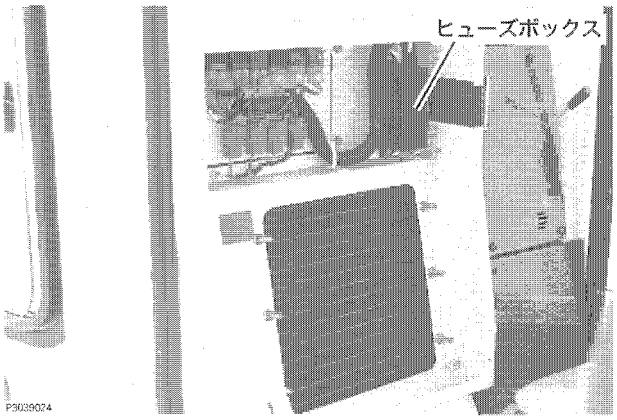
ヒューズ銘板

[重要]

- 端子の「+」「−」を間違えないでください。間違えると、ヒューズが切れることがあります。

キャビン仕様の場合

ヒューズは、シート後のカバー内にあります。ノブネジ（4本）を外し、シート後のカバーを取り外してください。



メータパネル 5A	キースイッチ/燃料ポンプ 5A
走行装置 5A	エンジン電装 10A
フラッシャ 10A	作業灯 20A
保安装置 15A	防塵モータ 15A
リール前後 30A	排出クラッチ 15A
刈取クラッチ 15A	排出コンベアモータ 30A
作業機電磁弁 20A	排出コントローラ 5A
刈取コントローラ 5A	タンクシャッター 15A
水平制御 5A	タンクシュータ 15A
予備電源 30A	リフトタンク電磁弁 10A

〈予備〉 5A 10A 15A 20A

ヒューズ銘板

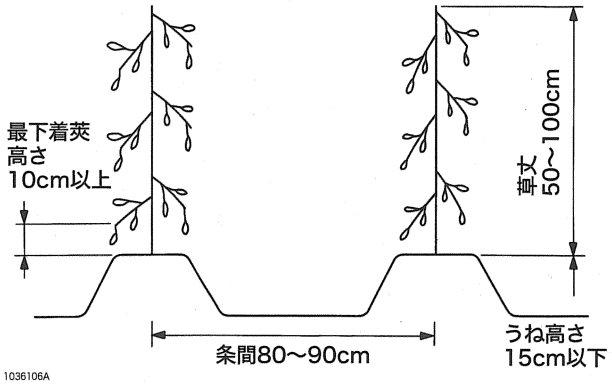
[重要]

- 端子の「+」「−」を間違えないでください。間違えると、ヒューズが切れることがあります。

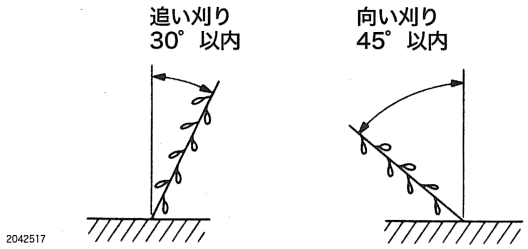
1. 大豆の場合

作物の条件

●大豆の刈取適応長さは50～100cmです。



●刈取可能な作物の倒れた角度（倒伏角）は、
向い刈り……倒伏角45°までです。
追い刈り……倒伏角30°までです。



●雨中や雨上がり直後、朝つゆ・夜つゆのあるときは、作業しないでください。
子実水分……16～18%
（13～15%が望ましい）
茎稈水分……60%以下
（40%以下が望ましい）

[重要]

●刈取り適期は、慣行よりも１週間程度遅くしてください。落葉後7～10日後が収穫のめどです。水分の多い場合は、汚粒・損傷粒の原因になります。

ほ場の条件

大豆は、湿害に弱いのでうねを立てるか、明きょなどで排水をよくする必要があります。しかし、うねの高さや幅によっては、コンバインで作業がしづらい場合があります。
能率よく刈取作業を行うためには、うねの高さ・幅・作物条間をコンバインに合わせて作付してください。



[重要]

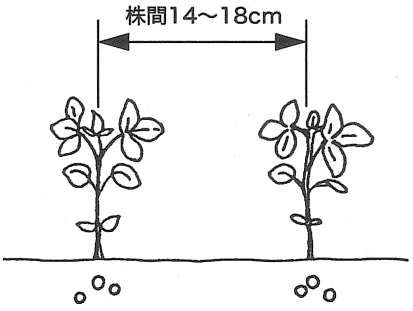
●本機の傾きは、土の混入、刈り残しにつながります。本機が水平になるように刈取部ではなく、クローラがうねに対称になるように、走行位置を合わせてください。

〈機体が傾かないようにするためには…〉

- 条間……80～90cm
- うね高さ…15cm以下

〈最下着莢位置を高くするためには…〉

- 播種株間…14～18cm
- 種子量……2～3粒の点播



〈トラブルを防ぐためには…〉

- 雑草が多い場合……汚粒や機械のトラブル発生
- 石などが多い場合…刈刃の損傷
- 稈が青い場合・最下着稈莢位置が10cm以下の場合……土・青汁などによる汚粒の発生

作付・栽培管理

コンバインでの刈取作業では、下記の条件の品種が適していますが、品種の選定は、各都道府県の指導機関の指導に従ってください。

〈耐倒伏性が高いもの〉

倒伏すると、減収したり刈取り方向や作業速度が限定され能率が低下します。さらに、泥のかみ込みなどにより、汚粒が発生し品質も低下してしまいます。



〈耐裂莢性がたかいもの〉

裂莢しやすいと、リールタインが作物に当たったときに、裂莢して豆がほ場に落ちて、刈取りロスが増えます。（例：エンレイ）



〈着莢位置が高いもの〉

着莢位置が低いと、刈り残しが出たり、低刈りするために泥のかみ込みなどにより、汚粒が発生し品質も低下してしまいます。

[参考]

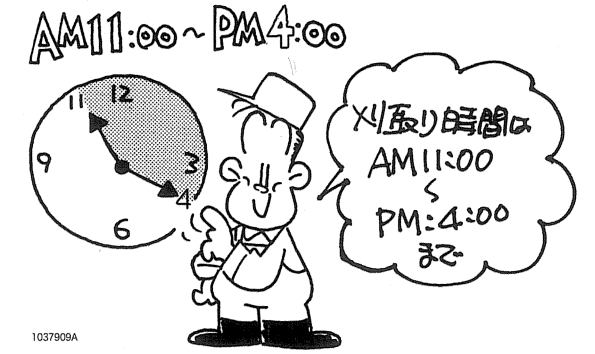
●最下着莢位置を高くするためには、種子量2～3粒を株間14～18cmに点播するのが適当です。



収穫時期(時間帯)

大豆の収穫は、水分が重要なポイントになります。コンバインでの収穫作業をロスなく能率的に行うためには、莢の水分と子実水分、さらに茎稈水分がポイントです。大豆の水分は、1日の中でも大きく変化しますので、収穫に適する時間内に作業を行うようにしてください。

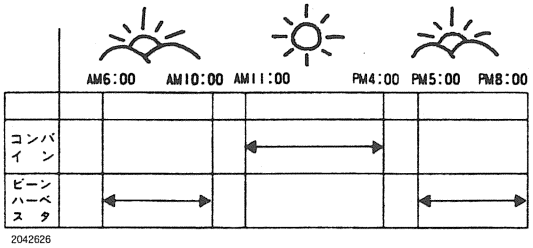




●刈取りに適している時間は、コンバインと従来のビーンハーベスタで大きく異なります。

コンバイン……AM11:00～PM4:00

ビーンハーベスタ……AM6:00～AM10:00
PM5:00～PM8:00



大豆の汚粒発生の原因

〈発生原因〉

- 1 操作技術的要因
  - 整備不良
  - 基本的操作ミス
  - 作業条件・収穫時期
- 2 栽培技術的要因
  - 不適切な培土
  - 不適切な栽植条件
  - 石れき除去、雑草防除の不徹底
  - 生育の不斉一
  - 病虫害防除の不徹底
- 3 品種的要因
  - 裂莢性
  - 倒伏性
  - 最下着莢位置
  - 粒径

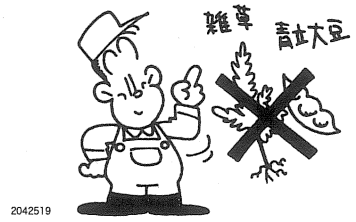
コンバインでの収穫作業の汚粒発生には、上記の3大要因が複合して影響しています。したがって、汚粒の発生を防ぐには、これらをすべてを取り除く必要があり、栽培体系全体を見直さなくてはなりません。品種の選定・栽培技術については、各地域の指導機関との十分な協議をお願いしますが、メーカー側からお願いしたい取扱い方法は、本章の内容を熟読してご理解いただきたいと思います。

品質低下につながる原因

下記の項目が、品質の低下につながる原因です。

〈雑草や青立大豆が残っている〉

雑草や青立大豆が残っていると、汚粒の原因になり、品質低下につながりますので、作業前に必ず取り除いてください。



2042519

〈倒伏や下部腐敗莢がある〉

倒伏や下部腐敗莢があると、刈取作業がやりにくく、能率低下や刈取りロス、さらに汚粒の原因にもなり、品質低下につながります。



2042521

2. ソバの場合（オプションが必要です。）

収穫時期

●天候条件にもよりますが、慣行よりも2～3週間後が収穫期です。



1037912B

●子実が80～90%黒色化してから収穫してください。

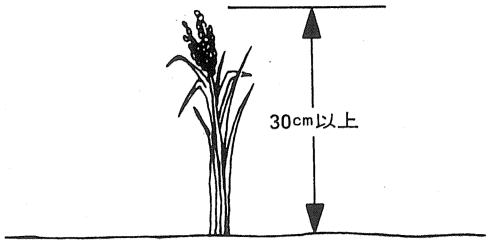


1037916C

3. 麦の場合（オプションが必要です。）

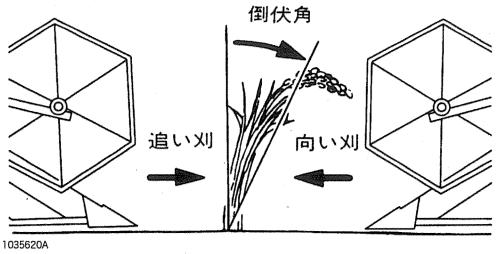
作物の条件

●刈取適応高さは30cm以上です。



2034404

●刈取り可能な作物の倒れた角度（倒伏角）は、追い刈りで85°までです。



1035620A

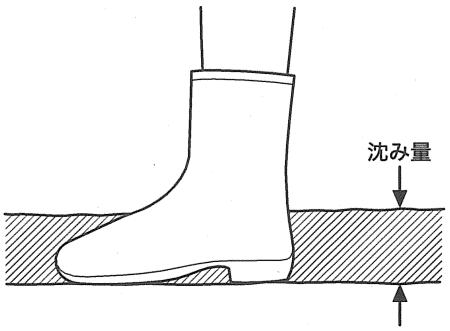
[重要]

●倒伏作物は、追い刈りまたは横刈りで刈取ってください。

●ぬれている作物は、コンバインの作業を妨げます。十分に乾燥（手でしごいてぬれない状態）させてから行ってください。

ほ場の条件

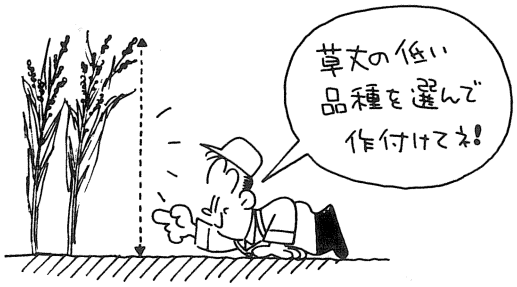
足の沈み量（6cm）までのぬかるみであれば作業できますが、一度通ったクローラ跡はできるだけ通らないようにしてください。



A3037319

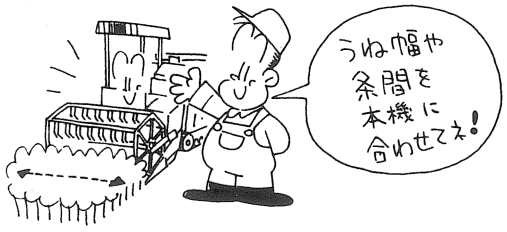
作付・栽培管理

- 草丈の低い品種を作付して、草丈のバラツキがないように栽培してください。



1037912D

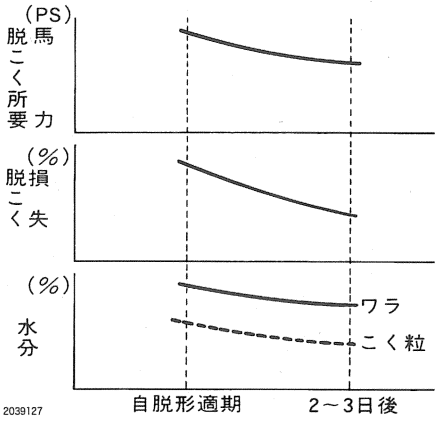
- うね幅や条間などを本機に合わせてください。



2038005

収穫時期

刈取り時期を自脱形コンバインより、2～3日程度遅らせると、下記のような利点があります。



2039127

- 脱こく所要馬力が減少し、作業能率が上がります。
- 脱こく損失が減少します。
- こく粒の水分が減少し、乾燥コストが低減できます。

8章　刈取作業前の準備のしかた

1. ほ場の準備と刈取方法について

⚠危険

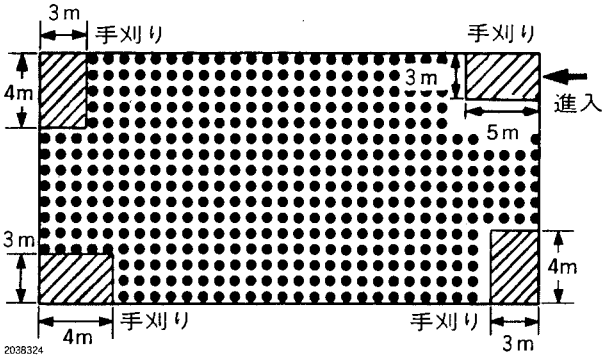
●刈取作業をするときは、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。回転物に巻き込まれたり、旋回時の接触事故など大変危険です。

⚠警告

●後進するときは、後方の安全確認をし、低速で移動してください。
●異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業関係レバー・スイッチを全て「切」位置にしてから点検してください。
●サヤクズを取り除く場合や、詰まった場合は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業関係レバー・スイッチを全て「切」位置にしてください。
●二人以上の共同作業では、ホーンなどでお互いに合図し合ってから行ってください。合図をしないと、思わぬ傷害事故の原因になります。
●コンバインを、サヤクズのたまった上などに止めないでください。火災の原因になります。

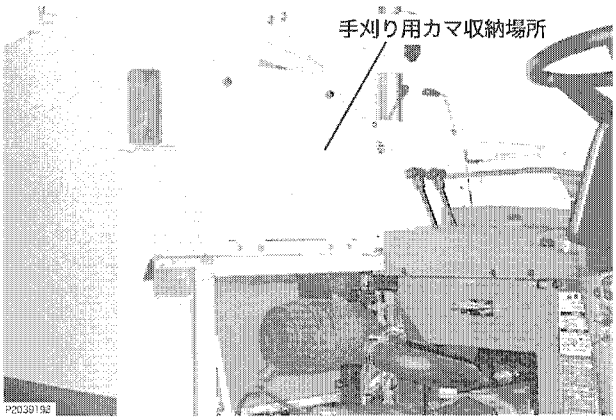
ほ場の準備

全面刈りで能率よく作業を進めるためには、図のように四隅（旋回できる範囲）を手刈りしてください。

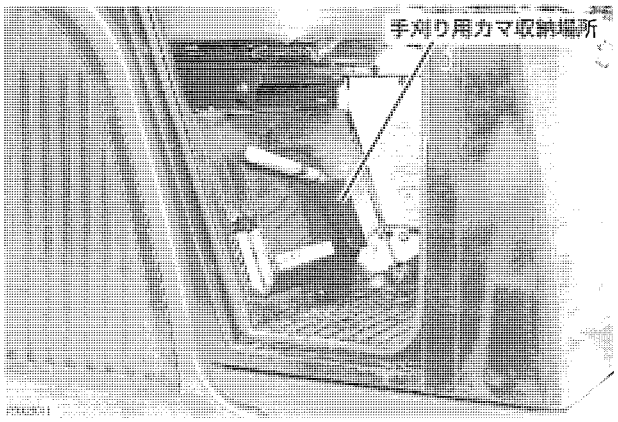


〈手刈り用カマの収納場所〉

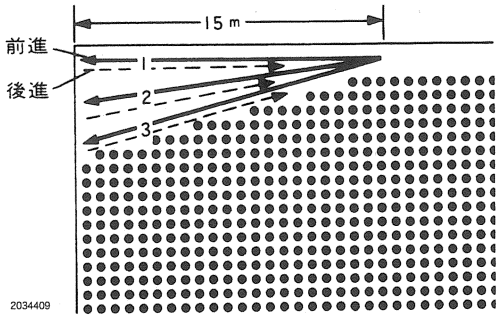
キャビンなし仕様の場合



キャビン仕様の場合



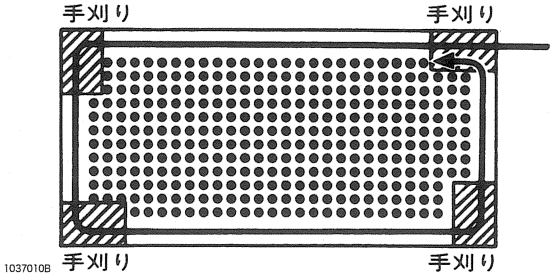
〈手刈りを少なくするには〉
コンバインに慣れてきたら、隅を3～4回ほど斜め刈りしてください。手刈りをほとんどしなくてすみ、能率的な作業ができます。
また、進入路の傾斜地が緩い場合は、微速で刈取りながら進入できます。



刈取方法

植付け条に沿って刈取るのが原則です。従って2方向刈りを基本とし、次の要領で刈取ってください。

1．あぜぎわから、左回りで刈取ってください。



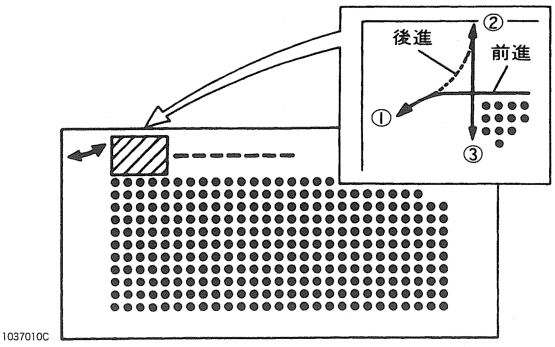
[参考]

- 手刈りした幅の分だけ、すべて左回りで刈取ってください。
- 手刈りした作物は、プラットホームに投げ込んで、定置脱こくしてください。（122ページ参照）

⚠警告

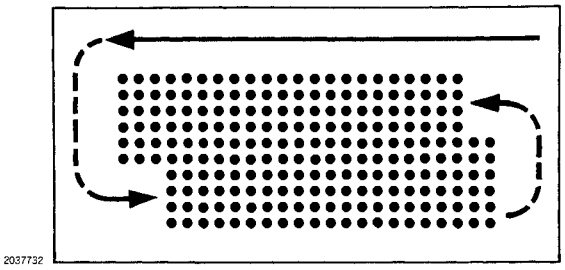
- 手刈りした作物を、プラットホームに投げ込んで定置脱こくをする場合は、刈刃・リールクラッチレバーを必ず「切」位置にしてください。刈刃やリールに巻き込まれて、重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。（122ページ参照）

2．切り返しを行い、左回りで刈り続けてください。



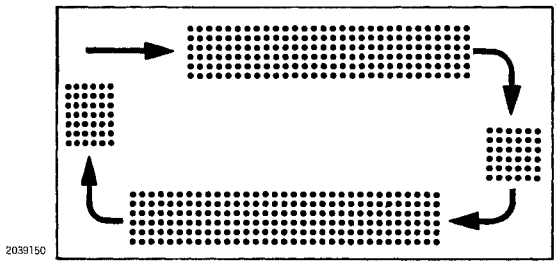
3. ほ場の両端で回行できるようになったら、2方向刈りを行ってください。

2方向刈り



4. あぜぎわを残した場合は、あぜぎわ刈りをします。あぜぎわは、低速で、右回りで刈取ってください。

あぜぎわ刈り



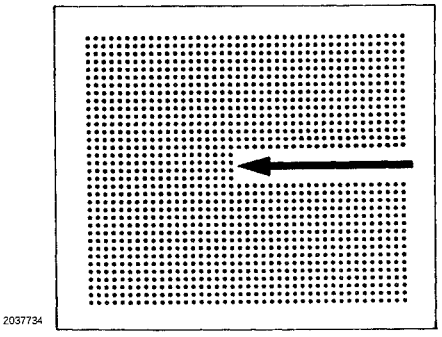
[重要]

- あぜぎわ刈りのときは、デバイダヘッドを突込んだり、ぶつけないように注意してください。
- 回行中もエンジン回転を下げないでください。下げると、選別が悪くなったり、詰まることがあります。

広いほ場の刈取方法

能率よく刈取作業をするために、広いほ場などは、中割り作業をしてください。

中割り



2. コンバインの準備のしかた

⚠警告

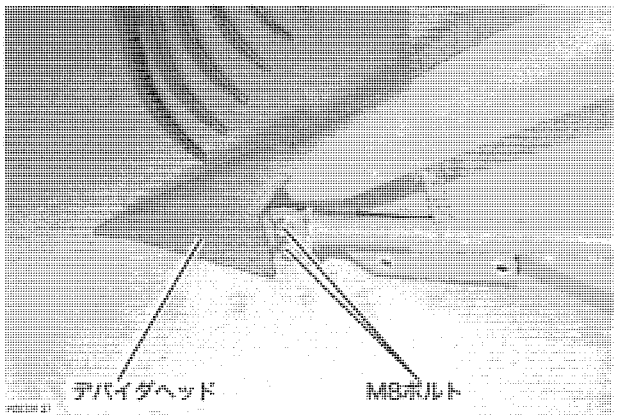
- 各部の準備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。守らないと、回転部に巻き込まれたり、思わぬ事故の原因になります。

⚠注意

- 取り外したカバー類は、調節後、必ず元通りに取り付けてください。

デバイダヘッドの取り付け

デバイダヘッドを、M8ボルト（2本）で取り付けてください。



刈刃・チェンへの注油

⚠注意

●回転部などに注油するときは、必ずエンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてください。ケガをするおそれがあります。

作業前は、刈刃や各チェンに「4.各部の注油のしかた」（167ページ参照）に従って注油してください。

[参考]

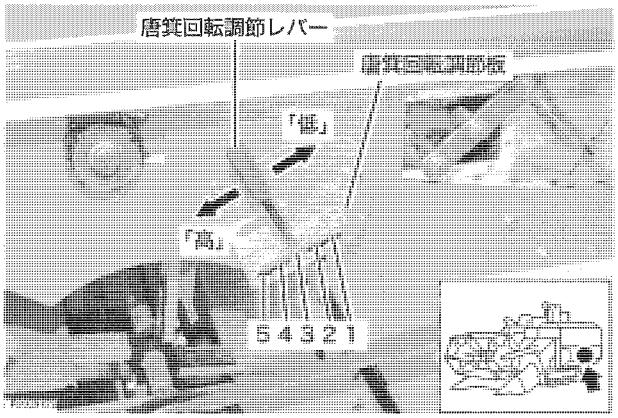
●刈刃やフィーダチェンには、食品機械用潤滑スプレーを使用してください。

品　名	オプション部品
食品機械用潤滑スプレー	部品コード：NX127

●低温時（5℃以下）には、オイルの一部が個体になり、分離しているような状態になる場合があります。分離しているときは、常温に戻してから使用してください。

唐箕回転数の調節のしかた

作物の選別の精度を良くするときに使用します。



	大豆・小豆	ソバ	麦
唐箕回転調節レバー	1～5	1・2	1・2
唐箕回転調節板	「高」位置	「低」位置	「高」位置

●「高」側……選別が悪いとき

●「低」側……乾材などで3番にロスが多いとき

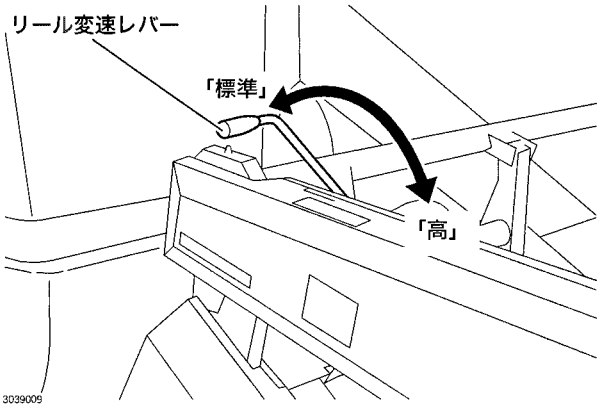
[参考]

●唐箕回転調節板を「低」側にして、風力を下げてもロスの多いときは、唐箕シャッター（ソバの場合のみ）を取り付けてください。（117ページ参照）

●唐箕回転調節レバーを調節するときは、ベルトを少し押さえると操作が行いやすくなります。

リール変速レバーの調節のしかた

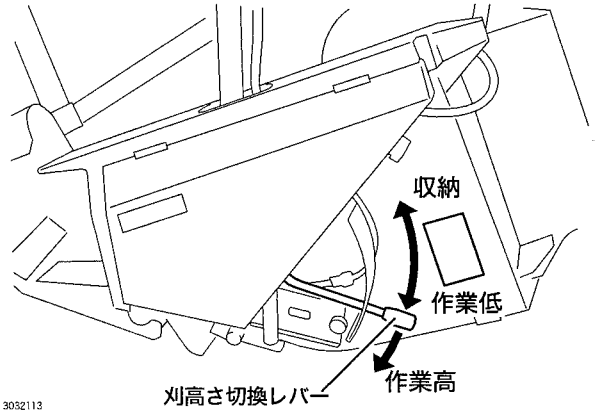
作物の種類や状態に合わせて、「標準」または「高速」位置にしてください。



●「標準」位置……立毛・向い刈り倒伏時
●「高速」位置……追い刈り倒伏時

刈高さ切換レバーの調節のしかた

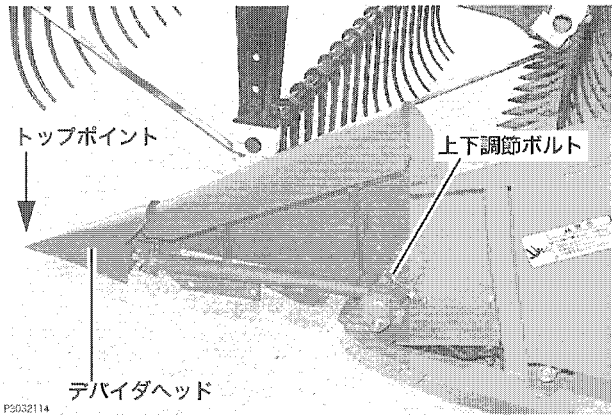
刈高さ自動制御、および刈取オートセット・オートリフトを行うときに使用します。



●「作業」位置…作業をするとき（センサソリが出る）に使用し、次の2つの切換がある
「作業低」…通常作業に使用
「作業高」…高刈作業時に使用
●「収納」位置…積み・降ろし、移動するとき刈取部を脱着するとき
（センサソリが収納される）

デバイダヘッドの高さ調節のしかた

作物の倒伏状態と、ほ場の状態によって、左右とも同じ高さに調節してください。
調節は、上下調節ボルトで行います。

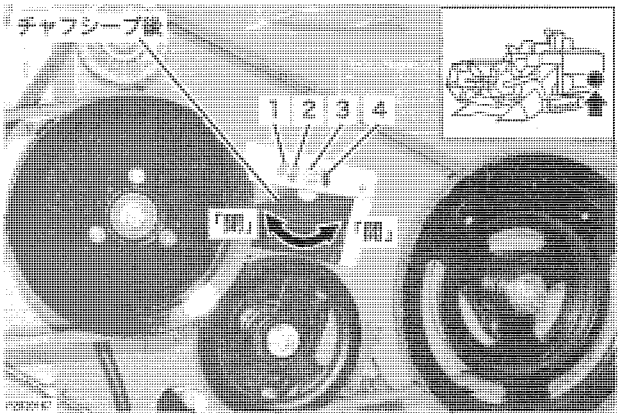


〈立毛時〉
雑草が引っかからない程度に、刈株よりやや高めに調節してください。

〈倒伏時〉
デバイダヘッドのトップポイントが軽く接地する程度に、調節してください。デバイダヘッドの底が少し前上がりになるように調節してください。

チャフシーブ後の調節のしかた

チャフシーブは、脱こくされたこく粒とサヤクズを選別します。作物の種類や脱こく状態に応じて、チャフシーブの角度を調節してください。



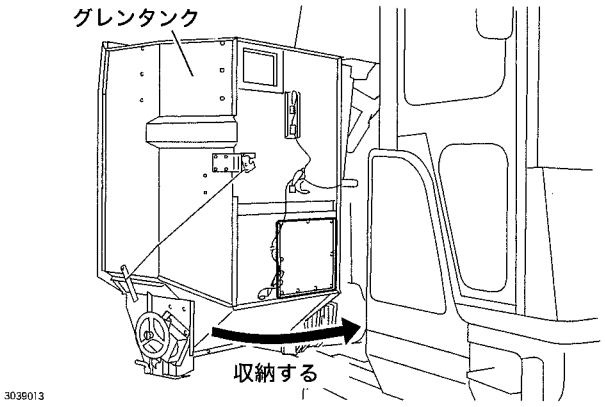
- 大豆・小豆…「2」～「3」位置
- ソバ……「1」～「2」位置
- 麦……「3」～「4」位置

[参考]

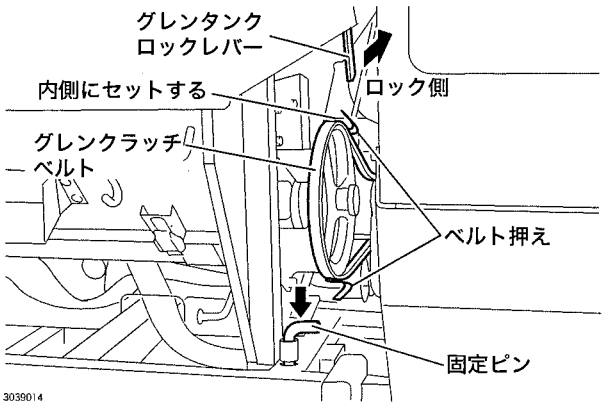
- 出荷時は、「3」位置に調節されています。
- 2番に詰まりやすいときは「閉」側に、ロスの多いときは「開」側に調節してください。

グレンタンクの準備（グレンタンク仕様のみ）

1. グレンタンクを、確実に収納してください。（150ページ参照）

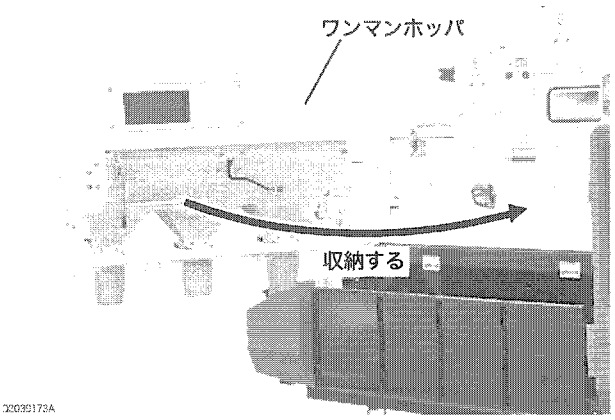


2. グレンタンク部およびグレンタンク駆動部で、下記の確認をしてください。
   - グレンクラッチベルトが外れていないか。
   - ベルトは、ベルト押えの内側にセットされているか。
   - 固定ピンは、差し込まれているか。
   - ロックレバーは、確実にロック側にあるか。

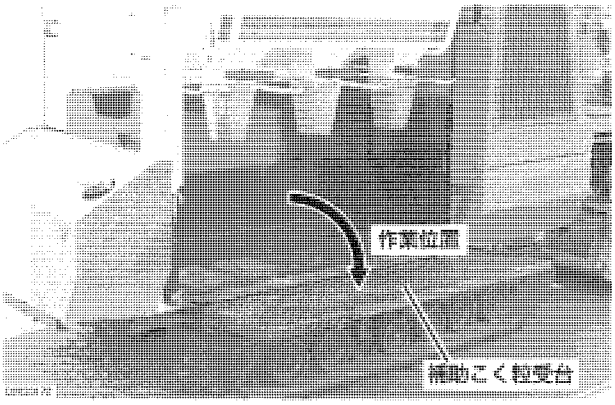


ワンマンホッパの準備（ワンマンホッパ仕様のみ）

1. ワンマンホッパを確実に収納してください。（152ページ参照）



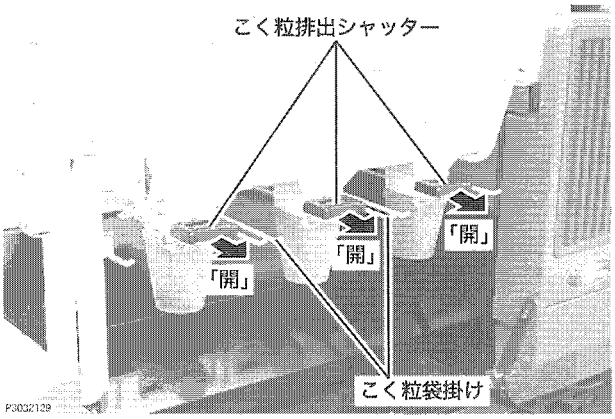
2. 補助こく粒受台を作業位置に開いてください。（153ページ参照）



⚠注意

●こく粒受台には乗らないでください。転落して、ケガをするおそれがあります。

3. こく粒袋掛けに、袋を掛けてください。
4. こく粒排出シャッターを「開」位置にしてください。



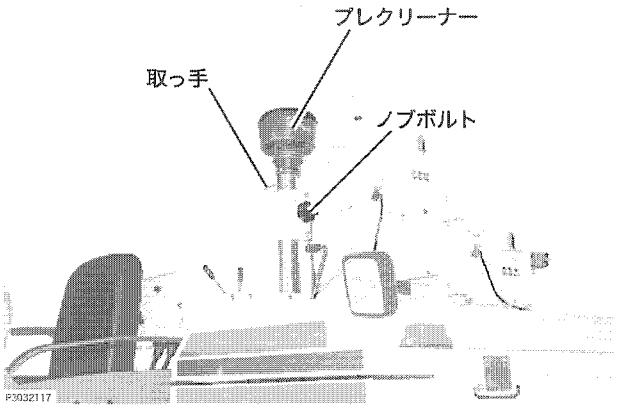
プレクリーナーの高さ調節のしかた（ワンマンホッパ仕様のみ）

プレクリーナーは、高さを上下に調節することができます。
ほ場内にサヤクズやホコリが多い場合には、上方に上げて使用してください。
（キャビン仕様・グレンタンク仕様は、固定されているので調節できません。）

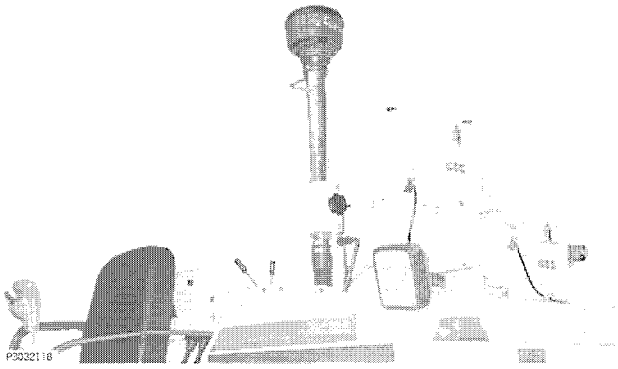
〈調節のしかた〉

1. 運転席に乗り込んでください。
2. ノブボルトをゆるめてください。
3. 取っ手を持って、プレクリーナーを調節してください。
4. ノブボルトを締め付けて固定してください。

最下げ状態



最上げ状態



[重要]

●標準位置は、最下げ状態です。
●作業時以外は、プレクリーナーを元通りに下げてください。移動走行や格納時などに破損の原因になるおそれがあります。

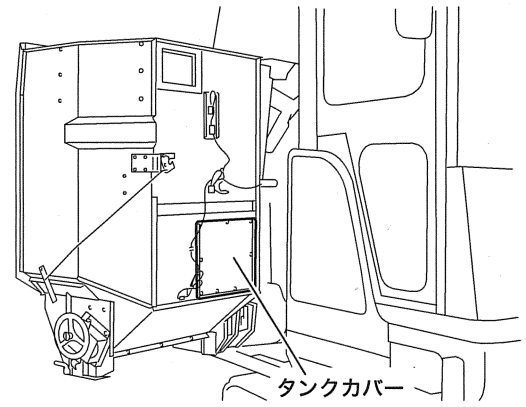
プレッシャプレートの取り付け・取り外しかた（グレンタンク仕様のみ）

麦およびソバの作業をするときは、グレンタンク内のプレッシャプレートを外して作業を行ってください。（麦およびソバの作業時は、オプションが必要です。）

プレッシャプレートの取り外し・取り付けは、以下の手順に従って、タンクカバーの取り外しから行います。

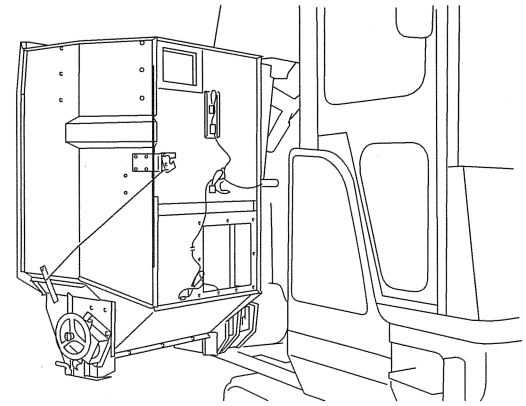
〈タンクカバーの取り外しかた〉

1. グレンタンクをオープンしてください。（150ページ参照）
2. タンクカバー（ボルト8×16（バネ座金付・平座金付）：8本）を取り外してください。



3039013

タンクカバーを取り外した状態


3039013A

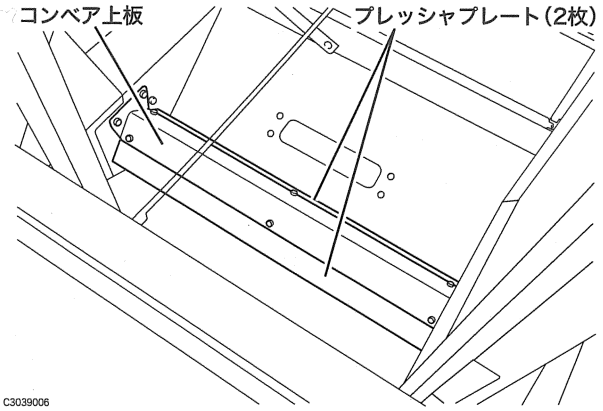
〈プレッシャプレートの取り付け・取り外しかた〉

取り付けかた

1. プレッシャプレート（2枚）を、グレンタンク下部のコンベア上板に取り付けてください。

取り外しかた

1. グレンタンク下部のコンベア上板に取り付いている、プレッシャプレート（2枚）を取り外してください。

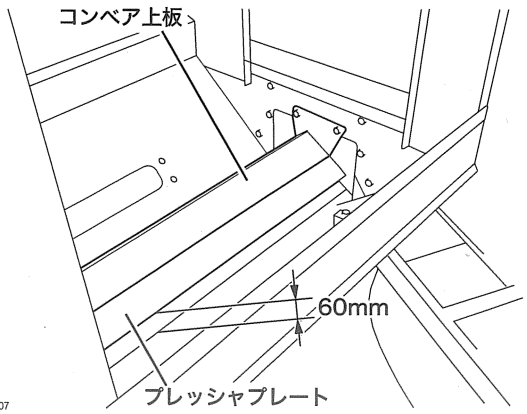


C3039006

2. タンクカバー、タンク調整板、こく粒センサ取付板を元通りに取り付けてください。
3. グレンタンクを収納してください。

[参考]

● プレッシャプレートを元に戻すときは、逆の手順で行ってください。
プレッシャプレートをグレンタンクに取り付けるときは、図のようにグレンタンクとのすき間が60mmになるように取り付けてください。



C3039007

3. 刈取作業前の掃除のしかた

収穫作業前には、こく粒の搬送通路を徹底的に掃除・洗浄してください。(159ページ参照)

⚠警告

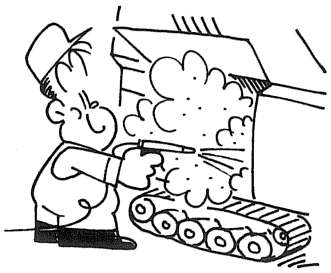
●各部の脱着、オープンをするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキを「ブレーキ」位置にしてから行ってください。ケガをするおそれがあります。

⚠注意

●取り外したカバー類は、収納後に必ず取り付けてください。外したままで運転するとケガをするおそれがあります。

●各部カバー類を取り外し、脱こく部・刈取部を空運転させて、機体内部に残った塵を飛ばしてください。その後、エアコンプレッサで樋・受継部に残ったこく粒・塵を吹き飛ばしてください。

●1番樋
●2番樋
●2番受継部
●バケットコンベア受継部
●タンク樋
●チャフシーブ
●グレンタンク
●ワンマンホッパ
●排出コンベア



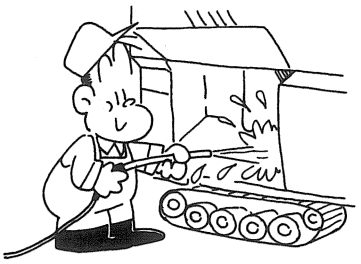
[重要]

●高圧洗浄機で機体内部、およびこく粒搬送通路を掃除・洗浄するときには、電装品に直接水をかけないでください。

[参考]

●取り外した部品も同時に洗浄しておいてください。

●グレンタンク
●ワンマンホッパ
●バケットコンベア
●スラットコンベア
●2番コンベア(上)
●ロータ
●チャフシーブ
●フィーダハウス
●1番コンベア
●排出コンベア



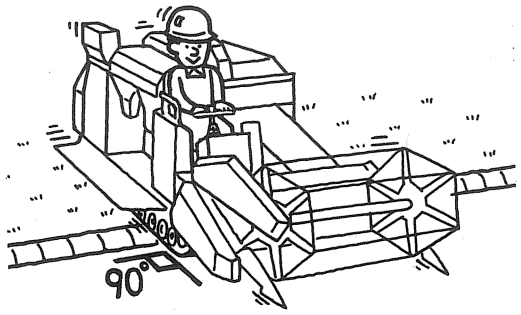
●カバーを装着した状態で、脱こく部・刈取部を空運転し、その後エアコンプレッサで付着した水分を吹き飛ばし、機体内を乾かしてください。

[参考]

●取り外した各部のカバー類は、忘れずに元通りに取り付けてください。

4. ほ場への出入りのしかた

●副変速レバーを「低速」位置にして、主変速レバーをゆっくり「前進」側に倒してください。
●Eモードスイッチを「切」位置にしてください。
●あぜに対して前進で直角に出入りしてください。
●10cm以上の高いあぜの場合は、アユミ板を使用してください。



2039152

〈急な坂道の場合〉

●進行方向

進行方向	登　り	前　進
	降　り	後　進

●移動速度

副変速レバー「低速」位置、主変速レバーは最低速で、ゆっくり登り降りしてください。

⚠警告

●急な坂道の場合は、進行方向や速度を誤ると、転倒してケガをするおそれがあります。必ず上記の方法に従ってください。

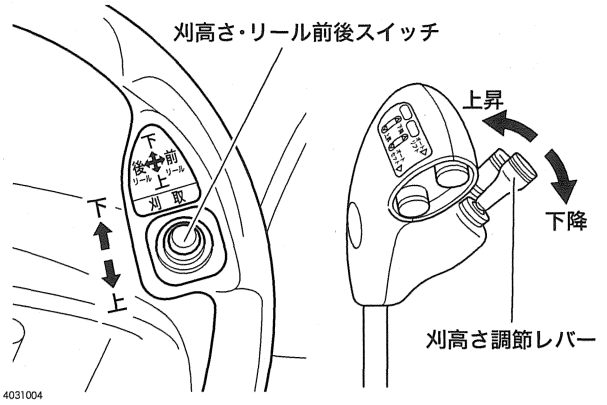
9章　刈取作業のしかた

1. 刈取操作のしかた

作業の手順

ほ場に入った後の作業の手順について説明します。

1. 刈高さ・リール前後スイッチを「下」側、または刈高さ調節レバーを「下降」側にしてください。刈取部が下がります。



[参考]

〈立毛した作物の場合〉

●低くたれ下がった茎を、刈り残さない刈高さに調節してください。

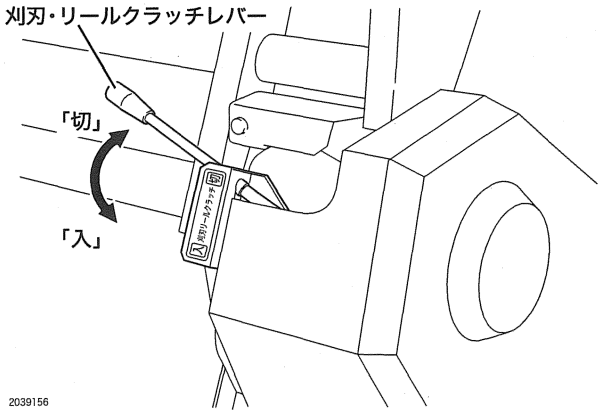
〈倒伏とからまった作物の場合〉

●作物を拾い上げるために、地面すれすれに下げて、低刈りをしてください。

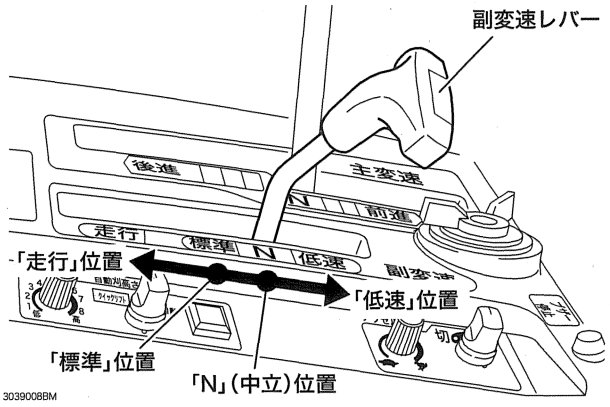
[重要]

●刈取部を低くしすぎると、プラットホームに土が入り、汚粒が発生する原因になります。下げすぎないようにしてください。

2. 刈刃・リールクラッチレバーを「入」位置にしてください。



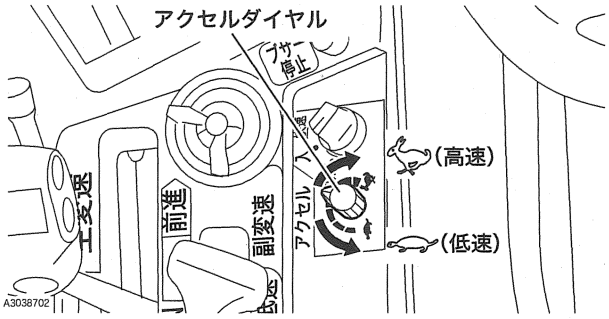
3. 副変速レバーを作物条件に合わせて、「標準」「低速」位置のいずれかに入れてください。

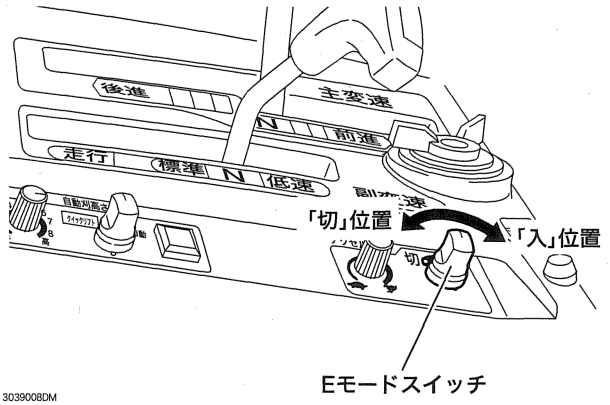


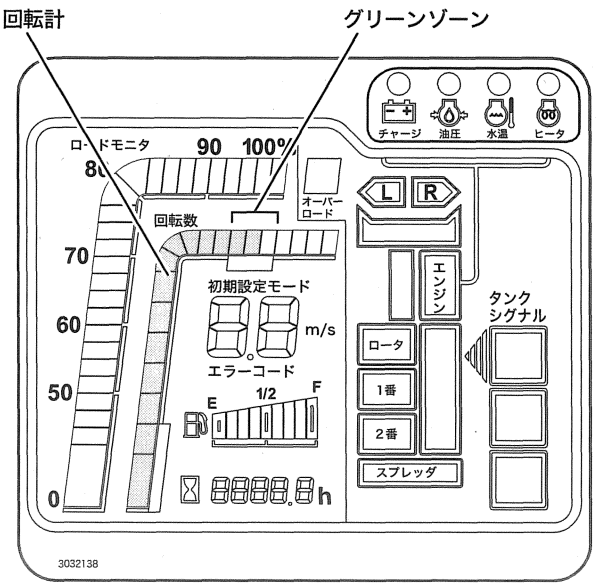
作業速度の選びかた

副変速レバー位置	使　用　条　件
低　速	●全倒伏 ●半倒伏 ●周囲刈りで低速作業をする場合
標　準	●直立

4. 作業中のエンジン回転を、液晶コンビネーションメータの回転計の目盛が「グリーンゾーン」位置を指すように、アクセルダイヤルで調節してください。
   または、Eモードスイッチを「入」位置にしてください。



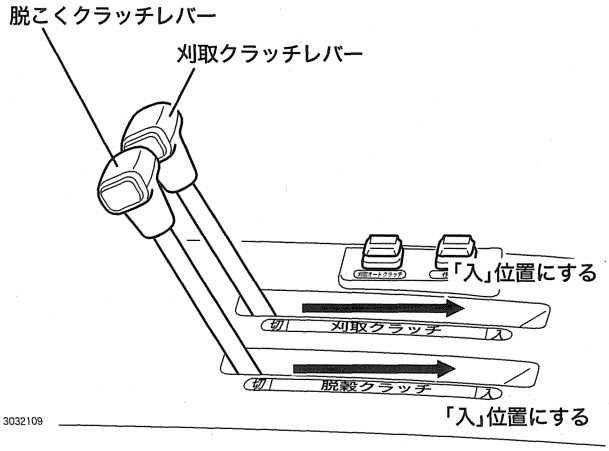




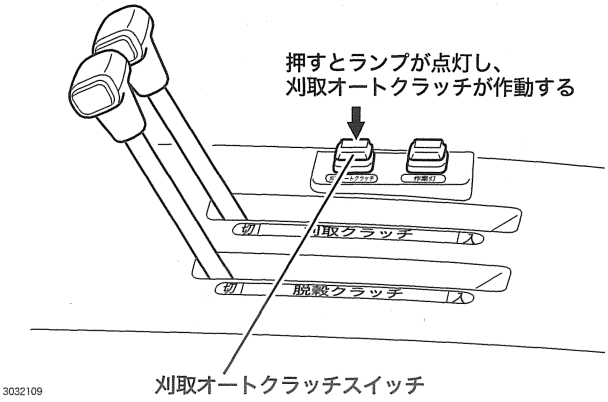
[重要]

- エンジン回転がアイドリング状態では、刈取作業を行わないでください。詰まりの原因になります。
- 液晶コンビネーションメータの回転計の目盛りが、「グリーンゾーン」の位置より低い、または高いと下記の現象が現れます。
  - 「グリーンゾーン」位置より低いとき
    - こぎ残しが多くなる
    - 能率があがらない
    - 脱こく部の内部に詰まりが発生する
  - 「グリーンゾーン」位置より高いとき
    - 脱ぷやロスが出る

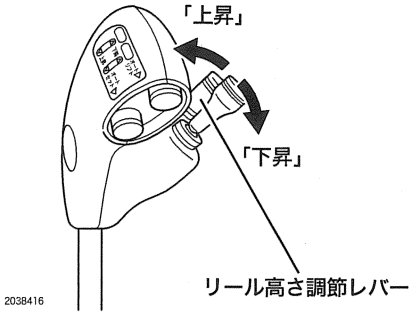
5. 脱こくクラッチレバー・刈取クラッチレバーを「入」位置にしてください。



6. 刈取オートクラッチスイッチを押して「入」（ランプ点灯）にしてください。



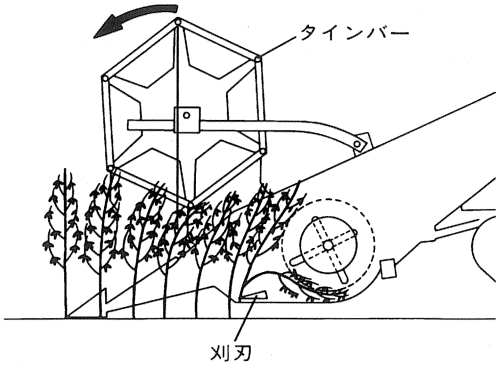
7. リール高さ調節レバーで、稈が刈刃で切断されるときに、タインバーが莢の下の茎稈に当たって作物を捕らえる位置に、リールをセットしてください。



[参考]

〈立毛した作物の場合〉

●大豆



●麦

刈高さ



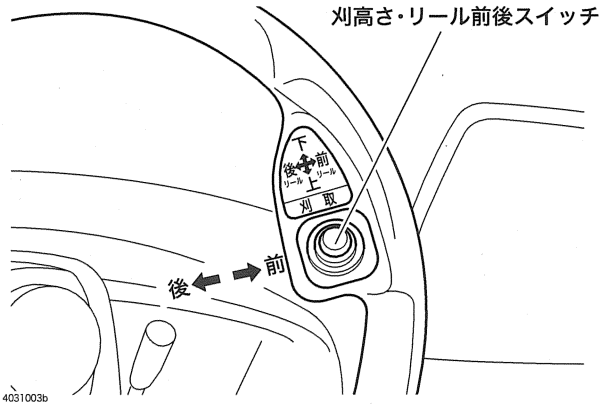
リール高さ



[重要]

●向い刈り時は、リールが穂先を押しつけないようにしてください。押しつけすぎると、刈刃で穂先を切ることがあります。

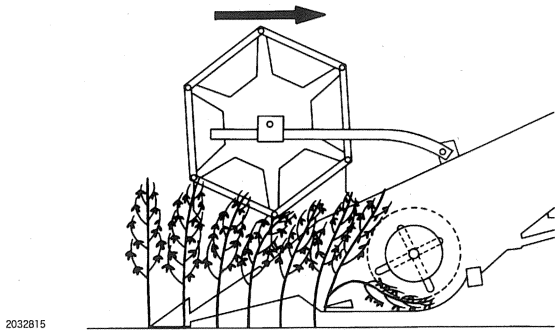
8. 刈高さ・リール前後スイッチで、リールの前後位置を調節してください。



[参考]

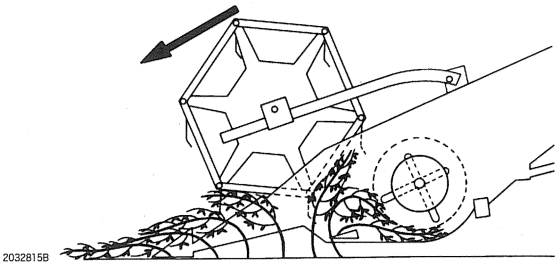
〈立毛した作物の場合〉

●リールの位置を最も後にしてください。



〈倒伏した作物の場合〉

●リールの位置を前方にしてください。リールの作用位置が低くなり、引起こし性能がよくなります。

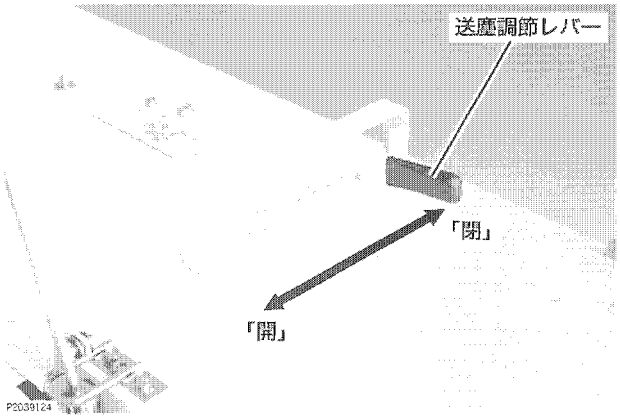


[重要]

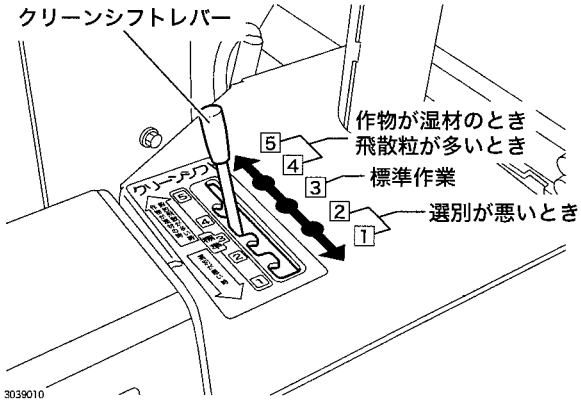
●リールの位置が前すぎると、こく粒損失が増加します。また、取り込み不良が発生し、プラットホームオーガによるフィーダハウスへの送り込みが断続的になり、過負荷の原因になります。

●麦などで向い刈り時は、リールが穂先を押し付けないようにしてください。押し付けすぎると、刈刃で穂先を切ることがあります。

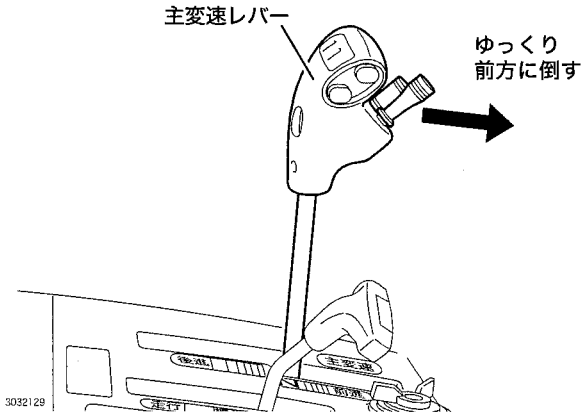
9. 送塵調節レバーで、刈取るそれぞれの作物に応じた位置にセットしてください。(41ページ参照)



10.クリーンシフトレバーを「3」(標準) 位置にセットしてください。(42ページ参照)



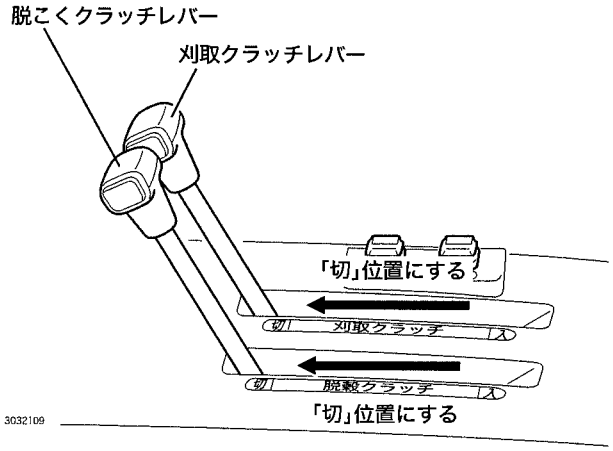
11.主変速レバーを「前進」側にゆっくり動かして、刈り始めてください。



12.作業状況に合わせて、主変速レバーで作業速度を調節してください。

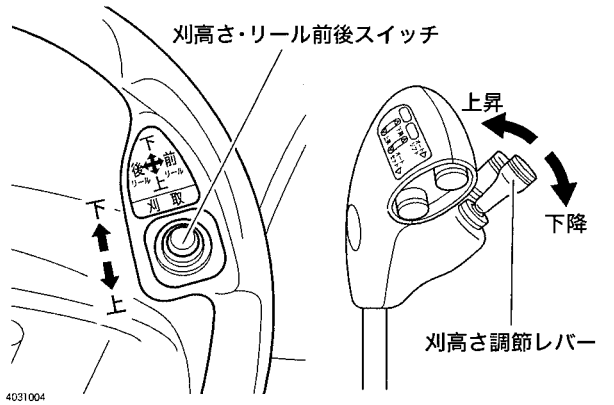
13.刈り終ったら、以下の操作をしてください。

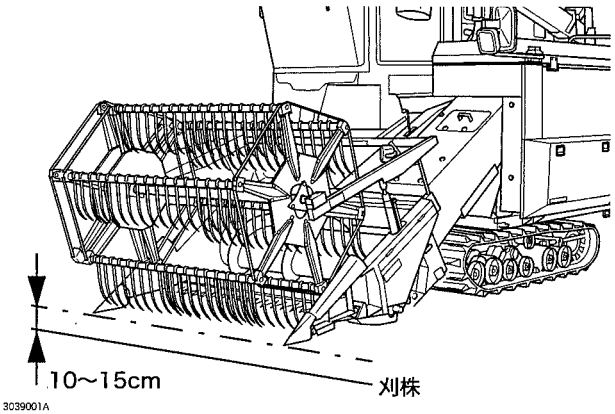
1) 主変速レバーを「N」(中立) 位置にしてください。
2) 刈取クラッチレバーを「切」位置にしてください。
3) ロータでの作物の処理が終わってから、脱こくクラッチレバーを「切」位置にしてください。
4) エンジンを停止してください。
(74ページ参照)
5) 駐車ブレーキをかけてください。
(79ページ参照)



作業中の方向転換

刈取っている条が終り、機体を方向転換する場合は、刈高さ・リール前後スイッチまたは刈高さ調節レバーで、刈取部が刈株や排ワラを引っかけない程度（10～15cm）に上げてください。





[重要]

- 刈取りが終了しても旋回中は、脱こくクラッチレバーを切ったり、エンジン回転を下げないでください。脱こく部では、作物の処理が続いています。
- 刈取オートリフトを使用すると、設定している刈高さに、刈取部が自動的に上昇します。（127ページ参照）

作業速度の選びかた

作物の状態などや使用条件に合わせて、副変速レバーと主変速レバーを調節し、最適な状態で作業してください。（109ページ参照）

湿田ほ場の刈取りかた

- 機体が後傾する場合は、デバイダヘッドを下げて使用してください。（103ページ参照）

[重要]

- 超湿田作業で旋回しにくいときは、ステアリングハンドルを切りすぎていることが考えられますので、ハンドル切角度を小さくして、旋回半径を大きくとってください。
  スピンターン状態になると、思うように旋回できません。
- 湿田作業で機体の沈下が著しく、旋回しにくいときは、旋回モード切替ノブを「湿田モード」に切り替えてください。旋回半径が大きくなり、旋回しやすくなります。

スプレッダ（仕様・オプション）作業

スプレッダ（仕様・オプション）の使いかたについては、スプレッダ用の取扱説明書をご覧ください。

2. 作物に合わせた収穫作業のポイント

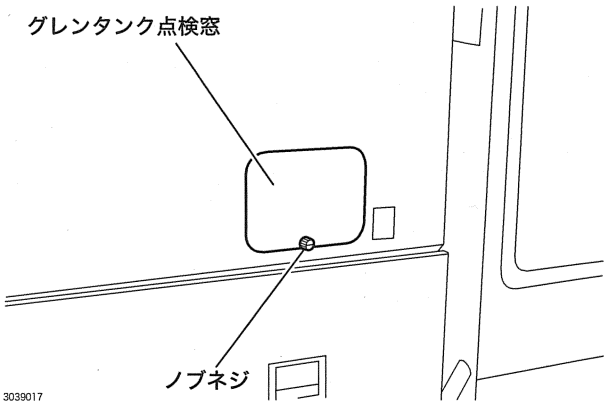
大豆作業の場合

●約10m作業後に、大豆を袋取りして、汚粒がないか確認するか、グレンタンク点検窓から大豆を取り出して、汚粒がないか確認してください。
作業の途中に、大豆を排出したときは、その都度汚粒の確認をしてください。

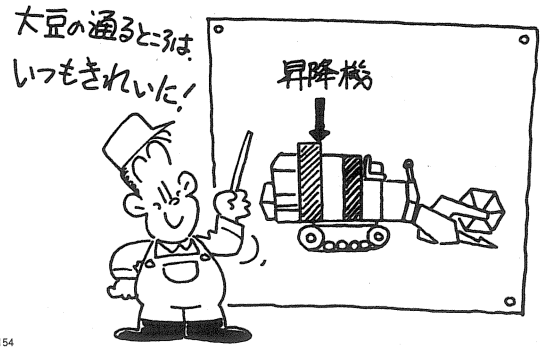
[重要]

●グレンタンク点検窓を開けて、大豆を取り出すときは、必ずエンジンを停止して行ってください。

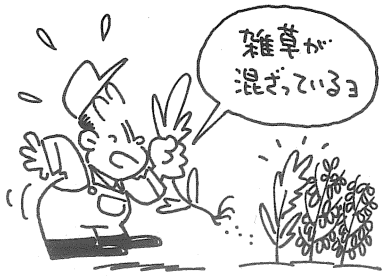
●作業中は、必ずグレンタンク点検窓を閉じてください。



3039017



2039154



1037905C_1



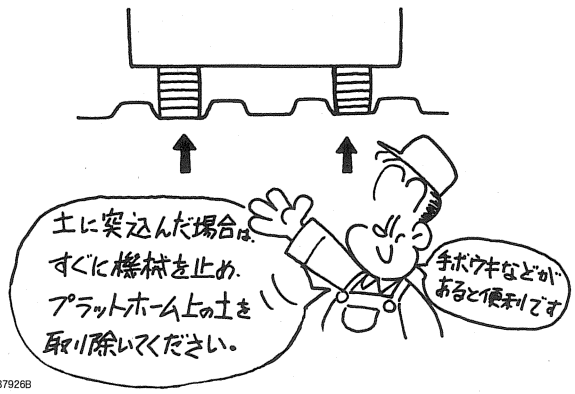
1037905C_2

●汚粒がある場合は、大豆を全て取り出して、きれいな大豆と一緒に混ぜないでください。品質低下につながります。



2042524

●走行位置は、本機が傾き、土に突っ込まないように両方のクローラが同じ位置を通るようにしてください。



1037926B

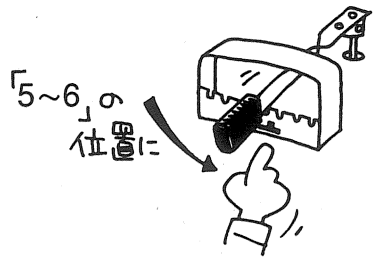
●作業速度は、ヘッドロスおよび未脱粒を少なくするために、できるだけ速くしてください。



2032808C

●送塵調節レバー

大豆の場合は、レバーを「5～6」位置にしてください。「5～6」でスタートし、徐々に「開」にして最適位置にしてください。また、「5～6」の位置でも未脱粒が多い場合は、「閉」の方向へ調節してください。



2039151a

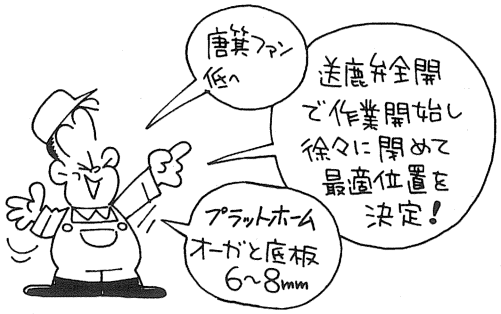
ソバ作業の場合(オプションが必要です。)

●雑草が多い場合や慣行時期刈取りは、チャフシーブ・グレンシーブ・コーンケーブ２番などに詰まりやすいので注意してください。また、刈高さを高くしたほうが雑草の混入が少なくなります。

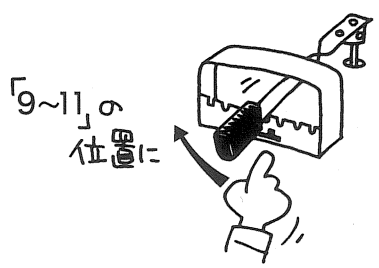


1037912C

●こぎ残しの心配がないので、送塵調節レバーを「開」側いっぱいにして作業を開始し、徐々に「閉」側に調節してください。茎を長いまま排出する程度にしてください。



1037924D



3039018

麦作業の場合(オプションが必要です。)

●自脱形より２～３日遅らせてください。



2038008

●作物を前方へ押倒し気味のときは、リールをいっぱいに上げてください。それでも上げ量が足らない場合は、高刈りしてください。



1037904A

●刈幅いっぱいを低速で刈取るより、刈幅を狭くしてでも高速で刈取るようにしてください。

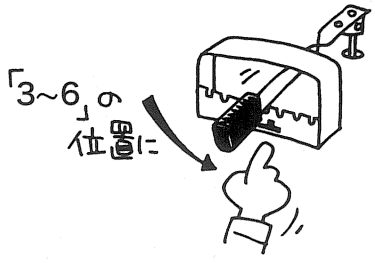


1037913D

●リールを作用させすぎると、脱粒してヘッドロスが増加するため、リール回転速度・刈高さに注意してください。



1037904B



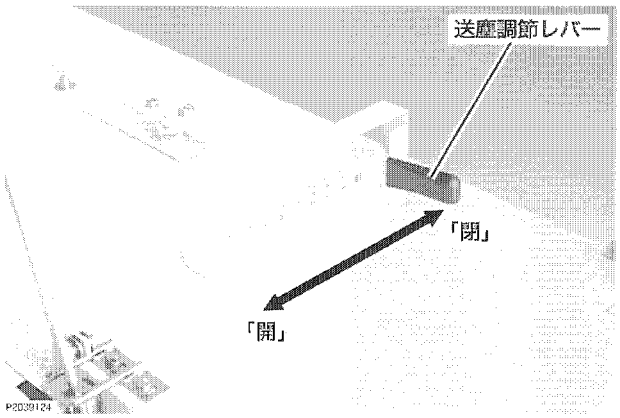
3039018A

3. 作物や作業条件に合わせた各部の調節のしかた

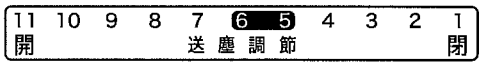
実際に作業を行っていて、次のような現象がでた場合は、説明に従って各部を調節してください。

倒伏した作物や、ロータ内で常時ゴトゴト音がする場合

送塵調節レバーを「開」側に、1ノッチずつ動かしてください。

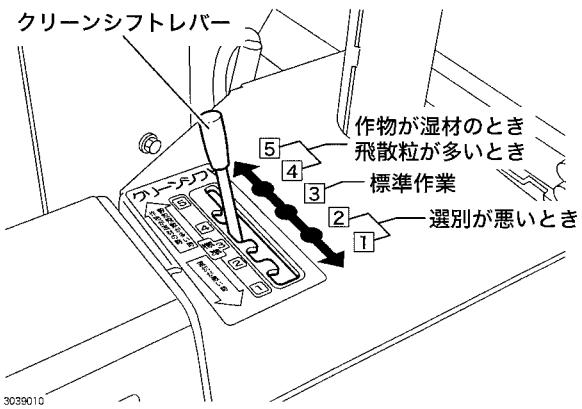


レバー位置の銘板



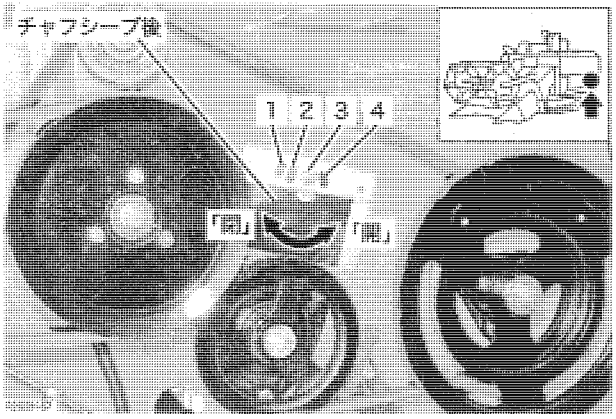
作物が湿材の場合

●クリーンシフトレバーを「4」または「5」位置にしてください。



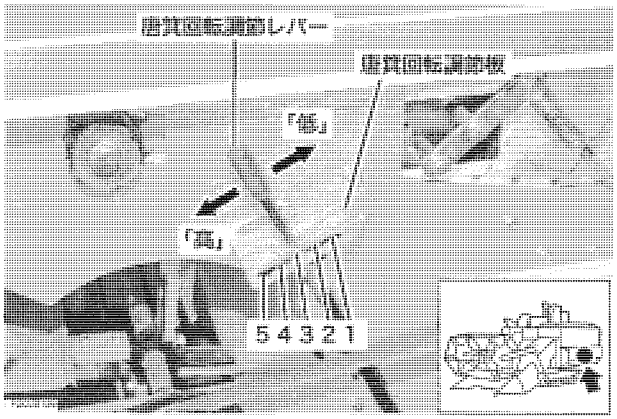
2番に詰まりやすい場合

●チャフシーブ後を「閉」側にしてください。



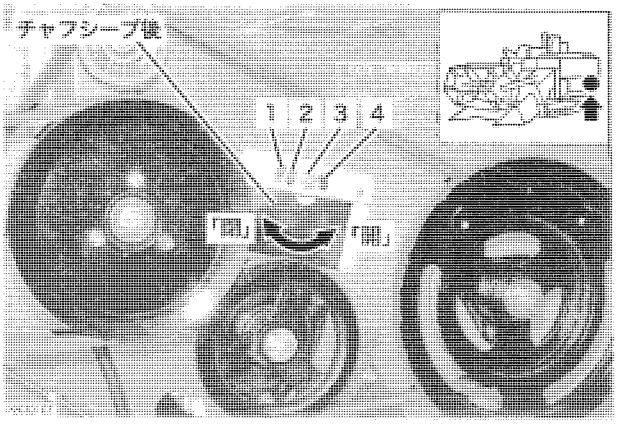
3番ロスが多い場合

●乾材などで3番ロスが目立って多いときは、唐箕回転調節レバーを「低」側にセットしてください。



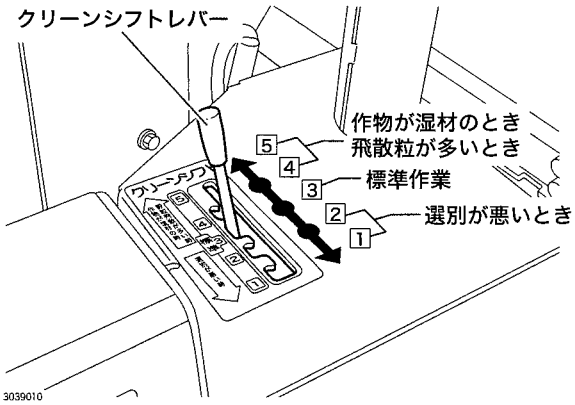
●クリーンシフトレバーを「4」または「5」位置にしてください。

●チャフシーブ後を「開」側にしてください。



選別が悪い場合

●クリーンシフトレバーを「1」または「2」位置にしてください。



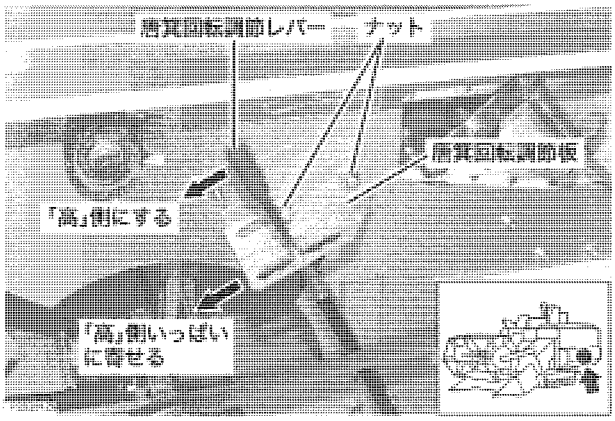
●唐箕回転調節レバーを「高」側にセットしてください。

[参考]

●稈水分が高く、唐箕回転調節レバーを「高」側いっぱいにしても選別が悪い場合は、唐箕回転調節板の長穴を「高」側に調節してください。

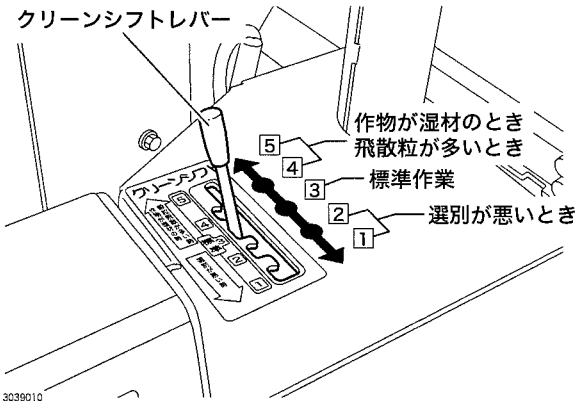
〈唐箕回転調節板の調節のしかた〉

1. 唐箕回転調節板のナット（2個）をゆるめてください。
2. 唐箕回転調節板を「高」側にいっぱいに寄せてください。
3. ナット（2個）を締め付けて固定してください。



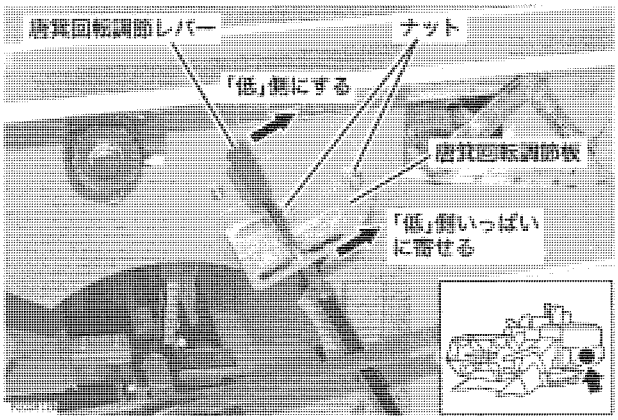
損傷粒が多い場合

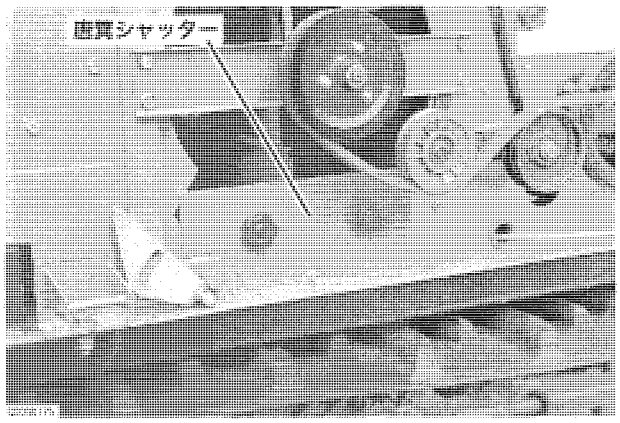
●クリーンシフトレバーを「4」または「5」位置にしてください。



飛散粒(ソバ)が多い場合

唐箕回転調節レバーを「低」側いっぱいにし、さらに唐箕回転調節板の長穴を「低」側にしても、飛散粒が多い場合は、唐箕シャッターを取り付けてください。





[参考]

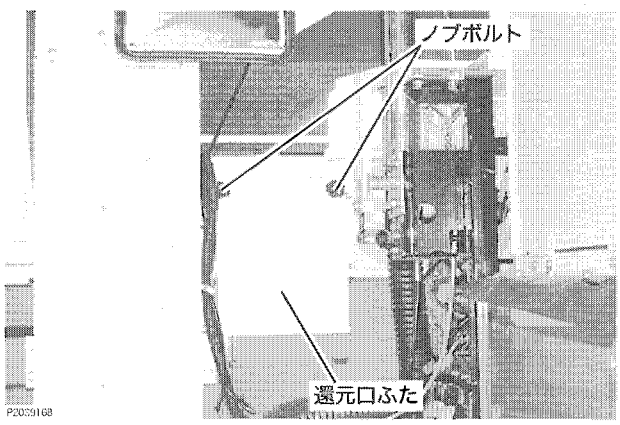
●唐箕シャッターは、ソバキットに入っています。

汚粒(大豆)が多い場合

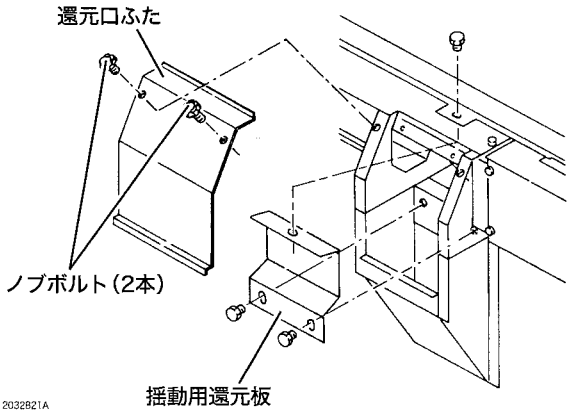
汚粒（大豆）が多く出る場合は、還元板をロータ用から揺動用に組替えて、2番還元口を揺動に還元してください。

〈組み替えのしかた〉

1. グレンタンクをオープンしてください。（グレンタンク仕様のみ）（150ページ参照）
2. ワンマンホッパをオープンしてください。（ワンマンホッパ仕様のみ）（152ページ参照）
3. ノブボルト（2本）を外して、還元口ふたを取り外してください。



4. ロータ用還元板（ナット2個・ボルト2本）を取り外してください。
5. 揺動用還元板（付属品として同梱）をボルト（3本）で取り付けてください。



6. 還元口ふたを取り付け、グレンタンクまたはワンマンホッパを収納してください。

[重要]

- 取り外したロータ用還元板とボルト・ナットは、紛失しないように保管してください。

プラットホームオーガへの取り込みが悪い場合

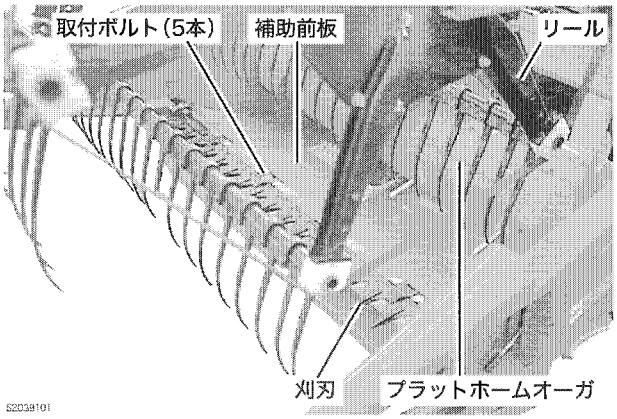
短稈の作物を刈取ると、プラットホームオーガへの取り込みが悪いとき（着莢茎の停滞、落下など）があります。このようなときは、プラットホームオーガ前方の補助前板を取り外して作業してください。

〈取り外しかた〉

1. 補助前板の取付ボルト（5本）を取り外してください。
2. 補助前板を取り外してください。
3. 前記1.で取り外した、取付ボルト（5本）を元通りに取り付けてください。

[重要]

- 取付ボルト（5本）は、刈刃と共締めになっています。必ず元通りに組み付けてください。

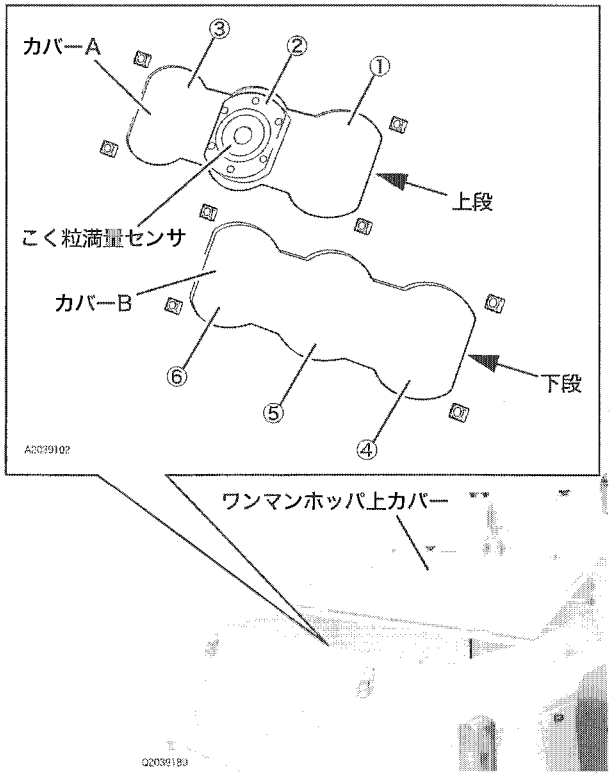


こく粒満量センサの調節のしかた (ワンマンホッパ仕様のみ)

こく粒の種類および流れ具合によって、こく粒満量センサの反応する量が異なることがあります。
タンクシグナルランプの反応が早い、または遅い場合は、こく粒満量センサの取り付け位置を変更してください。

〈こく粒満量センサの調節のしかた〉

1. ワンマンホッパ上カバーを開けてください。(147ページ参照)
2. こく粒満量センサを取り付けている位置と、変更する位置を確認してください。



こく粒	センサ位置	状　態
大豆・麦	①	センサの反応が遅いときに取り付ける
	②	標準位置(出荷時の位置)に取り付ける
	③	センサの反応が早いときに取り付ける
ソバ	④	センサの反応が遅いときに取り付ける
	⑤	標準位置に取り付ける
	⑥	センサの反応が早いときに取り付ける

[参考]

●センサの反応が遅いときとは、例えば1番パイロットランプの警報が、タンクシグナルランプより先に作動するような場合です。

3. ワンマンホッパ上カバーを閉じてください。
4. ワンマンホッパをオープンしてください。(152ページ参照)
5. 下記の要領で、センサの位置を付け替えてください。

[参考]

●出荷時、カバーAは上段(大豆・麦用)の②位置に取り付けられています。

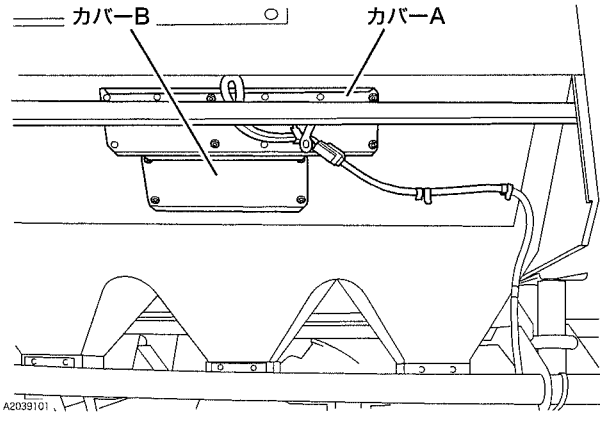
〈大豆・麦の場合〉

1) ワンマンホッパ背面にある、カバーA(センサ有)を取り外してください。
2) センサの反応位置を、カバーAの左右方向で調節して、①～③の位置に取り付けてください。

〈ソバの場合〉

ソバの場合は、カバーAとカバーBを取り替える必要があります。

1) ワンマンホッパの裏面にある、カバーA(センサ有)とカバーB(センサなし)を取り外してください。
2) カバーAを下段、カバーBを上段に取り付けてください。
3) センサの反応位置は、カバーAの左右方向で調節して、④～⑥の位置に取り付けてください。



[参考]

●前記 2. で確認した位置と左右方向が逆になります。注意してください。

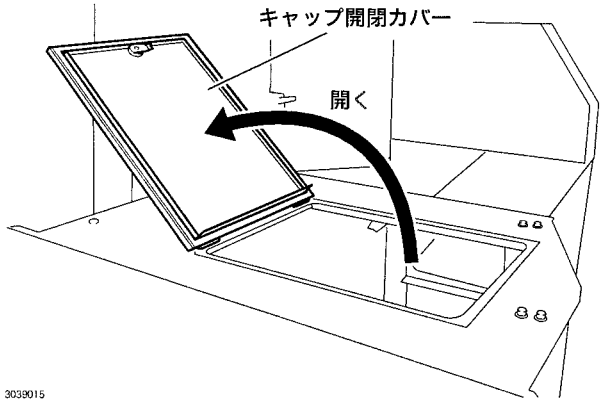
6. ワンマンホッパを収納してください。

グレンセンサの調節のしかた（グレンタンク仕様のみ）

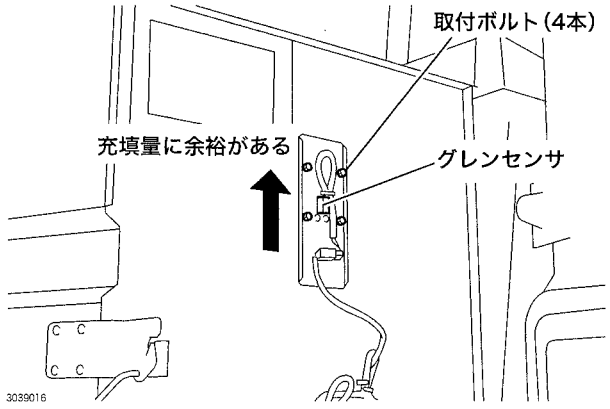
グレンタンクのこく粒充填量は、タンク内のグレンセンサで行っています。グレンセンサは、タンク内のこく粒充填量を感知し、タンクシグナルランプの「3/3」の点滅および警報ブザーを鳴らします。
タンクシグナルランプの「3/3」が点滅し、警報ブザーが鳴っているのに、タンク内のこく粒充填量が少ない場合は、以下の要領で調節してください。

〈調節のしかた〉

1. キャップ開閉カバーを開いてください。



2. グレンタンクをオープンしてください。
（150ページ参照）
3. 取付ボルト（4本）を外して、グレンセンサを上下に調節してください。
●充填量に余裕がある場合…取付位置を上げる。



4. 取付ボルト（4本）で締め付けて固定してください。

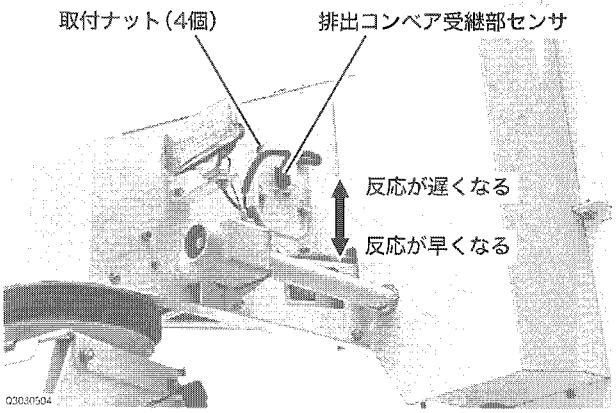
[重要]

●キャップ開閉カバーは、確実に閉めてください。開いていると、こく粒もれの原因になります。

排出コンベア受継部センサの調節のしかた（グレンタンク仕様のみ）

受継コンベアにこく粒が詰まった場合は、排出コンベア受継部センサが反応してベルトが停止します。エンジンを停止して、受継コンベア内の掃除をしてください。（165ページ参照）
稈や夾雑物を取り除いても、たびたび受継部センサが反応する場合は、センサの取付位置を調節して、センサの反応するタイミングを調節してください。

1. 取付ナット（4個）をゆるめてください。
2. 取付位置を以下の状態を踏まえて、上下に調節してください。
●センサの反応が早い…取付位置を上げる
（反応が遅くなる）
●センサの反応が遅い…取付位置を下げる
（反応が早くなる）
3. 取付ナット（4個）を締め付けて固定してください。



作物別標準調節表

項目	作物			
	大豆	ソバ	麦	小豆
コーンケーブ	コーンケーブ パイプ21	コーンケーブ パイプ21	麦用コーンケーブ □16	コーンケーブ パイプ21
ロータ回転数	385rpm	385rpm	805rpm	385rpm
グレンシーブ	φ15	φ9	φ15	φ15
送塵弁	5～6	9～11	3～6	8～11
	ロスの出ない限り「開」の方向にする。			
チャフシーブ前 （クリーンシフト）	3～5	3～5	3～5	3～5
	稈切れが多いときは「低」、ロスの多いときは「高」の方向にする。			
チャフシーブ後 （2番チャフシーブ）	2・3	1・2	3・4	2・3
	2番に詰まりやすいときは「閉」、ロスの多いときは「開」の方向にする。			
唐箕回転調節レバー	1～5	1・2	1・2	1～5
唐箕回転調節板	長穴「高」	長穴「低」	長穴「高」	長穴「高」
唐箕ファン	選別が悪いときは「高」、ロスの多いときは「低」の方向にする。	「低」位置でもロスの多いときは、シャッタを追加する。	選別が悪いときは「高」、ロスの多いときは「低」の方向にする。	選別が悪いときは「高」、ロスの多いときは「低」の方向にする。

注1. この表は、標準的な調節基準です。作物条件によって変わります。
2. 小豆・ソバ・麦仕様に変更する場合は、専用部品が必要です。
3. 唐箕回転調節板を、機体前方にスライドさせると「高」位置で、後方にスライドさせると「低」位置です。

4. 定置脱こくのしかた

⚠危険

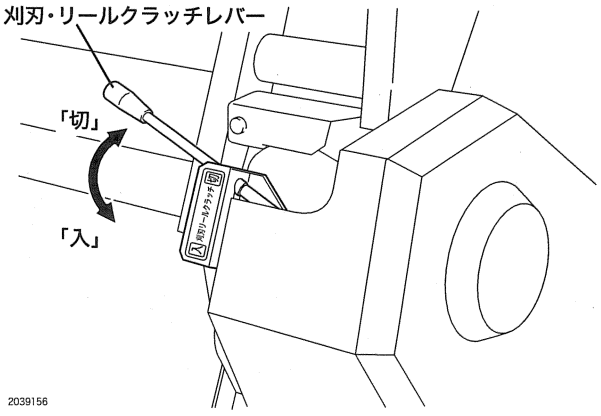
●サヤクズおよびワラクズなどが堆積している付近に機械を止めて、定置脱こくしないでください。マフラーの熱でサヤクズおよびワラクズが高温になり、火災を引き起こすことがあります。

⚠警告

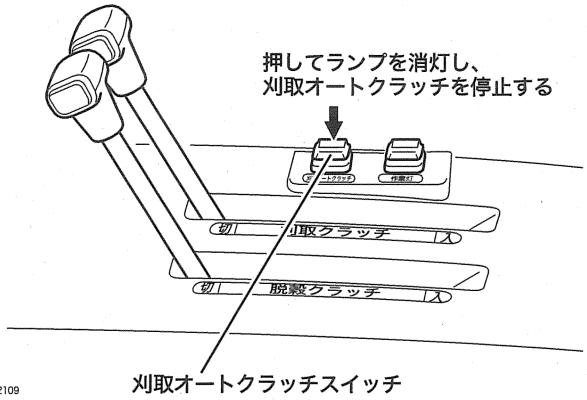
●定置脱こくするときは、必ず刈刃・リールクラッチレバーを「切」位置にしてください。「入」位置のままだと、リールに巻き込まれて傷害事故をまねくおそれがあります。

●定置脱こくをするときは、必ず刈取オートクラッチスイッチを「切」（ランプ消灯）にしてください。「入」（ランプ点灯）のままだと、オーガが急に回りだし、巻き込まれて傷害事故を起こすおそれがあります。

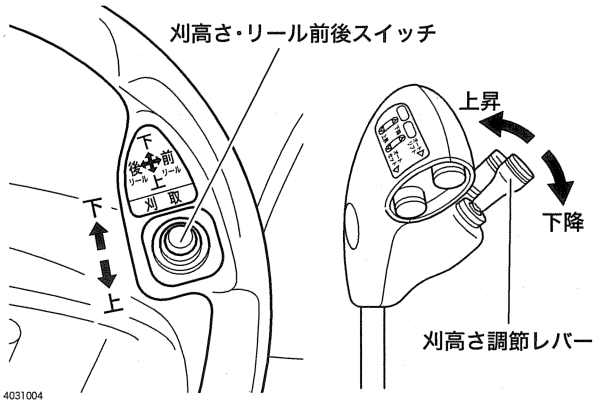
1. 刈刃・リールクラッチレバーを「切」位置にしてください。



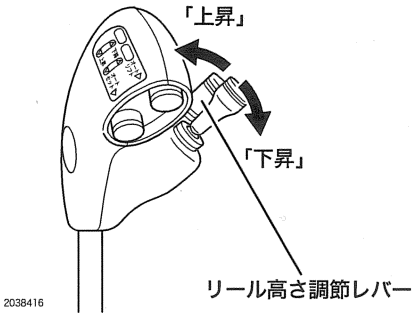
2. エンジンを始動してください。
（70ページ参照）
3. 駐車ブレーキをかけてください。
（79ページ参照）
4. 刈取オートクラッチスイッチを押して「切」（ランプ消灯）にしてください



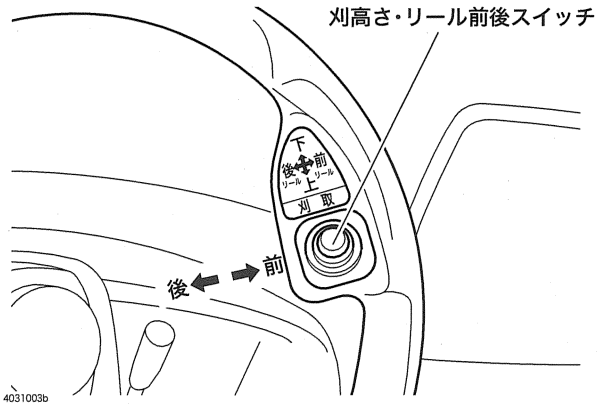
5. 刈高さ・リール前後スイッチを「下」側、または刈高さ調節レバーを「下降」側にしてください。刈取部が下がります。



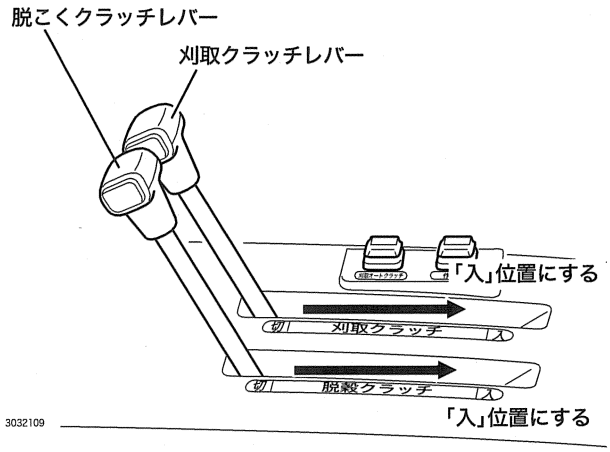
6. リール高さ調節レバーを「上昇」側にしてください。リールを最上げ位置にします。



7. 刈高さ・リール前後スイッチの「後」側を押してください。リールを最後方位置にします。

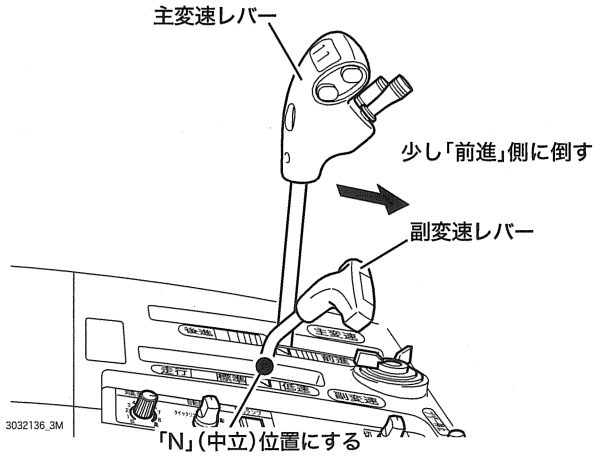


8. 刈取クラッチレバーと脱こくクラッチレバーを「入」位置にしてください。



9. 副変速レバーを「N」(中立)位置にしてください。

10. 主変速レバーを少し「前進」側に倒してください。



11. 作物を少量ずつ抱いて、プラットホームに投げ込んでください。

[重要]

- **定置脱こくを行う場合は、ひとかかえの作物の手こぎを、同じ場所で3回以上行わないでください。稈が詰まり、排出部が破損するおそれがあります。**

12. 作業が終了したら、主変速レバーを「N」(中立)位置にして、刈取クラッチレバー・脱こくクラッチレバーを「切」位置にしてください。

13. エンジンを停止してください。

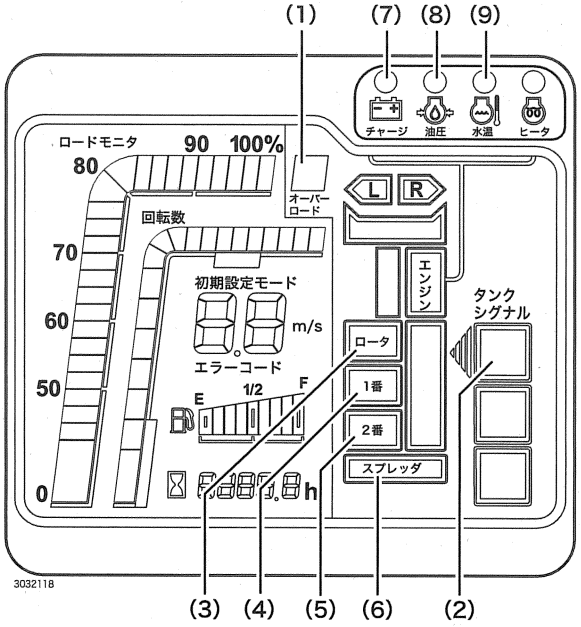
14. 本機を元の状態に戻してください。

5. 警報装置が作動したときの処置のしかた

⚠ 警告

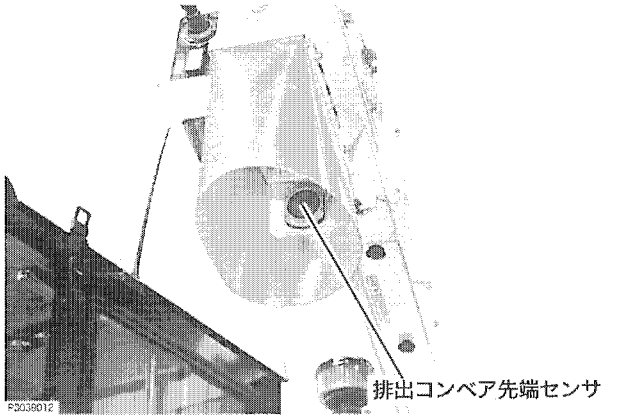
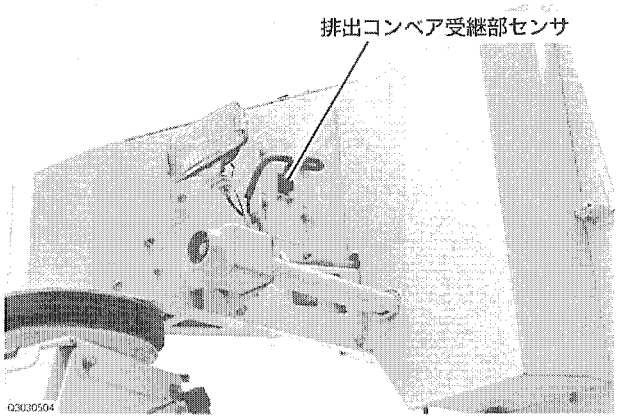
- 詰まりなどを除去する場合は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
- コンベア部・チェン部に手を入れないでください。ケガをするおそれがあります。

液晶コンビネーションメータのモニターランプが点灯したとき、およびブザーが鳴ったときは、異常箇所を確認して、次の表の処置を行ってください。



	名　称	警報の方法	処　置	点検・整備
(1)	オーバーロード	◎	エンジン負荷が過負荷になっています。速度を落としてください。	
(2)	タンクシグナル「3/3」	◎	グレンタンク、およびワンマンホッパにこく粒が充満しています。作業を中止し、こく粒を排出してください。または、バケットコンベア内にこく粒が詰まっています。掃除を完全にしてください。	
(3)	ロータ	○	エンジン負荷が過負荷になっています。速度を落としてください。	
(4)	1 番	○	バケットコンベアとグレンタンク、およびワンマンホッパの詰まりです。掃除を完全にしてください。	
(5)	2 番	○	2番スラットコンベアの詰まりです。掃除を完全にしてください。(159ページ参照)	●ベルトのゆるみ。
(6)	スプレッダ	○	●スプレッダ(仕様・オプション)の詰まりです。掃除を完全にしてください。 ●スプレッダなしの作業の場合は、センサカプラが外れていますので、ダミーカプラに接続してください。	●センサカプラの接続確認
(7)	チャージ	●	キースイッチが「入」位置で点灯し、エンジン始動と共に消えるのが正常です。運転中の点灯は、バッテリへ充電されていません。充電回路の異常を調べてください。	●バッテリ充電。 ●ベルトのゆるみ。
(8)	油圧	●	キースイッチが「入」位置で点灯し、エンジン始動と共に消えるのが正常です。運転中の点灯は、オイル量が正常か点検をしてください。	●オイル補給。 ●オイル粘度低下。
(9)	水温	●	エンジンを停止し、冷却水が不足している場合は、エンジンが冷えてから補水してください。ベルトの状態に応じて、調節または交換してください。	●ラジエータファンベルトのゆるみ。 ●水もれの有無。 ●エンジン防塵装置のゴミの掃除。

◎はランプ点滅と同時に、ブザーが断続で鳴ります。
○はランプ点滅と同時に、ブザーが連続で鳴ります。
●はランプ点灯と同時に、ブザーが連続で鳴ります。

	名　　称	警報の方法	処　　置	点検・整備
(10)	排出コンベア	ブザーが連続で鳴り、排出クラッチのランプが消灯する。	排出コンベア、または受継コンベアにこく粒が詰まって、ベルトが停止しています。 エンジンを停止して、作業を中止し、排出コンベア、または受継コンベア内を掃除してください。(165ページ参照) コンベア内の詰まりは、センサ部で感知しています。   	

6. 自動装置について

自動装置について説明します。自動装置を使って、能率の良い作業を行ってください。

自動定回転制御装置

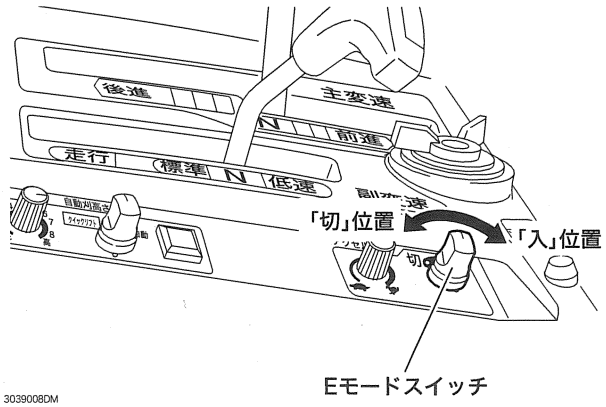
⚠注意

- **あぜ越えや刈取部の脱着、トラックへの積み・降ろしをするときは、必ずEモードスイッチを「切」位置にしてください。Eモードスイッチが「入」位置になっていると、アクセルダイヤルで、エンジン回転の調節ができません。**

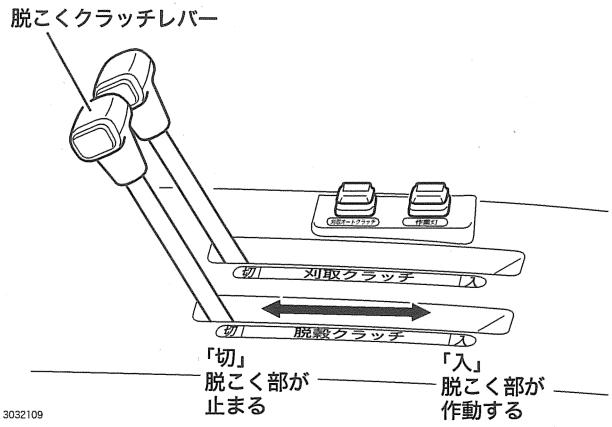
自動定回転制御装置とは、作業時および移動走行時に、エンジン回転を常に定格回転（2800rpm）に保つ制御です。

〈オートデセル機能〉
非作業時には自動的にローアイドリング（低回転）に下げる機能です。

〈操作のしかた〉
1. エンジンを始動してください。（70ページ参照）
2. Eモードスイッチを「入」位置にしてください。



3. 脱こくクラッチレバーを「入」位置にしてください。エンジン回転が、自動的に定格回転になります。



下記の状態でも、Eモードスイッチが「入」位置のときは、自動的に定格回転になります。

- 脱こくクラッチレバーが「切」位置のときに、前進または後進した場合でも、自動的に定格回転になります。
- 排出クラッチレバーを「入」位置にして、排出クラッチが入ると、自動的に定格回転になります。（グレンタンク仕様のみ）
- 排出自動旋回中は、自動的に定格回転になります。（グレンタンク仕様のみ）
- 排出コンベア先端のコンベアクロスレバーを上昇位置にしたときにも、自動的に定格回転になります。（グレンタンク仕様のみ）

[参考]

- Eモードスイッチが「入」位置のとき、脱こくクラッチレバーが「切」位置でも、機体が停止してから5秒間は定格回転のままです。5秒後に、自動的にローアイドリング（低回転）に戻ります。

刈取オートリフト・刈取オートセット装置

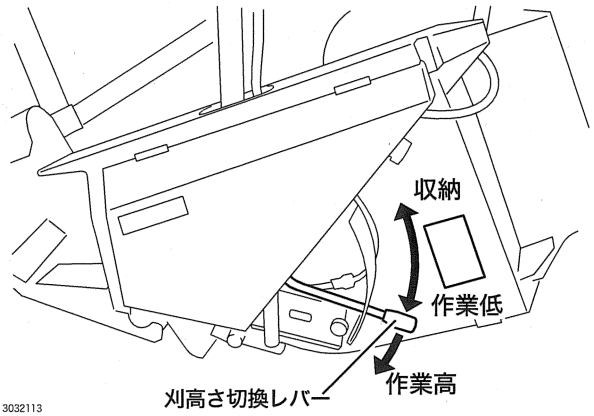
⚠注意

- 刈取クラッチレバーが「入」位置で、刈高さ切換レバーが「作業」位置（オートセットのみ）のときは、機体が停止していても、オートリフトボタンを押すと、刈取部が上昇します。また、オートセットボタンを押すと、刈取部が下降します。周囲の安全を確認してから、オートリフトボタンおよびオートセットボタンを押してください。
- エンジンが停止している場合でも、刈取クラッチレバーとキースイッチが「入」位置にあると、オートリフト・オートセットボタンを押したときに刈取部が下降することがあります。周囲の安全を確認し、操作を行ってください。

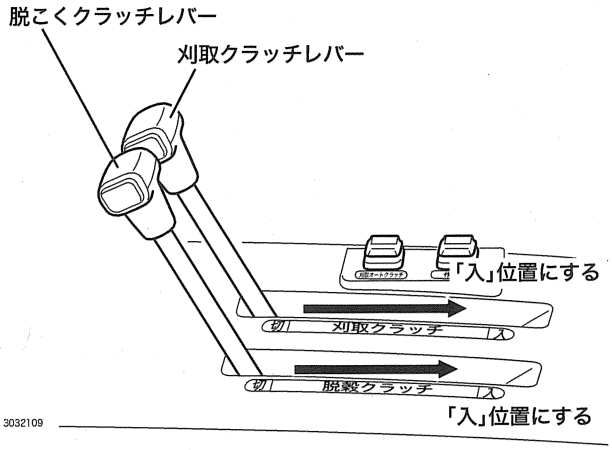
- 刈取オートリフト装置とは、刈取クラッチレバーが「入」位置のときに、オートリフトボタンを押すと、刈取部を設定高さまで上昇させる装置です。
- 刈取オートセット装置とは、刈取クラッチレバーが「入」位置で、刈高さ切換レバーが「作業」位置のときに、オートセットボタンを押すと、刈取部を設定高さまで下降させる装置です。

〈操作のしかた〉

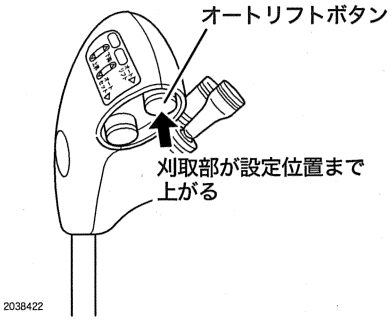
1. 刈高さ切換レバーを「作業」位置にしてください。（レバーは押し込みながら操作してください。）



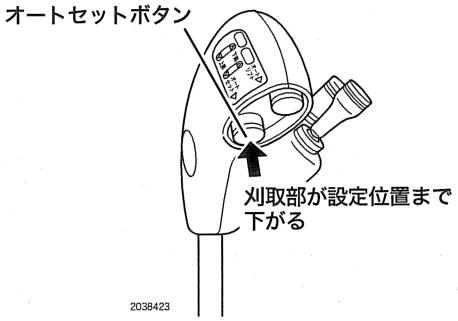
2. エンジンを始動してください。（70ページ参照）
3. 脱こくクラッチレバー・刈取クラッチレバーを「入」位置にしてください。



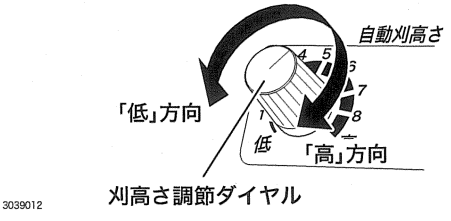
4. オートリフトボタンを押してください。刈取部が設定された高さまで上昇します。（オートリフトの高さは、「オートリフト高さの設定のしかた」（130ページ参照）に従って設定してください。）



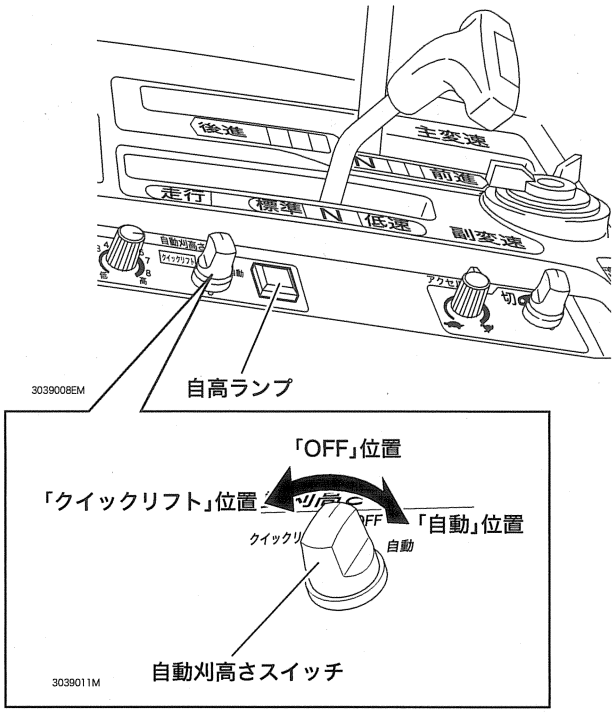
5. オートセットボタンを押してください。



6. 刈高さ調節ダイヤルをゆっくり回して、希望の刈高さに設定してください。（128ページ参照）



7. 自動刈高さスイッチが「自動」位置のときは、刈取部を設定した高さにセットし、自動刈高さ制御を開始します。（自高ランプは点灯します。）



[参考]

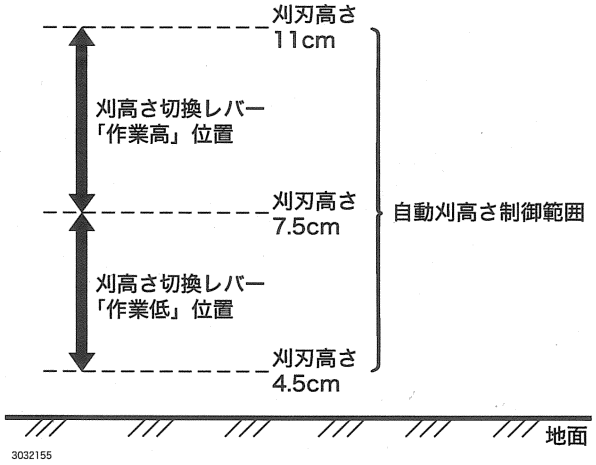
● 自動刈高さスイッチが「自動」位置以外の場合は、以下の作動を行います。

・「クイックリフト」位置…センサソリが刈高さ調節ダイヤルで調節した高さ以下になったときに、自動的に刈取部を上昇します。

・「OFF」位置 …… 刈取部をセンサソリが地面に接地するまで下降します。

[参考]

● 刈高さ調節ダイヤルの調節範囲は下図の通りです。



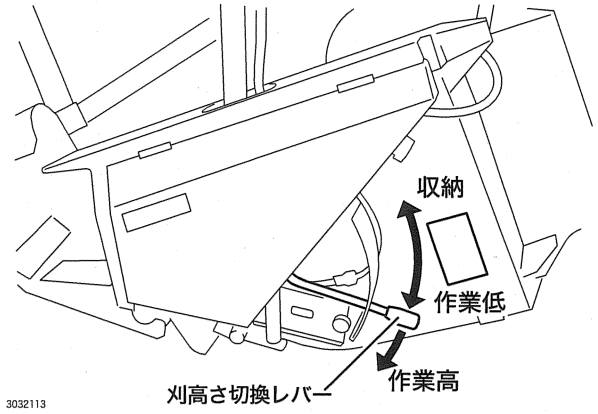
● 自動制御中に手動操作を行い、センサソリが接地からフリー状態（地面から離れる）になると、自高ランプが点灯から点滅に変わり、自動制御は中断されます。自動制御（自高ランプ点灯）に戻すためには、オートセットボタンを押すと復帰します。

〈刈取オートクラッチ機構について〉

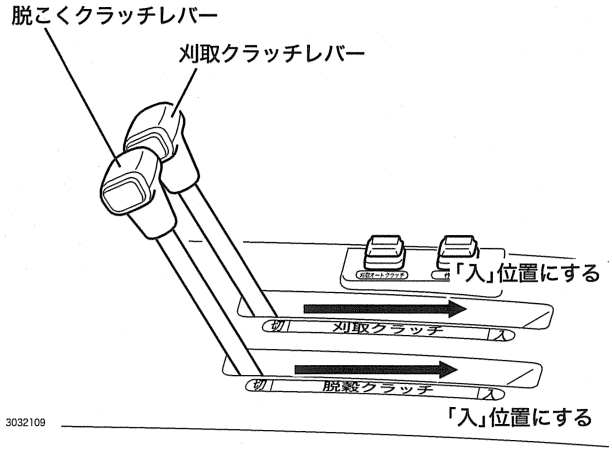
刈取オートクラッチ機構とは、刈取オートクラッチスイッチが「入」（ランプ点灯）で、刈取部が駆動している状態のときに、オートリフトボタンで刈取部を上昇させると、刈取部の駆動が自動的に止まり、また、オートセットボタンで刈取部を下降させると、刈取部が自動的に駆動する機構です。

〈オートセット高さの設定のしかた〉
オートセットで、下降する刈取部の高さを設定することができます。

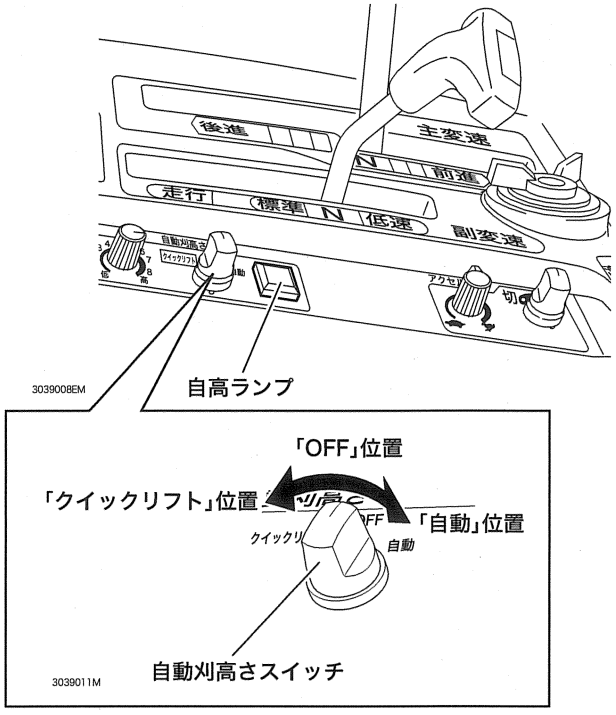
1. 刈高さ切換レバーを「作業」位置にしてください。（レバーは押し込みながら操作してください。）



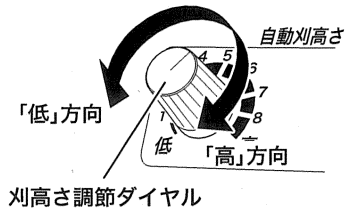
2. エンジンを始動してください。
（70ページ参照）
3. 脱こくクラッチレバー・刈取クラッチレバーを「入」位置にしてください。



4. 自動刈高さスイッチを「自動」位置（自高ランプ点灯）にしてください。

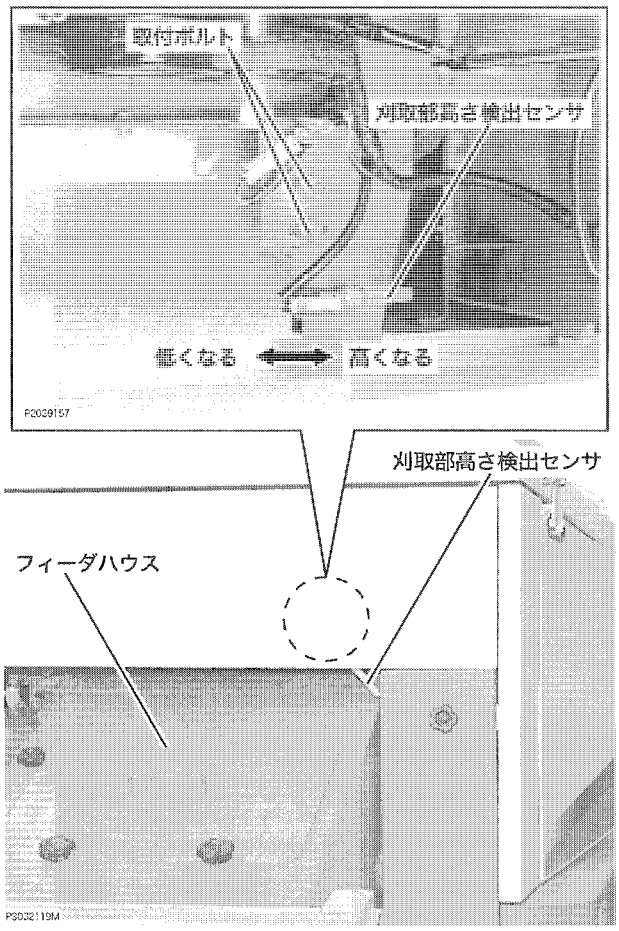


5. オートセットボタンを押して刈取部を下げてください。
6. 刈高さ調節ダイヤルをゆっくり回して、希望の刈高さに設定してください。



〈オートリフト高さの設定のしかた〉

1. ロータカバーをオープンしてください。
   (149ページ参照)
2. 刈取部高さ検出センサの取付ボルト（2本）をゆるめて、刈取部高さ検出センサを左右にスライドして調節してください。



3. ロータカバーを閉じてください。

刈高さ自動制御装置

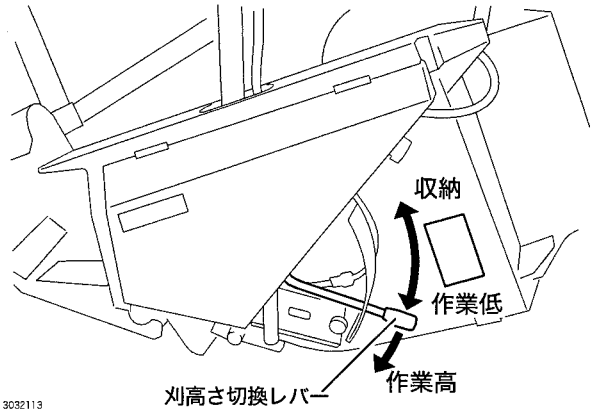
⚠注意

● エンジンが停止している場合でも、刈取クラッチレバーとキースイッチが「入」位置のときに、自動刈高さスイッチが「自動」位置にあると刈取部が下降することがあります。周囲の安全を確認し、操作を行ってください。

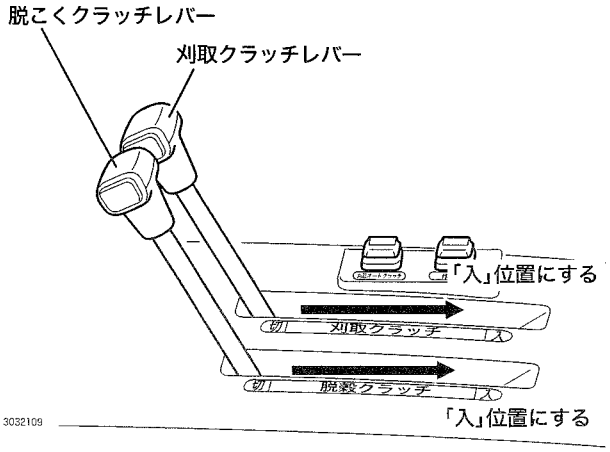
刈高さ自動制御装置とは、希望の刈高さをセットすると、刈取部のセンサソリによって、刈取部の高さを感知し、ほ場の条件が変化しても希望の刈高さに自動調節する装置です。刈刃高さは、地面から4.5～11cmの範囲です。

〈操作のしかた〉

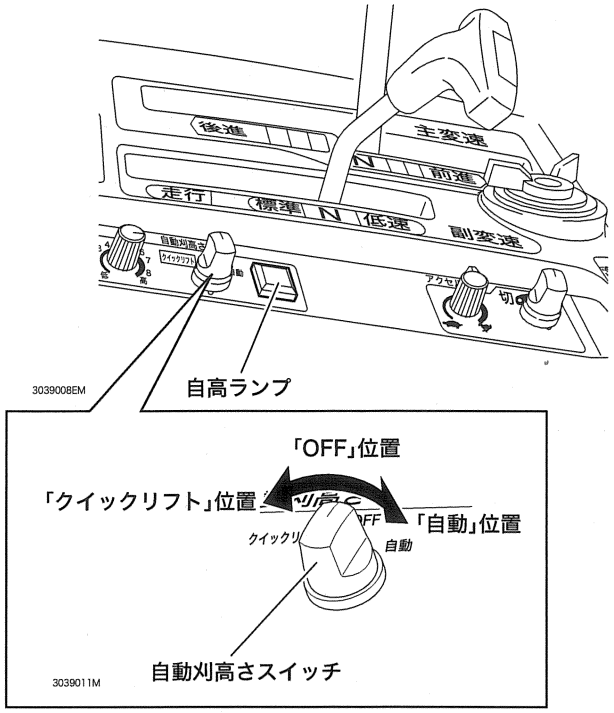
1. 刈高さ切換レバーを「作業」位置にしてください。（レバーは押し込みながら操作してください。）



2. エンジンを始動してください。
   (70ページ参照)
3. 脱こくクラッチレバー・刈取クラッチレバーを「入」位置にしてください。

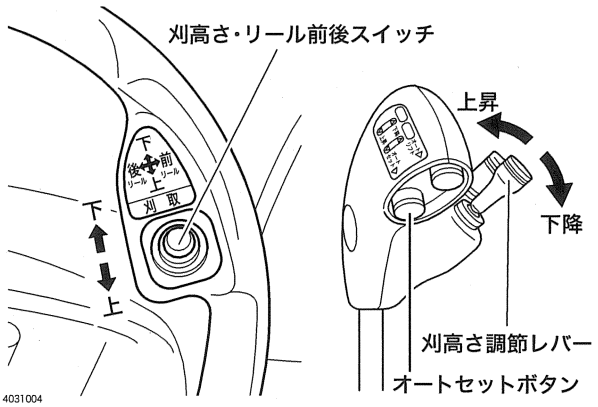


4. 自動刈高さスイッチを「自動」位置にしてください。刈取部のセンサソリが地面に接地していれば、自高ランプが点灯し、自動制御が働きます。

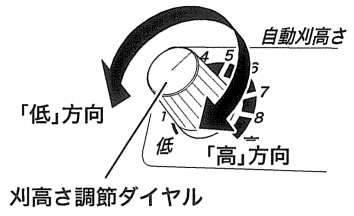


[参考]

- 自高ランプが点滅になっている場合は、自動制御は働きませんので、以下の操作を行ってください。
- オートセットボタンを押すか、刈高さ・リール前後スイッチまたは刈高さ調節レバーで、刈取部のセンサソリが接地するまで刈取部を下げてください。自高ランプが点灯し、自動制御が働きます。



5. 刈高さ調節ダイヤルをゆっくり回して、刈取部を希望の刈高さに設定してください。刈取作業を始めると、自動的に刈高さが調節されます。

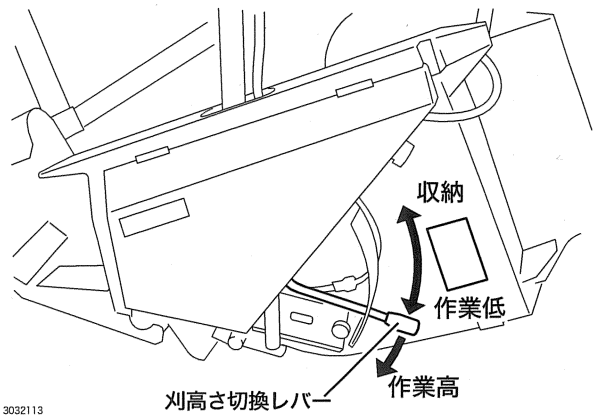


[参考]

- 自動刈高さスイッチが「自動」位置（自高ランプ点灯）のときに、刈高さ・リール前後スイッチまたは刈高さ調節レバーを操作すると、手動優先装置が働き、刈取部の昇降が行えます。
- 手動優先装置が働いて、刈取部のセンサソリが接地からフリー状態（地上から離れる）になると、自高ランプが点滅に変わり、自動制御は中断されます。
  自動制御（自高ランプ点灯）に戻すためには、オートセットボタンを押すか、刈高さ・リール前後スイッチまたは刈高さ調節レバーで、刈取部のセンサソリが接地するまで、刈取部を下げてください。

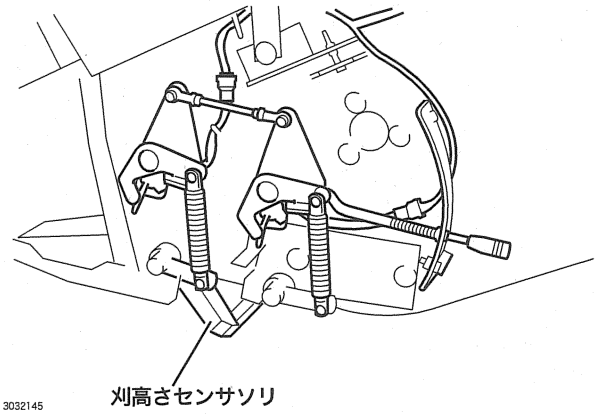
[重要]

- 刈取作業時は、刈高さ切換レバーを「作業」位置にしてください。「収納」位置で使用すると、自動装置が正しく働きません。



- 刈高さ切換レバーが「収納」位置のときは、オートセットボタンを押さないでください。オートセットボタンを押すと、刈取部が下降し続け、破損する原因になります。刈高さ・リール前後スイッチまたは刈高さ調節レバーで刈取部を昇降してください。

●刈高さセンサソリに稈切れ・雑草がからんだり泥が詰まっていると、適正な制御が行われないことがあるので、必ず取り除いてください。



●コンバインを水洗いする場合は、スイッチ・パネル・コントローラ付近に水がかからないように注意してください。

⚠注意

●移動走行時は、必ず自動刈高さスイッチを「OFF」位置（自高ランプ消灯）にしてください。移動走行するときに刈高さ自動装置が働くと、刈取部がかってに昇降し、破損やケガをするおそれがあります。

刈取バックアップ装置

刈取バックアップ装置とは、重大な事故を防止するための補助的な装置です。刈取クラッチレバー「入」位置、自動刈高さスイッチ「自動」位置で自高ランプが点灯のとき、機体を後進すると、センサソリがフリー状態になる位置まで刈取部が上昇し、その後30cm後進すると、オートリフト高さまで上昇します。

自高ランプが点滅のときは、機体が30cm後進すると、オートリフト高さまで上昇します。

[重要]

●後進するときは、周囲の状況に注意して、刈取部を上昇させてから後進してください。

車高水平制御装置

〈機体水平制御について〉

⚠注意

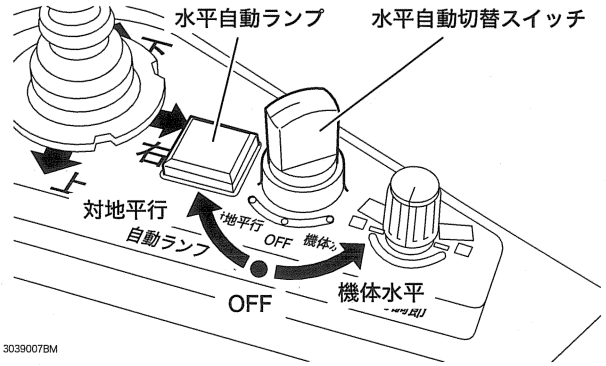
●移動走行時、およびトラックなどへの積み・降ろしをする場合は、必ず脱こくクラッチレバー・刈取クラッチレバーを「切」位置にし、水平自動切替スイッチを「OFF」（水平自動ランプ消灯）にして、車高を最下位置にしてください。機械が急に傾いて転倒し、ケガをするおそれがあります。

機体水平制御は、ほ場の条件が変化しても、常にコンバインを水平に保つ装置のことです。また、傾斜角調節ダイヤルにより、機体を希望の角度に調節できるので、精度の高い刈取作業が行えます。

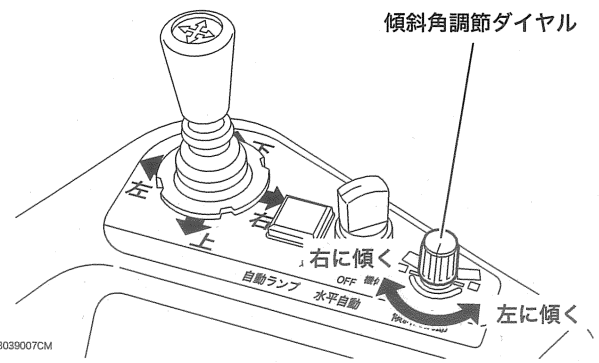
車高調節レバーにより、水平制御の基準位置を変更できます。

〈操作のしかた〉

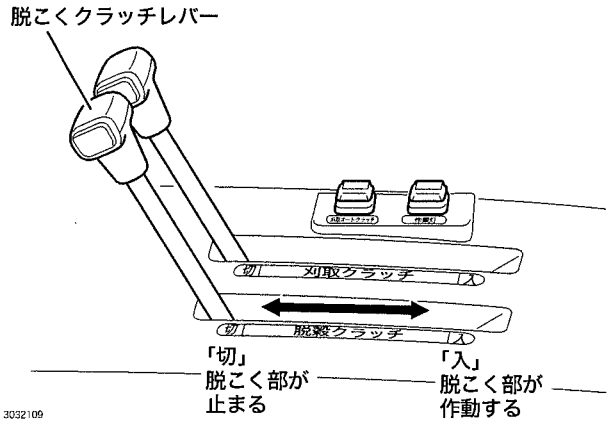
1. エンジンを始動してください。
（70ページ参照）
2. 水平自動切替スイッチを「機体水平」位置にしてください。



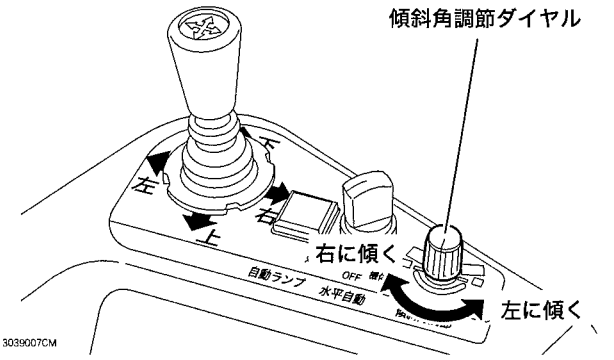
3. 傾斜角調節ダイヤルを「水平」位置にしてください。



4. 脱こくクラッチレバーを「入」位置にしてください。



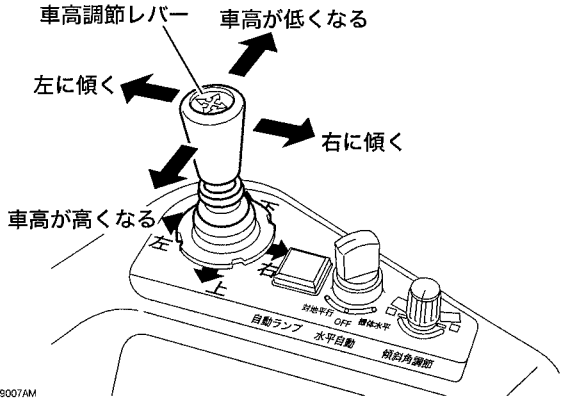
5. コンバインを左に傾斜させたいときは、傾斜角調節ダイヤルをゆっくり側へ回し、右に傾斜させたいときは側へ回してください。



6. コンバインの車高を調節するときは、車高調節レバーを前後に操作してください。（このとき、機体水平制御は左側の車高（機体水平制御の基準高さ）を保持するように行われます。）

[参考]

- 機体水平制御には、手動優先回路が組み込まれているので、自動制御中でも車高調節レバーを操作すると、手動で機体の角度変更や昇降が行えます。



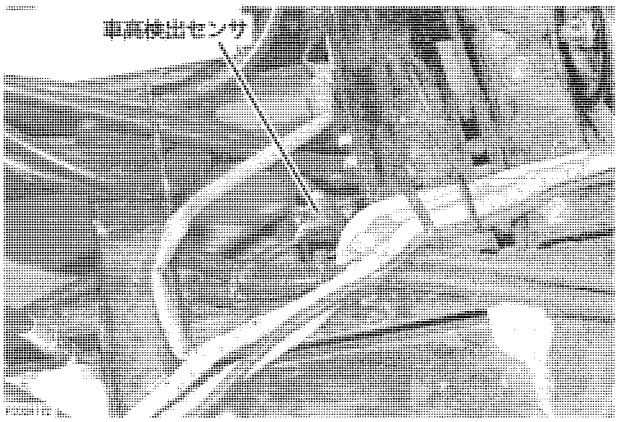
- 機体水平制御は、自動・手動ともに左右のクローラの高さを上下することで傾きを制御しています。
- 脱こくクラッチレバーを「切」位置にすると、元の高さの20 %の位置まで下降します。その後、再び脱こくクラッチレバーを「入」位置にすると、水平自動切替スイッチが「機体水平」位置（水平自動ランプ点灯）のときは、機体が元の高さ（最後に車高調節レバーで車高を調節した高さ）に戻ります。

⚠注意

- 脱こくクラッチレバーを「入」位置にしたり、水平自動切替スイッチを「機体水平」位置（水平自動ランプ点灯）にしたときに、機体が昇降することがあります。周りに障害物がないことを十分に確認してから操作を行ってください。
- 自動制御中に手動で機体の角度や車高を変更したときは、水平自動ランプは消灯します。

[重要]

- 車高検出センサに稈切れ・雑草がからんだり泥が詰まっていると、適正な制御が行われないことがあるので、必ず取り除いてください。



- コンバインを水洗いする場合は、スイッチ・パネル・コントローラ付近に水がかからないように注意してください。

〈対地平行制御について〉

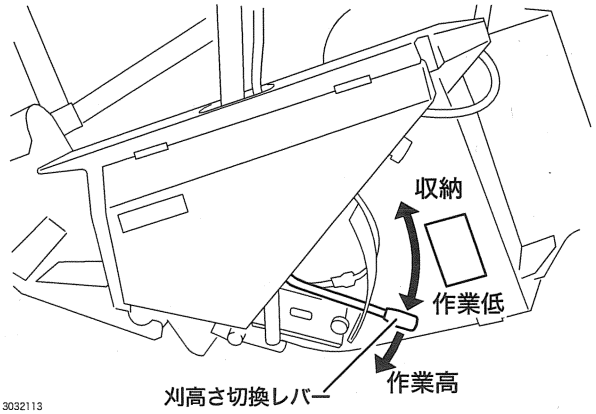
⚠注意

- **移動走行時、およびトラックなどへの積み・降ろしをする場合は、必ず脱こくクラッチレバー・刈取クラッチレバーを「切」位置にし、水平自動切替スイッチを「OFF」（水平自動ランプ消灯）にして、車高を最下位置にしてください。機械が急に傾いて転倒し、ケガをするおそれがあります。**

対地平行制御は、ほ場の条件が変化しても、刈高さセンサソリが地面に接地しているときに、常にコンバインを地面に対して平行に保つ装置のことです。刈高さ自動制御装置と合わせて使用すると、本機が傾いたり、左右のうねの高さが異なったりしても、左右の刈高さが一定に保たれますので、精度の高い刈取作業が行えます。
刈高さ自動制御を使用しないときにも、左右の刈高さに差がなく保たれますので、精度の高い刈取作業が行えます。

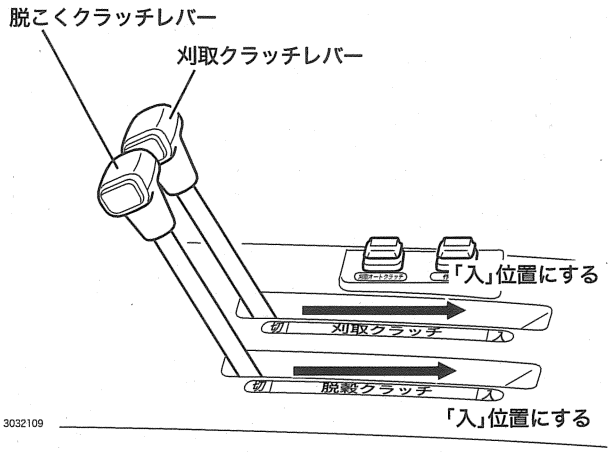
〈操作のしかた〉

1. 刈高さ切換レバーを「作業」位置にしてください。（レバーは押し込みながら操作してください。）

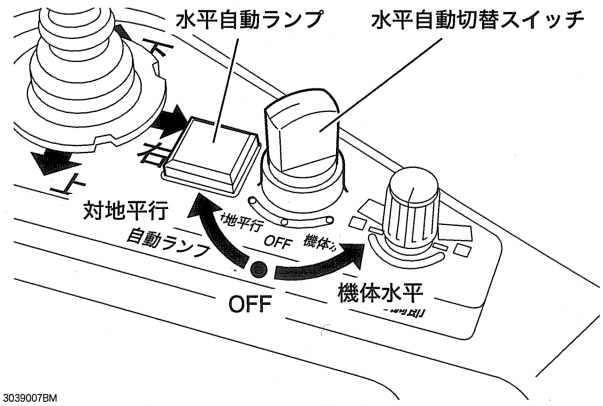


2. エンジンを始動してください。
（70ページ参照）

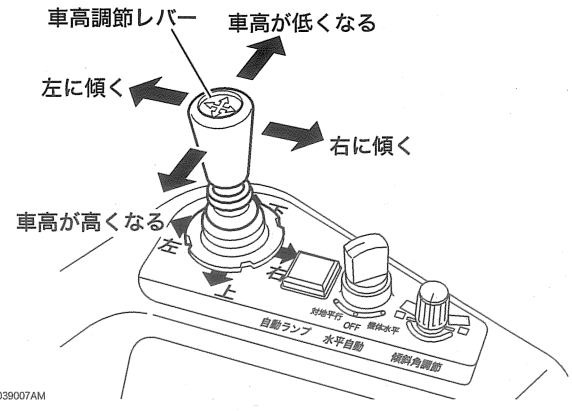
3. 脱こくクラッチレバー・刈取クラッチレバーを「入」位置にしてください。



4. 水平自動切替スイッチを「対地平行」位置にしてください。刈高さセンサソリが地面に接地していると水平自動ランプが点灯し自動制御が働きます。



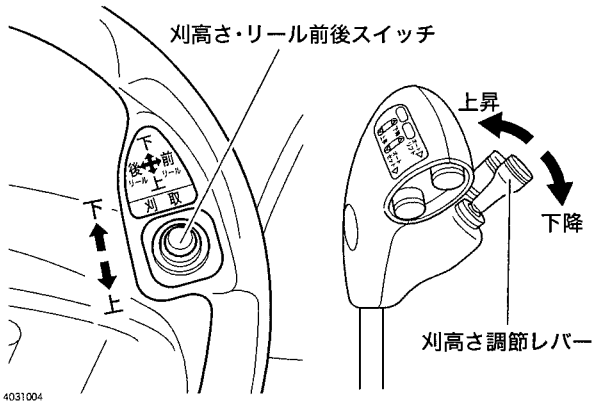
5. コンバインを左右に傾斜させたいときは、車高調節レバーを左右に操作してください。
6. コンバインの車高を調節するときは、車高調節レバーを前後に操作してください。（このとき、対地平行制御は左側の車高（対地平行制御の基準高さ）を保持するように行われます。）



[参考]

●水平自動ランプが点滅しているときには、自動制御は働きませんので、以下の操作を行ってください。

オートセットボタンを押すか、刈高さ・リール前後スイッチまたは刈高さ調節レバーで、刈取部の刈高さセンサソリが接地するまで刈取部を下げてください。水平自動ランプが点灯し自動制御が働きます。



●刈高さセンサソリが左右とも接地していない場合で、水平自動ランプが点滅しているときには、左右のクローラの高さが同じに制御されます。

●対地平行制御には、手動優先回路が組み込まれていますので、自動制御中でも車高調節レバーを操作すると、手動で機体の角度変更や昇降が行えます。

●水平自動切替スイッチが「対地平行」位置になっているときは、傾斜角調節ダイヤルを操作しても、コンバインの傾きは変わりません。

●脱こくクラッチレバーを「切」位置にすると、元の高さの20%位置まで下降します。その後、再び脱こくクラッチレバーを「入」位置にすると、水平自動切替スイッチが「対地平行」位置のときは、機体が元の高さ（最後に車高調節レバーで車高を調節した高さ）に戻ります。

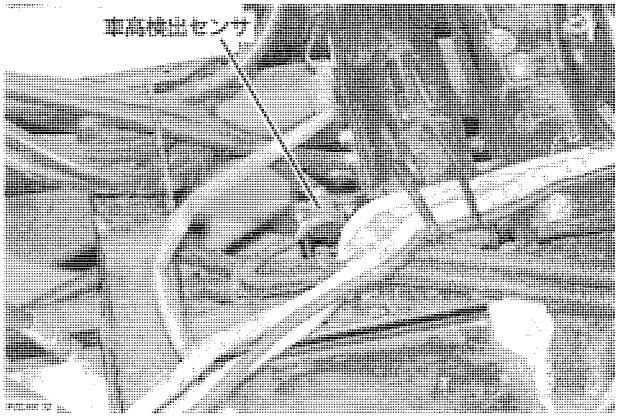
⚠注意

●脱こくクラッチレバーを「入」位置にしたり、水平自動切替スイッチを「対地平行」位置にしたときに、機体が昇降することがあります。周りに障害物がないことを十分に確認してから操作を行ってください。

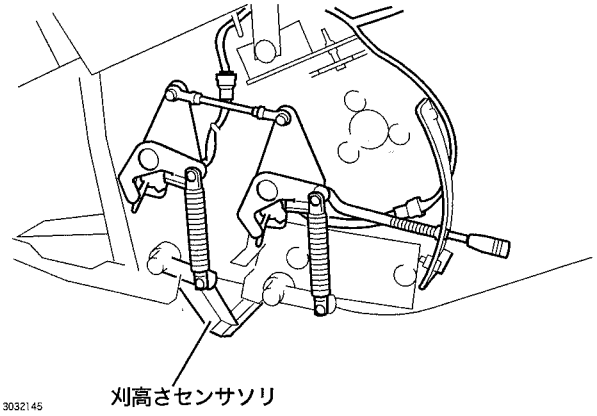
●自動制御中に手動で機体の角度や車高を変更したときは、水平自動ランプは消灯します。

[重要]

●車高検出センサに稈切れ・雑草がからんだり泥が詰まっていると、適正な制御が行われないことがあるので、必ず取り除いてください。



●刈高さセンサソリに稈切れ・雑草がからんだり泥が詰まっていると、適正な制御が行われないことがあるので、必ず取り除いてください。



●コンバインを水洗いする場合は、スイッチ・パネル・コントローラ・センサ付近に水がかからないように注意してください。

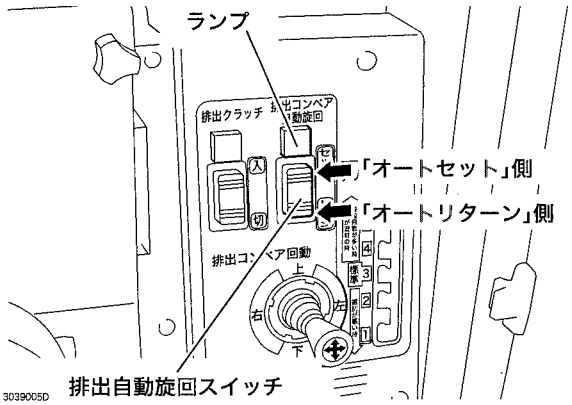
排出自動旋回〈排出オートセット・オートリターン装置〉

⚠警告

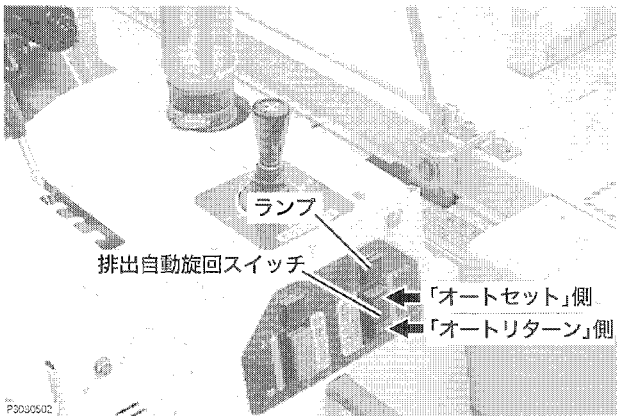
●移動走行時、およびトラックなどへの積み・降ろしの場合は、排出自動旋回スイッチに触らないでください。排出コンベアが動き出し、非常に危険です。ランプが消えていることを確認してください。

排出コンベアをスイッチひとつで、自動的に排出位置、またはコンベアレスト位置まで旋回させます。

〈キャビン仕様〉

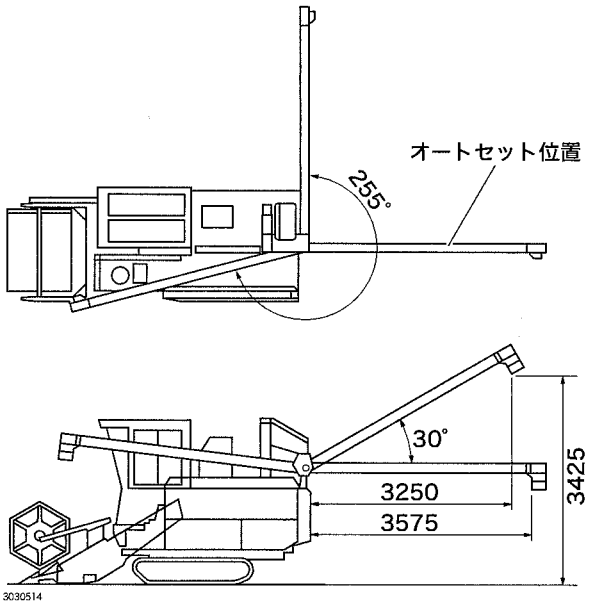


〈キャビンなし仕様〉



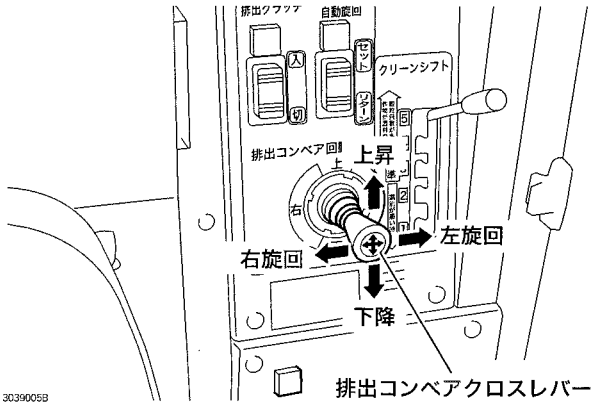
〈オートセット操作のしかた〉

1. エンジンを始動してください。(70ページ参照)
2. 排出自動旋回スイッチの「オートセット」側を押してください。
3. ランプが点灯し、排出コンベアが最上位置まで上昇し、本機の真後ろ側の位置まで自動的に旋回します。

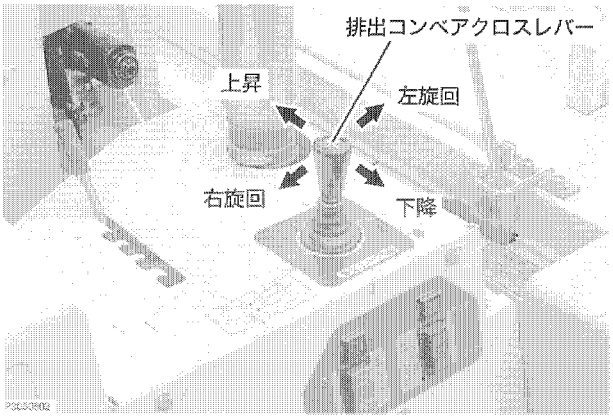


4. 排出コンベアを、排出コンベアクロスレバーでこく粒排出位置まで下降させて、こく粒を排出してください。

〈キャビン仕様〉

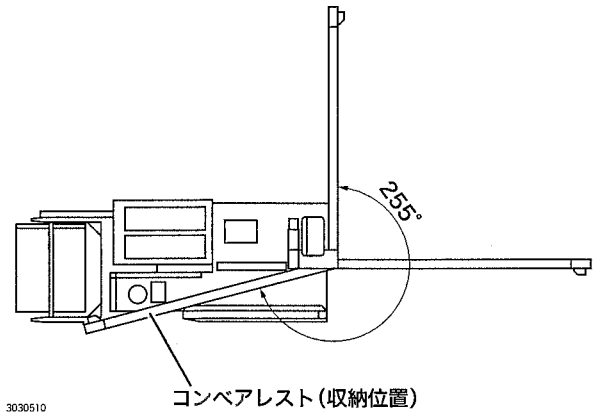


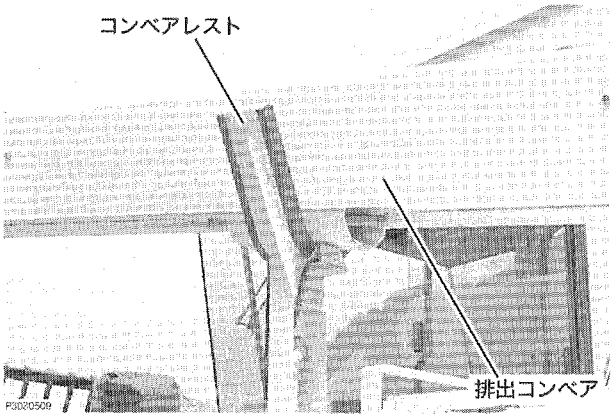
〈キャビンなし仕様〉



〈オートリターン操作のしかた〉

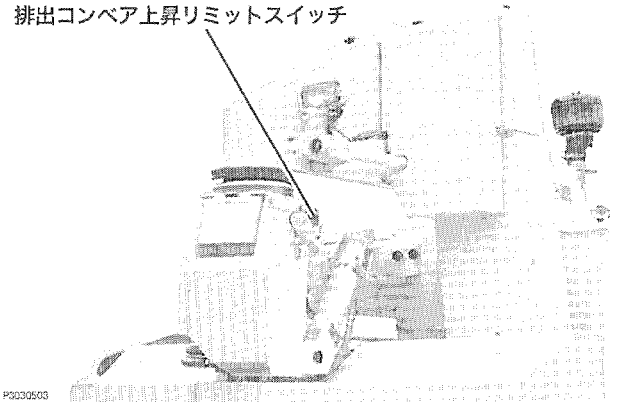
1. エンジンを始動してください。(70ページ参照)
2. グレンタンクのこく粒を排出後、排出自動旋回スイッチの「オートリターン」側を押してください。
3. 排出コンベアが最上位置まで上昇し、旋回して自動的にコンベアレストに収納されます。





[参考]

- オートセット・オートリターン装置には、手動優先回路が組み込まれていますので、自動旋回中でも排出コンベアは、排出コンベアクロスレバーで操作することができます。
  また、手動操作をするとランプは消灯し、オートセット・オートリターン装置が「切」になります。再び排出自動旋回スイッチを押すと、最初の上昇動作から動き出します。
- オートセット・オートリターン装置が作動中に、排出自動旋回スイッチを押すと、排出コンベアが止まり、ランプは消灯します。再度排出自動旋回スイッチを押すと、前の動作の続きから動き出します。
- 排出コンベアが最上昇位置で、排出コンベア上昇リミットスイッチが押されている場合に、排出自動旋回スイッチを押すと、上昇動作が5秒間働いた後に自動旋回します。



- Eモードスイッチが「入」位置では、排出自動旋回中に、液晶コンビネーションメータの回転計の目盛が「グリーンゾーン」位置を指します。

⚠注意

- 屋内や木の下などでは使用しないでください。排出自動旋回装置は、排出コンベアを最上まで上昇させるため、障害物に当りケガや破損のおそれがあります。

[重要]

- 排出自動旋回装置の作動中や、排出コンベアがコンベアレストに収納されていない状態で、高速走行をしたり、急旋回をしないでください。排出コンベア取付部などの破損につながります。
- 刈取作業中や移動走行時、またはトラックなどへの積み・降ろしのときは、必ず排出コンベアをコンベアレストに収納してください。絶対にオートリターンスイッチや排出コンベアクロスレバーを操作しないでください。
- コンバインを水洗いする場合は、スイッチ・パネル・コントローラ付近に水がかからないように注意してください。

7. こく粒の排出のしかた

⚠危険

●こく粒がタンクに入った状態で、あぜ越え、トラックなどへの積み・降ろし、急旋回、坂道（前後左右各10度以上）での作業、および移動走行は絶対にしないでください。転倒するおそれがあります。

⚠警告

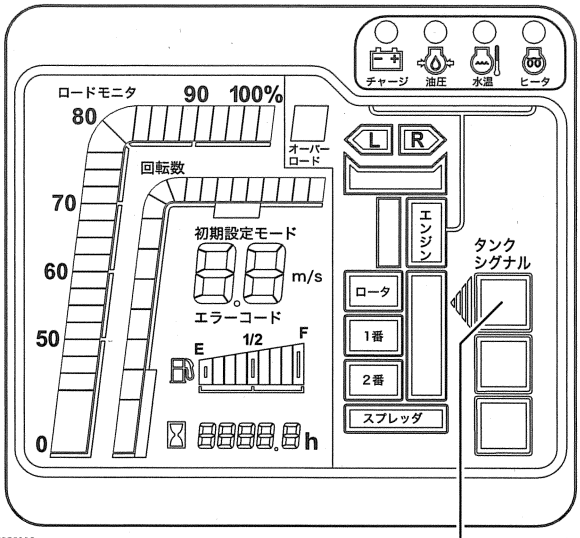
●排出作業時は、脱こく部を必ず停止させた状態で行ってください。回転部に巻き込まれるおそれがあります。

〈ワンマンホッパ仕様の場合〉

こく粒袋の交換のしかた

各こく粒袋が満タンになり、ワンマンホッパ内も満タンになると、下記の動作をします。手順に従ってこく粒袋を交換してください。

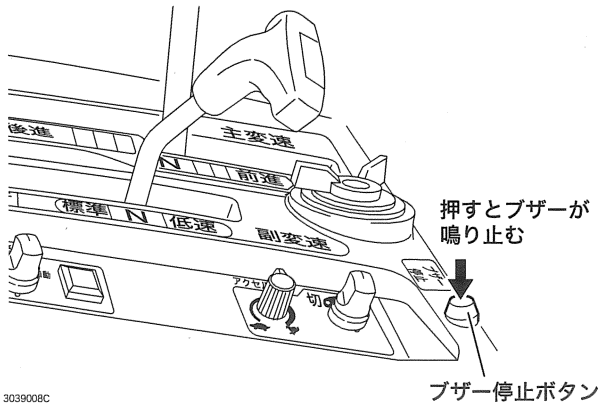
1. タンクシグナルランプが点灯し、ブザー（警報装置）が鳴ります。



3032118

タンクシグナルランプが点灯、ブザーが鳴る

2. ブザーが鳴ると、ただちに刈取作業を停止し、ブザー停止ボタンを押して、ブザーを止めてください。



3039008C

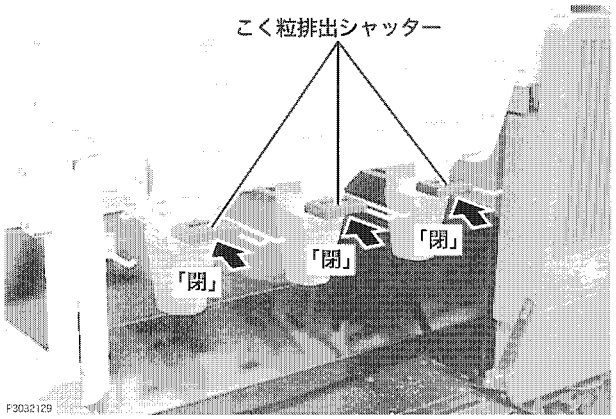
押すとブザーが鳴り止む

ブザー停止ボタン

[重要]

●機体を停止したときは、必ず刈取クラッチレバーを「切」位置にし、脱こく部での作物の処理が終ったのを確認して、脱こくクラッチレバーを「切」位置にしてください。

3. こく粒排出シャッタを「閉」位置にして、こく粒袋を交換してください。



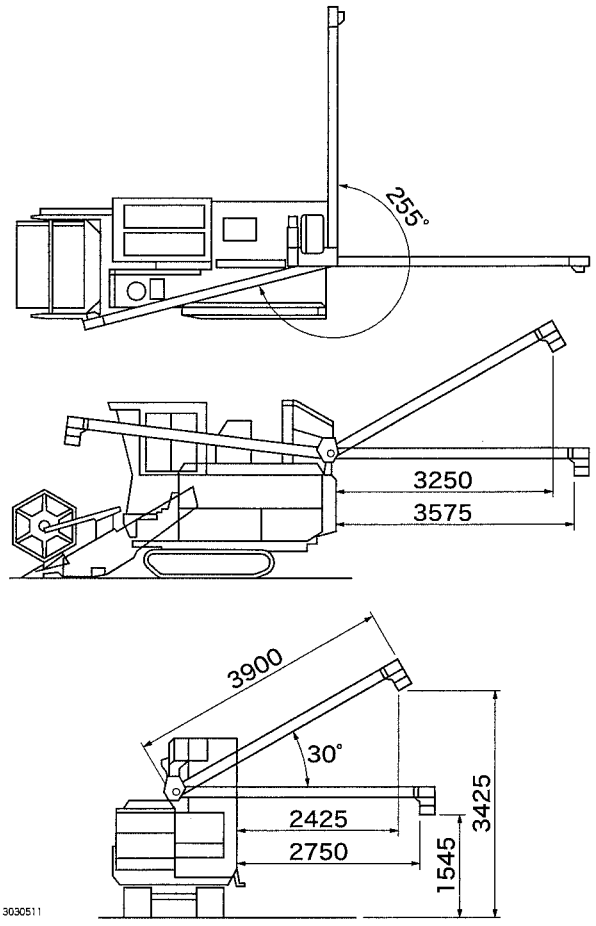
[重要]

- ブザーが鳴っているのに作業を続けていると、こく粒が昇降機上部に詰まり、故障の原因になります。

〈グレンタンク仕様の場合〉

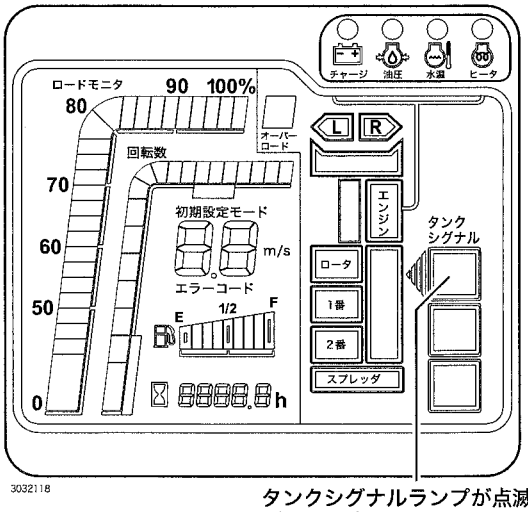
排出作業のしかた

排出コンベアの作業範囲



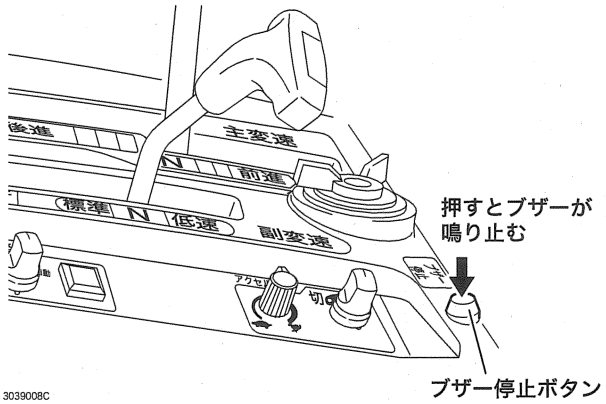
タンク内が満タン近くになると、下記の動作をします。手順に従って排出作業をしてください。

1. タンクシグナルランプ「3/3」が点滅し、ブザー（警報装置）が鳴ります。



タンクシグナルランプが点滅、ブザーが鳴る

2. ブザーが鳴ると、ただちに刈取作業を中止し、機体を停止してください。
3. ブザー停止ボタンを押して、ブザーを止めてください。



3039008C

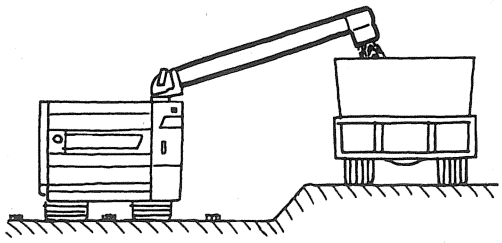
[重要]

- ブザーが鳴っているのに作業を続けていると、こく粒があふれて故障の原因になります。

4. トラックへの排出が可能な所まで、コンバインを移動させてください。

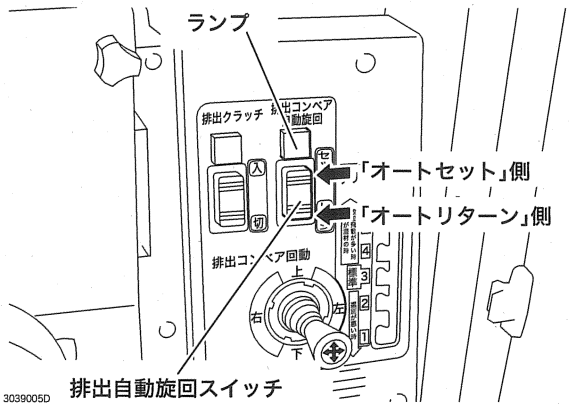
[重要]

- コンバインは、できるだけ水平な状態にしてください。本機の傾斜が大きいと、排出時に排出コンベアがずれるおそれがあります。



2032228C

5. 排出自動旋回スイッチの「オートセット」側を押してください。ランプが点灯し、自動的に旋回します。(136ページ参照)



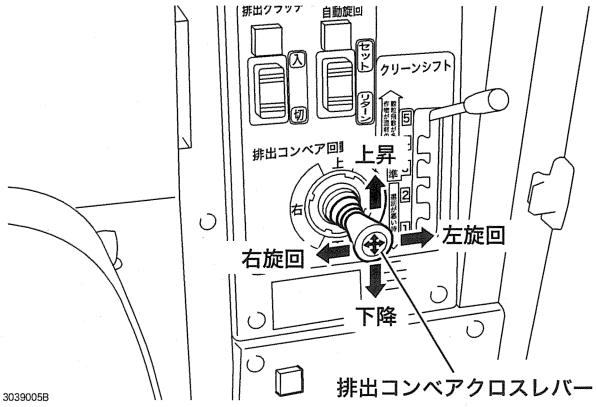
3039005D

※図はキャビン仕様です。

[参考]

- 排出コンベアクロスレバーを操作しても、排出コンベアの旋回は行えます。

6. 排出コンベアクロスレバーで、こく粒排出位置まで下降させてください。



3039005B

※図はキャビン仕様です。

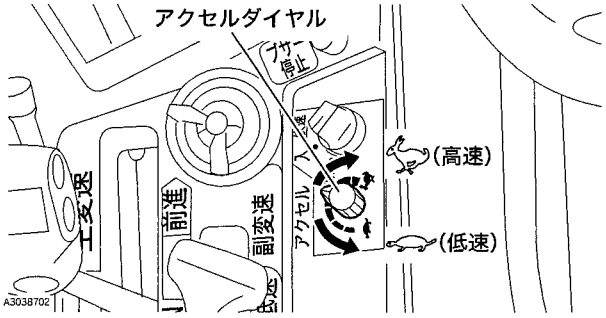
⚠注意

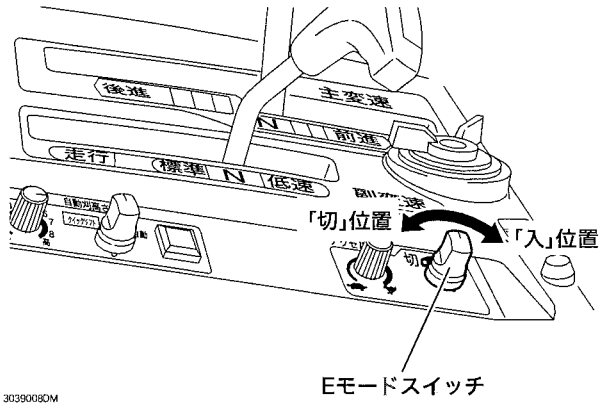
- 排出コンベアを上昇・旋回させるときは、周囲に障害物がないか確認してください。破損の原因になります。

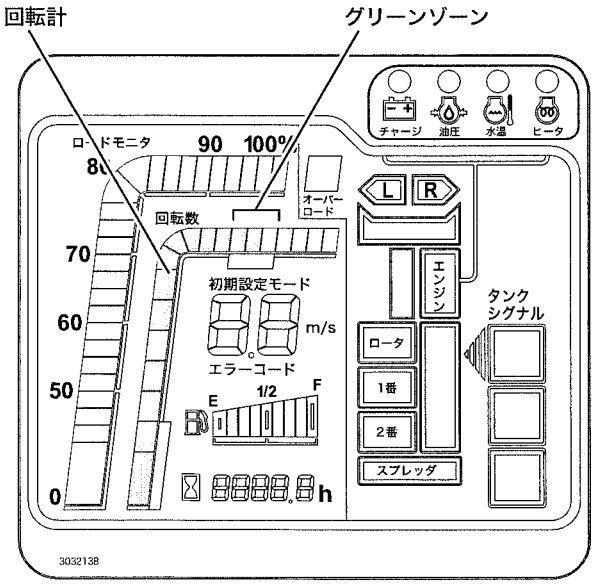
7. アクセルダイヤルで、エンジン回転を、液晶コンビネーションメータの回転計の目盛が「グリーンゾーン」位置を指すように調節してください。または、Eモードスイッチを「入」位置にしてください。

[参考]

●E モードスイッチが「入」位置では、排出クラッチスイッチを「入」にすると、回転計の目盛が「グリーンゾーン」位置を指します。

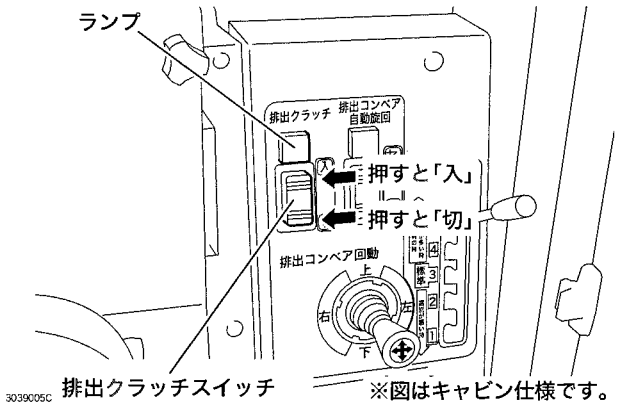




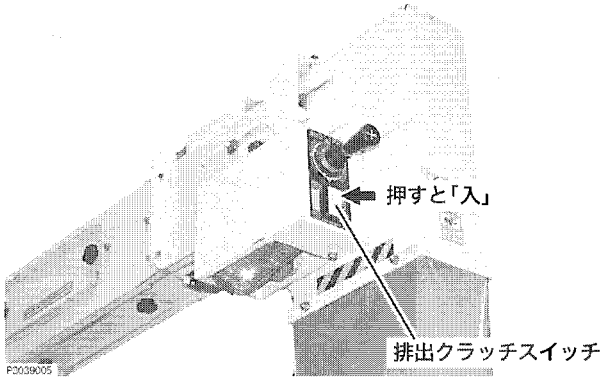


8. 駐車ブレーキをかけてください。
(79ページ参照)
9. 排出クラッチスイッチを「入」(ランプ点灯)にしてください。こく粒が排出されます。

〈運転席側〉



〈排出コンベア先端〉

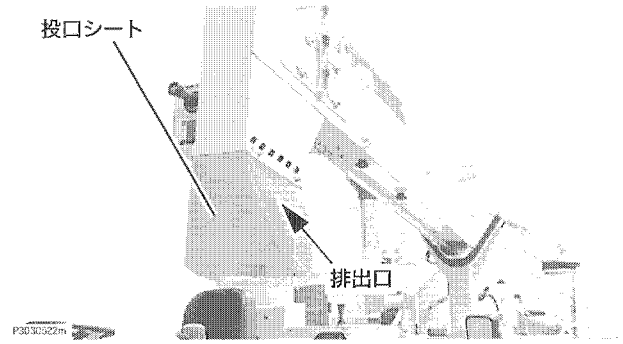


⚠注意

●排出中は、排出口に手を入れないでください。排出コンベア内部でコンベアが回転しているので、ケガをするおそれがあります。

[重要]

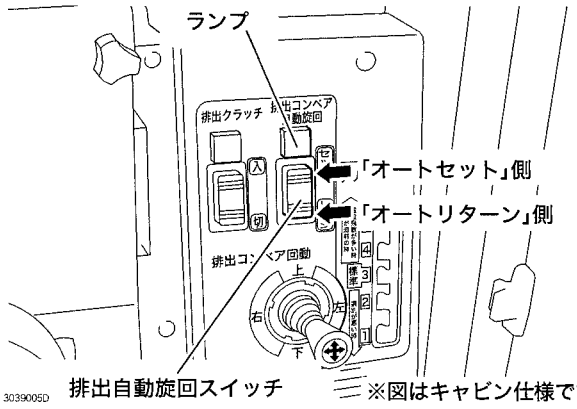
●投口シートが破損した場合は、速やかに交換してください。



●排出コンベアの昇降・旋回操作は、コンバインが停止した状態で行ってください。
●こく粒排出中は、排出口をこく粒がふさがないように注意し、排出位置を変更しながら行ってください。
●排出位置の変更は、排出コンベアを旋回するかコンバインをゆっくり動かして行ってください。



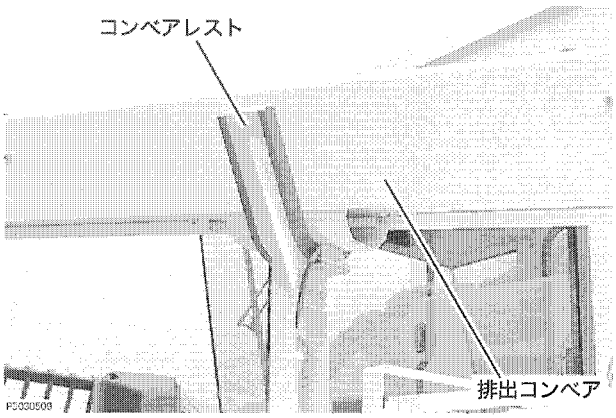
10.排出が終了したら、排出クラッチスイッチを「切」（ランプ消灯）にしてください。
11.排出自動旋回スイッチの「オートリターン」側を押してください。排出コンベアは、自動的にコンベアレストに収納されます。（ランプは、消灯しています。）



※図はキャビン仕様です。

[重要]

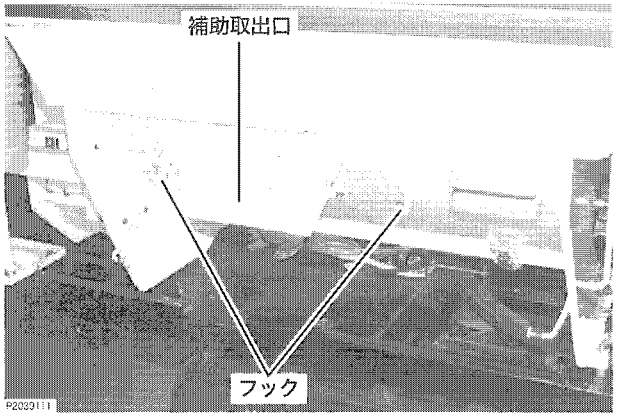
●排出自動旋回スイッチの「オートリターン」側を押すと、排出コンベアは最上位置まで上昇してから旋回して収納されます。周囲に障害物がないか、確認してから操作してください。破損の原因になります。
●刈取作業中は、排出コンベアをコンベアレストに必ず収納してください。



排出口からこく粒が排出できないとき

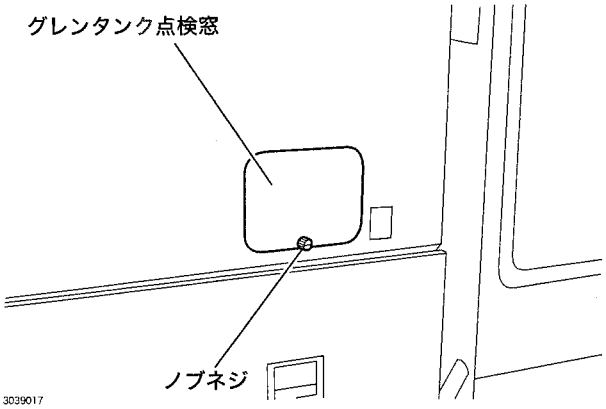
補助取出口から袋取りしてください。

1. エンジンを停止し、補助取出口のフックにこく粒袋をセットしてください。
2. 補助取出口のシャッターを開いて、こく粒を取り出してください。



グレンタンク点検窓の使いかた

グレンタンク点検窓は、グレンタンク内のこく粒の汚粒状態などの確認に使用します。



グレンタンク点検窓を開けるときは、ノブネジを持って、上にスライドして開けてください。

[重要]

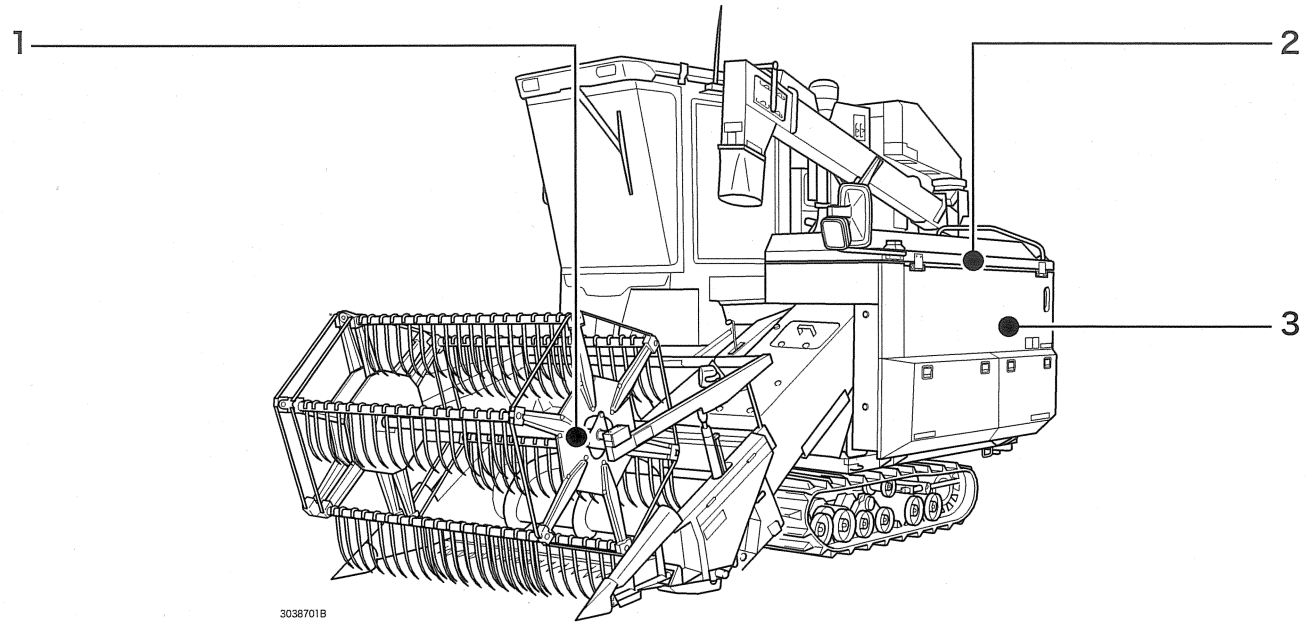
- グレンタンク点検窓は、グレンタンク点検窓の下枠以上にこく粒が入っているときは、開けないでください。こく粒がこぼれるおそれがあります。
- グレンタンク点検窓を開けて、大豆を取り出すときは、必ずエンジンを停止して行ってください。
- 作業中は、必ずグレンタンク点検窓を閉じてください。

10章 各部の脱着・オープンのしかた

⚠警告

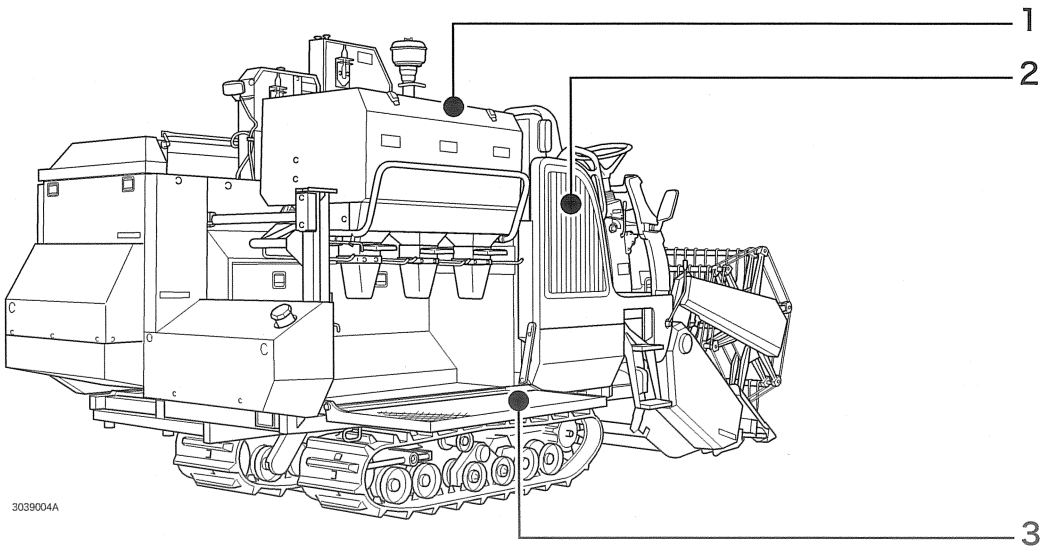
- 各部の脱着・オープンをするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。ケガをするおそれがあります。
- 取り外したり、オープンしたカバー類は、必ず元通りに取り付けてください。外したままで運転するとケガをするおそれがあります。

1. 各部脱着・オープン一覧



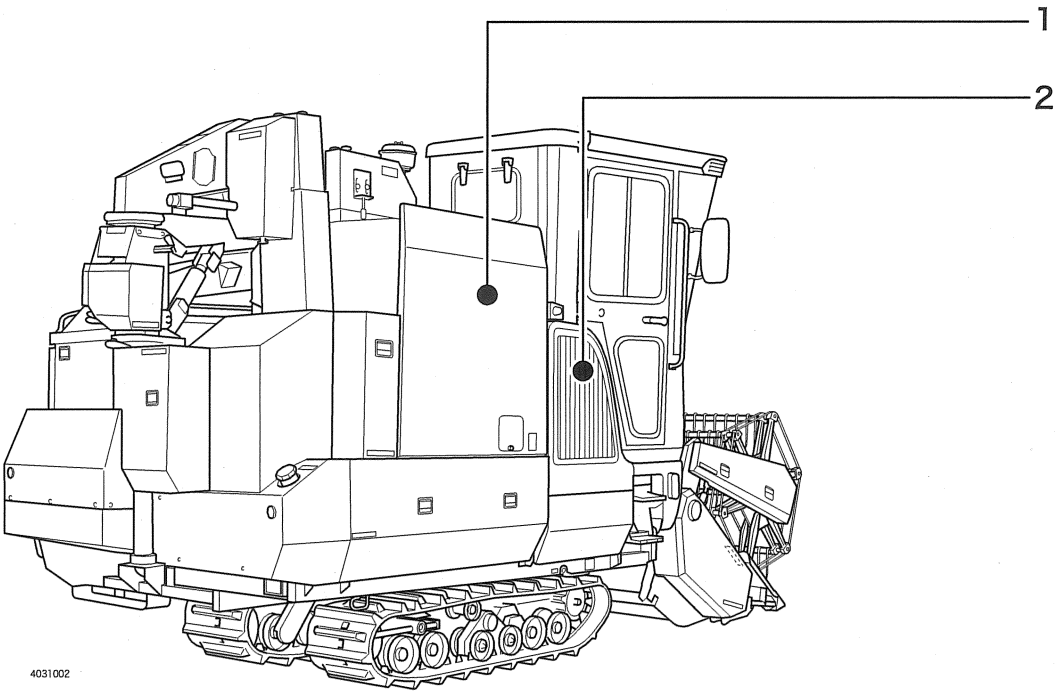
	参照ページ
1. ヘッダ部の脱着	154
2. ロータカバーのオープン	149
3. 脱こくサイド上カバーのオープン	152

〈ワンマンホッパ仕様〉



	参照ページ
1. ワンマンホッパのオープン	152
2. エンジンルームのオープン（キャビンなし仕様の場合）	148
3. 補助こく粒受台の開閉	153

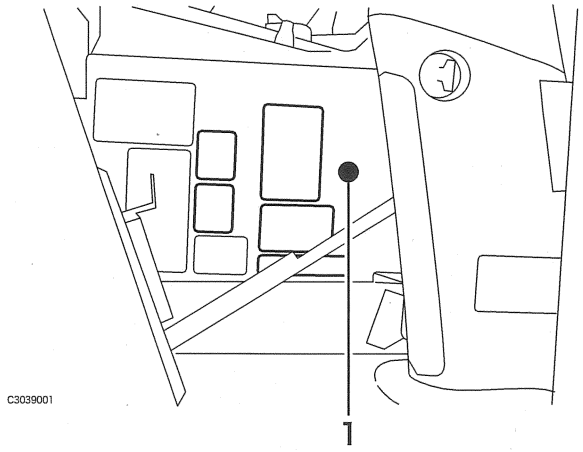
〈グレンタンク仕様〉

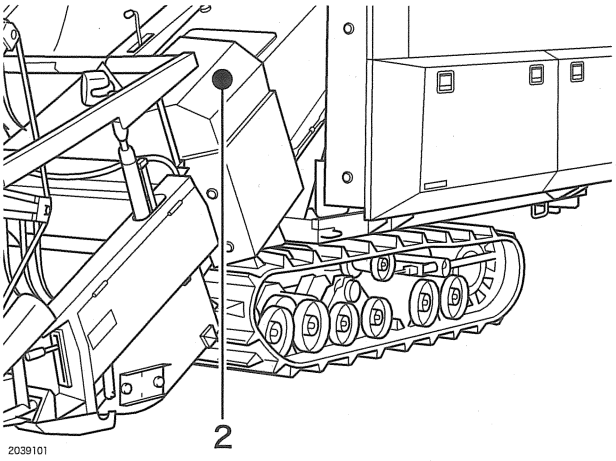


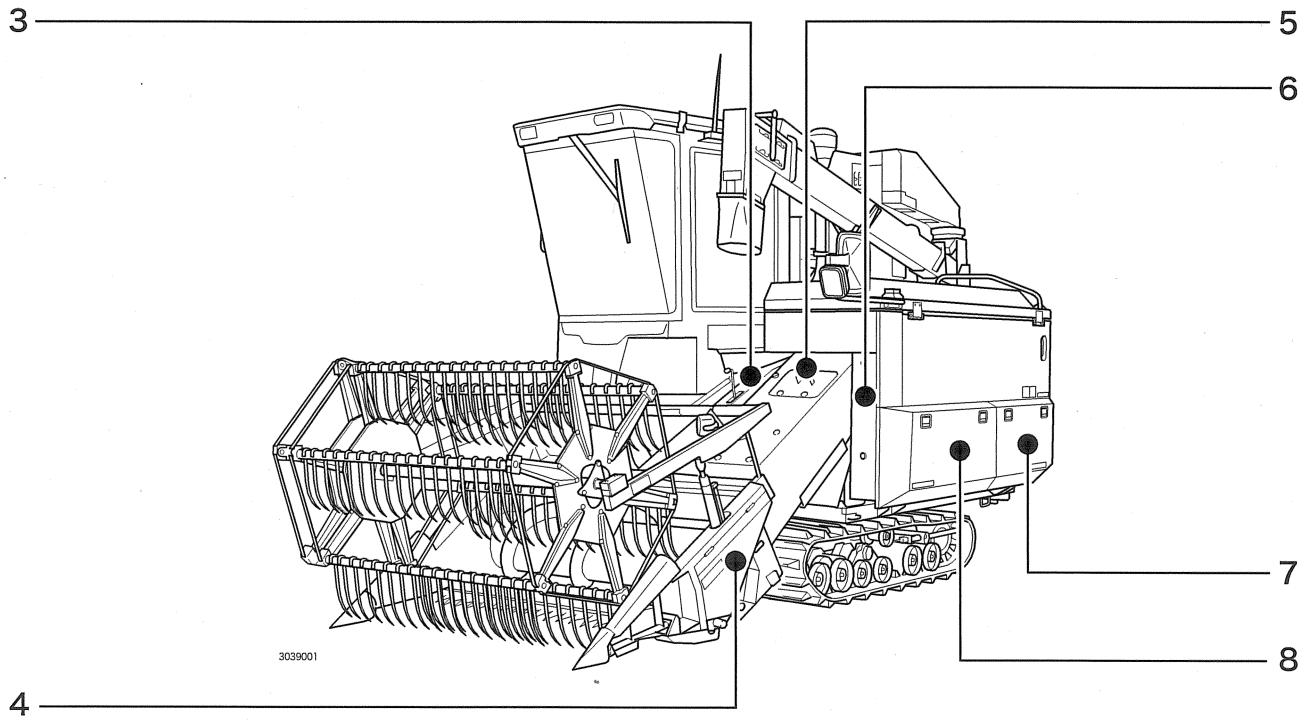
参照ページ

1. グレンタンクのオープン 150
2. エンジンルームのオープン
   （キャビン仕様の場合） 148

2. 主なカバーのなまえ

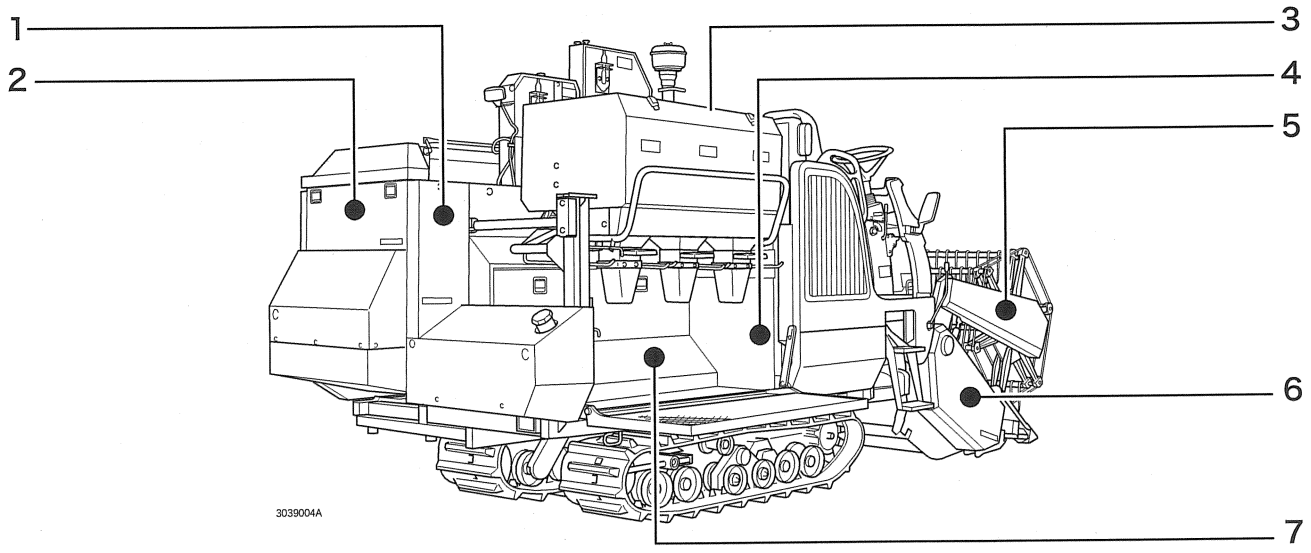






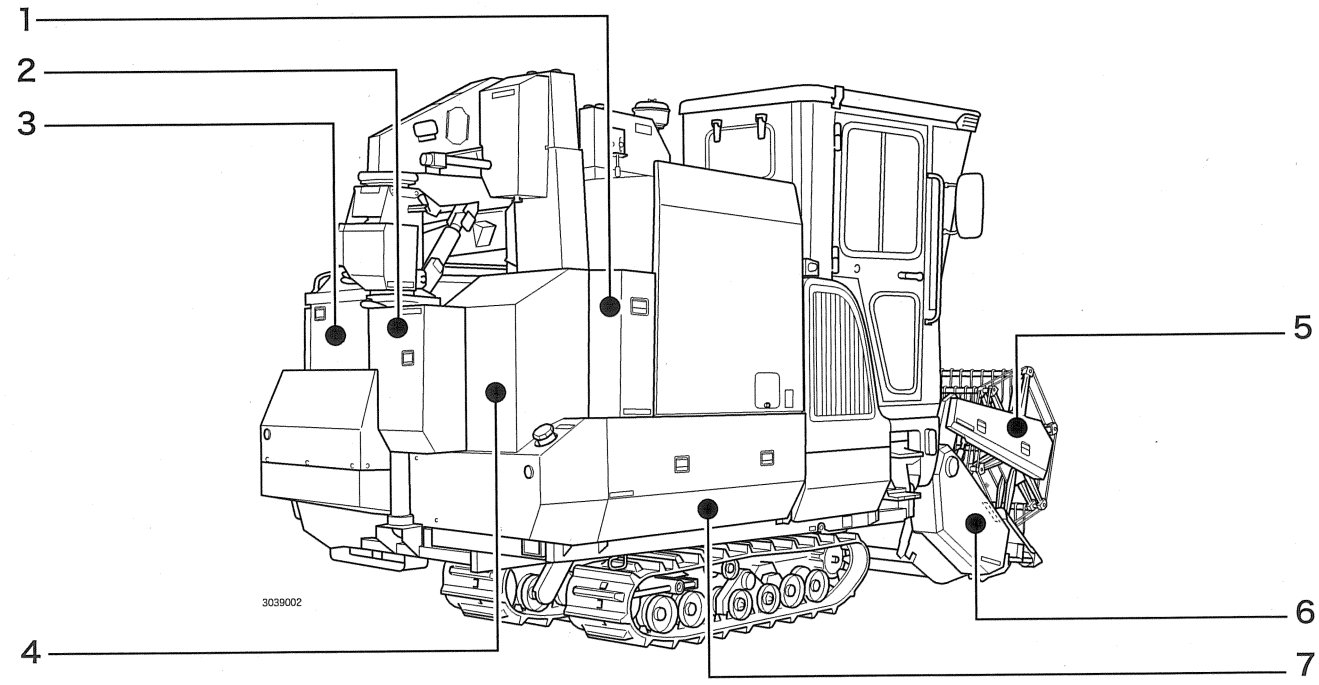
1. サイドコラムカバー
2. 防塵ファンカバー（キャビンなし仕様のみ）
3. フィーダハウス右カバー
4. 刈取サイドカバー左
5. フィーダハウス上カバー
6. 脱こく前カバー
7. 脱こく左後カバー
8. 脱こく左前カバー

〈ワンマンホッパ仕様〉



1. 脱こく後右カバー
2. 脱こく後カバー
3. ワンマンホッパ上カバー
4. エンジン後カバー
5. リールチェンカバー
6. 刈取サイドカバー右
7. 脱こく右カバー

〈グレンタンク仕様〉

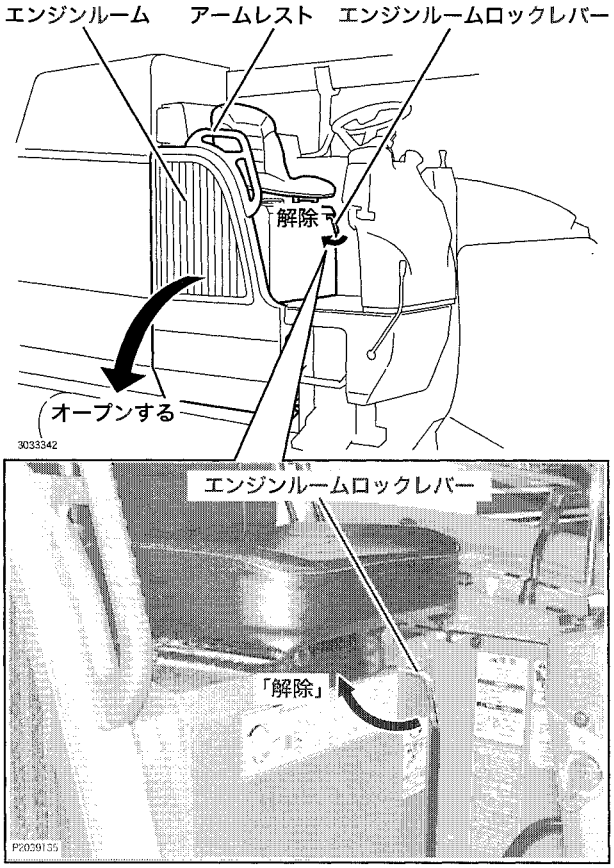


1. 上部カバー
2. 脱こく後中カバー
3. 脱こく後カバー
4. 脱こく後右カバー
5. リールチェンカバー
6. 刈取サイドカバー右
7. 下部カバー

3. エンジンルームのオープンのしかた

キャビンなし仕様の場合

1. 左手でアームレストを持ってください。
2. 右手で、エンジンルームロックレバーを「解除」方向に引きながら、エンジンルームを矢印方向にオープンしてください。
3. 収納は、エンジンルームを閉じると自動的にロックされます。



[参考]

●エンジンルームを閉じたときは、ロックが確実にできているか確認してください。

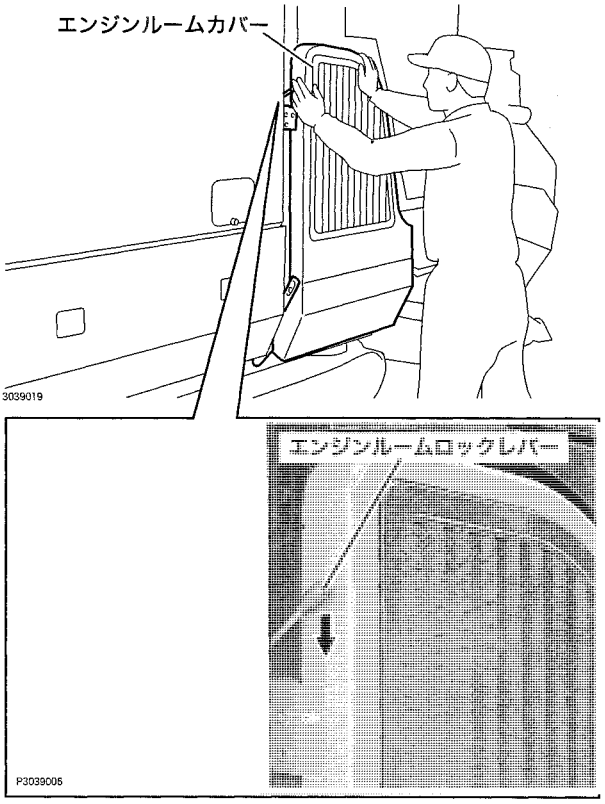
[重要]

●エンジンルームをオープンするときは、完全にオープンするまでアームレストを持って作業を行ってください。オープンの途中で手を離すと、エンジンルームの変形の原因になります。

キャビン仕様の場合

〈オープンのしかた〉

1. ドアを確実に閉めてください。
   (56ページ参照)
2. 右手でエンジンルームカバーの上部を持ち、左手でエンジンルームロックレバーを下方に引いて、エンジンルームをオープンしてください。



[重要]

●エンジンルームをオープンするときは、完全にオープンするまでカバーの上部を持って作業を行ってください。オープンの途中で手を離すと、エンジンルームの変形の原因になります。

〈収納のしかた〉

1. ドアを確実に閉めてください。
   (56ページ参照)
2. エンジンルームを閉じると自動的にロックされます。

[参考]

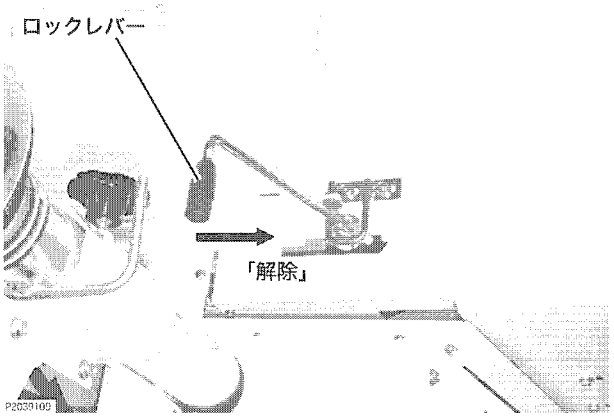
●エンジンルームを閉じたときは、ロックが確実にできているか確認してください。

4. ロータカバーのオープンのしかた

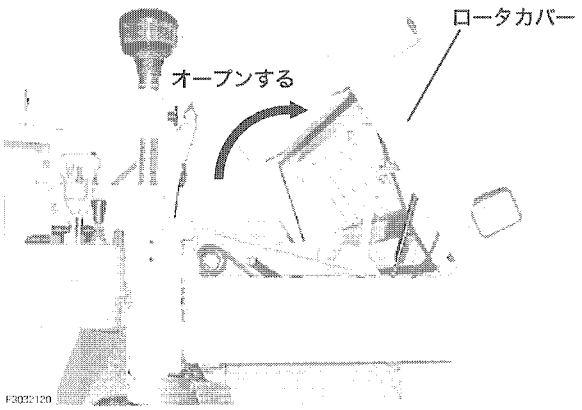
⚠注意

●脱こくクラッチレバーを「切」位置にして、エンジンを停止した直後は、慣性でロータが回転していますので、クラッチ「切」後30秒間は、絶対にカバーをオープンしないでください。

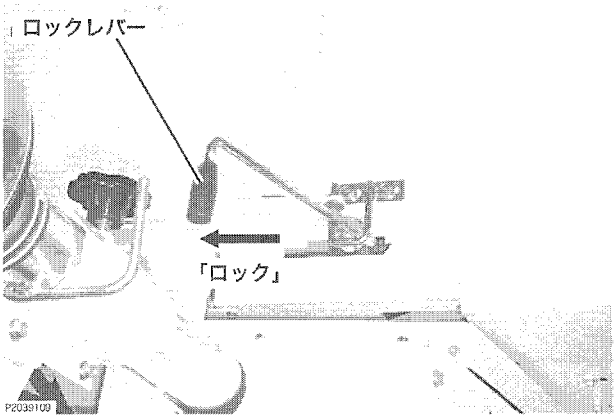
1. 運転席に乗り込んでください。
2. グレンタンク仕様の場合は、エンジンを始動して、排出コンベアクロスレバーで排出コンベアを、コンベアレストから約 50cm 上昇させてください。
3. エンジンを停止してください。
4. ロックレバーを「解除」位置（手前に引く）にして、ロックを解除してください。



5. ロータカバーをいっぱいまでオープンしてください。



6. ロータカバーを閉めてください。
7. ロックレバーを「ロック」位置にして、確実にロックしてください。



8. グレンタンク仕様の場合は、エンジンを始動して、排出コンベアクロスレバーで排出コンベアを、コンベアレストに収納してください。
9. エンジンを停止してください。

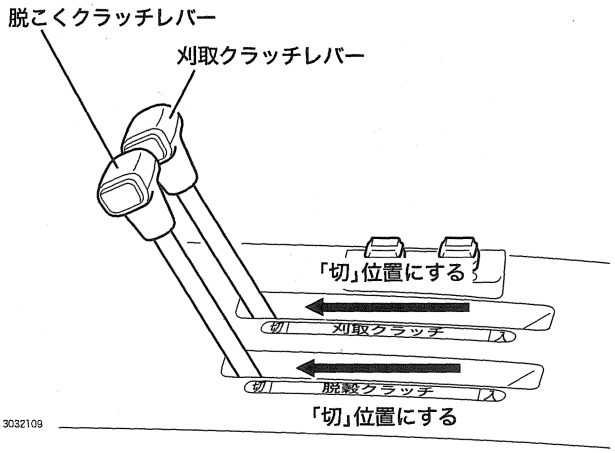
5. グレンタンクのオープンのしかた（グレンタンク仕様のみ）

⚠警告

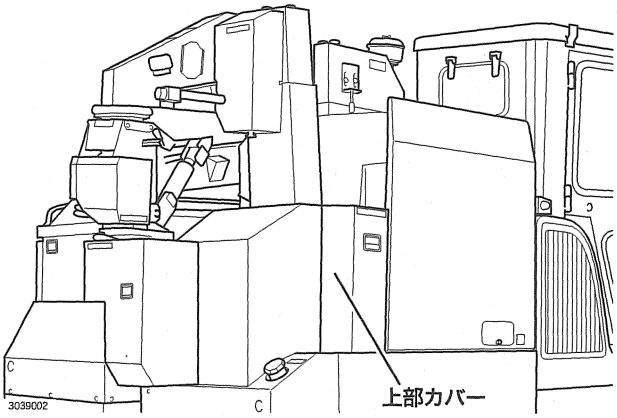
グレンタンクをオープンするときは、以下の事項を必ず守ってください。

- エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
- グレンタンク内を空にしてください。
- 機体を水平な状態にしてください。

1. グレンタンク内にこく粒が入っているときは、こく粒をすべて排出してください。
   （139ページ参照）
2. 路面が平坦な場所に本機を停め、刈取・脱こくクラッチレバーを「切」位置にしてください。



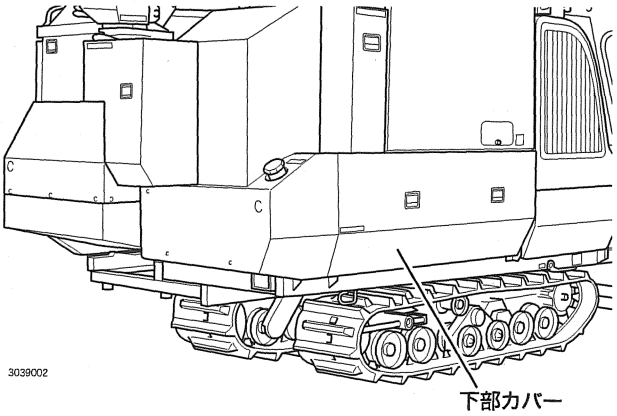
3. 駐車ブレーキをかけてください。
   （79ページ参照）
4. エンジンを停止してください。
   （74ページ参照）
5. 上部カバーを取り外してください。



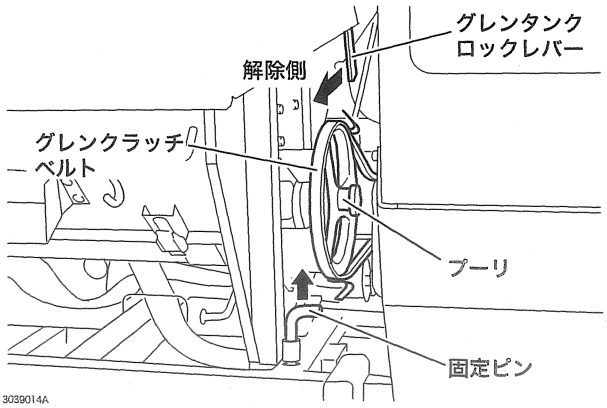
[重要]

- 上部カバーを取り外しておかないと、グレンタンクオープン時に上部カバーが破損します。
- 排出コンベアは必ず、コンベアレストに収納した状態で行ってください。受継コンベア装置と排出コンベアが干渉します。

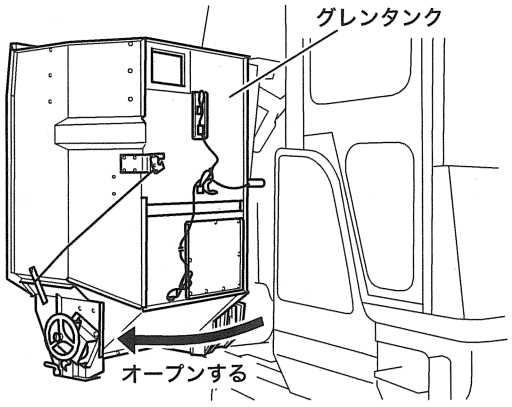
6. 下部カバーを取り外してください。



7. グレンクラッチベルトをプーリから外して、固定ピンを抜き取ってください。

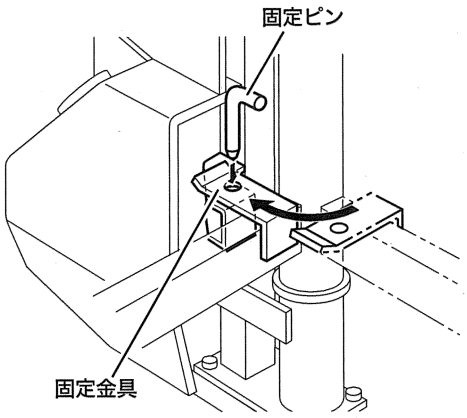


8. グレンタンクロックレバーを解除して、グレンタンクをゆっくりと手前に引き出してください。



3039013B

9. 前述 7. で外した固定ピンを、グレンタンク回動部の固定金具の穴に差し込んで、グレンタンクを固定してください。

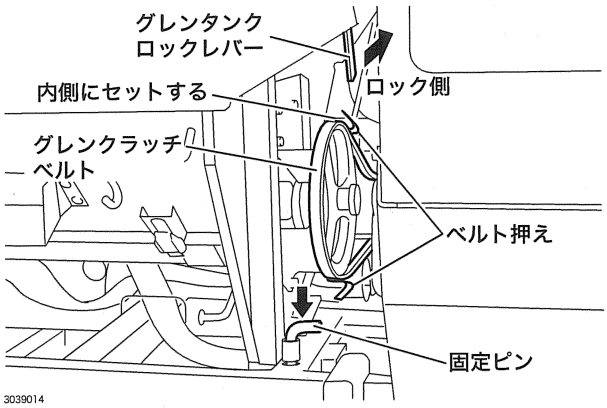


2039148

10. グレンタンクを収納するときは、逆の手順で行ってください。

[重要]

- グレンクラッチベルトをベルト押えの内側にセットしてください。

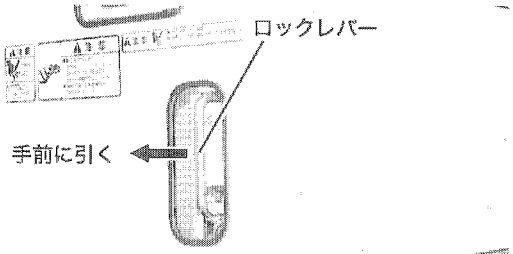


3039014

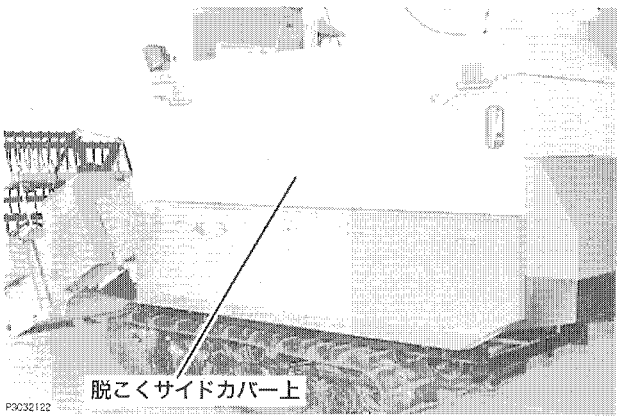
- グレンタンク内にこく粒が入っている状態では、絶対にオープンしないでください。グレンタンク回動部の破損の原因になります。
- 収納後は、グレンタンクが確実に収納されているか確認してください。

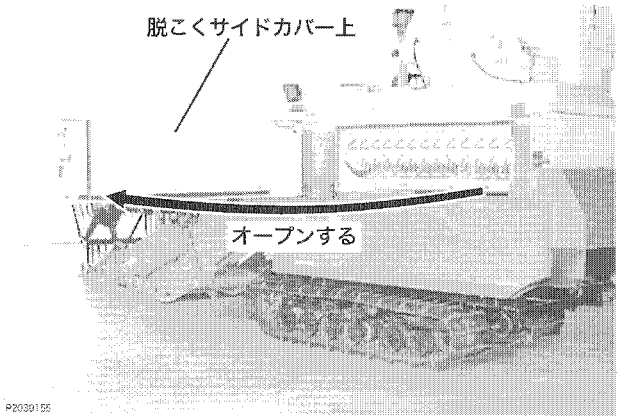
6. 脱こくサイド上カバーのオープンのしかた

1. ロックレバーを手前に引きながら、脱こくサイド上カバーをオープンしてください。









2. 閉じるときは、逆の手順で行ってください。

[重要]

- 脱こくサイド上カバーをオープンした状態で走行しないでください。脱こくサイド上カバーが変形することがあります。

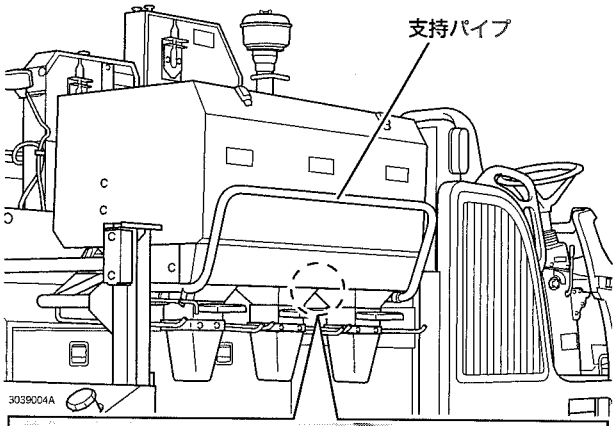
7. ワンマンホッパのオープンのしかた(ワンマンホッパ仕様のみ)

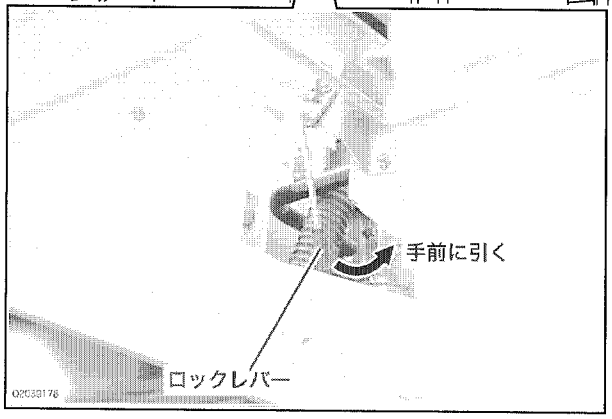
⚠警告

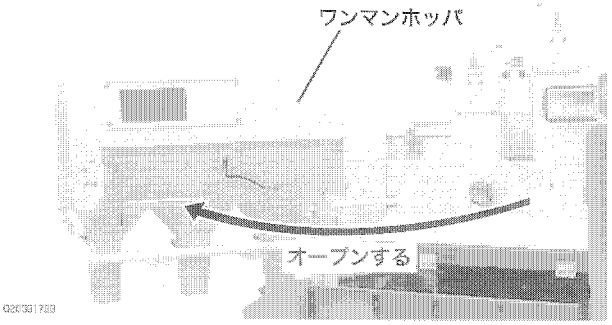
ワンマンホッパをオープンするときは、以下の事項を必ず守ってください。

- エンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてください。
- ワンマンホッパ内は空にしてください。
- 機体を水平な状態にしてください。

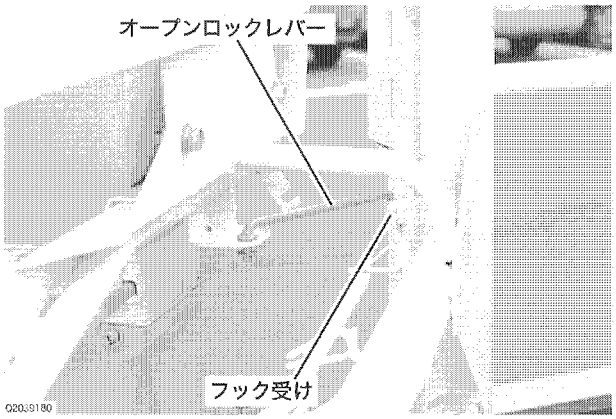
1. 補助こく粒受台を閉じてください。(153ページ参照)
2. ロックレバーを手前に引きながら、支持パイプを持って、ワンマンホッパをオープンしてください。







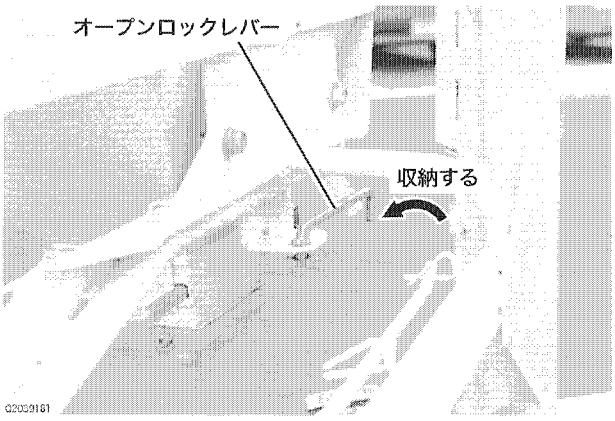
3. オープン後は、オープンロックレバーをフック受けに掛けて、ワンマンホッパを固定してください。



4. ワンマンホッパを収納するときは、逆の手順で行ってください。

[参考]

- ワンマンホッパを収納するときは、オープンロックレバーをワンマンホッパ側に収納してください。



[重要]

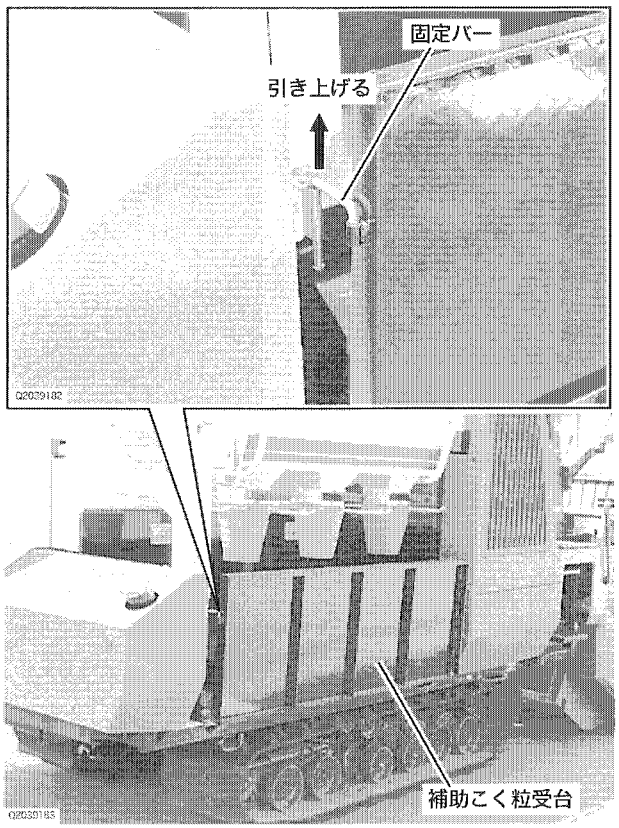
- ワンマンホッパをオープンした状態で走行しないでください。ワンマンホッパが変形することがあります。
- ワンマンホッパを閉じたときは、ロックレバーで確実にロックされているか確認してください。

8. 補助こく粒受台の開閉のしかた（ワンマンホッパ仕様のみ）

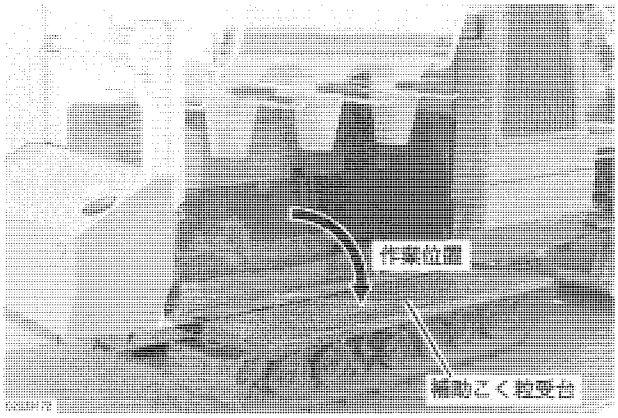
⚠注意

- 移動走行やトラックへの積み・降ろしを行うときは、補助こく粒受台を収納してください。破損したり、当たってケガをするおそれがあります。

1. 固定バーを引き上げて、固定を解除してください。



2. 補助こく粒受台を作業位置に開いてください。



3. 補助こく粒受台を収納するときは、逆の手順で行ってください。

[重要]

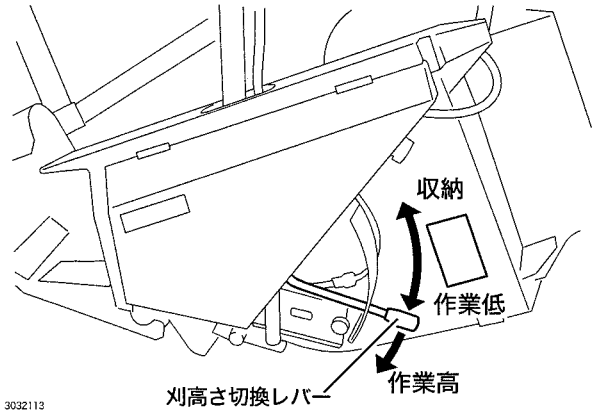
- 補助こく粒受台を収納したときは、必ず固定バーで補助こく粒受台を固定してください。

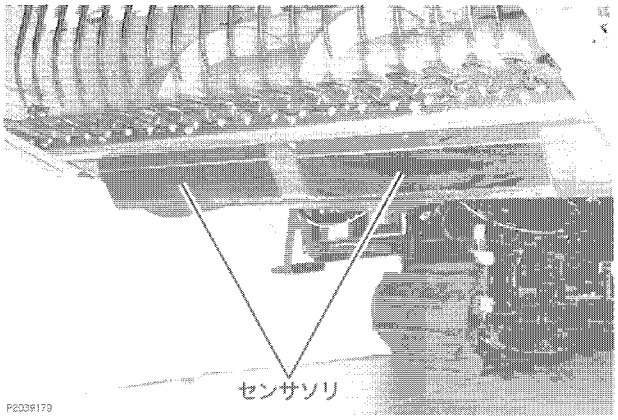
9. ヘッダ部の脱着のしかた

⚠警告

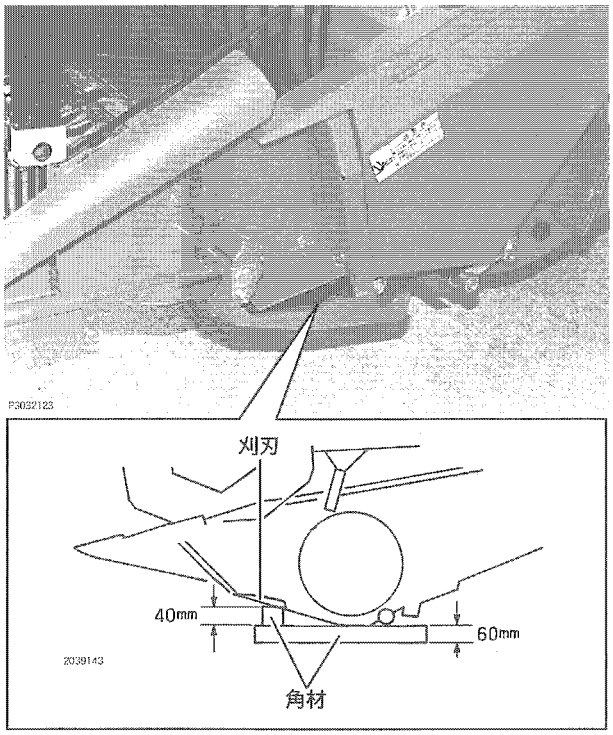
- ヘッダ部を外すと、本機は後重心になります。走行するときは、低速で行ってください。また、急な坂道を走行したり、あぜ越えをするときは、登りは後進、下りは前進で行ってください。
- 刈取部を上げて作業をするときは、刈取部ストッパレバーで刈取部を固定状態にしてください。刈取部を固定していないと、刈取部が急に下がりケガをするおそれがあります。

1. 路面が平坦な場所に本機を止め、駐車ブレーキをかけてください。(79ページ参照)
2. エンジンを始動してください。(70ページ参照)
3. 刈高さ・リール前後スイッチまたは刈高さ調節レバーを操作して、刈取部を地面から10cm以上上げてください。
4. エンジンを停止してください。(74ページ参照)
5. 刈高さ切換レバーを「収納」位置にして、センサソリを収納してください。

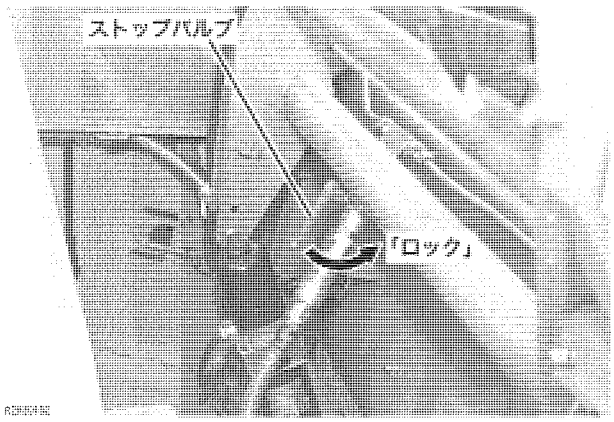




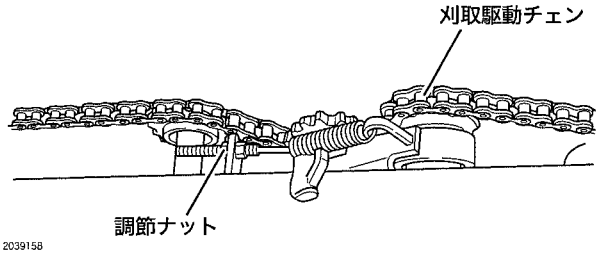
6. 刈取部と刈刃の下に角材を入れてください。



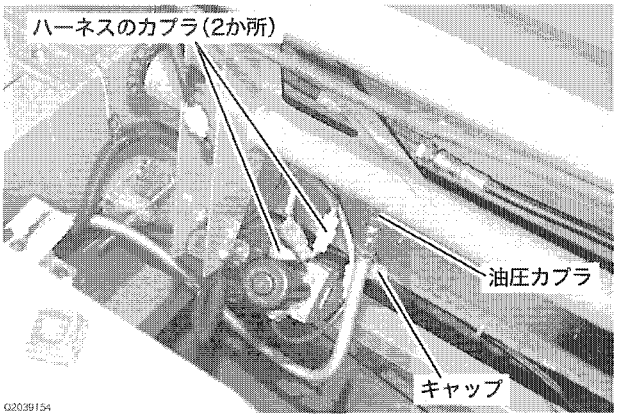
7. 再度エンジンを始動してください。
8. 刈高さ・リール前後スイッチを「上」側、または刈高さ調節レバーを「上昇」位置にして、刈取部を最上げ状態にしてください。
9. 刈取部を刈取部ストッパレバーで固定してください。(158ページ参照)
10. エンジンを停止してください。
11. ストップバルブのレバーを「ロック」位置にしてください。



12. フィーダハウス右カバーを取り外してください。(146ページ参照)
13. 刈取駆動チェンを、テンションの調節ナットをゆるめて、スプロケットから取り外してください。



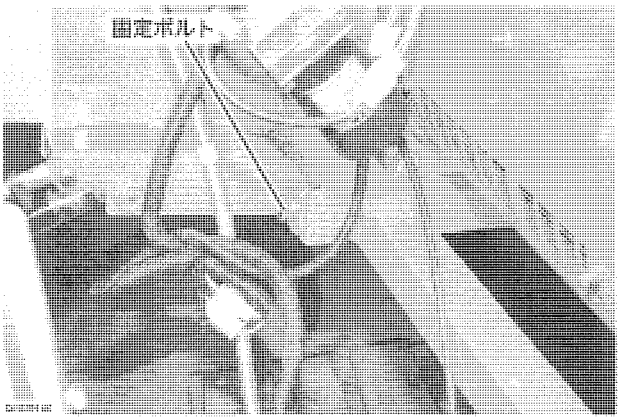
14. 刈取部右側後方の油圧カプラ(1か所)とハーネスのカプラ(2か所)を取り外してください。

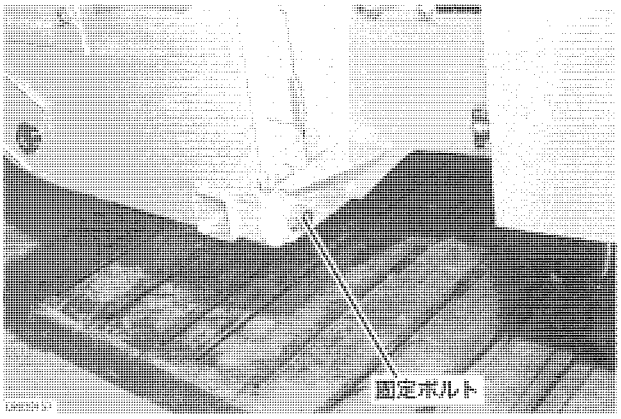


[重要]

- 油圧カプラを取り外したときは、キャップを取り付けてください。

15.固定ボルト（2本）を取り外してください。

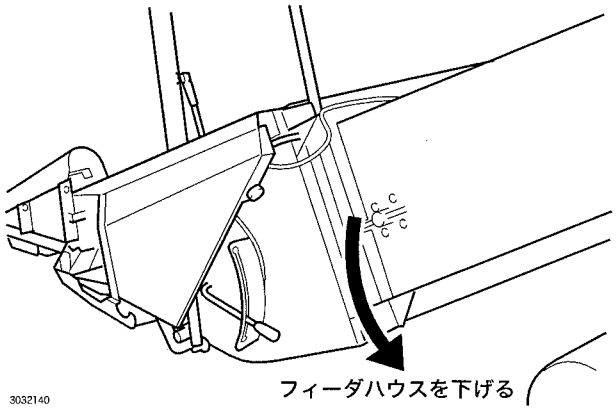




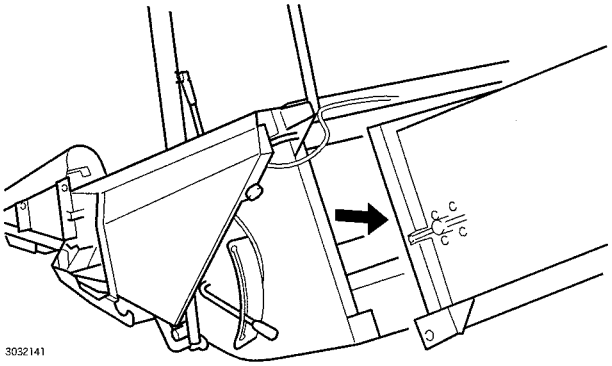
16.刈取部ストッパレバーで、刈取部の固定を解除してください。

17.エンジンを始動してください。

18.フィーダハウスを下げてください。



19.カプラ類が完全に切り離されているか確認した後、本機をゆっくり後進させてください。



20.エンジンを停止してください。

21.以上で、ヘッダ部の取り外しは完了しました。ヘッダ部を装着する場合は、以上の逆の手順で行ってください。

[重要]

- ヘッダ部を取り外している状態で、リール高さ調節レバーを操作すると、カプラ内の圧力が高圧になり、カプラが入りにくくなることがあります。入りにくい場合は、カプラをきれいなウエスで包み、カプラ先端の凸部をハンマーでたたいてください。オイルがもれて、カプラが入りやすくなります。

11章 作業後の手入れと格納について

⚠危険

- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、燃料を抜いたり、注油・給油を絶対にしないでください。燃料などに引火して、火災の原因になります。
- 燃料補給や燃料を抜くときは、くわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。燃料に引火して、火災を起こすおそれがあります。
- 燃料補給や燃料を抜いた後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと、火災やヤケドの原因になります。
- エンジンが熱い間は、シートなどを絶対にかけないでください。火災の原因になります。

⚠警告

- 点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。機械に巻き込まれてケガをするおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、平坦で安定した場所で行ってください。本機が転倒するなど、思わぬ事故の原因になります。

⚠注意

- 点検・整備をするときは、過熱部分が十分冷めてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

1. 機体の洗浄のしかた

その日の内に本機を水洗いし、水洗い後は下記に従って、掃除を行ってください。

- 回転部に巻き付いているゴミを取り除く。
- 水分をよくふき取る。
- 油をしみこませた布で清掃する。
- 刈刃の先端など、サビやすいところや、チェン・ワイヤー類、および回転部や摺動部に注油・グリスアップする。(167ページ参照)

[重要]

- 水洗いをするときは、エンジン部・電装品に水がかからないようにしてください。故障の原因になります。



2032812B

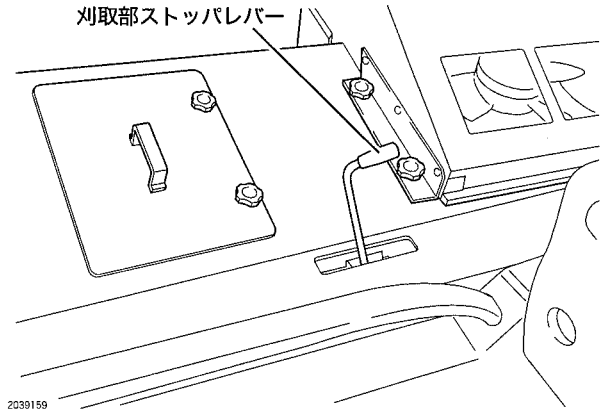
2. 刈取部ストッパ(刈取部固定)のセットのしかた

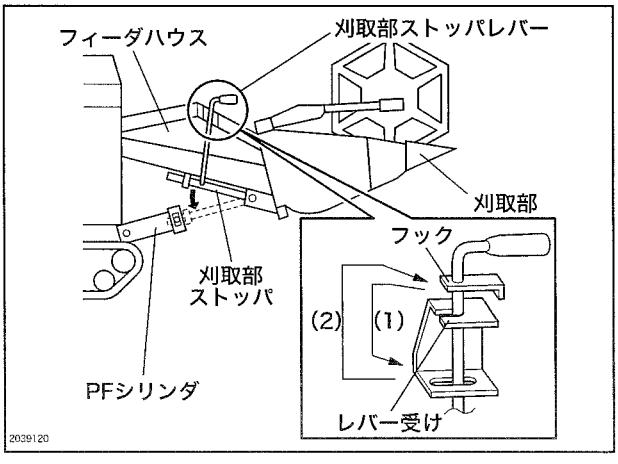
⚠警告

●刈取部の下で点検・整備をするときは、必ず刈取部ストッパで刈取部を固定してください。固定しないと、刈取部が急に下がってケガをするおそれがあります。

固定のしかた

1. エンジンを始動してください。(70ページ参照)
2. 刈高さ・リール前後スイッチを「上」側、または刈高さ調節レバーを「上昇」位置にして、刈取部を最上げ位置にしてください。
3. エンジンを停止してください。(74ページ参照)
4. 刈取部ストッパレバーを持ち上げて、レバー受けからフックを解除してください。
5. そのままレバーを後方に倒して、下げてください。刈取部ストッパが下がり、PFシリンダに固定されます。

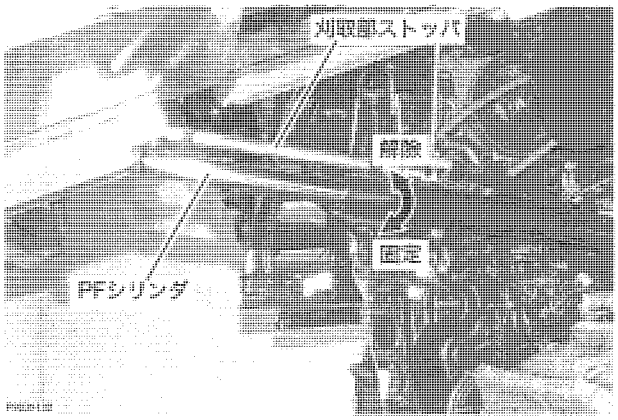




※(1)は固定動作、(2)は解除動作を表しています。

[重要]

●刈取部ストッパが、PFシリンダに確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと、刈取部が急に下がり、ケガをするおそれがあります



固定の解除のしかた

1. 刈取部ストッパレバーを持ち上げて、後方に倒してください。PFシリンダから刈取部ストッパが解除されます。
2. そのままレバーを一番上まで引き上げて、前方へ倒して、レバー受けにフックを掛けてください。
3. エンジンを始動して、刈取部を下げてください。

[重要]

●輸送時や移動走行時は、刈取部ストッパを使用しないでください。

3. 各部の掃除のしかた

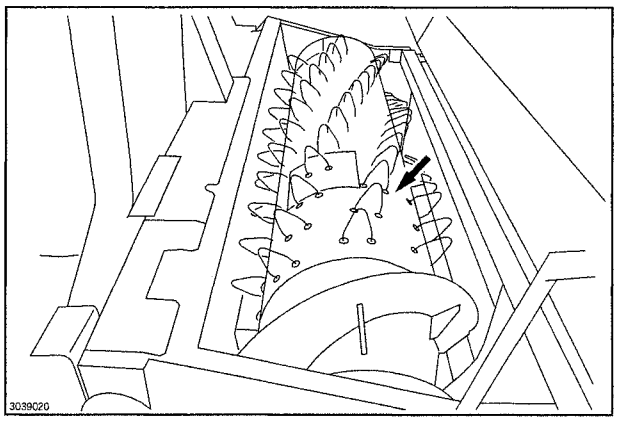
⚠警告

- 掃除するときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
- エンジンをかけたまま手入れをすると、刈刃などで手をはさまれ、ケガをするおそれがあります。

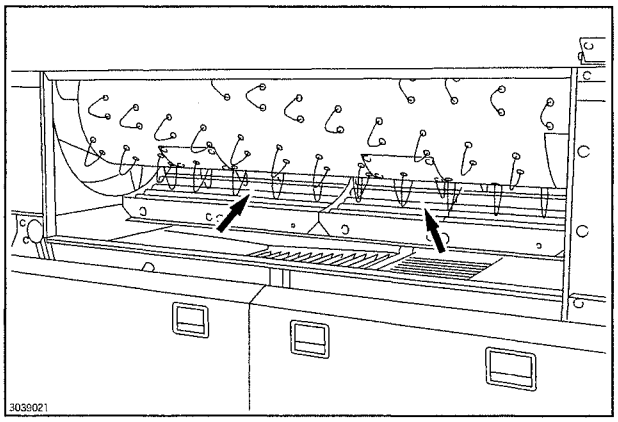
掃除箇所

異品種や麦・ソバの混種を防ぎ、脱こく内部に残留しているこく粒を取り除くために、各部の掃除口を開き、きれいに掃除してください。

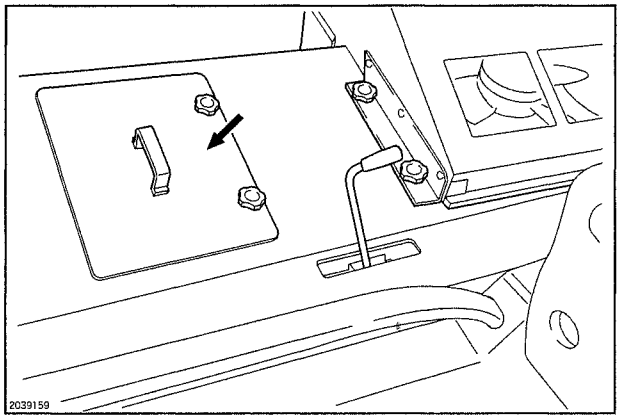
ロータカバー



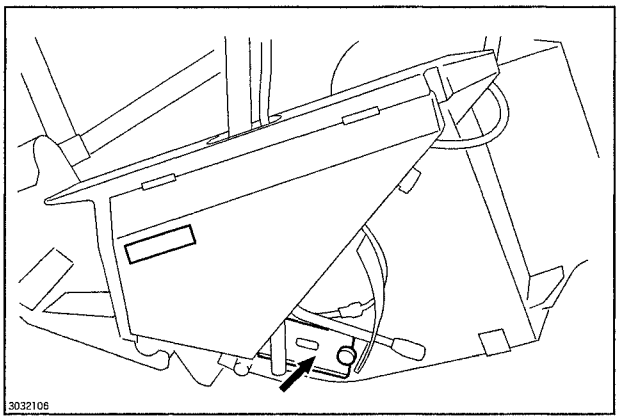
コーンケーブ



フィーダハウス

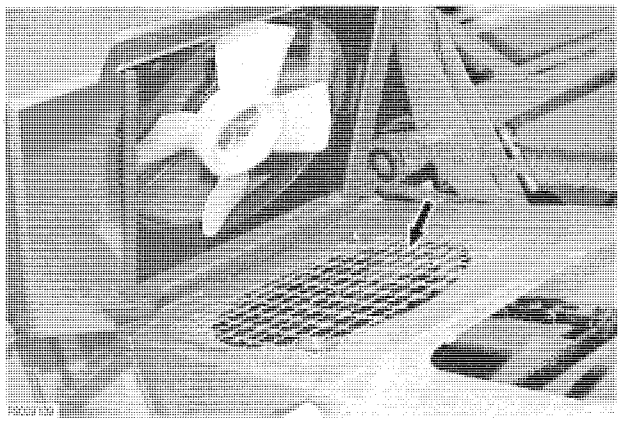


プラットホーム横

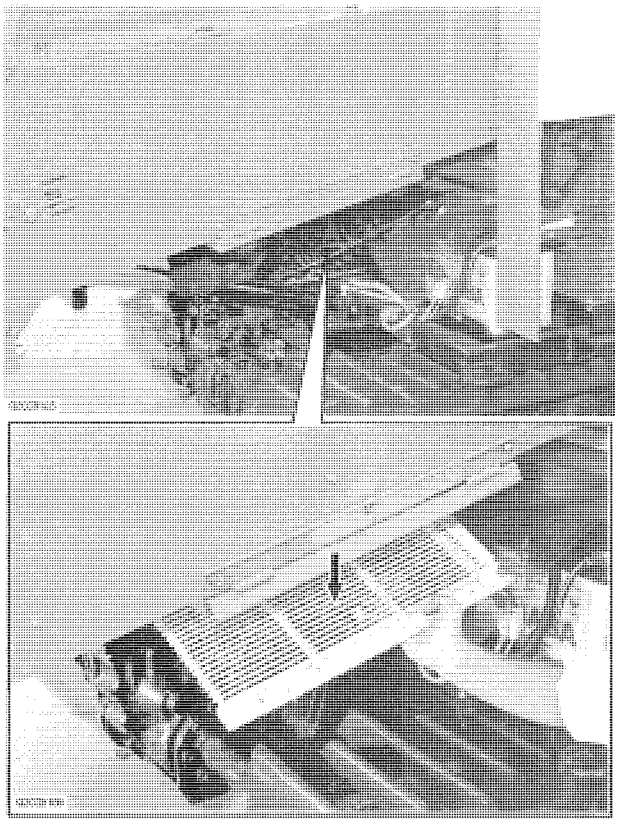


※刈取サイドカバー左(ノブネジ:2本)を開いてください。

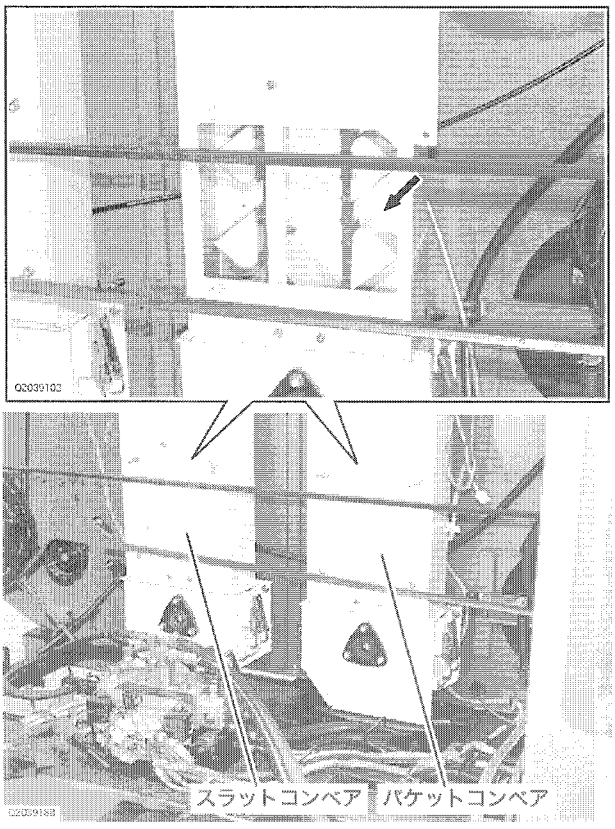
防塵ファン吸入口(キャビンなし仕様のみ)



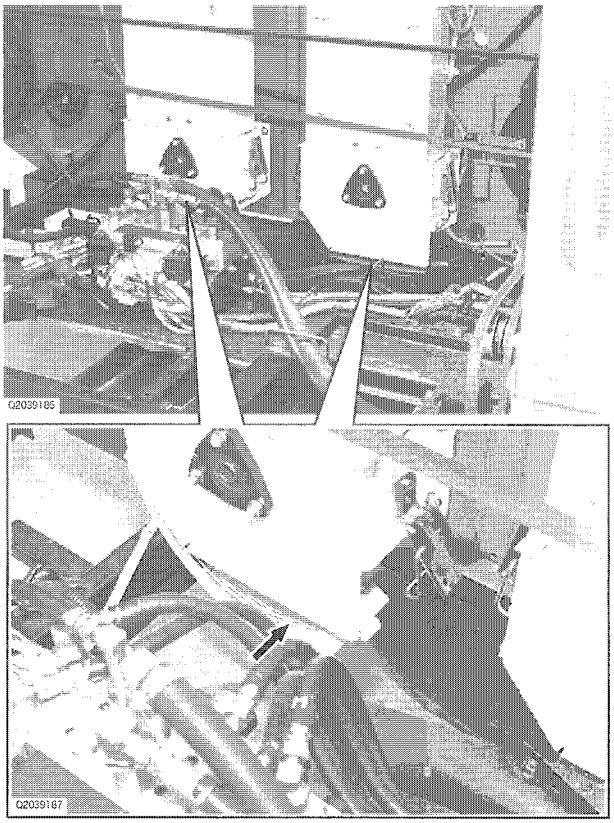
フィーダハウスシートメタル



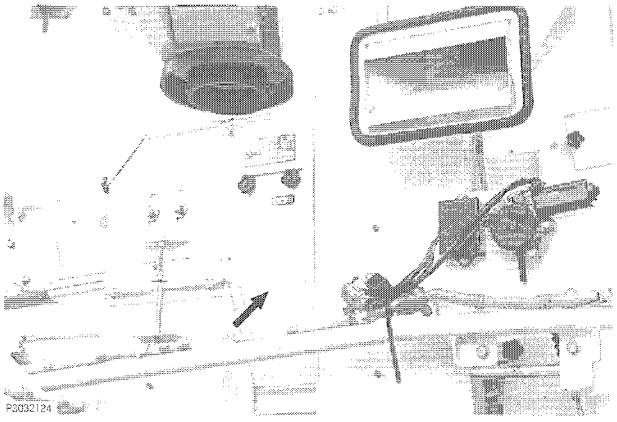
バケットコンベア・スラットコンベア



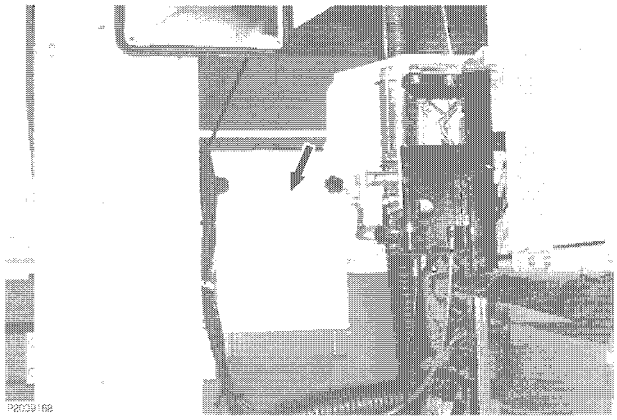
1番・2番昇降機底板



2番掃除口



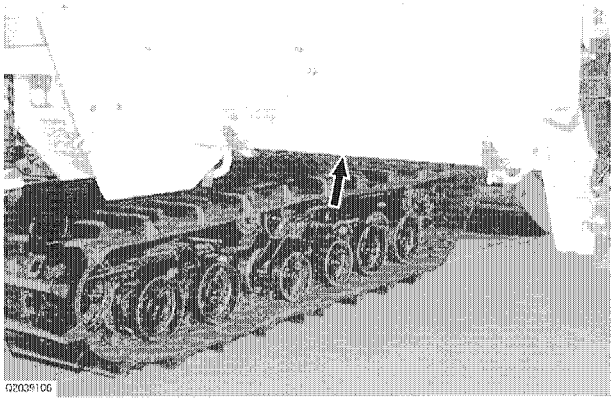
還元口ふた



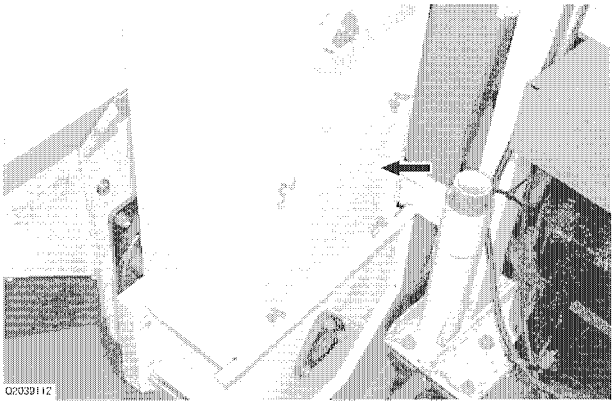
1番・2番コンベア樋



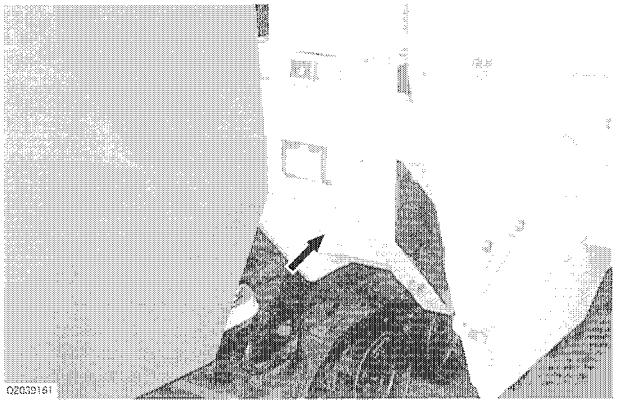
グレンタンク下部(グレンタンク仕様のみ)



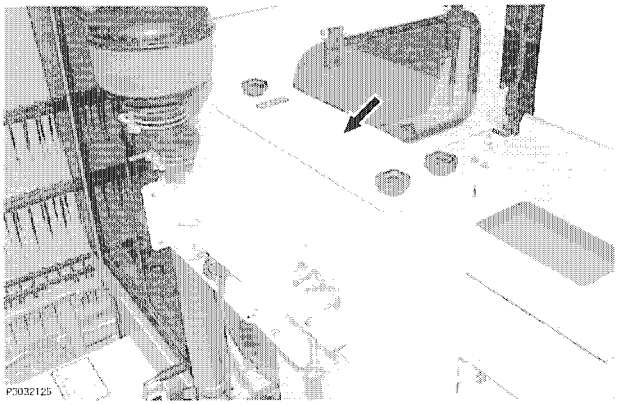
グレンタンク昇降機(グレンタンク仕様のみ)



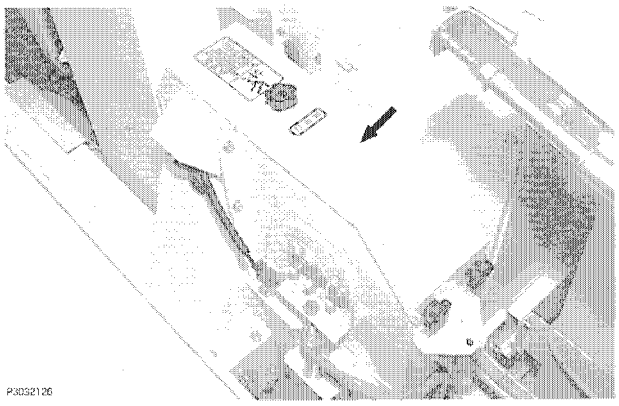
グレンタンク受継部(グレンタンク仕様のみ)



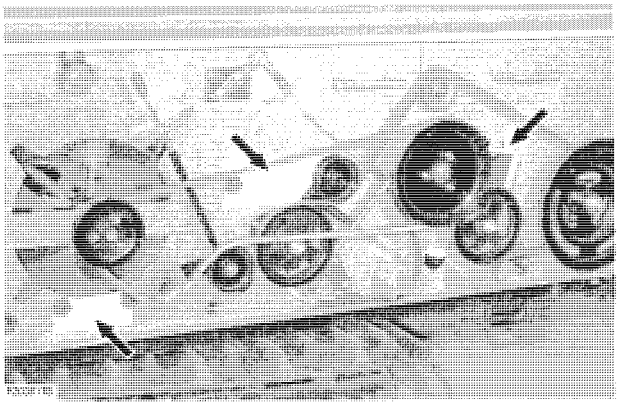
1番昇降機上板



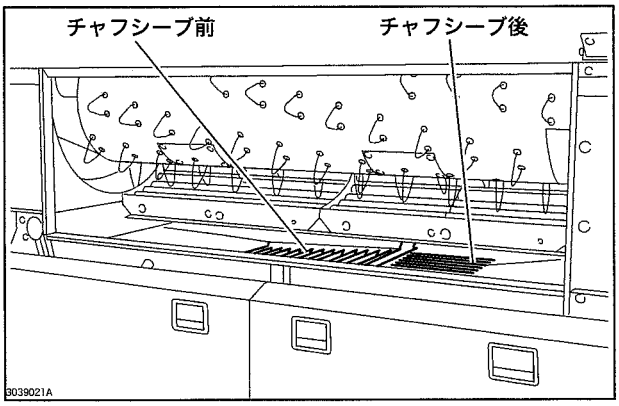
2番昇降機上板



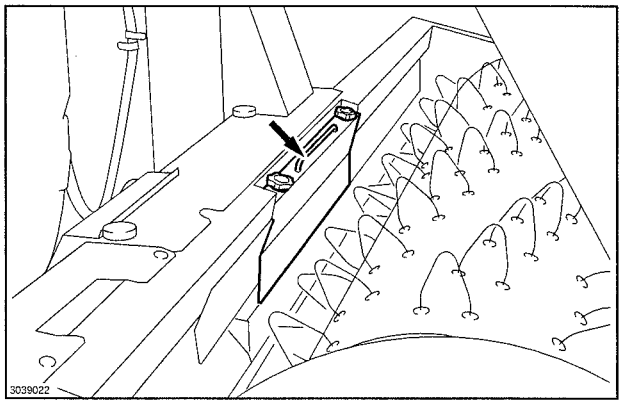
唐箕風路掃除口



選別室

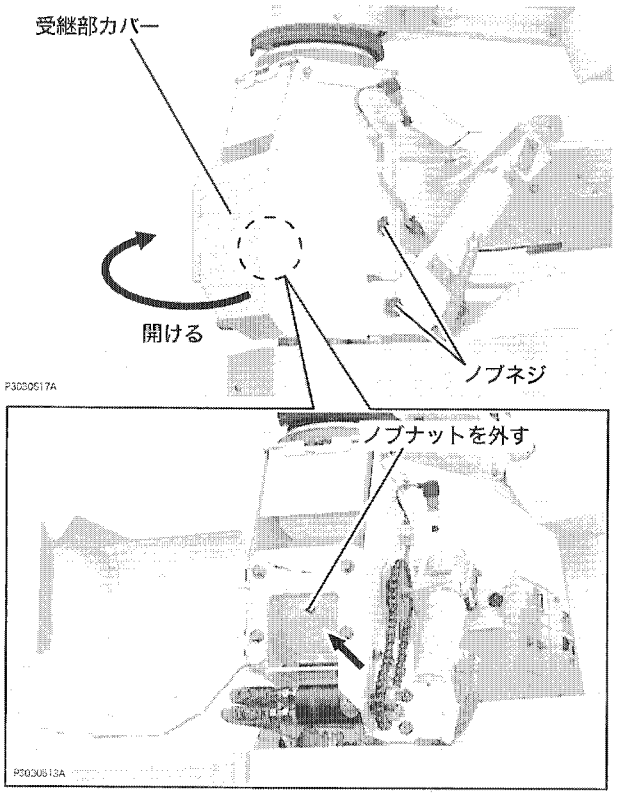


2番上コンベア掃除口

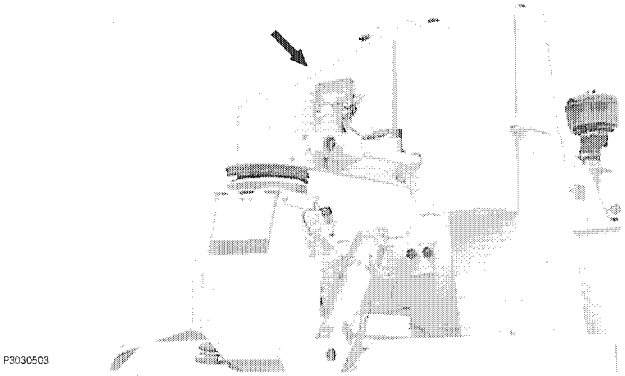


※カバーを取り外してください。

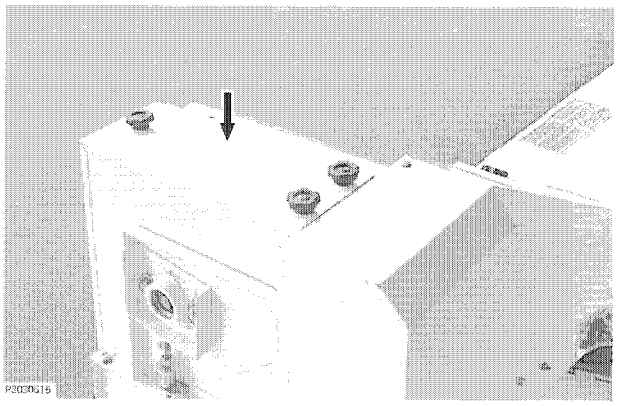
排出コンベア受継部(グレンタンク仕様のみ)



昇降機上板2(グレンタンク仕様のみ)

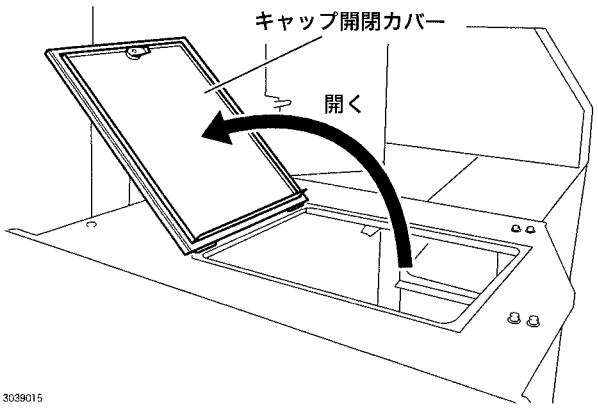


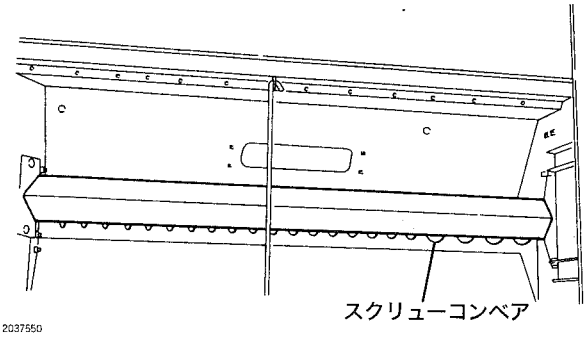
昇降機上板1(グレンタンク仕様のみ)



グレンタンク内の掃除のしかた (グレンタンク仕様のみ)

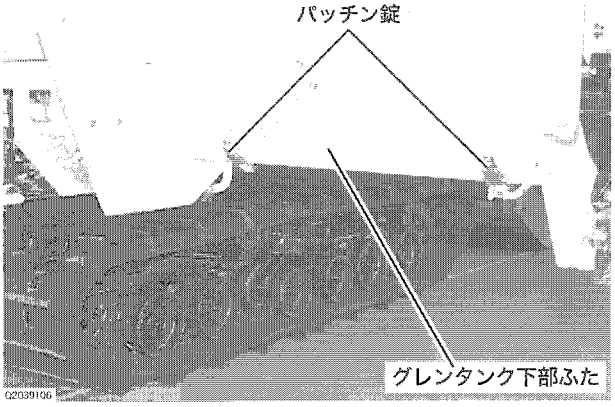
1. キャップ開閉カバーを開いて、グレンタンク内部の壁面にわずかに残留したこく粒を、ホーキなどでスクリューコンベア部に落とし込んでください。





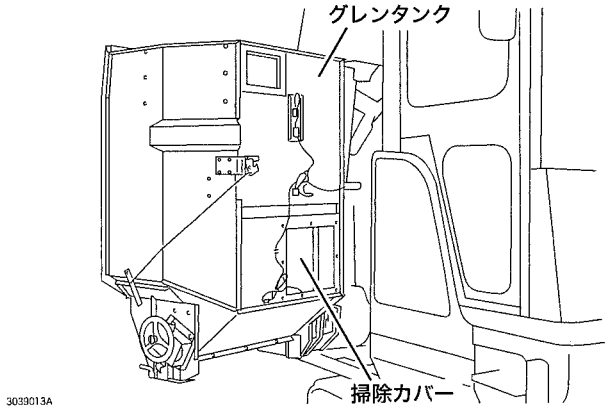
2. グレンタンクをオープンしてください。
(150ページ参照)

3. パッチン錠（2か所）を解除して、グレンタンク下部ふたを開けてください。スクリューコンベア部に溜まっているこく粒を掃除してください。

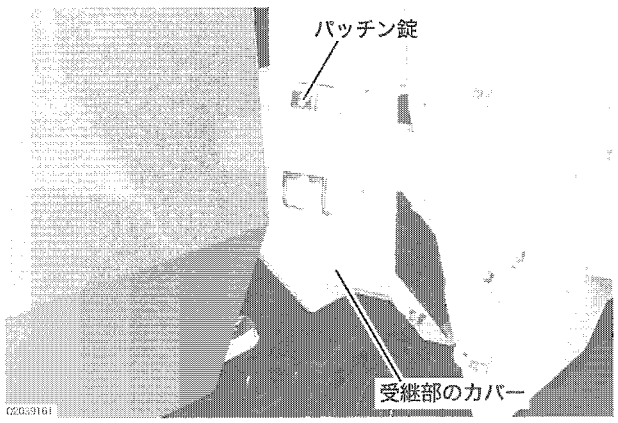


[参考]

●さらにグレンタンク裏側の掃除カバーを取り外すと、タンク内およびスクリューコンベア部のこく粒の掃除が行いやすくなります。

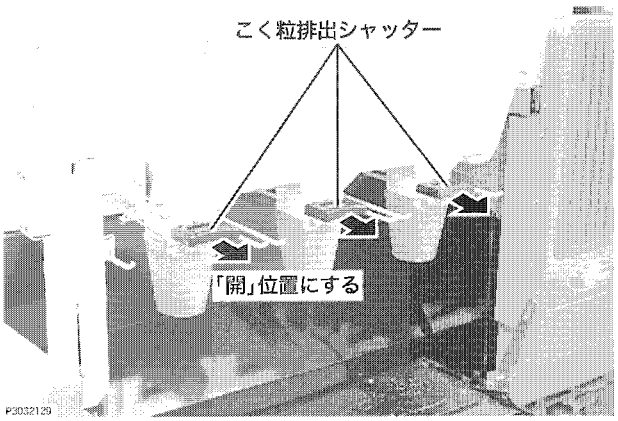


4. グレンタンク受継部のパッチン錠を解除して、カバーを開けて、スクリューコンベアと昇降コンベア部との受継部に溜まったこく粒を掃除してください。

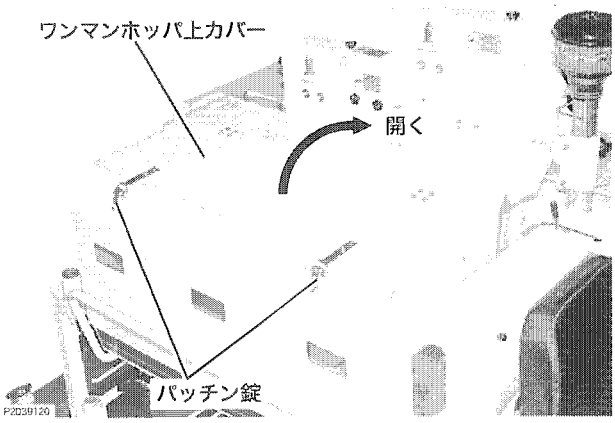


ワンマンホッパ内の掃除のしかた（ワンマンホッパ仕様のみ）

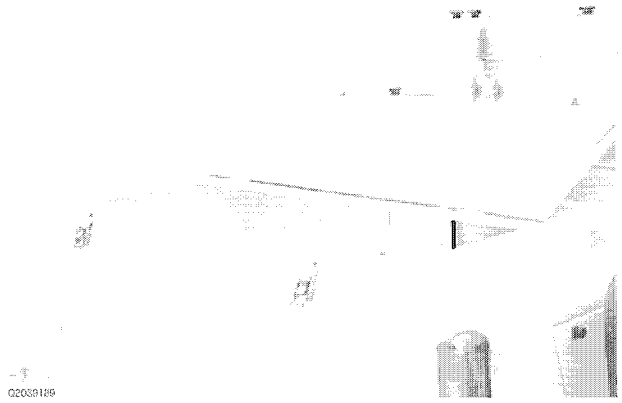
1. こく粒排出シャッターを「開」位置にしてください。



2. ワンマンホッパ上部のパッチン錠（2か所）を解除して、ワンマンホッパ上カバーを開いてください。

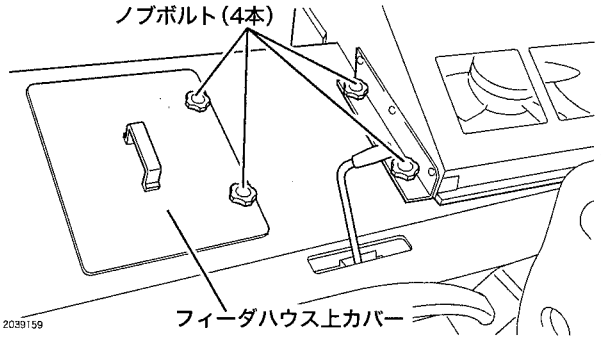


3. ワンマンホッパ内部の壁面にわずかに残留したこく粒を、ホーキなどで排出口に落とし込んでください。



フィーダハウス内、および防塵ファン吸入口（キャビンなし仕様のみ）の掃除のしかた

1. フィーダハウス上面のノブボルト（4本）を取り外してください。



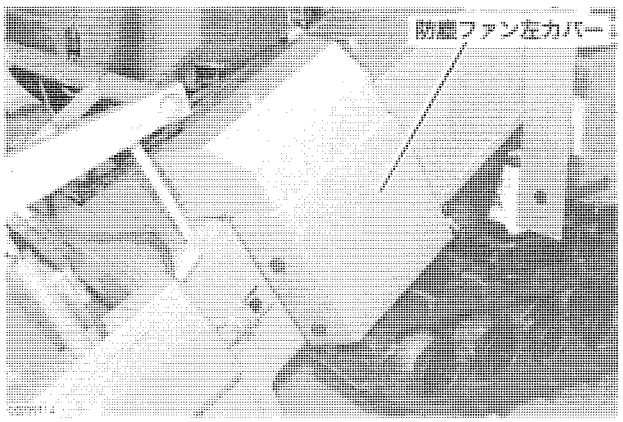
2. 防塵ファン上カバーをオープンして、フィーダハウス上カバーを取り外してください。



3. フィーダハウス下のノブボルト（2本）を外して、フィーダハウスシートメタルを取り外して、掃除してください。

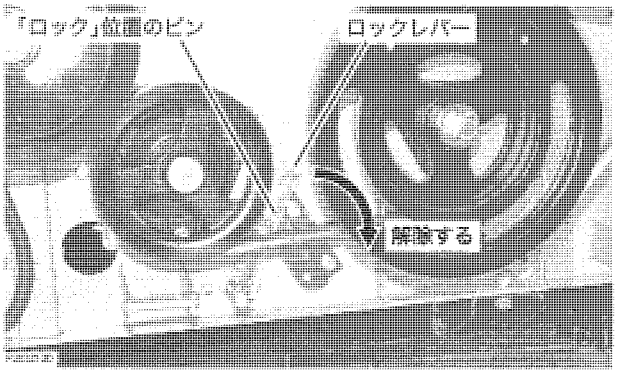
[参考]

●必要に応じて、防塵ファン左カバーもオープンして、掃除してください。

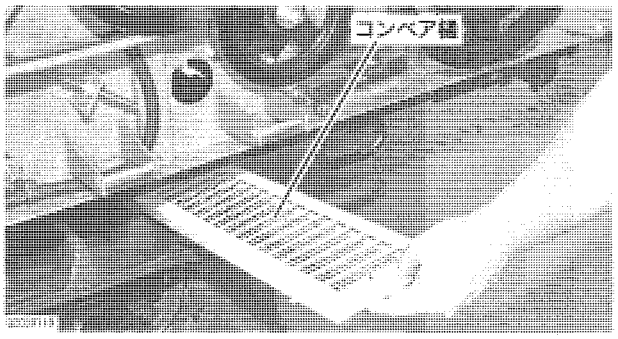


1番・2番コンベア樋の掃除のしかた

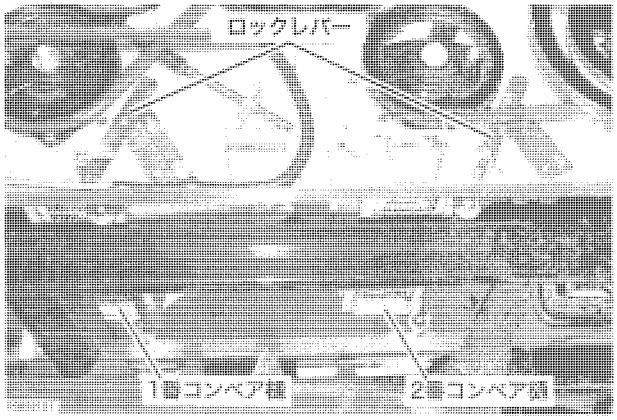
1. 脱こく左前カバーと脱こく左後カバーを取り外してください。（146ページ参照）
2. 1番・2番コンベア樋の各ロックレバーを「解除」位置にしてください。
   操作方法は、レバーを外側に引っ張り、「ロック」位置のピンから外して、「解除」位置にしてください。



3. 1番・2番コンベア樋を取り外して、コンベア樋に溜まっている、こく粒をきれいに取り除いてください。

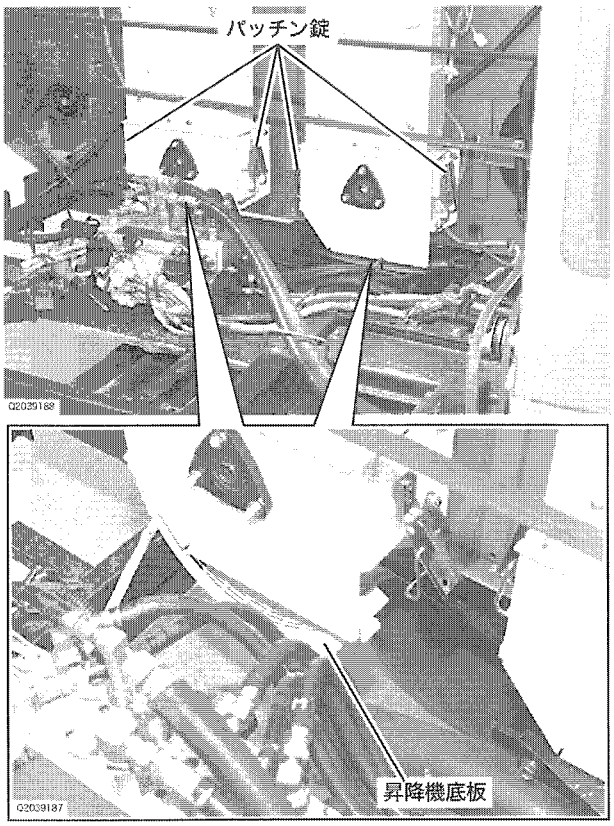


4. 前述と逆の手順で、1番・2番コンベア樋を取り付けて、1番・2番コンベア樋の各ロックレバーを「ロック」位置のピンに掛けて、1番・2番コンベア樋を固定してください。



1番・2番昇降機底板の掃除のしかた

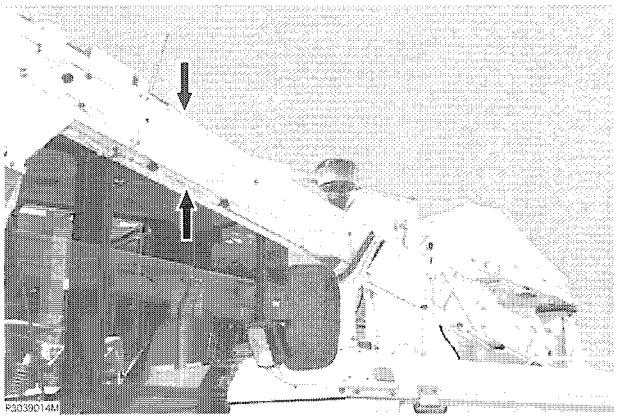
1. グレンタンクをオープンしてください。（グレンタンク仕様のみ）（150ページ参照）
2. ワンマンホッパをオープンして（152 ページ参照）、脱こく右カバーを取り外して（147ページ参照）ください。（ワンマンホッパ仕様のみ）
3. パッチン錠（各2か所）を解除して、1番・2番昇降機底板を取り外してください。



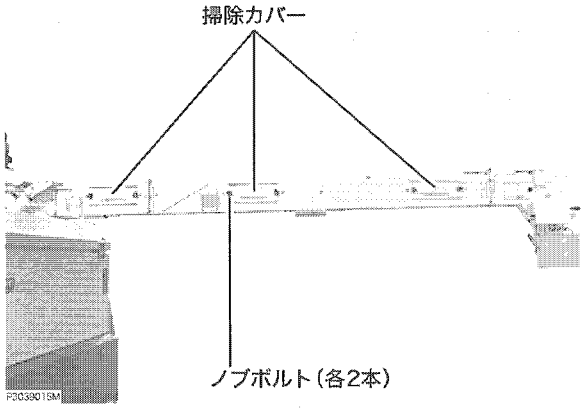
4. 1番・2番昇降機底に溜まっている、こく粒をきれいに取り除いてください。
5. 上記と逆の手順で、1番・2番昇降機底板を取り付けて、パッチン錠で固定してください。

排出コンベアの掃除のしかた

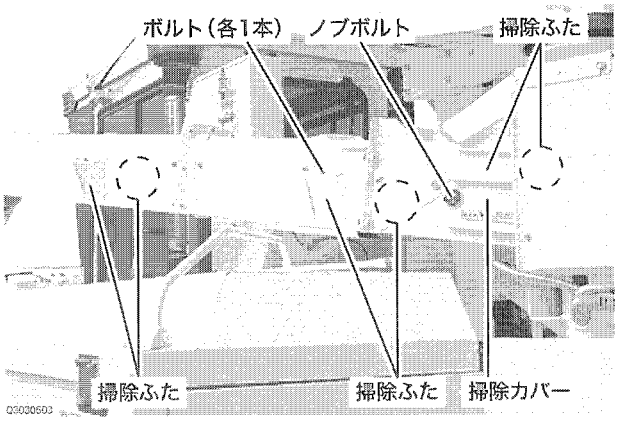
1. 排出コンベアを排出位置にセットしてください。
2. 排出コンベア上部（1か所：ノブナット2個）と、下部（1か所：ノブナット2個）の掃除カバーを取り外してください。



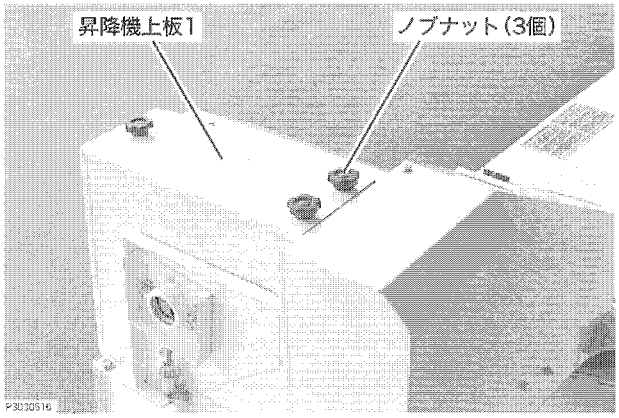
3. 排出コンベア右側面の掃除カバーを（3か所：ノブボルト各2本）を取り外してください。

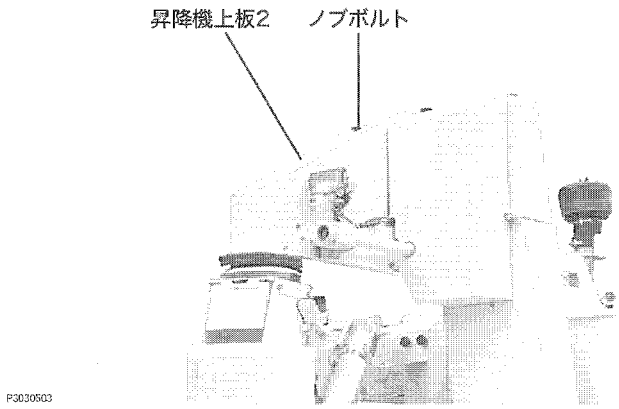


4. 排出コンベア左側面の掃除カバー（1か所：ノブボルト1本）を取り外してください。
5. 排出コンベア左右側面の掃除ふた（左右各 3 か所：ボルト各1本）を取り外してください。

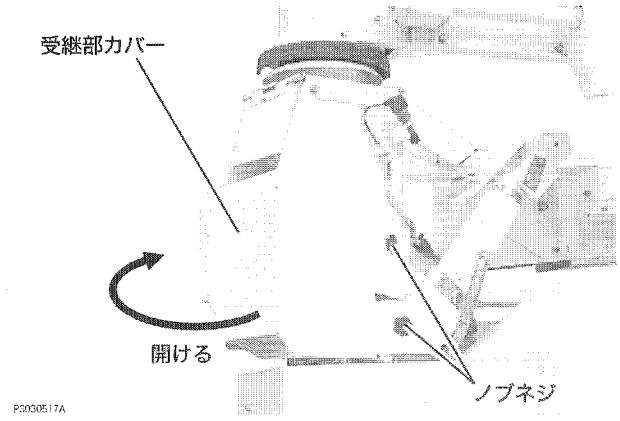


6. 昇降機上板1（ノブナット3個）と昇降機上板2（ノブボルト1本）を取り外してください。

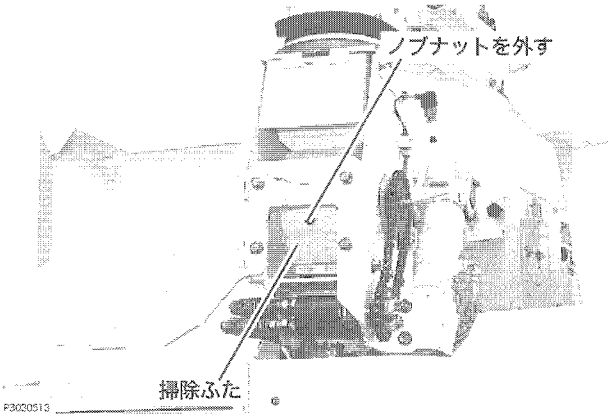




7. 排出コンベア受継部のノブネジ（2本）を外して、受継部カバーを開けてください。



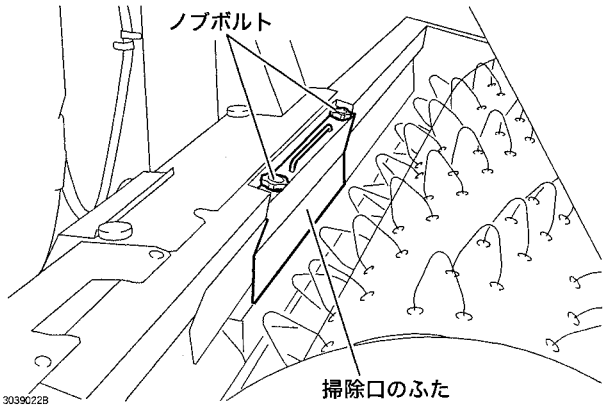
8. ノブナット（1個）を外して、掃除ふたを取り外してください。



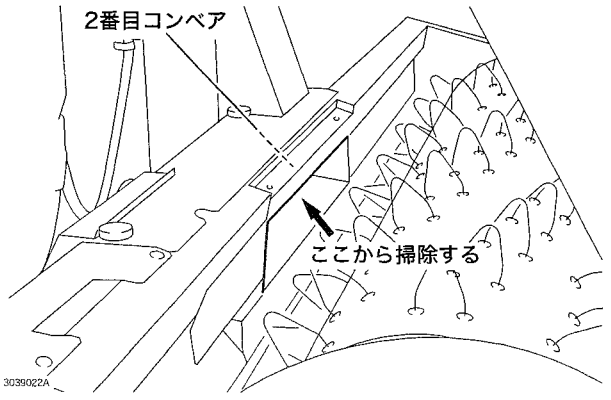
9. 排出コンベアを駆動させてください。排出コンベア内にたまったこく粒が排出できます。

2番上コンベア掃除口の掃除のしかた

1. ロータカバーをオープンしてください。（149ページ参照）
2. 掃除口のふた（ノブボルト2本）を取り外してください。



3. 掃除口から、2番上コンベアの掃除をしてください。



4. 掃除口のふたを取り付けて、ロータカバーを閉めてください。

マフラーおよび連結パイプの掃除のしかた

1. グレンタンク仕様の場合は、グレンタンクをオープンしてください。(150ページ参照)
2. ワンマンホッパ仕様の場合は、ワンマンホッパをオープンして（152 ページ参照）、脱こく右カバーを取り外してください。(147ページ参照)
3. エンジンルームをオープンしてください。(148ページ参照)
4. マフラーおよび連結パイプ付近の高温部にある、ワラクズなどの堆積や付着を掃除してください。

[重要]

- 高温部分が十分に冷めてから行ってください。守らないと、ヤケドをするおそれがあります。

4. 各部の注油のしかた

⚠注意

- 注油をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。ケガをするおそれがあります。

注油:

※刈刃・フィーダチェンには、食品機械用潤滑スプレーを使用してください。(102ページ参照)

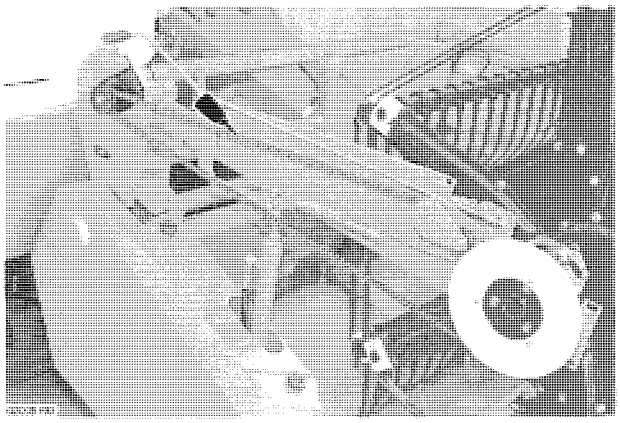
食品機械用潤滑スプレー:

[参考]

- 低温時（5 ℃以下）には、オイルの一部が固体になり、分離しているような状態になる場合があります。分離しているときは、常温に戻してから使用してください。

リール駆動チェン

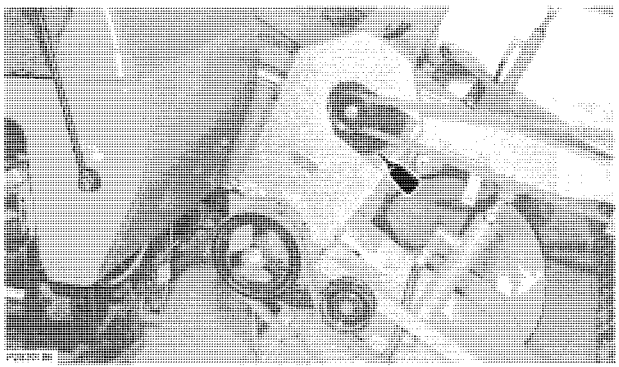
リールチェンカバーを外してください。



リールカウンタチェン

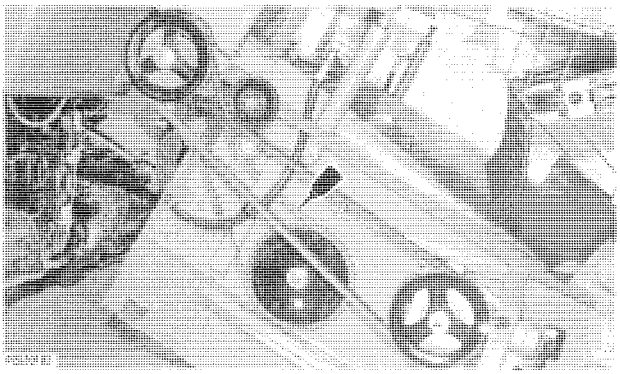
刈取サイドカバー右を外してください。

(147ページ参照)

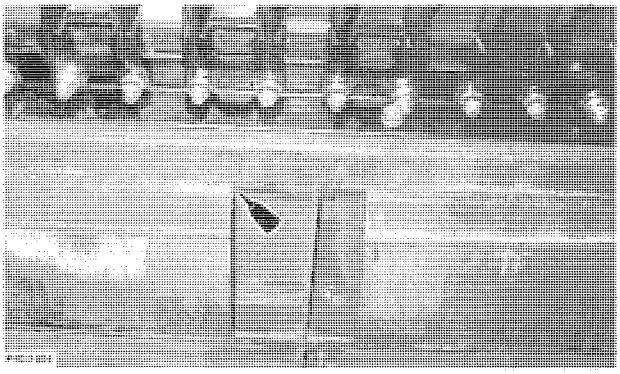


プラットホームオーガ駆動チェン

刈取サイドカバー右を外してください。
(147ページ参照)

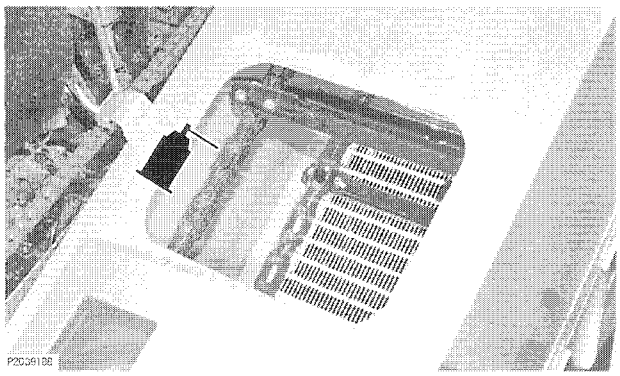


センサソリ

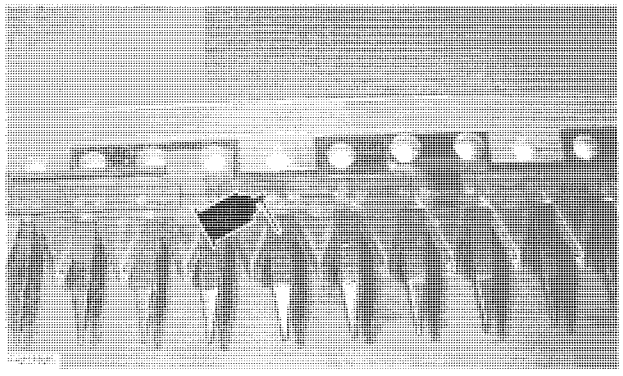


フィーダチェン

フィーダハウス上カバーを外してください。
(146ページ参照)

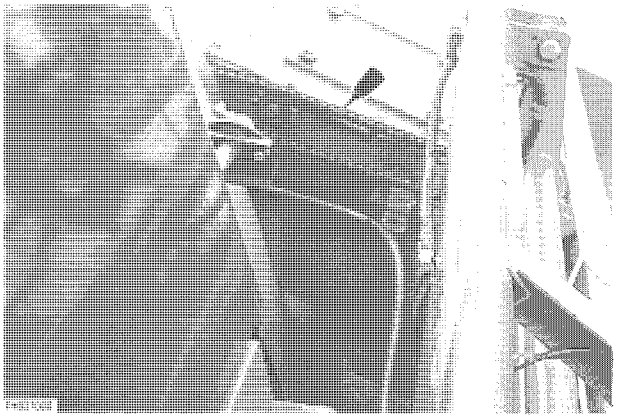


刈刃



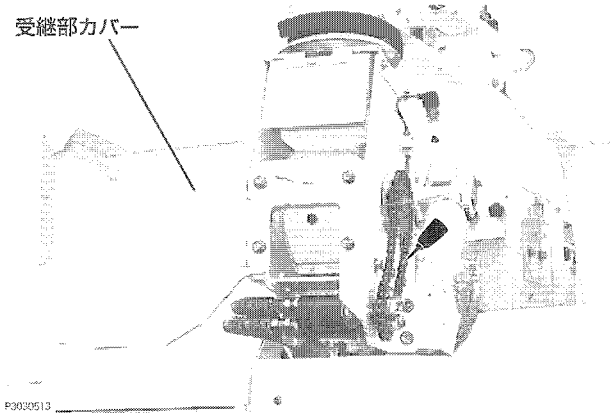
刈取駆動チェン

フィーダハウス右カバーを外してください。
(146ページ参照)

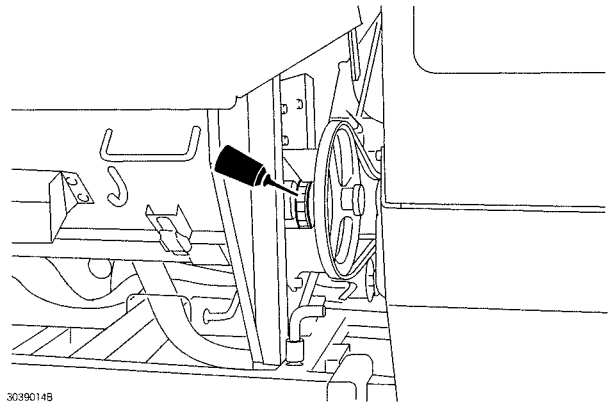


排出コンベア駆動部

受継部カバーを開けてください。(166ページ参照)



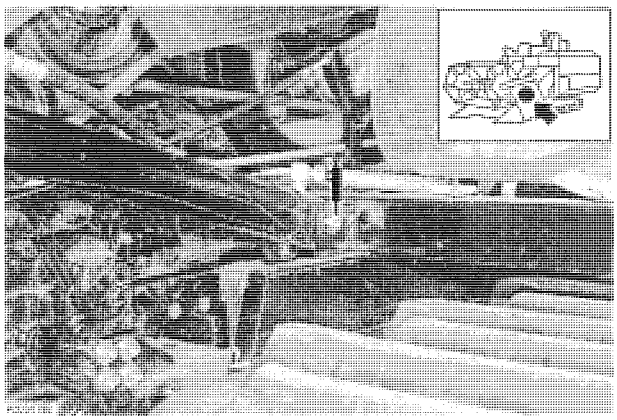
グレンタンク排出駆動チェン部



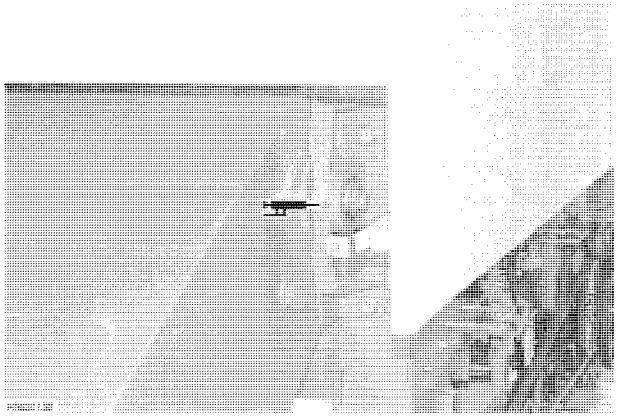
5. グリスアップのしかた

掃除をした後、下図の位置にグリスアップを行ってください。

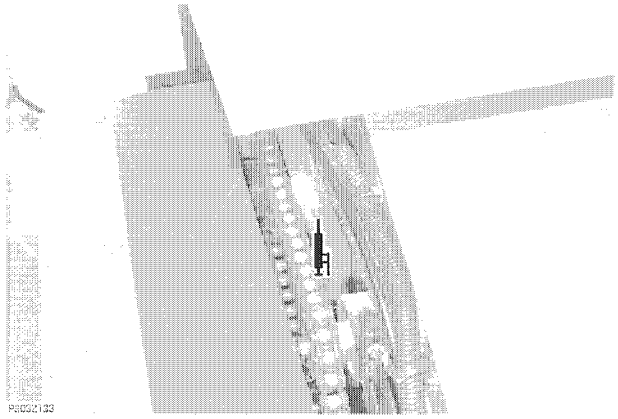
PFシリンダピン



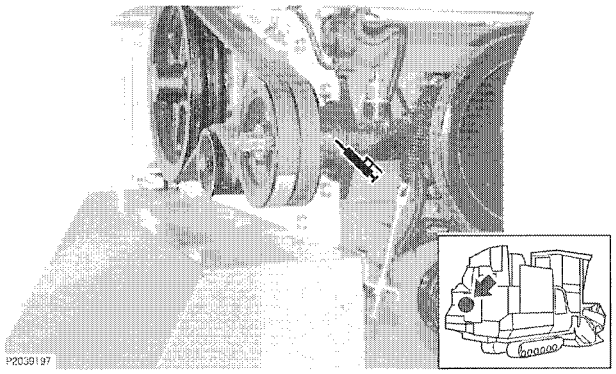
フィーダハウス回動支点左部
脱こく前カバーを取り外してください。
(146ページ参照)



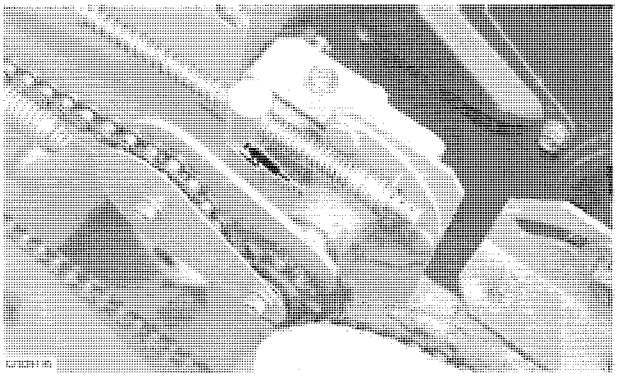
フィーダハウス回動支点右部
フィーダハウス右カバーを外してください。
(146ページ参照)



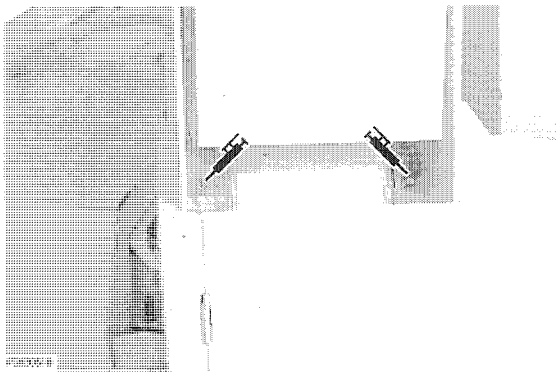
ロータ軸受部後部
脱こく後カバーと脱こく後右カバーを取り外してください。(147ページ参照)



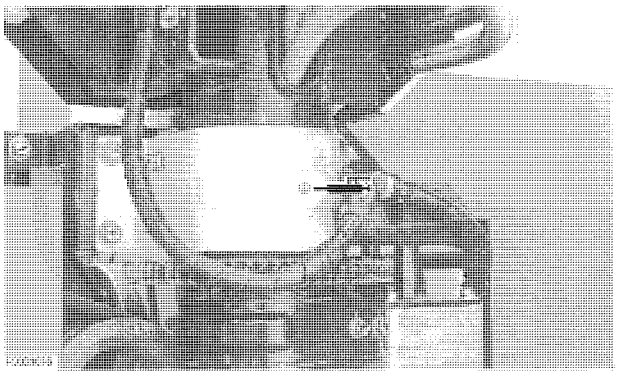
リール変速切替部
リールチェンカバーを取り外してください。
(147ページ参照)



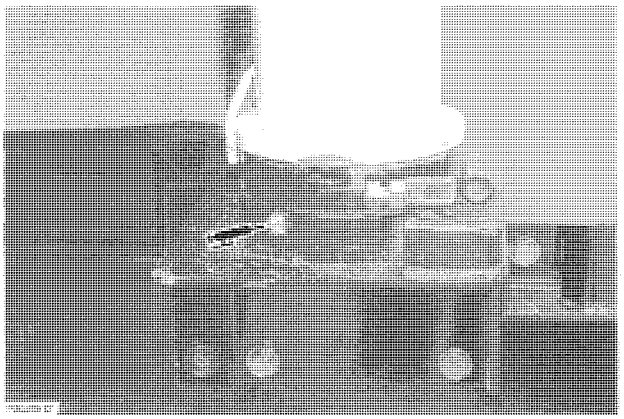
排出コンベア昇降駆動部



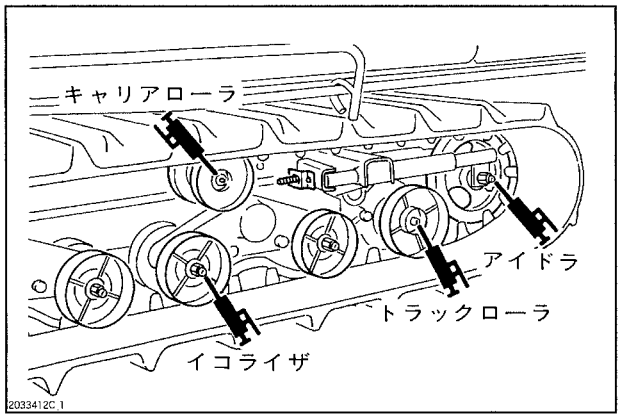
排出コンベア上部回動支点メタル



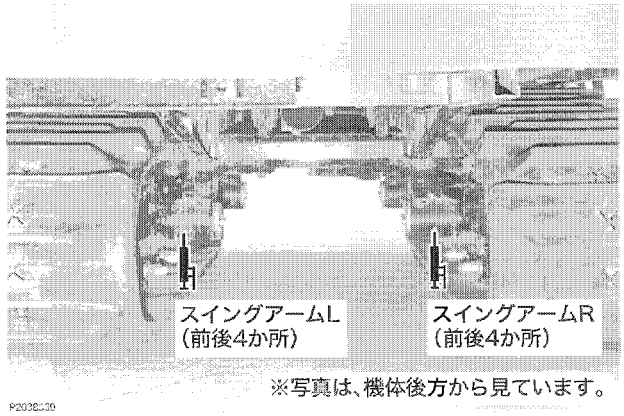
排出コンベア下部回動支点メタル

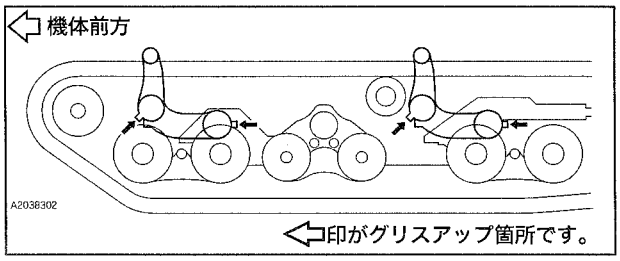


キャリアローラ・イコライザ・トラックローラ・アイドラ



スイングアームL・R





6. 格納のしかた

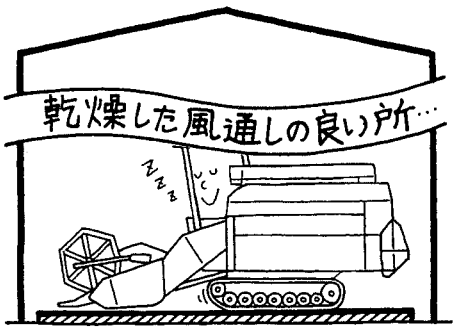
⚠警告

●格納するときは、バッテリを本機から取り外し、キーを抜いて保管してください。守らないと、事故を起こすおそれがあります。(193ページ参照)

[重要]

●各部にこく粒やサヤクズが残っていると、ネズミの巣になったり、配線部をかじられて、次の年の作業に差し支えますので、きれいに掃除してください。

●直射日光や雨水のあたらない、風通しのよい屋内に置いてください。



●床が汚れないように、本機の下に板を敷いてください。

●各操作スイッチ・レバーを「切」位置、または「N」(中立) 位置にしてください。

●刈取部をいっぱいまで下げてください。

●外部のサビやすい部分 (油圧シリンダロッドなど) には、防錆油またはエンジンオイル・グリスを塗ってください。

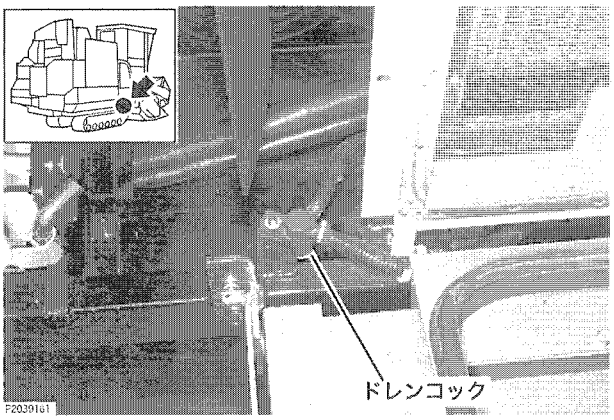
●エアクリーナー・マフラ・エンジンオイル給油口などから湿気が入らないように、ポリエチレンなどの袋で密閉してください。

●燃料タンクに燃料を規定量入れてください。空にしておきますと水滴ができ、サビの原因になります。

●エアコンの冷媒 (クーラーガス) を規定量入れてください。

●キースイッチのキーは、必ず抜き取って保管してください。

●下部カバー（グレンタンク仕様のみ）を取り外し、エンジンルームをオープンして、冷却水のドレンコックから冷却水を完全に抜き取ってください。（182ページ参照）



[参考]

●不凍液を入れた冷却水でも、－10℃以下になると凍ることがあります。（183ページ参照）

格納中の整備のしかた

格納期間中は、下記のような整備を行ってください。

●1 か月に一度はエンジンをかけて、機械を動かしてください。各潤滑部に新たな油膜ができ、格納中の油膜切れが防げます。

●バッテリは、使用しなくても自然に放電します。1か月に一度は、充電してください。（194ページ参照）

●2～3週間ごとに1～2回は、エンジンをローアイドリング（低回転）で、エアコンを10分以上作動させてください。

〈作業装置を作動させるときは〉

油圧シリンダロッドに塗った防錆油を拭き取ってください。

運転再開のしかた

長期間格納した後、本機を使用するときは、下記のようにしてください。

●油圧シリンダのピストンロッドに塗った防錆油を拭き取ってください。

●各部の給油・給脂箇所に、十分オイル・グリスを給油・給脂してください。

●エンジン始動後は、暖機運転（15 分以上）を行い、各部を十分になじませてください。

⚠警告

- 点検・整備・調節をするときは、交通の危険がなく、平坦で安定した場所で行ってください。守らないと、機械が転倒するなど、思わぬ事故の原因になります。
- 点検・整備・調節をするときは、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、各レバーを「切」位置にして、回転部の停止を確認してから行ってください。守らないと、回転部に巻き込まれたり、重大な事故の原因になります。
- 刈取部を上げて点検・整備・調節をするときは、必ず刈取部ストッパーを「固定」位置にして、刈取部を固定してください。
- 室内で点検・整備・調節をするときは、換気を十分に行ってください。エンジンの排気ガスで中毒を起こすおそれがあります。
- 複数で作業するときは、安全を確保するために、キースイッチのキーを抜いてください。

⚠注意

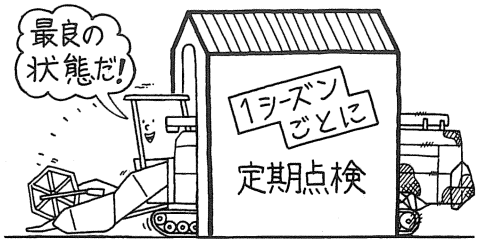
- 点検・整備をするときは、高温部分が十分に冷めてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。
- カバーを取り外して点検・整備したときは、必ずカバーを元通りに取り付けてください。元通りに取り付けないと、回転部に巻き込まれたり、傷害事故を起こす原因になります。

[重要]

- 地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリ・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。
- 2人以上で作業するときは、安全を確保するために、キースイッチのキーを抜いてください。

1. 定期点検・整備の時期について

定期点検や整備は、農閑期に行われることをお勧めします。農閑期に行いますと、農繁期には機械の性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故を未然に防止するため、1シーズンごとに整備工場での定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。
特に、燃料パイプやラジエータホースなどのゴムホース類は2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検するようにして、常に機械を最良の状態で、安心して作業が行えるようにしてください。



2034429

2. 主要消耗部品の点検・交換時期の目安表

※下記の表は、主要消耗部品の点検・交換時期の目安表です。作物条件・作業条件により交換時期が異なりますので注意してください。

○:点検と調整・掃除・締結け　▲:交換　●:初期運転後の点検と調整

点検箇所		点検・交換時期 アワメータ表示時間（時間）																					それ以降(時間:h)	
		20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000	点検	交換
エンジン	ジェネレータ駆動ベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200hごと	400h
	冷却水	○	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	毎日	200h(1年)
	防塵網、ラジエータフィンの目詰り	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	毎日	−
	プレクリーナのほこり	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	毎日	−
	エアクリーナエレメント目詰り	○	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	毎日	200h(1年)
	燃料フィルタエレメント							▲						▲						▲			−	300h
	ウオータセパレータ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	毎日	−
	オイルフィルター		▲				▲				▲				▲				▲				−	オイル交換2回ごと
	エンジンオイル	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	毎日	100h
	燃料タンク			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	100hごと	
	燃料ホース																						毎日	2年ごと
ミッション	駐車ブレーキワイヤ		●			○				○		▲		○				○				▲	50, 200hごと	500h
	HSTオイルフィルタ		▲						▲						▲						▲		−	300h
	ミッションオイル		▲						▲						▲						▲		−	300h
	スプロケット									○								○					400hごと	
	車軸オイルシール									○								○					400hごと	
走行	HST走行駆動ベルト	●	○	○	○	○	○	○	○	▲	●	○	○	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	20, 50hごと	400h
	コンプレッサ駆動ベルト	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	▲	●	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	20, 50hごと	500h
	バッテリー			○		○		○		○		▲		○		○		○		○		▲	100hごと	500h(2〜3年)
	HPフィルター							▲												▲			−	600h
	クローラ		●			○				▲	●			○				▲				○	50, 200hごと	400h
	スプロケット			○		○		▲		○		○		▲		○		○		▲			100hごと	300h
	トラックローラ					○				▲				○				▲				○	200hごと	400h
	トラックローラベアリング					○				▲				○				▲				○	200hごと	400h
	トラックローラスリーブ					○				▲				○				▲				○	200hごと	400h
	トラックローラオイルシール					○				▲				○				▲				○	200hごと	400h
	アイドラ					○				▲				○				▲				○	200hごと	400h
	アイドラベアリング					○				▲				○				▲				○	200hごと	400h
	アイドラスリーブ					○				▲				○				▲				○	200hごと	400h
	アイドラオイルシール					○				▲				○				▲				○	200hごと	400h
	クローラガイド									○								▲					400hごと	800h
	イコライザ					○				▲				○				▲				○	200hごと	400h
	キャリアローラ					○				▲				○				▲				○	200hごと	400h
	イコライザ、キャリアローラベアリング					○				▲				○				▲				○	200hごと	400h
	イコライザ、キャリアローラオイルシール					○				▲				○				▲				○	200hごと	400h
刈取	刈取駆動ベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200hごと	400h
	刈刃駆動ベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200hごと	400h
	刈刃(含む隙間調整)			○		○		▲		○		○		▲		○		○		▲		○	100hごと	300h
	リールカウンタチエン		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100hごと	500h
	リール駆動チエン		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100hごと	500h
	刈取駆動チェン		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100hごと	500h
	刈取カウンタチエン		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100hごと	500h
	プラットホームオーガチエン		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100hごと	500h
	フィーダチエン		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100hごと	500h
	刈取クラッチワイヤー		●	○		○		○		▲	●	○		○		○		▲		●		○	50, 200hごと	400h
	刈刃駆動ケースオイル		▲						▲						▲						▲		−	300h
	刈刃駆動アームベアリング							▲						▲						▲			−	300h
	刈取駆動ケースオイル		▲						▲						▲						▲		−	300h
脱穀	脱穀カウンタベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200hごと	400h
	脱穀駆動ベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200hごと	400h
	ロータベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200hごと	400h
	唐箕駆動ベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200hごと	400h
	ファンベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200hごと	400h
	2番駆動上ベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200hごと	400h
	1番2番駆動ベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200hごと	400h
	選別駆動ベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200hごと	400h
	エレベータチエン1番, 2番		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100hごと	500h

点検箇所		点検・交換時期 アワメータ表示時間（時間）																				それ以降(時間:h)	
		20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000	点検	交換
脱穀	脱穀クラッチワイヤー		●	○		○		○		▲	●	○		○		○		▲		●		○	50, 200hごと	400h
	選別調節ワイヤー		●							○								▲					400hごと	800h
	1番コンベア											▲											−	500h
	2番軸B											▲											−	500h
	羽根											▲											−	500h
	バケット											▲										▲	500hごと	先端5mm摩耗
	バケットチエン			○		○		○		○		▲		○		○		○		○		▲	100hごと	500h
	扱歯											▲										▲	500hごと	先端5mm摩耗
	排稈羽根											▲										▲	500hごと	先端5mm摩耗
	コンケーブ											▲										▲	500hごと	パイプ1/2摩耗
	ロータ駆動ケースオイル		▲						▲						▲						▲		−	300h
グレン	グレン駆動ベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200hごと	400h
	受継コンベア駆動ベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200hごと	400h
	受継搬送ベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200hごと	400h
	排出コンベア搬送ベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200hごと	400h
	エレベータチエン排出		●			○				▲				○				▲				○	50, 200hごと	400h
	下部コンベア											▲										▲	500hごと	板厚0.3mm以下
	グレン駆動チェン		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100hごと	500h
	排出コンベア駆動チエン		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100hごと	500h
	Gクラッチワイヤー		●	○		○		○		▲	●	○		○		○		▲		●		○	50, 200hごと	400h
キャビン	コンプレッサー駆動ベルト	●		○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100hごと	500h
	内気フィルタ	30時間ごとに掃除																						
	コンデンサフィン	●		○		○		○		○		○		○		○		○		○		▲	100hごと	−
電装	バッテリー	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50hごと	−
		充電または交換																						
	ワイヤーハーネス、バッテリーケーブル	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50hごと	−
		充電または交換																						
	ヒューズ、スローブローヒューズ			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	100hごと	−
		破損している時交換																						
	ランプ			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	100hごと	−
		破損している時交換																						
	ホーンスイッチ			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	100hごと	−
		破損している時交換																						
CSS	回転刃、受刃			○		▲		○		▲		○		▲		○		▲		○		▲	100hごと	200h
	スプレッダ切替えワイヤ		●							○								▲					400hごと	800h
	スプレッダ駆動ベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200hごと	400h

規定量一覧表



テンションバネフック長は、
両端フックの内寸法を示します。

点検・調節箇所	規定量	内容	参照ページ
刈刃のすき間調節	1.2mm	受刃と刈刃上面の最大すき間	198
	0.3～0.8mm	受刃と刈刃下面のすき間	198
	0.8mm	刈刃の前後最大すき間	198
プラットホーム底板とスクリューコンベアのすき間調節	大豆12～15mm	プラットホーム底板とスクリューコンベアのすき間	199
	ソバ・麦6～8mm		199
プラットホーム底板とフィンガのすき間調節	4～6mm	プラットホーム底板とフィンガのすき間	199
フィーダチェン	25～27mm	フィーダチェンスラットと底板のすき間(A部)	200
	3～6mm	フィーダチェンスラットと底板のすき間(B部)	200
刈刃上面とリールタイン先端のすき間調節	10～15mm	刈刃上面とリールタイン先端のすき間	201
スクリューコンベアの外周とリールタイン先端のすき間調節	10～15mm	スクリューコンベアの外周とリールタイン先端のすき間	202
リールカウンタチェン	10～15mm	指で押したときのたわみ量	203
プラットホームオーガチェン	14～20mm	指で押したときのたわみ量	203
刈取駆動チェン	98～102mm	テンションバネフック長	204
刈取カウンタチェン	76～80mm	テンションバネフック長	204
バケットコンベアチェン・スラットコンベアチェン	0～0.5mm	座金とカラーの間(A寸法)	205
1番・2番駆動ベルト	100～104mm	テンションバネフック長	207
選別駆動ベルト	83～87mm	テンションバネフック長	207
刈刃駆動ベルト	141～145mm	テンションバネフック長	208
ロータ駆動ベルト1	103～107mm	テンションバネフック長	208
ロータ駆動ベルト2	140～144mm	テンションバネフック長	209
グレン駆動ベルト2(グレンタンク仕様のみ)	138～142mm	テンションバネフック長	209
2番駆動ベルト上	80～84mm	テンションバネフック長	210
冷却ファンベルト(ジェネレータ駆動ベルト)	10～15mm	指で押したときのたわみ量	210
グレン駆動ベルト1(グレンタンク仕様のみ)	96～100mm	テンションバネフック長	211
刈取駆動ベルト	40～45mm	レバー「切」側からの寸法	211
脱こく駆動ベルト	35～40mm	レバー「切」側からの寸法	212
脱こくカウンタベルト	170～174mm	テンションバネフック長	212
HST走行駆動ベルト	224～228mm	テンションバネフック長	213
コンプレッサ駆動ベルト	6～8mm	指で押したときのたわみ量	213
受継駆動ベルト	90～94mm	テンションバネフック長	214
受継ベルト	0～0.5mm	座金とカラーのすき間	214
排出コンベア搬送ベルト	180～184mm	バネのバネ長	215
駐車ブレーキの調節	102～106mm	テンションバネフック長	215
クローラの調節	10～15mm	シャーシをジャッキアップしたとき、クローラと第2転輪のすき間	216

3. オイル・グリス・不凍液一覧表

	三菱(指定) 純正オイル	一般販売店の相当オイル	
		JX日鉱日石エネルギー (ENEOS)	コスモ石油
燃　　料	ディーゼル軽油	ディーゼル軽油(JIS 2号)	
エンジンオイル (API分類 CD級)	●スーパーマルチSTOUオイル 10W-30(CD級) ●スーパーマルチGDオイル 10W-30(CD級)	ディーゼルエンジン用 SAE10W-30相当品(API分類 CD級以上)	
グリース (マルチパーパスタイプ)	−	エピノックグリース AP2	コスモグリース ダイナマックスEP2
不凍液(JIS K2234 2種 パーマネントタイプ)	アンチフリーズPT	アンチフリーズPT	アンチフリーズPT (ゴールド、シルバー)
ミッションオイル (油圧・HSTオイル兼用)	トランスミッション フルードTF-300	−	
ミッションオイル (駆動ケース)	マルチSHPギヤオイル (GL-5、90番)	−	
食品機械用潤滑スプレー	部品コード:NX127		

4. 給油・給水一覧表

項　　目		給油量	種　　類	交換時期	参照ページ
燃料		50L	ディーゼル軽油	作業前	177
冷却水	ラジエータ	6.0L	清水・三菱不凍液	1年ごと	182
	サブタンク	0.45L	清水・三菱不凍液	1年ごと	182
	サブタンク (キャビン仕様)	1.1L	清水・三菱不凍液	1年ごと	182
エンジンオイル		4.7L	三菱純正オイル	1回目:50時間または1シーズン後 2回目:以降100時間ごと、または 1シーズンごとのどちらか 早い方	178
ミッションオイル (ミッションケース内油量)		11L	トランスミッション フルードTF-300	1回目:50時間または1シーズン後 2回目:以降300時間ごと、または 2年ごとのどちらか早い方	180
刈刃駆動ケース		0.7L	ミッションオイル90番(GL-5) (マルチミッションSHPギヤオイル)	1回目:50時間または1シーズン後 2回目:以降300時間ごと、または 2年ごとのどちらか早い方	181
ロータ駆動ケース		0.3L	ミッションオイル90番(GL-5) (マルチミッションSHPギヤオイル)	1回目:50時間または1シーズン後 2回目:以降300時間ごと、または 2年ごとのどちらか早い方	181

[重要]

● 定期点検を実施するとともに、オイルの交換は純正（指定）オイルをご使用ください。

5. 重要保安部品の点検・交換時期

下記の部品は、保安上、非常に重要な部品ですので、定期的に点検・交換をしてください。(195・196ページ参照)

	点検	交換	備考
燃料ホースおよび結合部	1年ごと	2年ごと	
電気配線	1年ごと		
油圧ホース	1年ごと	2年ごと	

〈燃料ホースおよび結合部の点検〉

- 燃料ホースおよび結合部からの燃料もれやにじみがないか、点検してください。ある場合は、きれいに拭き取ってください。
- 燃料ホース結合部のホースバンドが、ゆるんでいないか点検してください。ゆるんでいる場合は、締め付けてください。
- 燃料ホースにひび割れ・硬化・膨張がないか点検し、ある場合はホースを交換してください。

〈電気配線の点検〉

- 電気配線の接続部が、ゆるんでいないか点検してください。ゆるんでいる場合は、しっかり取り付けてください。
- 電気配線に損傷がないか、また、クランプにゆるみがないかを、目視などで点検してください。

〈油圧ホースおよび結合部の点検〉

- 油圧ホース・パイプおよび結合部より、オイルのもれ・にじみがないか点検してください。ある場

燃料の残量点検のしかた

- 油圧ホースの接続部が、ゆるんでいないか点検してください。ゆるんでいる場合は、しっかり取り付けてください。
- 油圧ホースにひび割れ・キズがないか点検し、ある場合はホースを交換してください。

6. 燃料の点検・補給のしかた

⚠危険

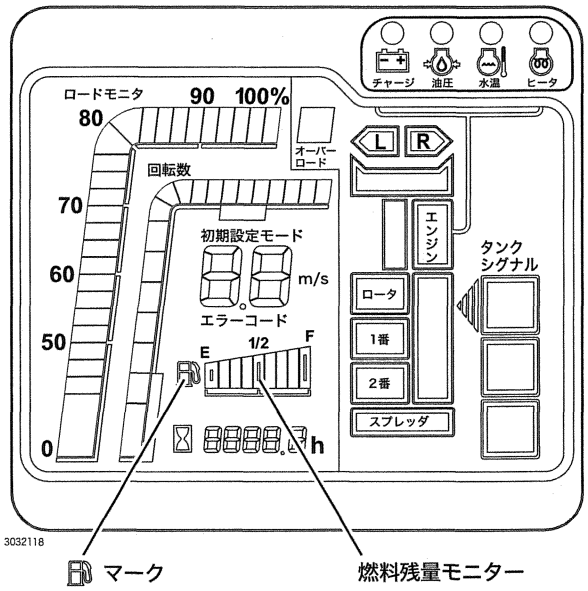
- 燃料の点検・補給をするときは、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。燃料に引火して、火災を起こす原因になります。
- 燃料の補給をしたときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと、火災やヤケドの原因になります。

燃料の残量点検のしかた

燃料の残量は、キースイッチを「入」位置にして、液晶コンビネーションメータの燃料残量モニターで確認してください。

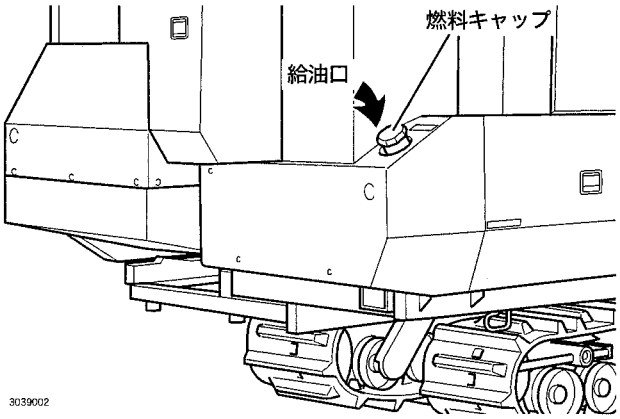
燃料の残量が少なくなったときは、⛽マークが点滅し、ブザーが断続的に鳴ります。

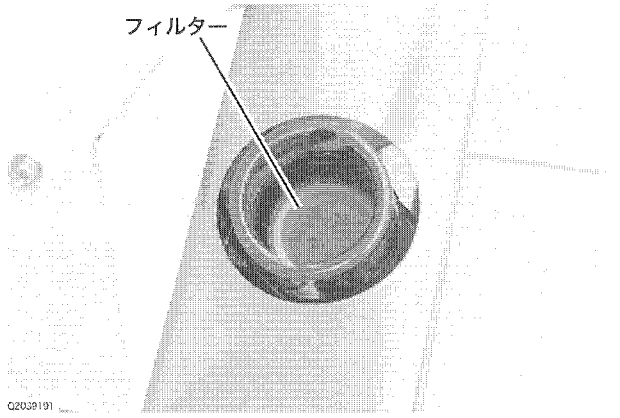
ブザーを止めるときは、ブザー停止ボタンを押してください。ブザーは鳴り止みますが、⛽マークは点滅したままです。



燃料の補給のしかた

1. 燃料キャップを取り外してください。
2. 燃料を、フィルターから液面が見え始めるまで補給してください。





[重要]

- 燃料補給は、給油口のフィルター下方に液面が見えてきたら、給油をやめてください。
  守らないと、冬季など燃料の温度が低いときに、燃料を給油口いっぱいまで入れていると、気温の上昇とともに膨張し、ブリーザパイプからもれることがあります。

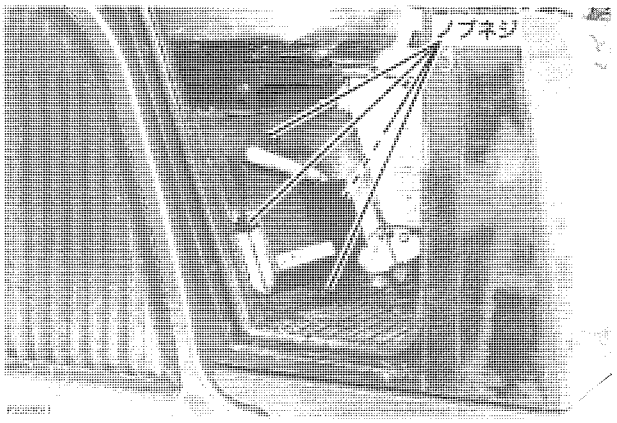
7. オイルの点検・補給・交換のしかた

[重要]

- 地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリ・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。
- オイルや燃料をクローラおよびエンジンマウントゴムにかけないようにしてください。もしオイルがかかったときは、十分に洗浄してください。そのままにしておくとクローラやエンジンマウントゴムの劣化や寿命が短くなるおそれがあります。

エンジンオイル

エンジンオイルの点検・補給・交換は、エンジン始動前か、エンジンが冷えているときに行ってください。
作業は、エンジンルームをオープンしてから行ってください。(148ページ参照)
またキャビン仕様の場合は、ドライバーシート下のカバー（ノブネジ：4本）を取り外してください。



作業終了後は、元通りにセットしてください。

〈推奨オイル〉

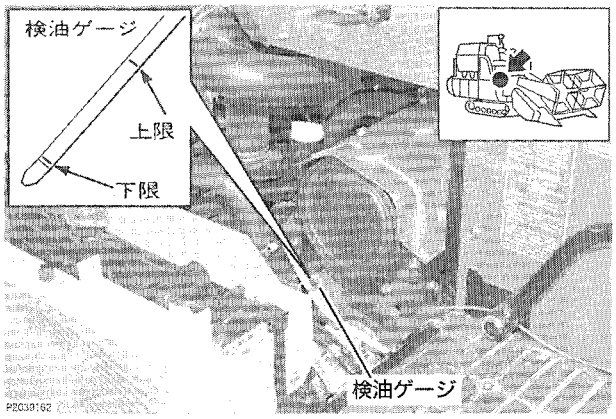
推奨エンジンオイル	交換時間	規定量
スーパーマルチSTOU オイル10W-30(CD級) スーパーマルチGD オイル10W-30(CD級)	1回目: 50時間後、または 1シーズン後 2回目以降: 100時間ごと、または 1シーズンごとの どちらか早い方	4.7L

〈点検のしかた〉

1. 検油ゲージを抜いて、先端をきれいに拭き取ってください。
2. 検油ゲージを元通りに差し込んだ後、もう一度抜き出して、ゲージの上限と下限の間にオイルがあることを点検してください。
3. 点検後は、検油ゲージを元通りに取り付けてください。

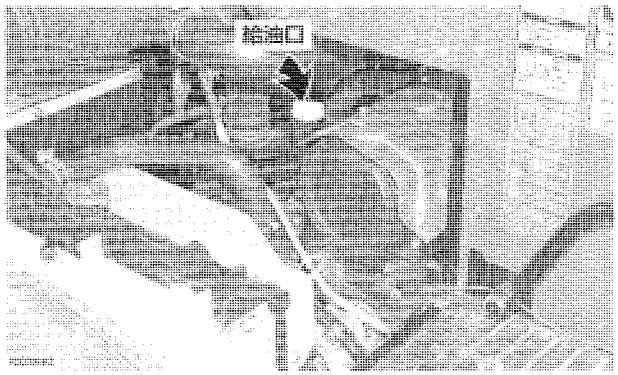
[参考]

●点検時、オイルもれのないことも確認してください。



〈補給のしかた〉

オイルが不足している場合は、給油口から規定量になるまで補給してください。



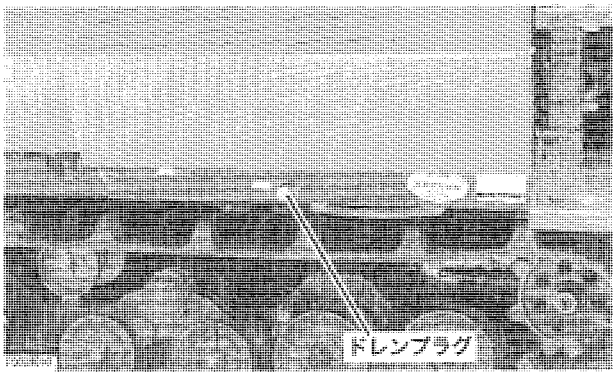
〈交換のしかた〉

1. ドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。
2. 給油口のふたを外した後、ドレンプラグを取り外してください。古いオイルが流れ出てきます。

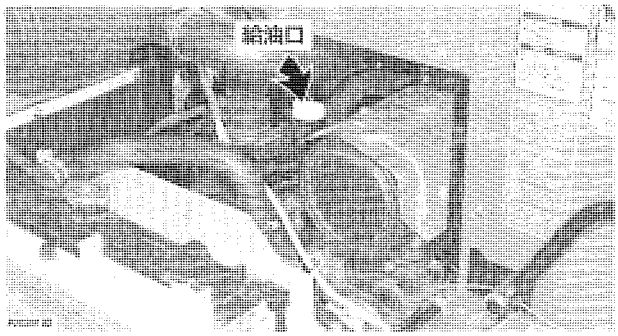
[参考]

●給油口のふたを外すと、オイルが抜けやすくなります。

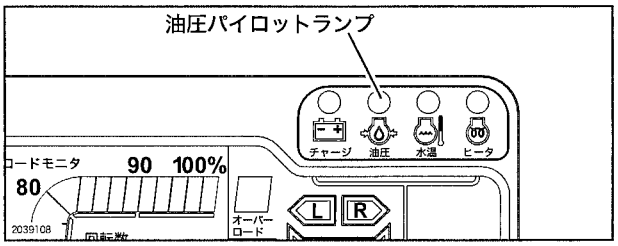
3. 古いオイルが抜け切ったら、ドレンプラグを元通りに取り付けてください。



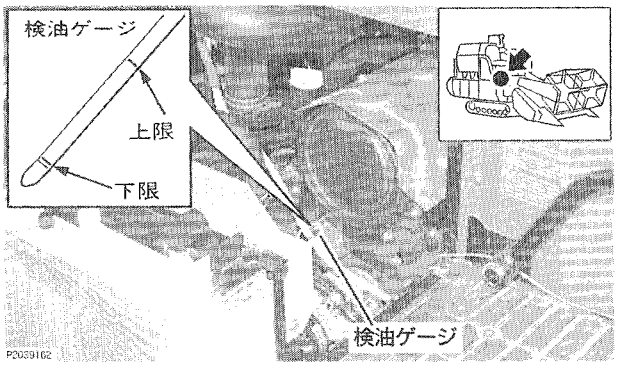
4. 給油口から、エンジンオイルを規定量まで給油してください。
5. 給油口にふたを取り付けてください。



6. エンジンを始動し、油圧パイロットランプが消えるまで、ローアイドリング（低回転）で回してください。



7. 油圧パイロットランプが消えたら、エンジンを停止し、約5分間待ってください。
8. 検油ゲージでオイル量を点検してください。不足している場合は、補給してください。



ミッションオイル

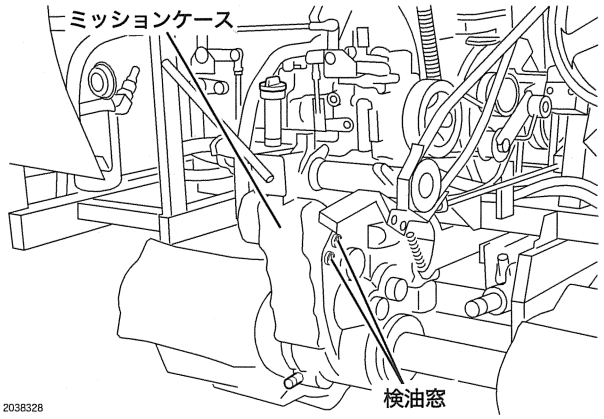
ミッションオイルの点検・補給・交換は、機体を水平な状態にし、刈取部を最上げ状態にして、刈取部をロックしてから行ってください。
(158ページ参照)
作業終了後は、元通りにセットしてください。

〈推奨オイル〉

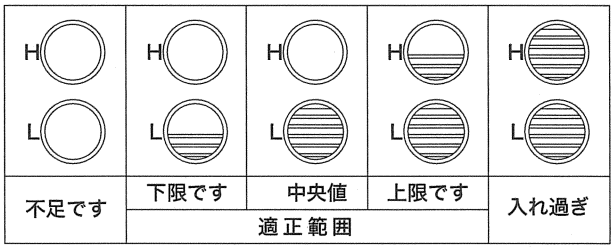
推奨ミッションオイル	交換時間	規定量
トランスミッション フルードTF-300	1回目: 50時間後、または 1シーズン後 2回目以降: 300時間ごと、または 2年ごと	11L

〈点検のしかた〉

ミッションケース左側面にある検油窓を点検してください。2つの検油窓のうち、下側の窓がオイルで満たされていれば規定量です。



検油窓の見かた

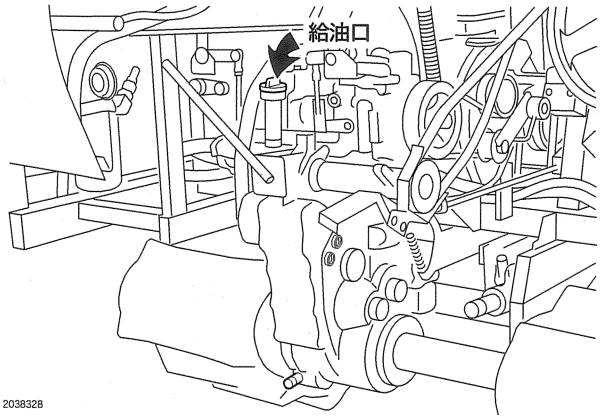


[参考]

● 点検時、オイルもれのないことを確認してください。

〈補給のしかた〉

オイルが不足している場合は、給油口から規定量(下側の検油窓がオイルで満たされる量)まで補給してください。



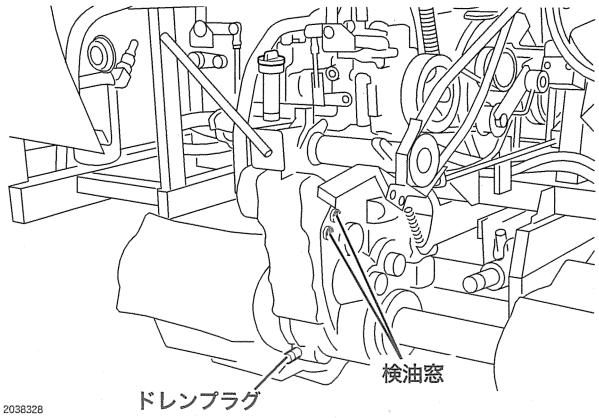
〈交換のしかた〉

1. ミッションケース下部のドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。
2. 給油口のふたを外した後、ドレンプラグを取り外してください。古いオイルが流れ出てきます。

[参考]

● 給油口のふたを外すと、オイルが抜けやすくなります。

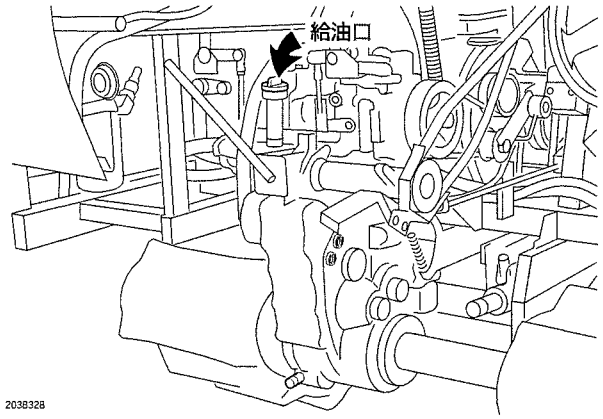
3. 古いオイルが抜け切ったら、ドレンプラグを元通りに取り付けてください。
4. 給油口からエンジンオイルを給油してください。下側の検油窓が、オイルで満たされていれば規定量です。



[参考]

● 上側の検油窓は、入れ過ぎ防止のために設けてあります。入れ過ぎた場合でも、上側の窓の中央以下になるように油量を調整してください。

5. 給油口のふたを取り付けてください。



その他の給油箇所

[参考]

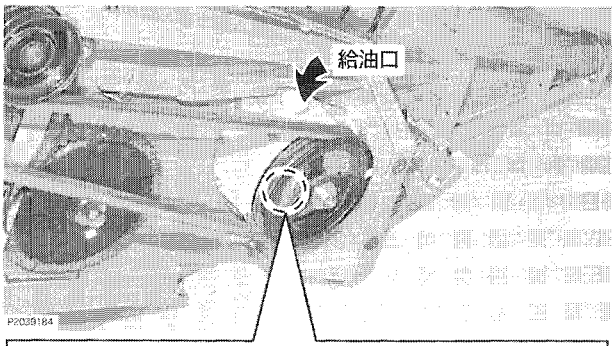
● オイルの点検・補給・交換の必要なときは、販売店にご相談ください。

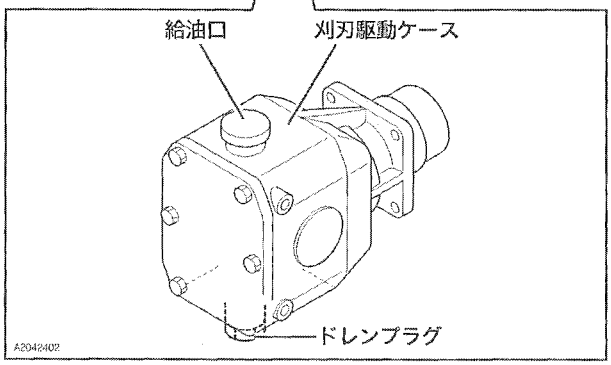
〈推奨オイル〉

	推奨オイル	交換時期	規定量
刈刃駆動ケース	ミッションオイル90番 (GL-5) (マルチミッションSHPギヤオイル)	1回目: 50時間後、または1シーズン後	0.7L
ロータ駆動ケース		2回目以降: 300時間ごと、または1シーズンごとのどちらか早い方	0.3L

刈刃駆動ケース

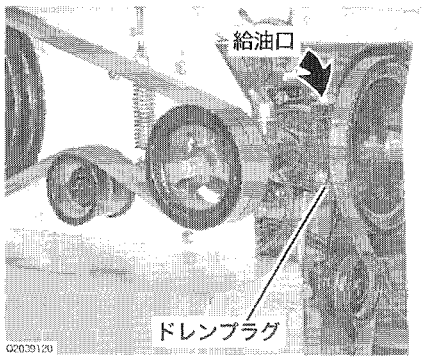
刈取サイドカバー右を外してください。
(146ページ参照)

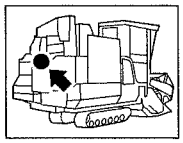




ロータ駆動ケース

脱こく後カバーと脱こく後右カバーを取り外してください。(147ページ参照)





8. 冷却水の点検・補給・交換のしかた

⚠危険

● ラジエータキャップは、エンジン運転中や停止直後には絶対に外さないでください。外すと熱湯が吹き出し、ヤケドするおそれがあります。エンジン停止後30分以上経過し、エンジンが冷えてからラジエータキャップを徐々にゆるめ、蒸気の圧力を抜いてから開けてください。

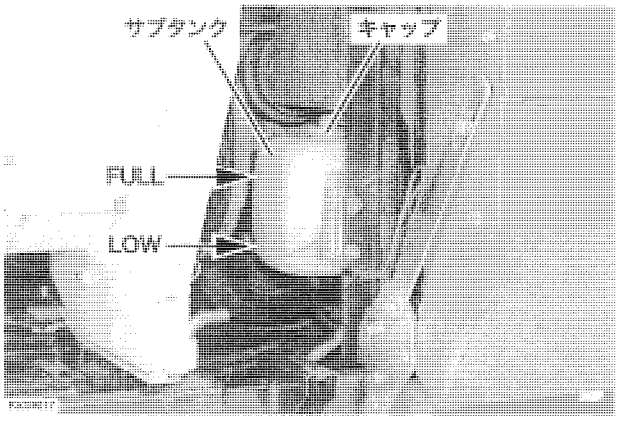
冷却水の点検・補給・交換は、下部カバー（グレンタンク仕様のみ）を取り外し（147ページ参照）、エンジンルームをオープンしてから行ってください。（148ページ参照）
作業終了後は、元通りにセットしてください。

〈点検のしかた〉
サブタンク内の冷却水が「FULL」「LOW」の範囲内にあるか点検してください。

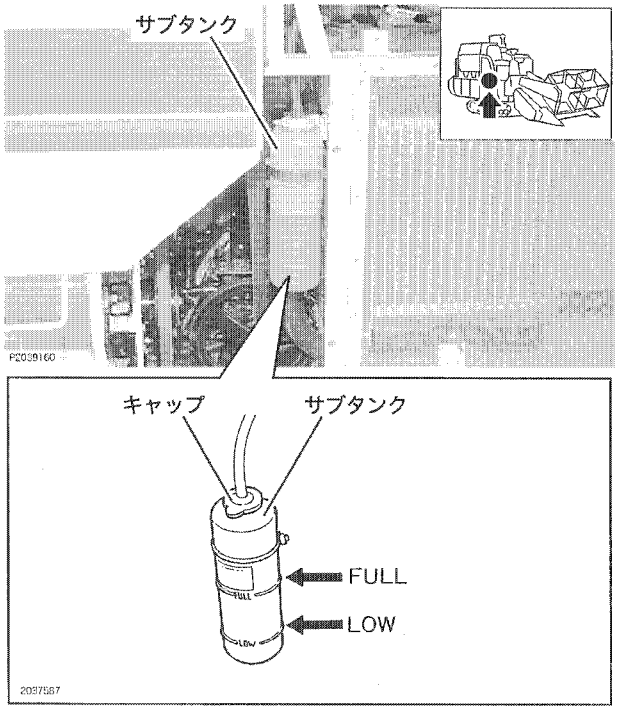
[参考]
● 点検時、水もれのないことも確認してください。

〈補給のしかた〉
冷却水が不足している場合は、サブタンクのキャップを外し、きれいな水道水を補給してください。

〈キャビン仕様の場合〉

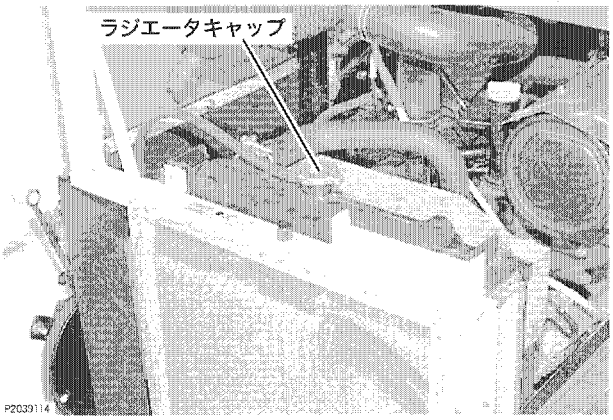


〈キャビンなし仕様の場合〉



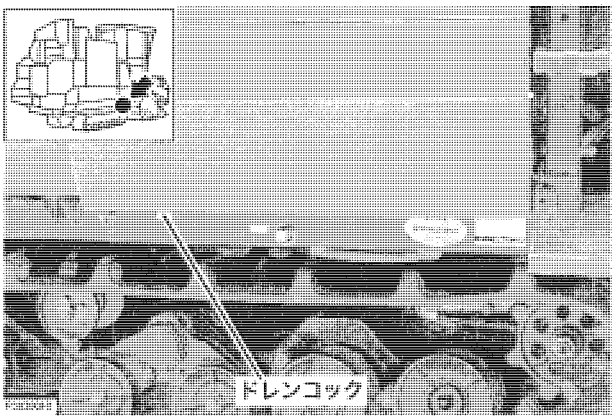
〈交換のしかた〉

1. ラジエータキャップを取り外してください。

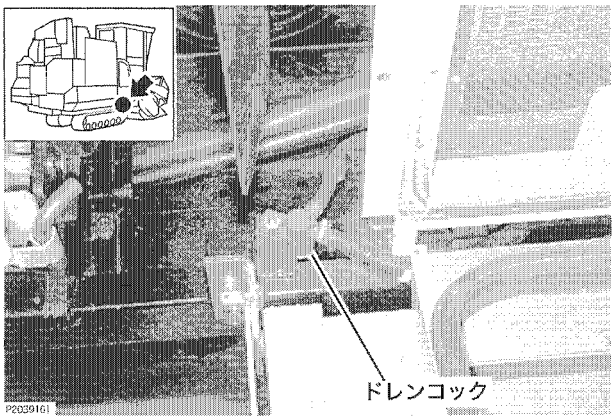


2. ドレンコックを取り外し、ラジエータ内の水をすべて抜いてください。

〈キャビン仕様の場合〉



〈キャビンなし仕様の場合〉



3. 水道水で、ゴミや錆が出なくなるまでラジエータ内を洗います。

[参考]

●ラジエータ内をいっそうきれいにしたいときは、ラジエータ洗浄剤を混合した水をラジエータに入れ、15分以上エンジンを空回転してから、水を抜き取ってください。

4. ドレンコックを元通りに取り付け、不凍液を必要量入れた後、水道水をあふれるまで入れてください。
5. ラジエータキャップを取り付けてください。
6. エンジンを始動し、5 分間エンジンを空運転して、不凍液の混合を早めてください。

〈不凍液の取扱いについて〉

●不凍液は、水の凍結温度を下げる効果があります。不凍液の混合比によって凍結温度が異なりますので、厳寒地帯などでは下記の表を参考にして、安全な濃度で使用してください。

不凍液混合率表

外気温度(℃)		−5	−10	−15	−20	−25	−30
比率	水(%)	85	75	70	65	60	55
	不凍液(%)	15	25	30	35	40	45

●出荷時には、不凍液が入っています。冷却水交換時には、新たに不凍液を入れてください。

●不凍液の混合比は、メーカーによって多少異なりますので、メーカーの取扱説明書の指示に従ってください。

●冷却水が自然に不足した場合は、水道水だけを入れてください。また、パーマネントタイプを使用しているときは、比重を測定して確認してください。

●不凍液の有効期限は1年です。毎年、新しい不凍液と交換してください。

9. エンジンオイルエレメントの交換のしかた

エンジンオイルエレメントは、エンジンオイル内の小さな異物をこし取るものです。カートリッジタイプになっていますので、掃除ができません。定期的に交換してください。
作業は、グレンタンク仕様はグレンタンクをオープンして（150ページ参照）、ワンマンホッパ仕様は補助こく粒受台を作業位置にしてから行ってください。（153ページ参照）
作業終了後は、元通りにセットしてください。

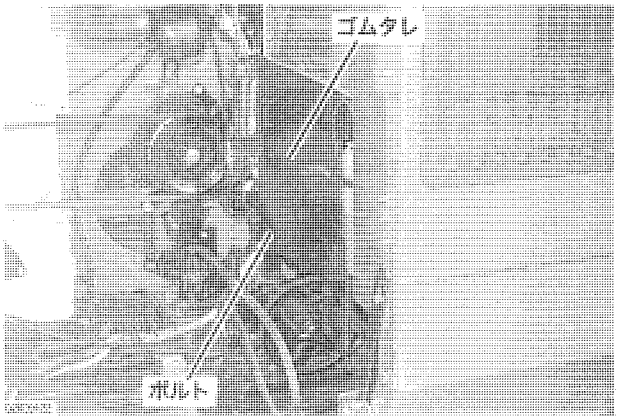
交換時期	1回目：50時間後 2回目以降：オイル交換2回ごと

[参考]

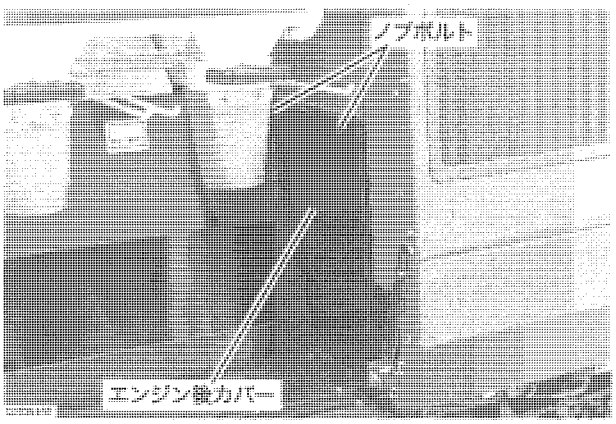
● エンジンオイルエレメントの交換と同時に、エンジンオイルの交換も行ってください。
（178ページ参照）

〈交換のしかた〉
エンジンオイルエレメントの交換は、エンジンオイルを抜き取った後に行ってください。

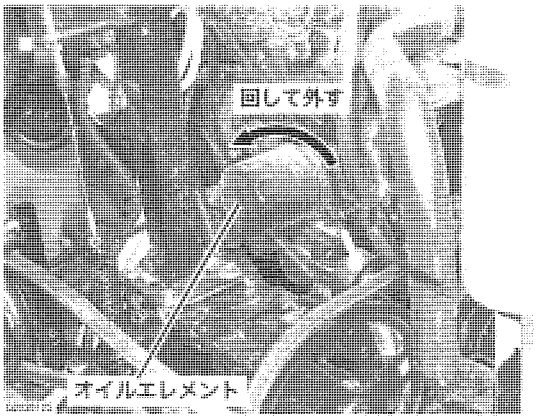
1. グレンタンク仕様の場合は、エンジン後方のゴムタレのボルト（1本）を外して、ゴムタレをめくってください。



2. ワンマンホッパ仕様の場合は、エンジン後カバー（ノブボルト：2本）を取り外してください。



3. オイルエレメントを、矢印方向に回して取り外してください。



4. 新しいオイルエレメントの底面にあるゴムリングに、オイルを塗布してください。
5. オイルエレメントを、ゴムリングがエンジンケースに接触する位置までねじ込んだ後、2/3回転締め付けてください。

[重要]

● 交換後は、オイルエレメント取付面からのオイルもれやにじみがないか、必ず点検してください。
● エンジンオイルエレメントは、純正部品を使用してください。他社製品を使用しますと故障の原因になります。

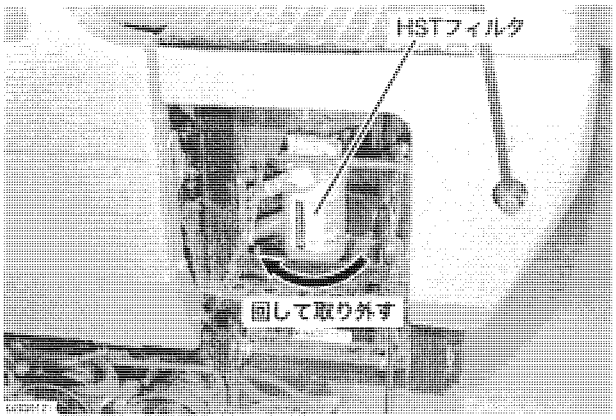
10.HSTフィルタの交換のしかた

HSTオイルは、ミッションオイルと兼用しています。HSTフィルタは、カートリッジタイプになっていますので、掃除ができません。ミッションオイルの交換をするときに、HSTフィルタも同時に交換してください。

交換時期	1回目:50時間後 2回目以降:300時間ごと

〈交換のしかた〉

1. HST フィルタを、矢印方向に回して取り外してください。



2. 新しい HST フィルタの底面にあるゴムリングに、オイルを塗布してください。
3. HST フィルタを、ゴムリングがミッションケースに接触する位置までねじ込んだ後、2/3回転締め付けてください。

[重要]

- **交換後は、HSTフィルタ取付面からのオイル漏れやにじみがないか、必ず点検してください。**
- **HSTフィルタは、純正部品をご使用ください。**

11.ウォータセパレータと燃料コシ器エレメントの点検・掃除・交換のしかた

作業は、グレンタンク仕様の場合は、グレンタンクをオープンしてください。(150ページ参照) ワンマンホッパ仕様の場合は、ワンマンホッパをオープンして (152ページ参照)、脱こく右カバーとエンジン後カバーを取り外して (147ページ参照) ください。作業終了後は、元通りにセットしてください。

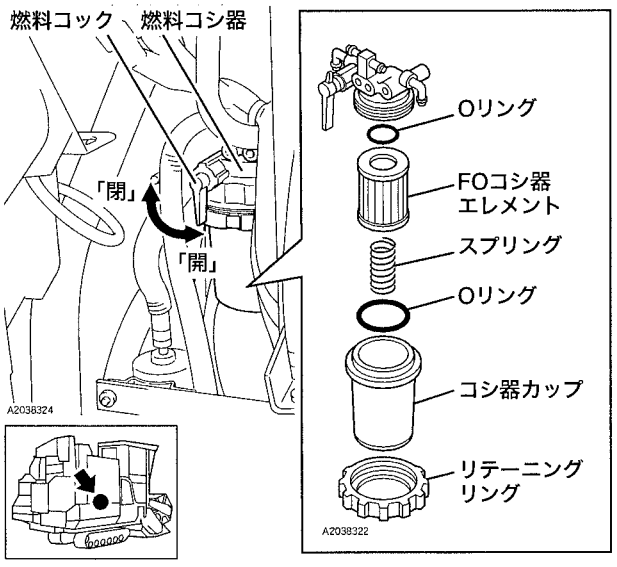
実施時間	水がたまったとき

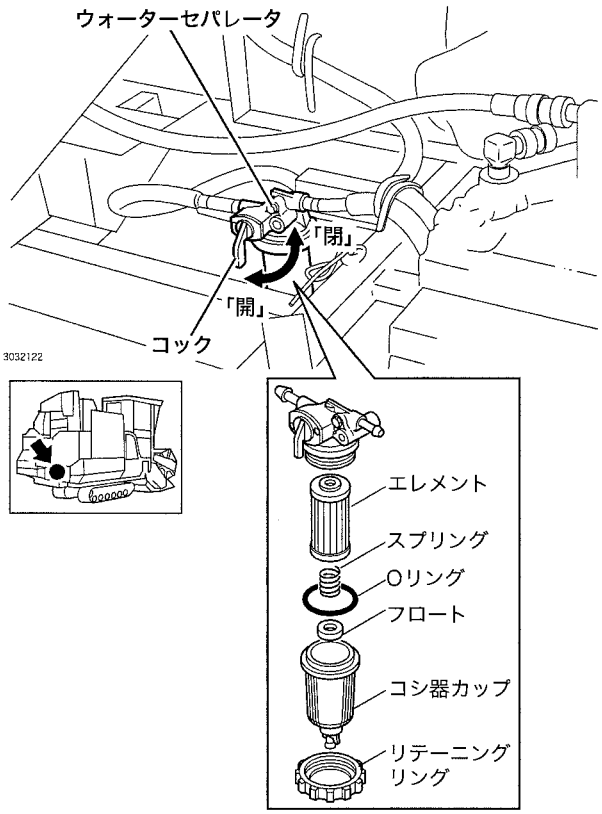
〈点検のしかた〉

1. エンジンルームの後部左方に付いている透明容器が、燃料コシ器です。機体後方のシャーシに付いている容器が、ウォータセパレータです。
2. コシ器にゴミや水が沈殿していないか点検してください。沈殿していたら、下記の要領で掃除をしてください。

〈掃除のしかた〉

1. 燃料コシ器とウォータセパレータのコックを「閉」位置にしてください。
2. それぞれのカップを取り外し、水・ゴミを取り除いてください。
3. コシ器の洗浄が終わったら、燃料コックを「開」位置にして燃料を出しながら、コシ器内に空気が入らないようにカップを取り付けてください。





[重要]

- 空気が入ったときは、燃料のエア抜きをしてください。(187ページ参照)

〈交換のしかた〉

コシ器内のエレメントは、300 時間ごとに交換が必要です。

要領は、掃除のしかたと同じです。前述の 2. のときにエレメントを交換してください。

⚠注意

- マフラに、燃料がかからないように注意してください。万一、マフラに燃料がかかった場合は、ウエスなどで拭き取ってください。守らないと、火災の原因になります。

12.燃料タンクのドレン抜きのしかた

燃料タンクの底部には、水やゴミが沈殿しています。これらの沈殿物が燃料ポンプに入ると不具合の原因になりますので、定期的に取り除いてください。

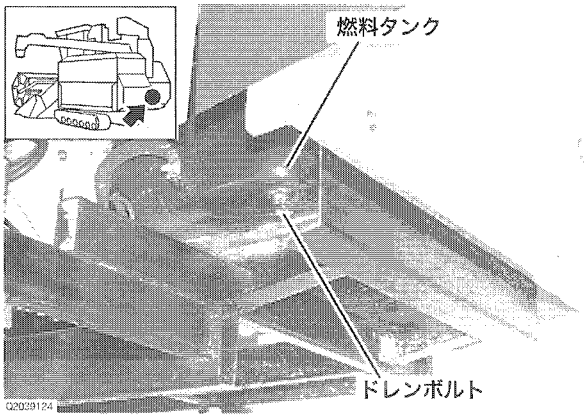
実施時期	100時間ごと

[参考]

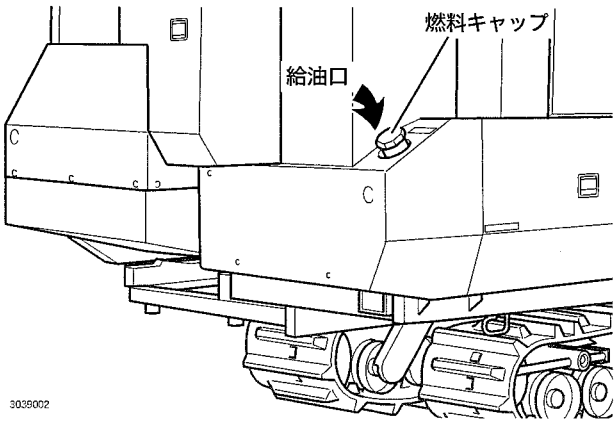
- 燃料タンクのドレン抜きと同時に、ウォータセパレータの水抜きも、必ず行ってください。(185ページ参照)

〈ドレン抜きのしかた〉

1. 燃料タンク下部にあるドレンボルトの下に、燃料を受ける容器を置いてください。
2. ドレンボルトを取り外してください。
   燃料が流れ出て、タンク内の沈殿物が排出されます。



3. 排出後、ドレンボルトを取り付けてください。
4. 燃料キャップを取り外し、新しい燃料を補給してください。(178ページ参照)

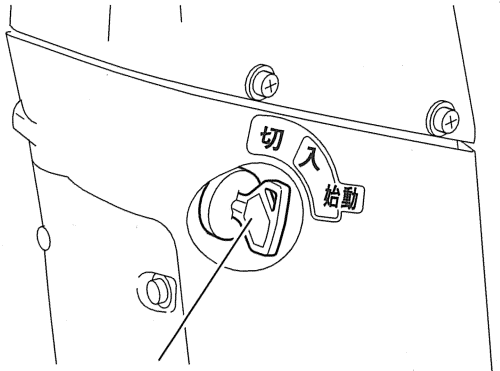


13.燃料の空気(エア)抜きのしかた

燃料タンクが空になったり、燃料系統に空気が入るとエンジンは止まります。下記の要領で空気抜きをしてください。

〈空気(エア)抜きのしかた〉

1. 燃料を満タンにしてください。
2. キースイッチを「入」位置にしたまま20～30秒待ち、「始動」位置にしてください。
   自動的に空気抜きが行われ、エンジンが始動します。



B303B702 キースイッチ

14.エアクリーナーの掃除・交換のしかた

エアクリーナーは、吸入された空気に含まれている砂塵を取り除き、シリンダやピストンリングの摩耗を防ぐ装置です。刈取作業は、ホコリがよく出ますので、毎日、作業後に掃除してください。
作業は、エンジンルームをオープンしてから行ってください。(148ページ参照)
作業終了後は、元通りにセットしてください。

掃除時期	エレメントの交換時期
毎日	●300時間ごと ●ホコリの多い所では200時間ごと (規定時間未満でも1年間で交換)

[参考]

● エアクリーナーの掃除と同時に、プレクリーナーの掃除も行ってください。(188ページ参照)

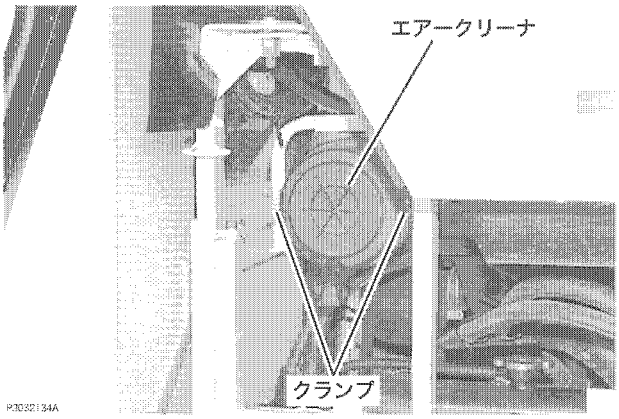
〈掃除・交換のしかた〉

1. カバーのクランプを外して、エレメントを取り出してください。
2. エレメントは、内側から空気（7o/kg 以下）を吹きつけてください。
3. 取り付けるときは、取り外しの逆手順で行ってください。

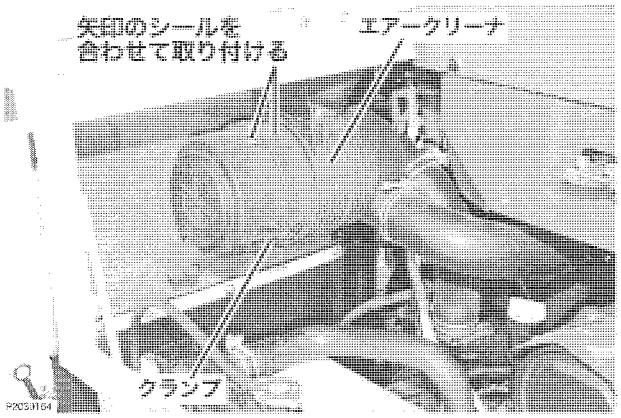
[参考]

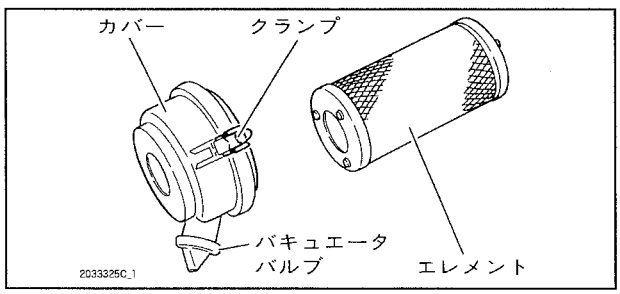
●カバーは、矢印のシールを合わせて取り付けてください。

〈キャビン仕様の場合〉



〈キャビンなし仕様の場合〉





[重要]

●エレメントを交換するときは、純正部品をご使用ください。

15.プレクリーナーの掃除のしかた

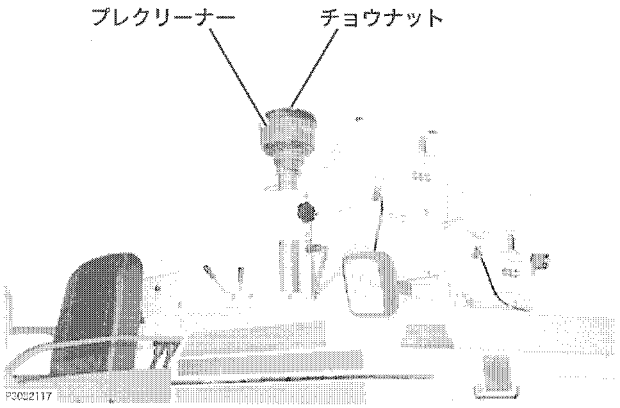
プレクリーナーの中にたまったゴミは、毎日、作業後に掃除してください。

[参考]

●プレクリーナーは、ホコリをすべて集めるものではありません。プレクリーナーの掃除と同時に、エアクリーナーも掃除してください。
(187ページ参照)

〈掃除のしかた〉

プレクリーナー上部のチョウナットを外して、たまっているゴミを取り除いてください。



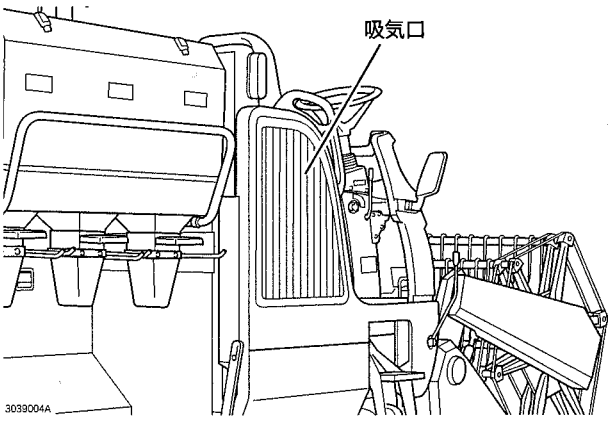
16.吸気口・ラジエータスクリーン・ラジエータフィンの掃除のしかた

吸気口・ラジエータスクリーンは、エンジンの防塵装置です。冷却風を吸入する大切な装置ですから、作業前・作業後には必ず掃除をしてください。

吸気口・エンジンルーム内の掃除のしかた

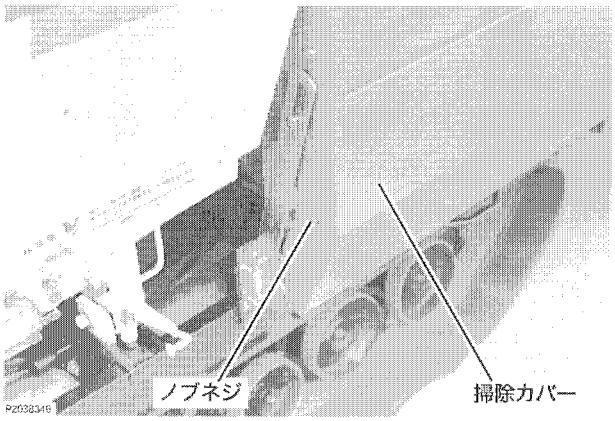
〈吸気口の掃除のしかた〉

吸気口の網面にゴミが付着しているときは、エンジンを停止してから、網面を軽くこすってゴミを落としてください。

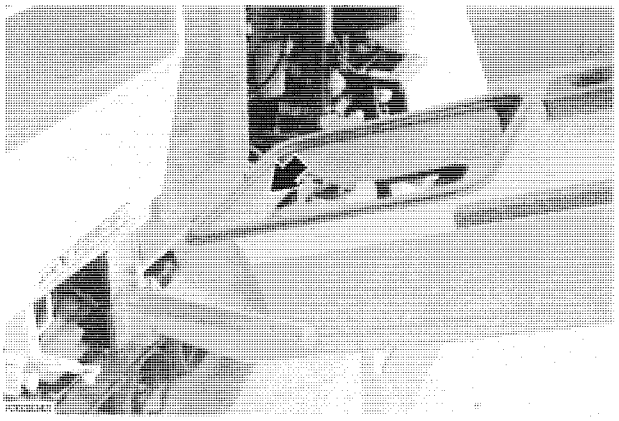


〈エンジンルーム内の掃除のしかた〉

1. エンジンルームをオープンしください。
   (148ページ参照)
2. エンジンルームの掃除カバーのノブネジ（2 本）を外して、掃除カバーを開いてください。



3. エンジンルーム内の矢印部分に溜まっているゴミを取り除いてください。

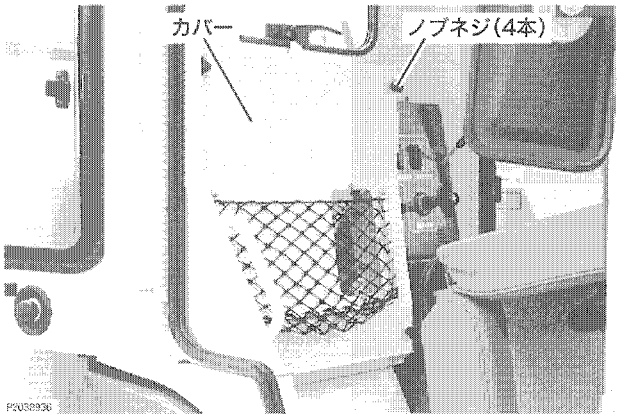


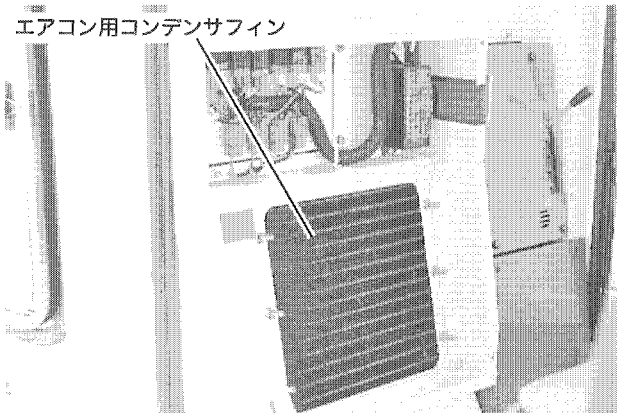
[重要]

- 網面へのゴミの付着には常に注意し、ゴミが付着していれば掃除するようにしてください。ゴミが付着したままにしておくと、エンジンの冷却水、およびミッションオイルの冷却不良の原因になります。

〈エアコン用コンデンサフィン（キャビン仕様のみ）〉

1. ドライバーシートを前面に倒してください。
2. キャビン室内の後面のカバーのノブネジ（4本）を外して、カバーを取り外してください。

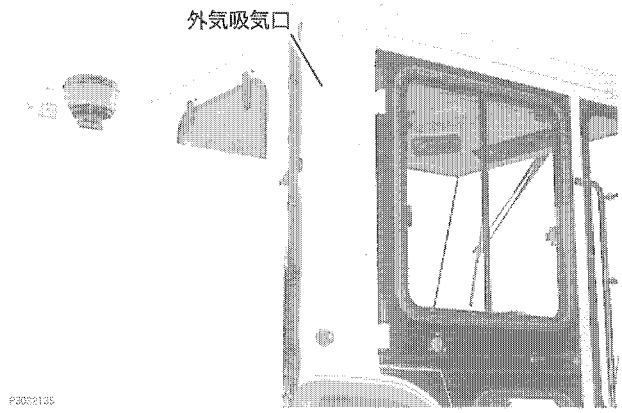




[重要]

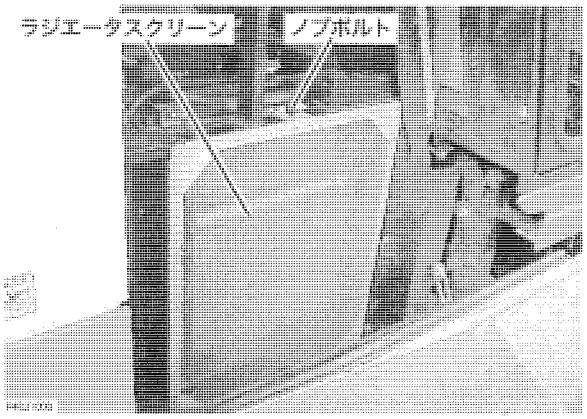
- 網面やスクリーンへのゴミの付着には常に注意し、ゴミが付着していれば必ず掃除してください。
- コンデンサが目詰まりすると、冷房能力が低下しますので、定期的に掃除をしてください。

〈外気吸気口の掃除のしかた（キャビン仕様のみ）〉



ラジエータスクリーンの掃除のしかた

1. エンジンルームをオープンしてください。（148ページ参照）
2. ラジエータスクリーン上部のノブボルトを外して、ラジエータスクリーンを引き上げて、取り外してください。
3. ラジエータスクリーンに付着したワラクズやホコリを、払い落としてください。



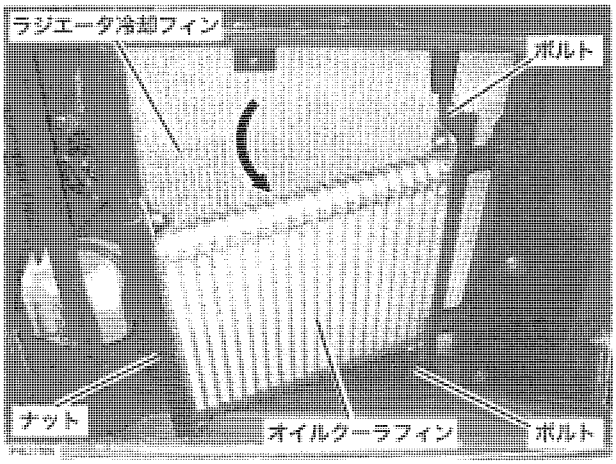
[重要]

- ラジエータスクリーンへのゴミの付着には常に注意し、ゴミが付着していれば掃除するようにしてください。ゴミが付着したままにしておくと、エンジンの冷却水、およびミッションオイルの冷却不良の原因になります。

オイルクーラフィン・ラジエータ冷却フィンの掃除のしかた

粉塵が特に多い場合は、下記の要領でオイルクーラフィン、およびラジエータ冷却フィンを掃除してください。

1. エンジンルームをオープンしてください。(148ページ参照)
2. ラジエータスクリーン上部のノブボルトを外して、ラジエータスクリーンを引き上げて、取り外してください。(190ページ参照)
3. ボルト２本およびナット１個を外して、オイルクーラを開いてください。
4. オイルクーラフィン・ラジエータ冷却フィンに付着しているサヤクズやホコリを、エアガン、あるいはブロアなどで取り除いてください。



[重要]

- ラジエータ冷却フィンは変形させないでください。

フィルタの掃除のしかた(キャビン室内)

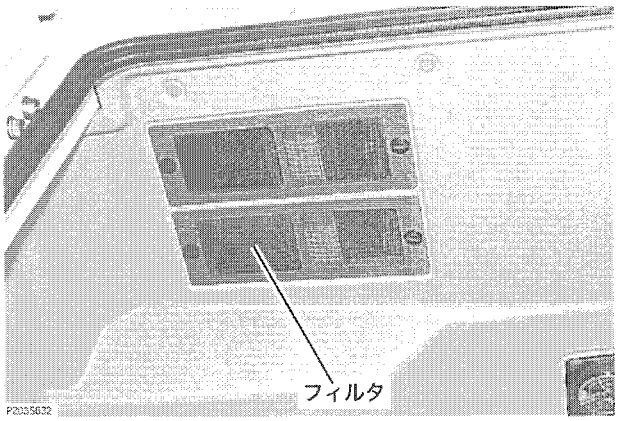
⚠警告

- フィルタの掃除や点検・整備をするときは、必ずキースイッチを「切」位置にしてください。
- 空気の吸い込み口や吹出口に、棒や手を入れないでください。内部でファンが回転していますので、ケガをするおそれがあります。

1. キースイッチを「切」位置にしてください。
2. フィルタを取り外して、エアガン、あるいはブロアなどで洗浄してください。

〈フィルタの汚れや詰まりが著しい場合〉

1. 中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて、上下左右に動かしながら洗浄してください。
2. 清水でよくすすいだ後、完全に自然乾燥させてください。



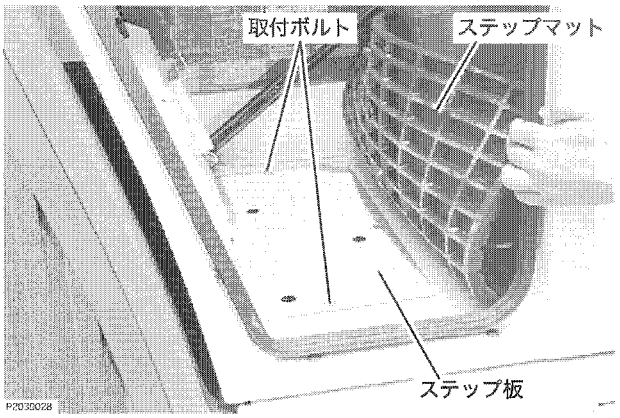
[重要]

- 洗浄に有機溶剤（ガソリン・シンナーなど）を使用しないでください。

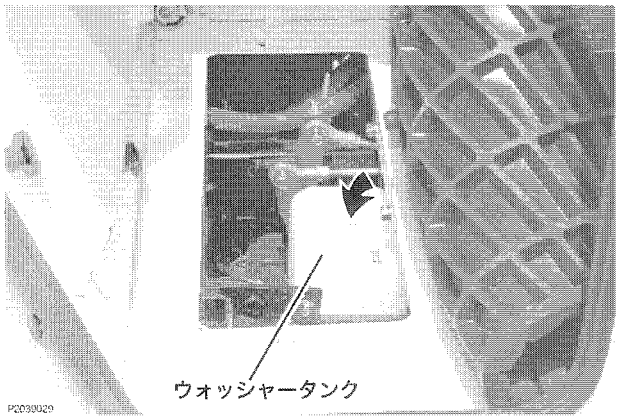
17.ウォッシャー液の補充のしかた（キャビン仕様のみ）

ウォッシャータンクは、ステップマット下のカバー内にあります。ウォッシャー液が無くなったときは、下記の要領で補充してください。補充後は、元通りにセットしてください。

1. ステップマットをめくり、ステップ板を外してください。



2. ウォッシャータンクにウォッシャー液を入れてください。



18.バッテリの点検・整備のしかた

⚠危険

- バッテリの点検時には、保護メガネとゴム手袋を着用してください。
- バッテリの液槽キャップを外すときは、火気厳禁です。液槽キャップを開けると、液槽口から爆発性のあるガスが出ますので、引火してヤケドや火災を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

- バッテリ液は、「下限（LOWER）」以下にしないでください。容器内の極板接続部がバッテリ液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。
- バッテリの電解液は希硫酸ですので、取り扱いには注意してください。もし、皮膚や衣服についたときは、直ちに水洗いし、石けんでよく硫酸分を洗い流してください。万一、目に入ったときは、すぐに流水で洗い流し、医師の治療を受けてください。
- バッテリ端子を取り付けるときは、（＋）側を先に取り付け、取り外すときは（－）側から取り外してください。守らないと、ショートしてヤケドや火災の原因になります。
- バッテリの上面および周辺は、常に清潔にしてください。排気穴が小ホコリなどでふさがれると、破損や火災の原因になります。

[重要]

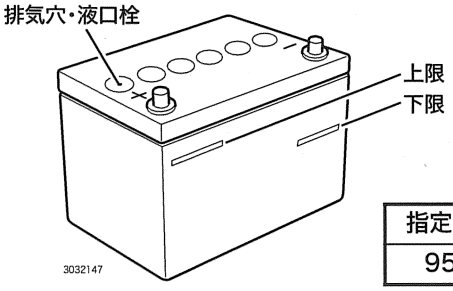
- バッテリの各槽に電解液を入れすぎると、充電時にバッテリ液が吹き出し、機械の金属部を腐蝕させます。
- 急速充電はしないでください。
- バッテリを交換するときは、必ず取扱説明書の指定した型式のバッテリを使用してください。

指定バッテリ	95D31R

- 環境保全と資源のリサイクルのため、交換した古いバッテリは、放置したり、捨てたりしないでください。必ず、バッテリを購入したお店に渡してください。資源としてリサイクルされます。
- バッテリの質量は約20kgありますので、取り扱いには注意してください。

バッテリ液の点検・補給のしかた

各槽のバッテリ液が、上限と下限のラインの間にあることを確認してください。不足しているときは、蒸留水を補給してください。



指定バッテリ
95D31R

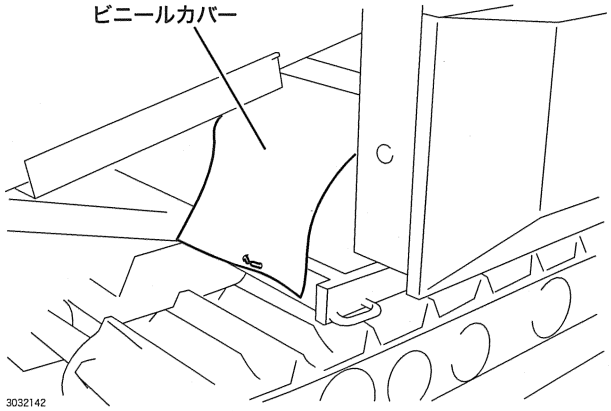
[重要]

- バッテリ液は、常に規定量を保ってください。
- バッテリ端子がゆるんでいる場合は、確実に締め付けてください。

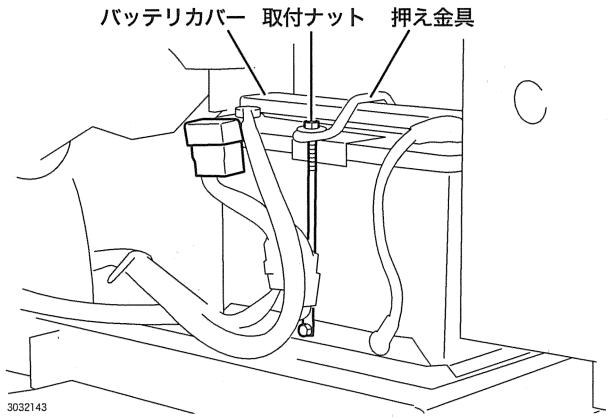
バッテリの取り外しかた

バッテリは、脱こく部前下にあります。以下の要領に従って取り外してください。

1. エンジンを始動して、刈取部を最上げ位置にしてください。
2. エンジンを停止してください。
3. 刈取部を刈取部ストッパで固定してください。(158ページ参照)
4. 脱こく前カバーを取り外してください。(146ページ参照)
5. バッテリのビニールカバーのクランプを解除して、ビニールカバーをめくってください。



6. バッテリを固定している、取付ナット（2個）を外してください。
7. バッテリの押え金具とバッテリカバーを取り外してください。



8. バッテリコードの（−）端子を外した後、（+）端子を外してください。
9. バッテリを抜き出してください。
10. バッテリの取り付けは、取り外しの逆の手順で行ってください。

補充電のしかた

寒冷地など気温の低い地域で使うとき、エンジンの始動がしにくくなったとき、ライトが暗くなったとき、自然放電によってセル始動ができないときは、下記の要領で補充電をしてください。

1. バッテリを取り外してください。(前項参照)
2. 液口栓を外し、バッテリの(+)を充電器の(+)に、バッテリの(−)を充電器の(−)に接続してください。
3. 3アンペア程度で8〜10時間行ってください。
4. 充電が完了したら、充電用の接続を外し、液口栓を取り付けてください。
5. バッテリを本機に、元通りに取り付けてください。

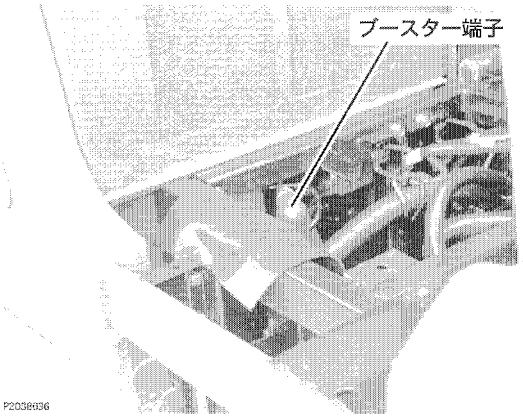
[重要]

- 急速充電はしないでください。
- 取り付けるときは、ターミナル接触部の油分などを拭き取ってください。また、取り付け後は、ターミナル部にグリスを塗布してください。
- バッテリの(+)ターミナル部のゴムブーツは、必ず取り付けてください。
- 充電完了後は、液口栓を確実に締め付けて取り付けてください。

ブースター端子を使ったエンジン始動のしかた

ブースター端子は、ブースターケーブル用端子でバッテリの電圧がかかっています。
バッテリ容量が低下して、エンジンの始動ができない場合は、ブースター端子を使ってエンジンを始動することができます。

1. ステップ板を取り外してください。
2. ブースター端子にブースターケーブルの(+)側を、ブースターケーブルの(−)側をシャーシに接続してください。



以上で、エンジンを始動することができます。

3. ステップ板を元通りに取り付けてください。

[重要]

- ブースターケーブルの(+)側が、シャーシなどの金属部に接触しないよう注意してください。
- バッテリの(+)ターミナルとブースター端子のゴムブーツは、必ず取り付けておいてください。
- 取り付けるときは、ターミナル接触部の油分などを拭き取ってください。また、取り付け後は、ターミナル部にグリスを塗布してください。
- ブースター端子では、充電しないでください。

バッテリの手入れのしかた

バッテリ端子が腐蝕していたり、白い粉が付いている場合は、お湯でぬらしたウエスなどで掃除し、グリスを塗布してください。

バッテリの自然放電について

エンジンを長期間運転しないで放置していると、バッテリは自然放電します。使用しないときでも、ときどきエンジンがかかることを点検し、必要に応じて充電してください。

19.パイプ類の点検のしかた

⚠警告

- 作業前・作業後に、燃料パイプの老化や傷による燃料もれがないか点検し、燃料もれのある燃料パイプは交換してください。燃料もれがあると火災の原因になります。

燃料パイプやラジエータホースなどの傷みによる燃料もれ、水もれがないか点検してください。また、締付バンドがゆるんでいないか点検してください。
燃料パイプやラジエータホースは、傷みがなくても2年ごとに交換してください。
燃料パイプを交換したときは、空気（エア）抜きをしてください。（187ページ参照）

[重要]

- 排油チューブも必ず点検してください。排油チューブが破損していると、エンジン焼付きの原因になります。

20.電気配線の点検のしかた

⚠警告

●バッテリや配線に付着しているサヤクズやゴミは、作業前・作業後にきれいに取り除いてください。サヤクズやゴミが付着していますと、火災の原因になります。

電気配線コードが他の部品のエッジ部に接触して、被覆のはがれや傷、接続部のゆるみがないか点検してください。配線コードが傷んでいる場合は、販売店で修理してください。
配線コードは、傷みがなくても50時間使用または、1年ごとに定期点検を受けてください。

21.ヒューズの点検・交換のしかた

スローブローヒューズおよびヒューズボックス内のヒューズが切れていれば、規定のものと交換してください。
交換しても切れる場合は、購入先で点検を受けてください。

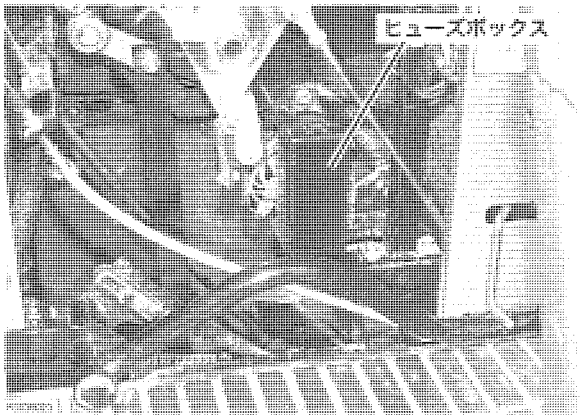
⚠警告

●規定外のヒューズとは絶対に交換しないでください。火災の原因になります。

キャビンなし仕様の場合

サイドコラム内

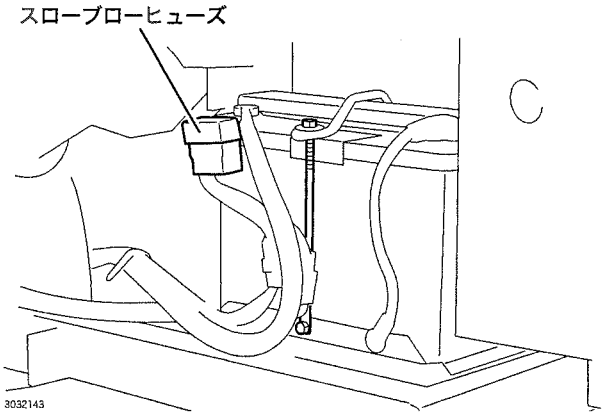
サイドコラムカバーを取り外してください。
(146ページ参照)



メータパネル 5A	キースイッチ/燃料ポンプ 5A
走行装置 5A	エンジン電装 10A
フラッシャ 10A	作業灯 20A
保安装置 15A	防塵モータ 15A
リール前後 30A	排出クラッチ 15A
刈取クラッチ 15A	排出コンベアモータ 30A
作業機電磁弁 20A	排出コントローラ 5A
刈取コントローラ 5A	
水平制御 5A	
予備電源 30A	予備 30A
〈予備〉 5A 10A 15A 20A	

ヒューズ銘板

バッテリ前方

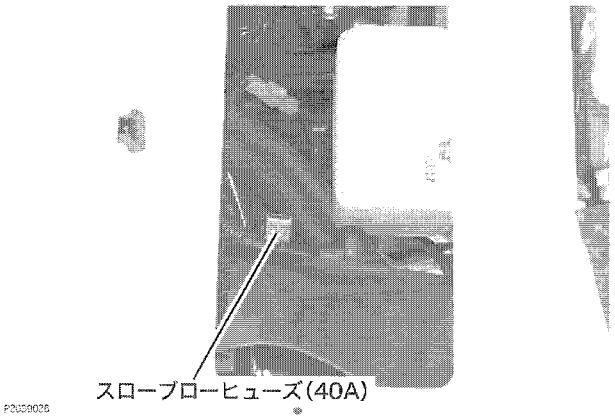


50A	50A	50A
電源 1	電源 2	ジェネレータ スタータ

指定容量以外のヒューズは使用しないでください
1E8990-97260

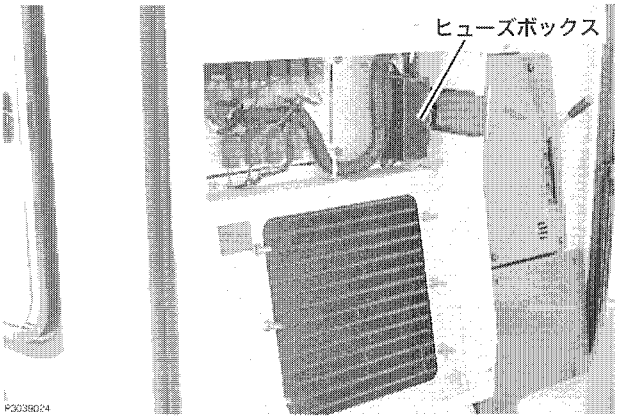
キャビン仕様の場合

ステップマット下のカバー内



シート後のカバー内

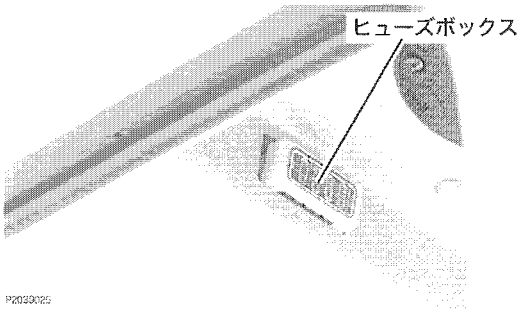
ノブネジ（4 本）を外し、カバーを取り外してください。

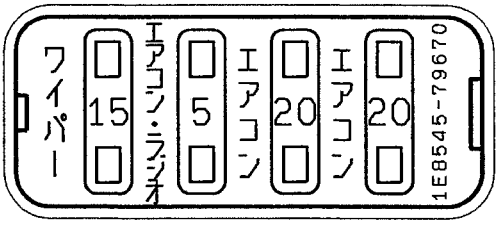


メータパネル 5A	ｷｰｽｲｯﾁ/燃料ﾎﾟﾝﾌﾟ 5A
走行装置 5A	エンジン電装 10A
フラッシャ 10A	作業灯 20A
保安装置 15A	防塵モータ 15A
リール前後 30A	排出クラッチ 15A
刈取クラッチ 15A	排出コンベアモータ 30A
作業機電磁弁 20A	排出コントローラ 5A
刈取コントローラ 5A	タンクシャッター 15A
水平制御 5A	タンクシュータ 15A
予備電源 30A	リフトタンク電磁弁 10A
〈予備〉 5A 10A 15A 20A	

ヒューズ銘板

キャビン内の頭上





22.刈刃の調節のしかた

⚠警告

●刈取部を上げて作業するときは、刈取部ストッパで刈取部を固定してください。固定しないと、刈取部が急に下がり、ケガをするおそれがあります。

⚠注意

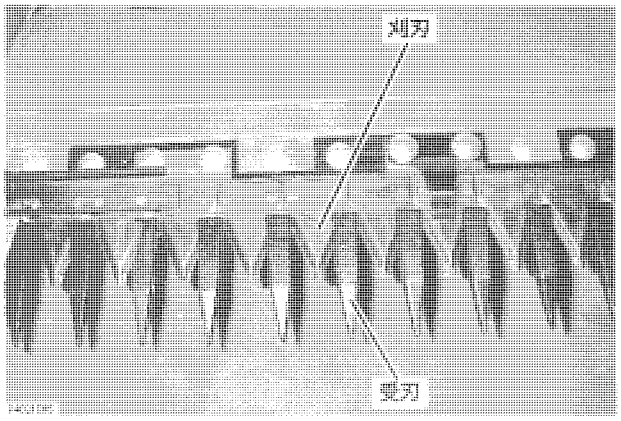
●刈刃の手入れや交換をするときは、厚手の手袋を着用し、刃先をさわらないでください。ケガをするおそれがあります。

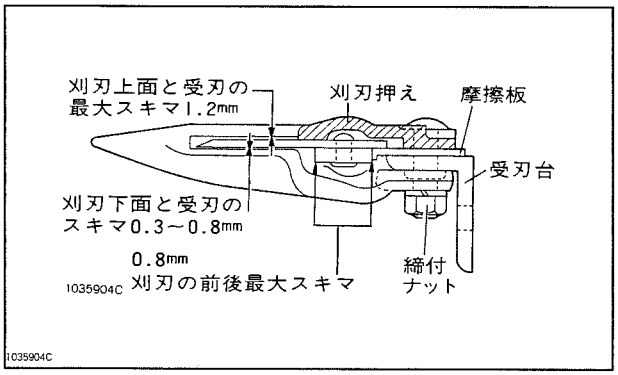
刈跡が揃わなくなったときは、刈刃のすき間を調節してください。

調節時期	100時間または1シーズンごと

〈調節のしかた〉

1. リールを最上げにしてください。
2. 受刃と刈刃上下面のすき間は、受刃先端を銅ハンマーで軽くたたいて調節するか、締付ナット（M10）をゆるめて、シムで調節してください。
   ●受刃と刈刃上面……最大すき間1.2mm
   ●受刃と刈刃下面……すき間0.3～0.8mm
3. 刈刃の前後すき間は、締付ナット（M10）をゆるめて、摩擦板を前後に動かして、最大0.8mmに調節してください。
4. 締付ナット（M10）を締め付けて固定してください。





[重要]

●締付ナットは、締め付けすぎないように注意してください。

●刈刃には食品衛生上、食品機械用潤滑スプレーを使用して、たっぷり注油してください。

●シーズン終了後には、刈刃に付着した泥やワラクズを取り除き、注油してください。

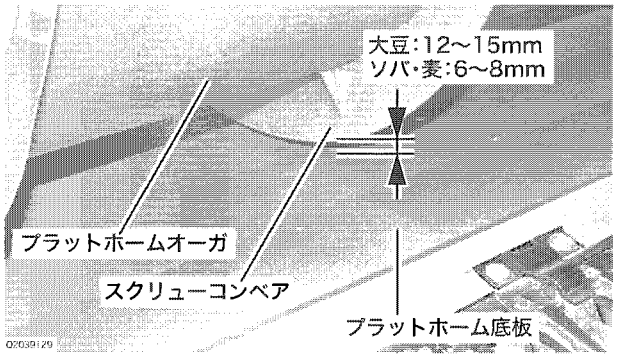
23.プラットホーム底板とスクリューコンベアのすき間調節のしかた

⚠警告

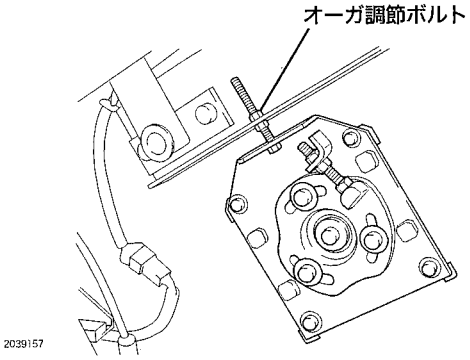
●プラットホームオーガを手で回転させるときは、刈刃やリールが動くので、十分注意してください。

〈調節のしかた〉

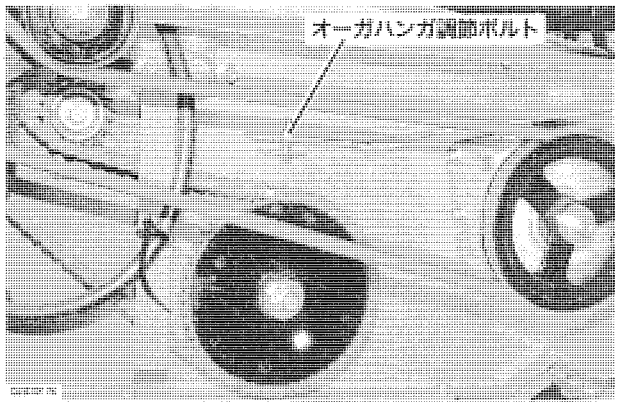
1. リールを最上げにしてください。
2. 左右の刈取サイドカバーを外してください。
3. プラットホーム底板とスクリューコンベアとのすき間が、大豆の場合は12～15mm、ソバ・麦の場合は6～8mmになるように、オーガハンガ調節ボルトで調節してください。



プラットホーム左側



プラットホーム右側



24.プラットホーム底板とフィンガのすき間調節のしかた

⚠警告

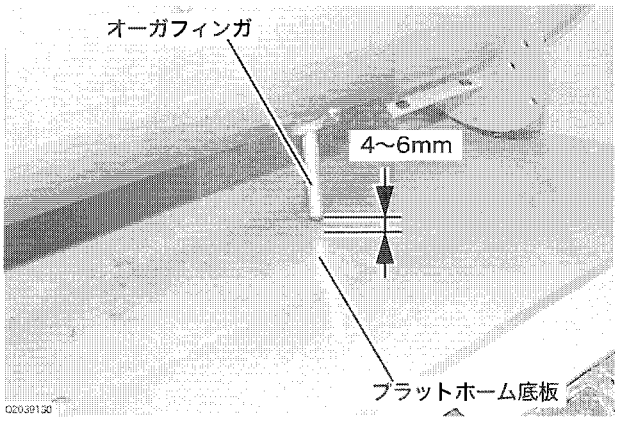
●プラットホームオーガを手で回転させるときは、刈刃やリールが動くので、十分注意してください。

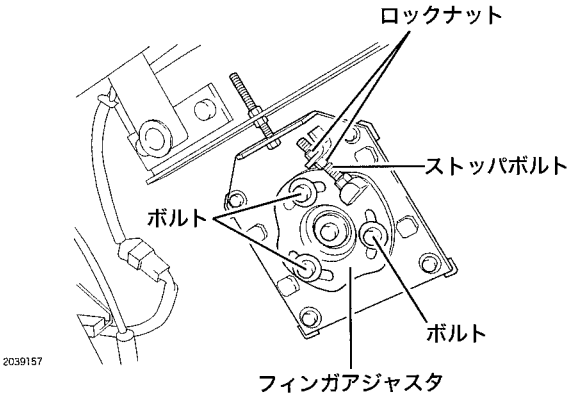
〈点検のしかた〉

1. リールを最上げにしてください。
2. プラットホームオーガを手で回転させ、中央部のオーガフィンガが、プラットホーム底板に最も近い位置で、底板からフィンガ先端までの寸法を測定し、4～6mmになっていることを確認してください。

〈調節のしかた〉

1. 刈取サイドカバー左を外してください。
2. 基準範囲内（4～6mm）にないときは、ボルト（3本）とフィンガアジャスタのロックナットをゆるめてください。
3. フィンガアジャスタを回転させて調節してください。
4. ストッパボルトで固定してください。

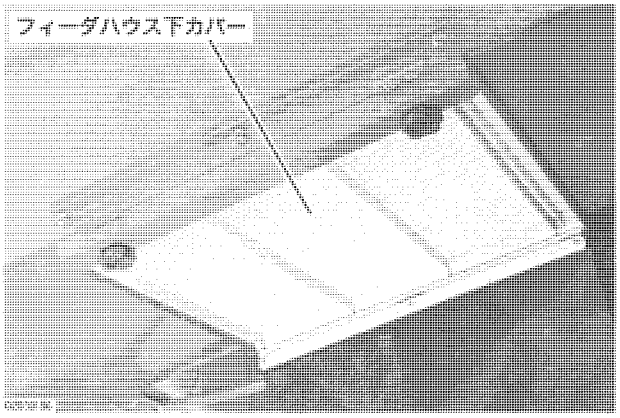




25.フィーダチェンの張り調節のしかた

〈点検のしかた〉

1. フィーダハウス上カバーを外してください。(146ページ参照)
2. フィーダハウス下カバーを外してください。

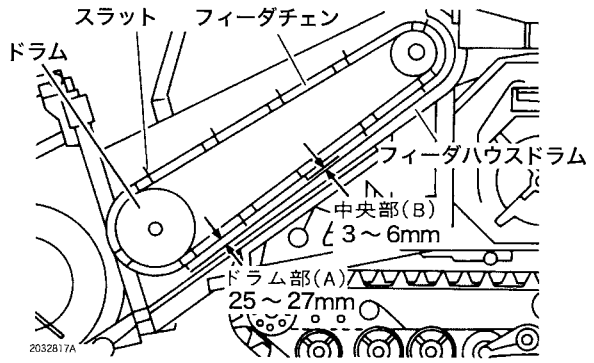


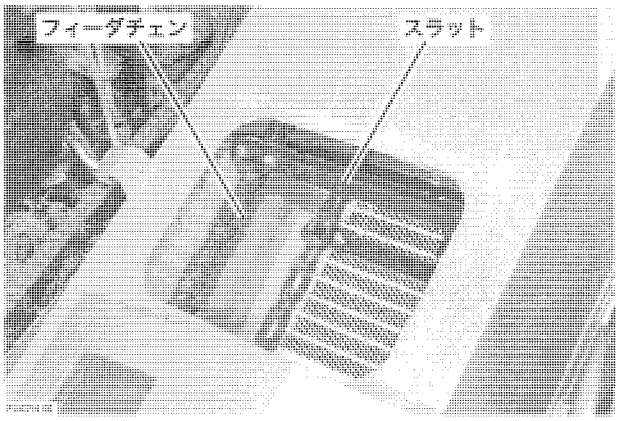
3. フィーダチェンを手で回し、スラットをフィーダハウスドラム下部の位置にしたときの各すき間寸法を確認してください。

●スラットとフィーダハウス底板のすき間

ドラム部(A) ……25～27mm

中央部(B) ……3～6mm



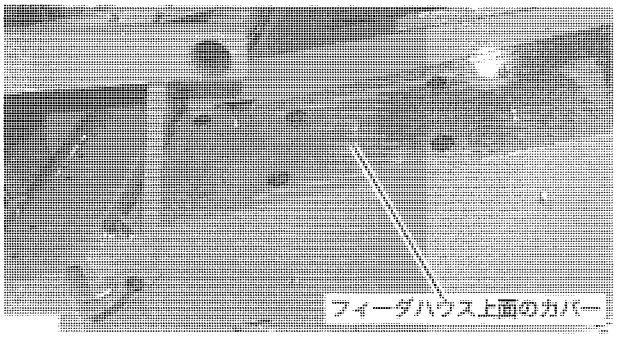


〈調節のしかた〉

調節は、左右同時に行ってください。

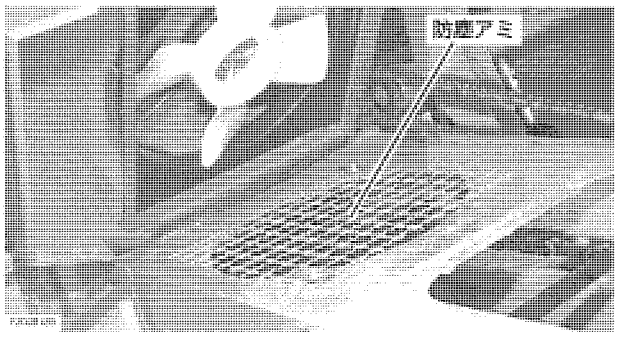
キャビン仕様の場合

1. フィーダハウス上面のカバーを外してください。

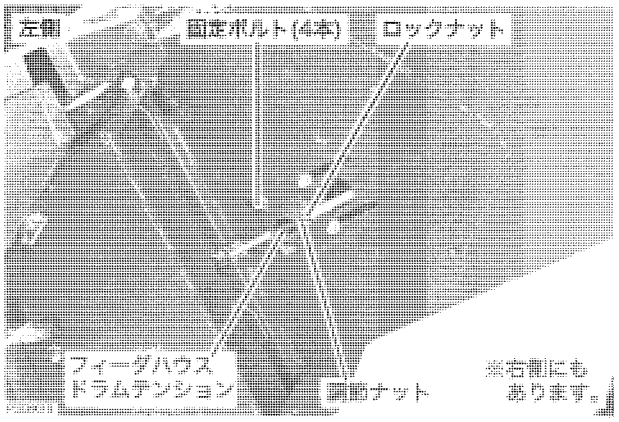


キャビンなし仕様の場合

1. 防塵ファン上カバーと防塵ファン左カバーを取り外し、防塵アミを取り外してください。(164ページ参照)

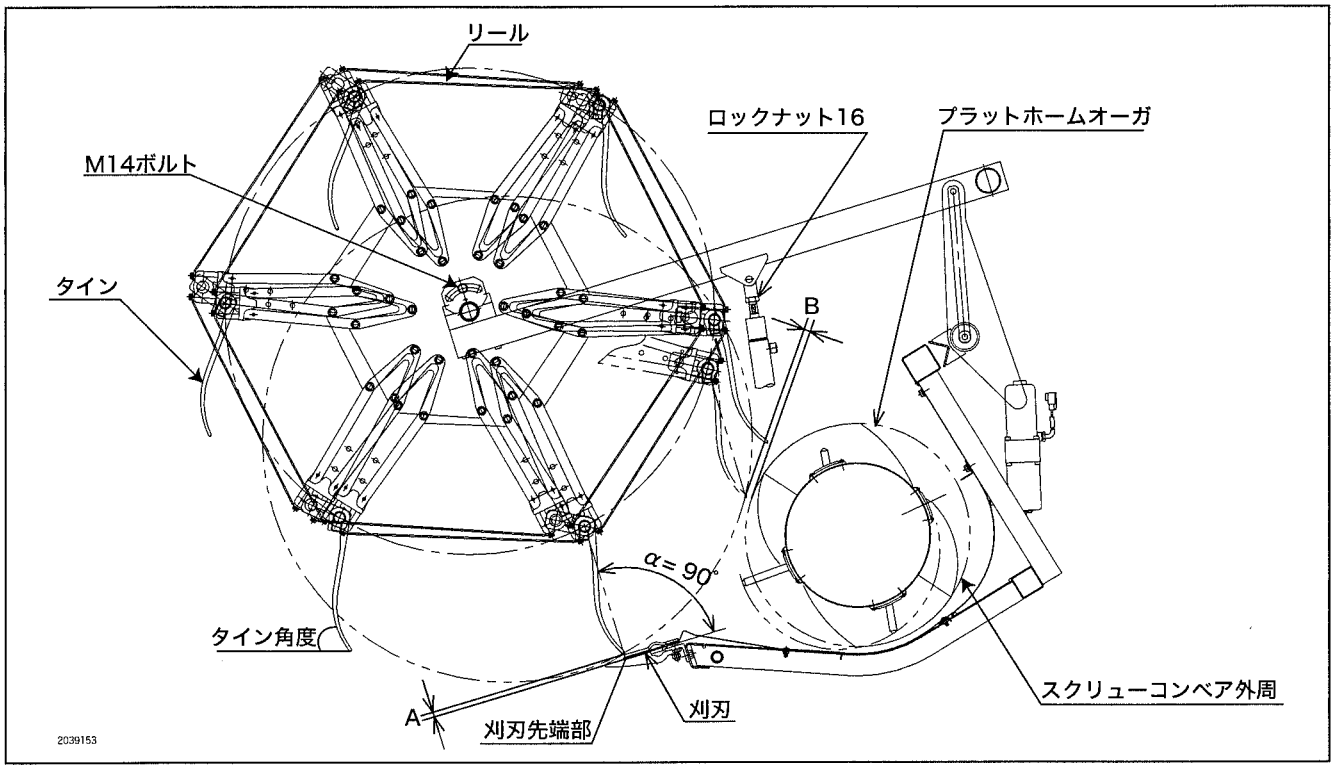


2. フィーダハウスドラムテンションの固定ボルト(4本)をゆるめてください。
3. ロックナットをゆるめてください。
4. 調節ナットを回して、すき間を調節してください。
5. ロックナットと固定ボルト(4本)を締め付けて固定してください。



6. 1.で外した防塵アミ(キャビンなし仕様のみ)および各カバーを元通りに取り付けてください。

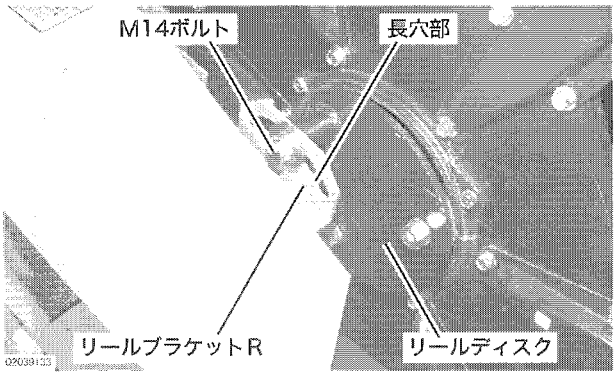
26.リールの調節のしかた



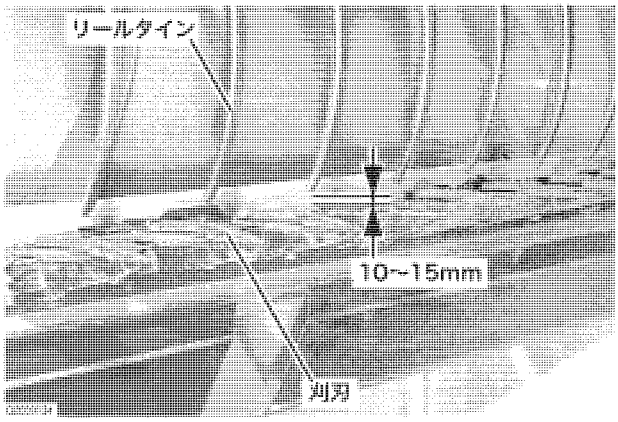
刈刃上面とリールタイン先端のすき間調節のしかた

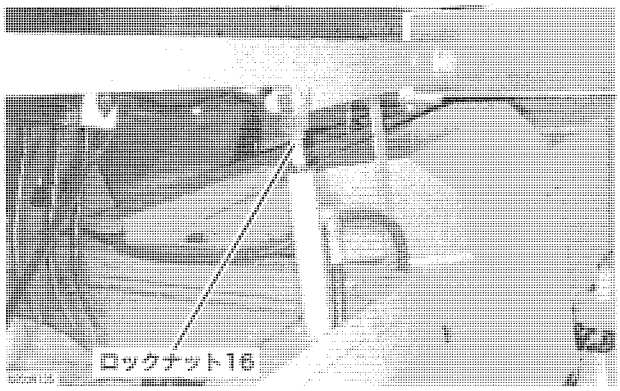
〈調節のしかた〉

1. M14ボルトをゆるめてください。
2. M14ボルトの中心とリールブラケットRの長穴部の中心が合うように、リールディスクを動かしてください。
3. M14ボルトを締め付けてください。

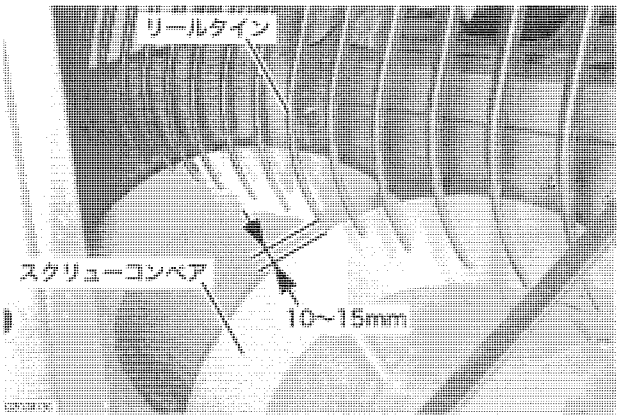


4. エンジンを始動してください。
5. 刈高さ・リール前後スイッチを「後」側に押して、リールを後方へ移動し、リール高さ調節レバーを「下降」側にして、リールをいっぱいまで下げてください。
6. エンジンを停止してください。
7. 刈刃上面とリールタイン先端のすき間が、刈刃先端で10～15mm（上図A）になるように、リール上下シリンダのロックナット16をゆるめて、シリンダにスパナをかけて回しながら調節してください。





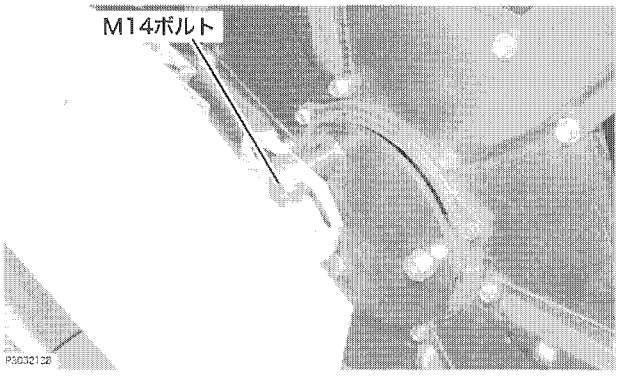
8. リールを回転させて、プラットホームオーガのスクリューコンベアの外周とリールタイン先端のすき間が、10～15mm（201ページ 上図B）でスクリューコンベアの外周と接触しないことを確認してください。

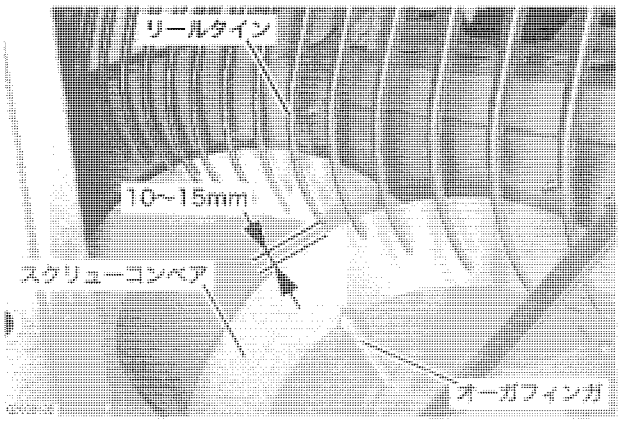


スクリューコンベアの外周とリールタイン先端のすき間が、適正でない場合の調節のしかた

〈調節のしかた〉

1. M14 ボルトをゆるめ、すき間が 10 ～ 15mm（201ページ 上図B）で、スクリューコンベアの外周と接触しないように調節してください。
2. M14ボルトを締め付けてください。





3. 再度、刈刃上面とリールタイン先端のすき間を確認してください。

倒伏した作物で引き起こし性能が不足する場合

〈調節のしかた〉

1. リールディスクの位置を前に動かし、タイン角度を小さくしてください。
2. 小さくしすぎると、プラットホームオーガと当たる場合がありますが、このときはリールを少し前へ出してください。

立毛した作物で、リールの回転によりリールが稈を持ち回る場合

〈調節のしかた〉

リールディスクを後に動かし、タイン角度を大きくしてください。

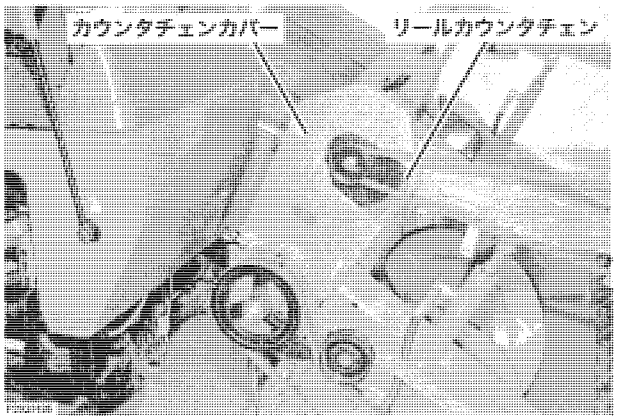
27.各部チェンの点検・調節のしかた

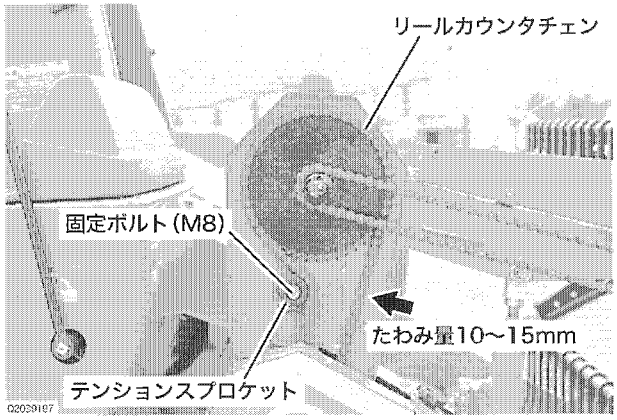
リールカウンタチェン

リールチェンカバーと刈取サイドカバー右を取り外して（147ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉
1. カウンタチェンカバーを取り外してください。
2. チェンの中央を、軽く指で押したときのたわみ量が、10～15mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉
1. 固定ボルト（M8）をゆるめてください。
2. テンションスプロケットを移動させて、チェンを張ってください。
3. 固定ボルトを締め付けて固定してください。



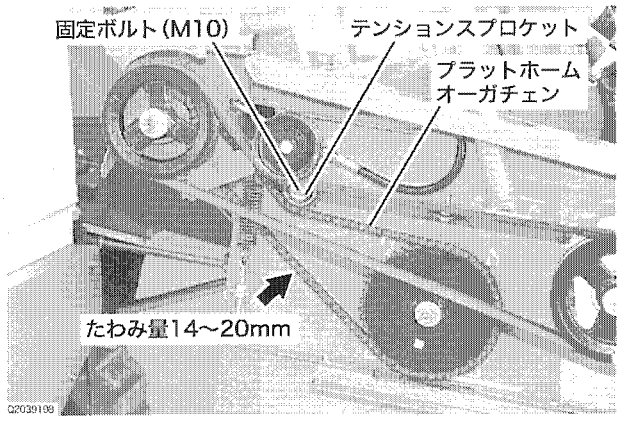


プラットホームオーガチェン

刈取サイドカバー右を取り外して（147ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉
プラットホームオーガチェンの中央を指で押したとき、たわみ量が14～20mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉
1. 固定ボルト（M10）をゆるめてください。
2. テンションスプロケットを移動させて、チェンを張ってください。
3. 固定ボルトを締め付けて固定してください。

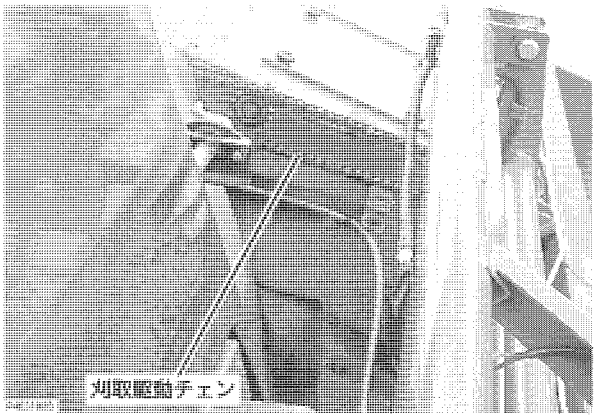


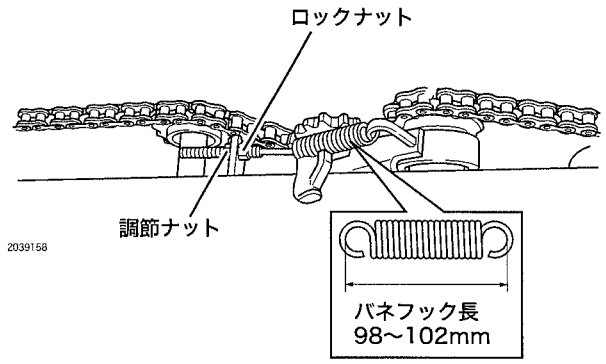
刈取駆動チェン

フィーダハウス右カバーを取り外して（146ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉
テンションバネのバネフック長が、98～102㎜であるか確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。



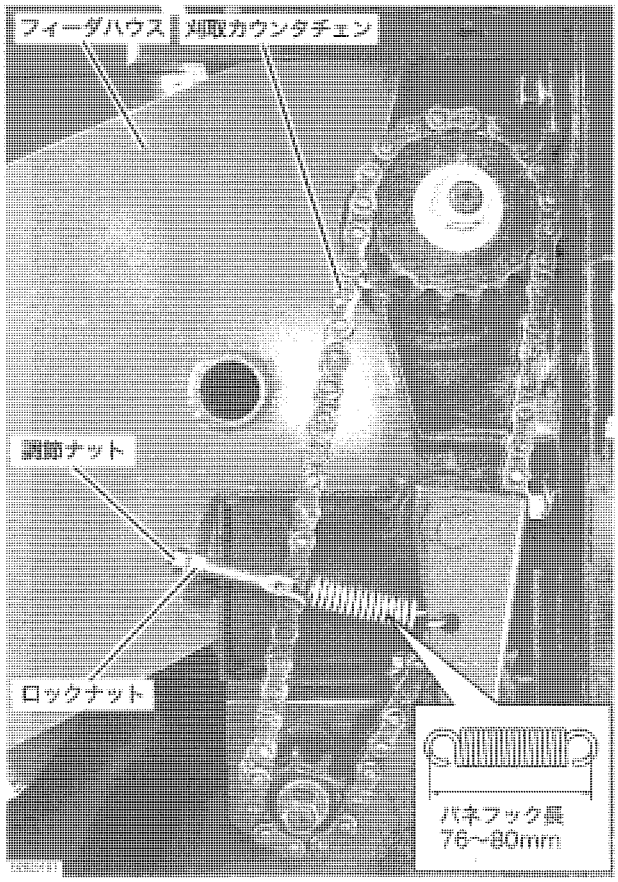


刈取カウンタチェン

脱こく左前カバーを取り外して（146ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉
テンションバネのバネフック長が、76～80mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。



バケットコンベアチェン・スラットコンベアチェン・グレンタンク昇降機チェン(グレンタンク仕様のみ)

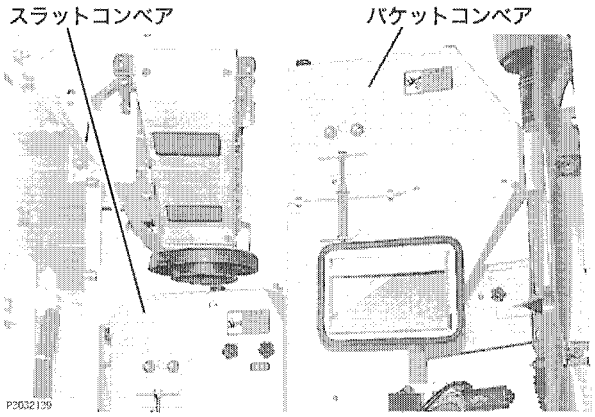
チェンがゆるむと、バケットおよびスラットが壁に当たり、騒音や破損の原因になります。グレンタンク仕様の場合は、グレンタンクをオープンして(150ページ参照)、ワンマンホッパ仕様の場合は、ワンマンホッパをオープンして(152ページ参照)、脱こく右カバーを取り外して(147ページ参照)、下記の点検・調節をしてください。点検・調節後は、元通りにセットしてください。

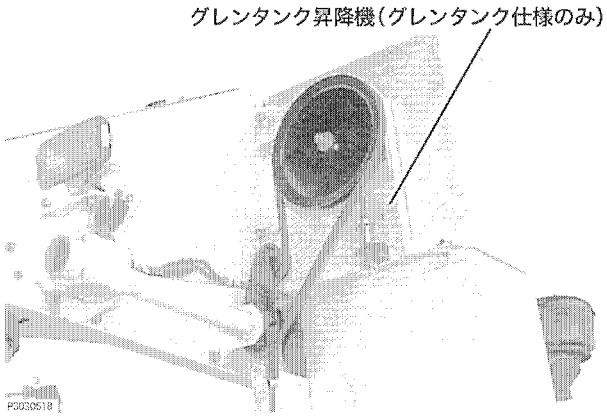
〈点検のしかた〉

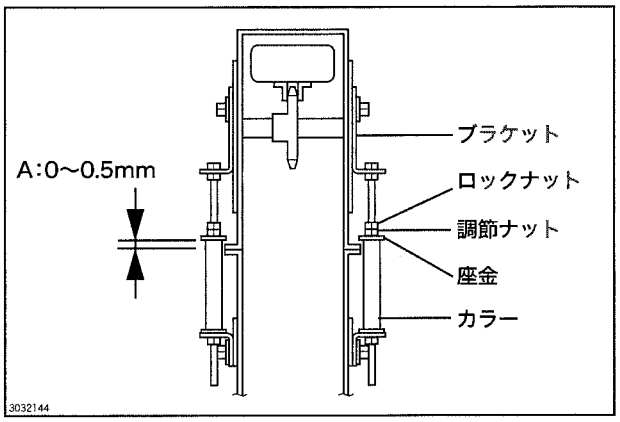
座金とカラーの間(A寸法)が、0～0.5mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉

1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを左右交互に回して、チェンを引っ張ってください。
3. 座金とカラーのすき間を調節してください。
4. ロックナットを締め付けて固定してください。

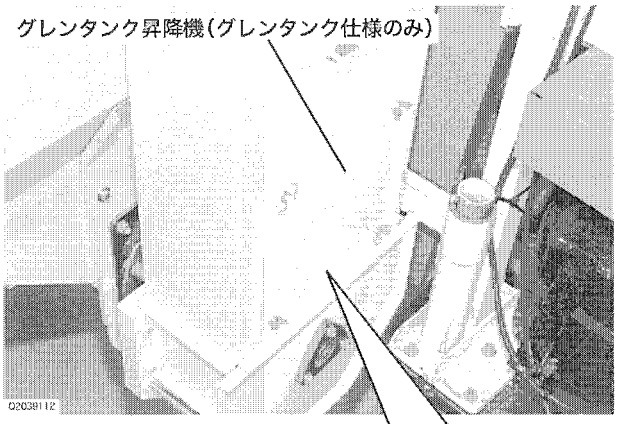


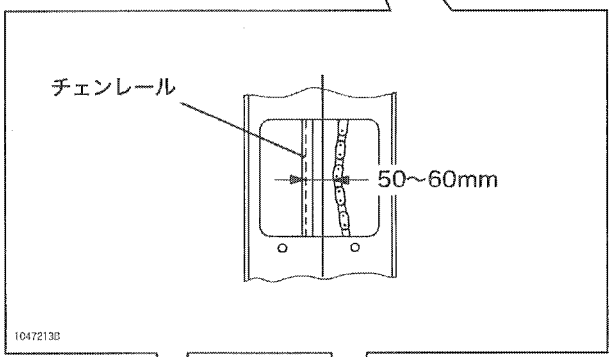


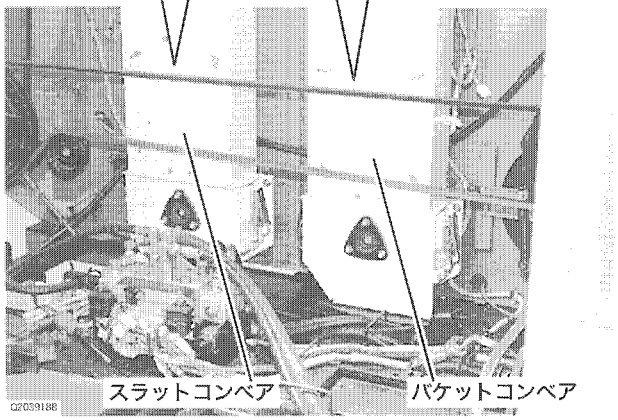


[参考]

● 調節後には、コンベアチェンのたわみ量をグレンタンク内部の点検口から確認してください。チェンとチェンレールを指でつまんで、50～60mmであるか確認してください。





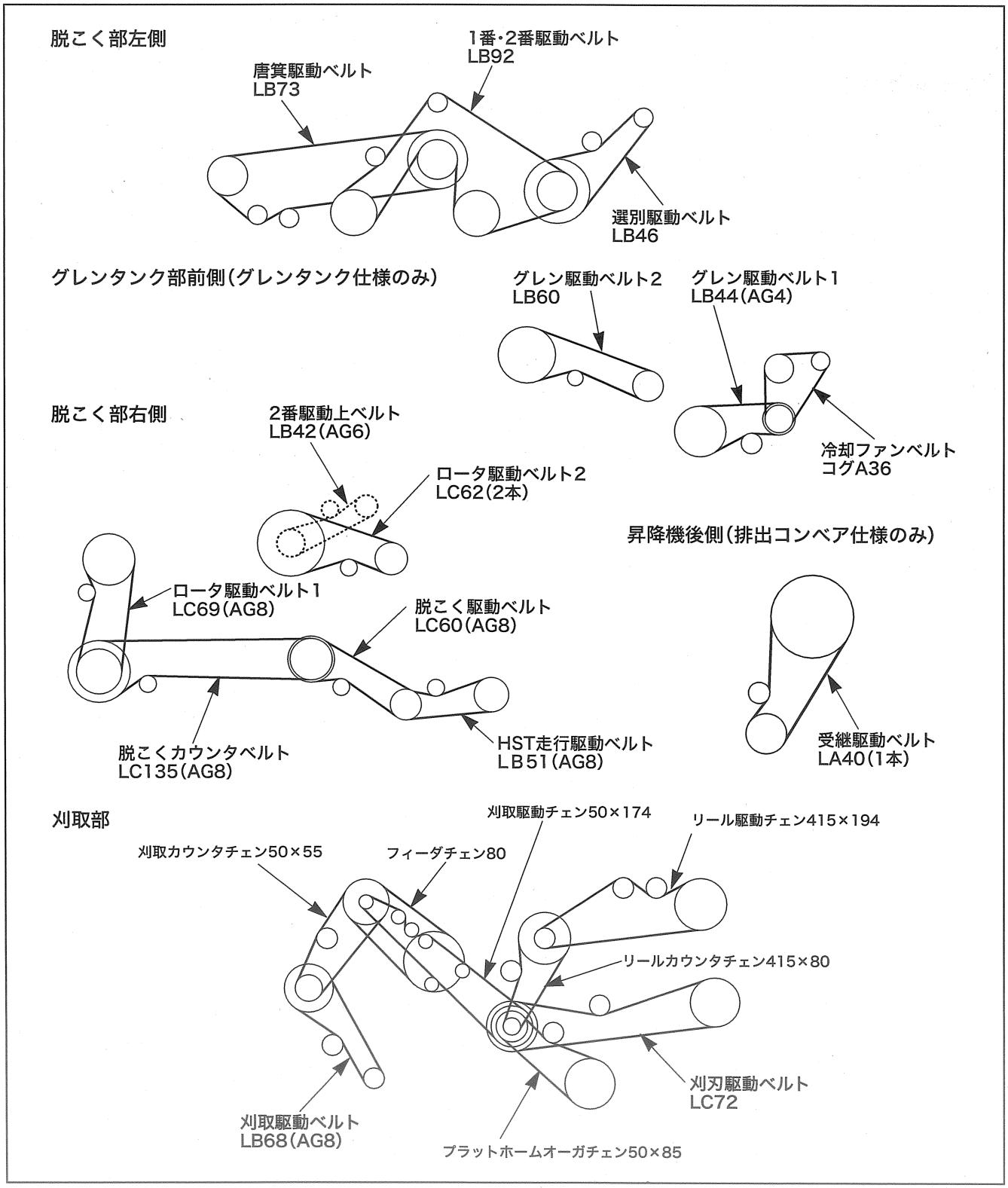


28.各部ベルトの点検・調節のしかた

ベルトにキズがあるときや切れたときは、主要消耗部品（237ページ参照）に紹介されているベルトと交換してください。

★ベルトの配置図

ベルトの位置を探すときの参考にしてください。



1番・2番駆動ベルト

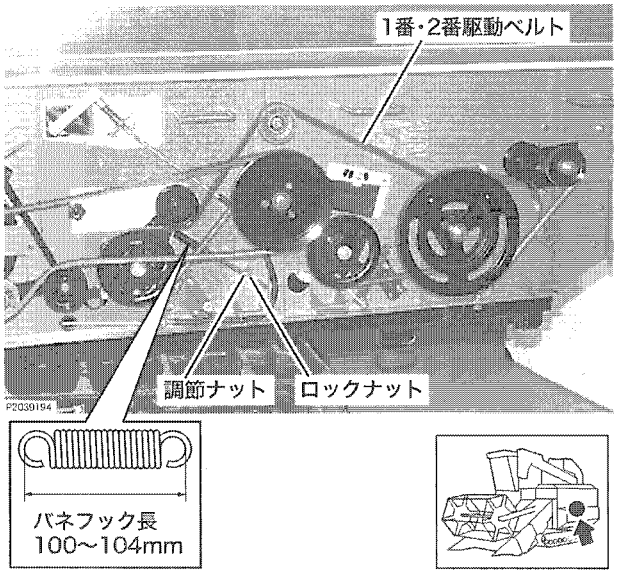
脱こく左前・左後カバーを取り外して（146ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉

テンションバネのバネフック長が、100～104mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉

1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。



選別駆動ベルト

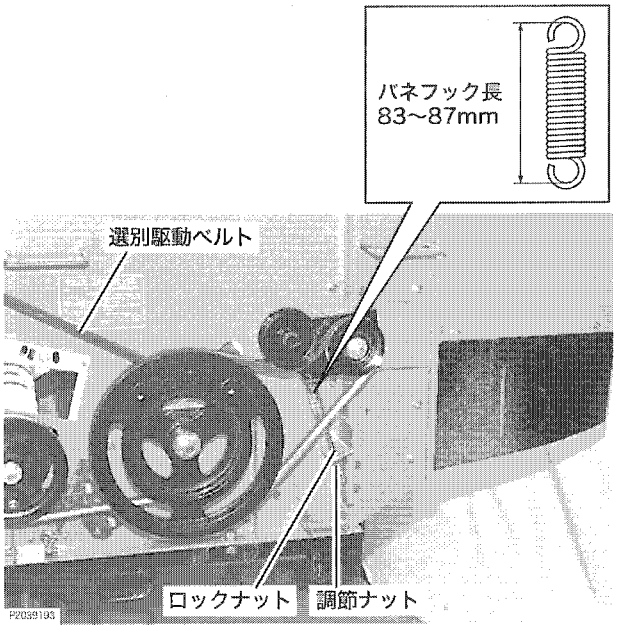
脱こく左後カバーを取り外して（146ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉

テンションバネのバネフック長が、83～87mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉

1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。

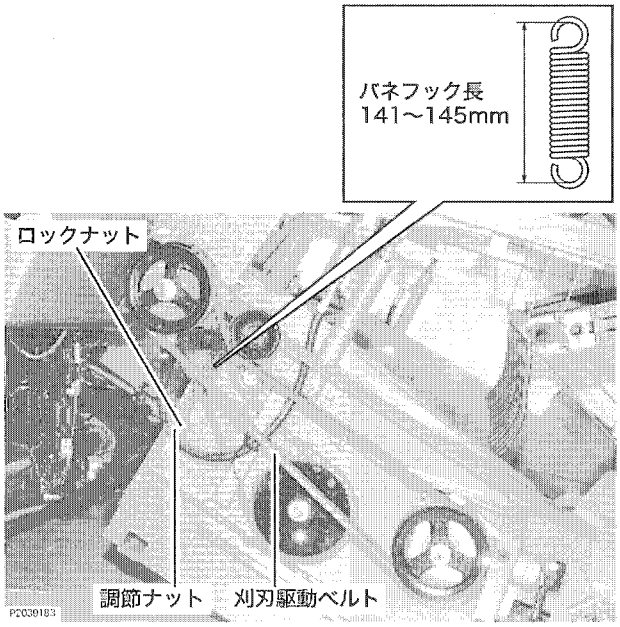


刈刃駆動ベルト

刈取サイドカバー右を取り外して（147ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉
テンションバネのバネフック長が、141～145mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。

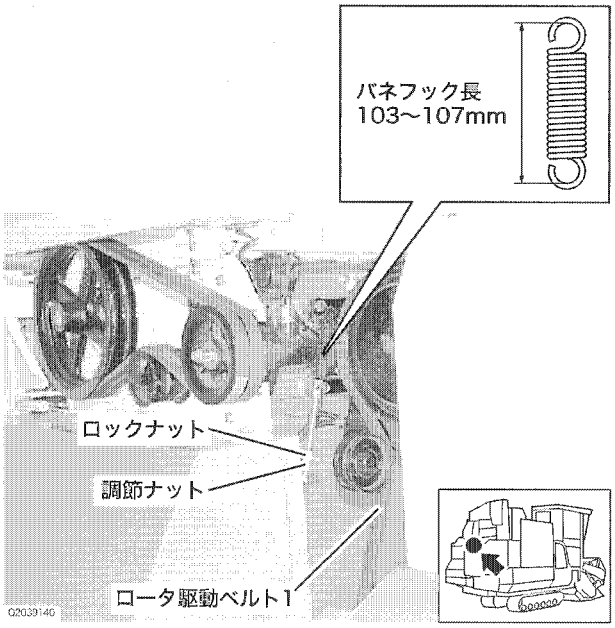


ロータ駆動ベルト1

脱こく後カバーと脱こく後右カバーを取り外して（147ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉
テンションバネのバネフック長が、103～107mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。

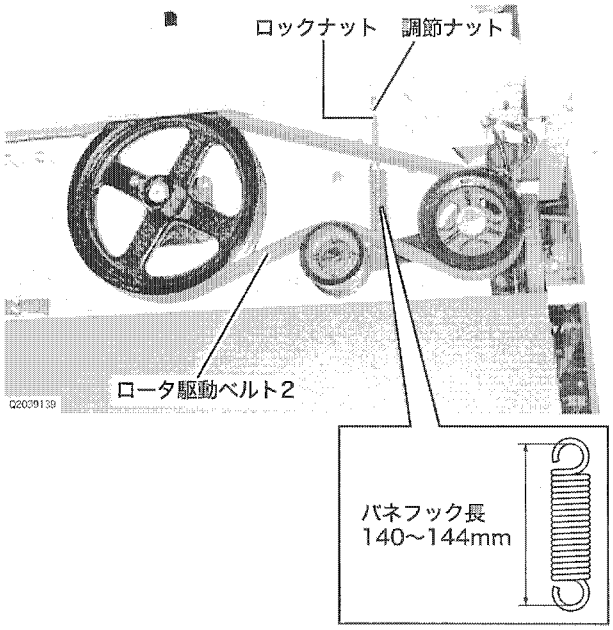


ロータ駆動ベルト2

脱こく後カバーを取り外して（147ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉
テンションバネのバネフック長が、140～144mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。

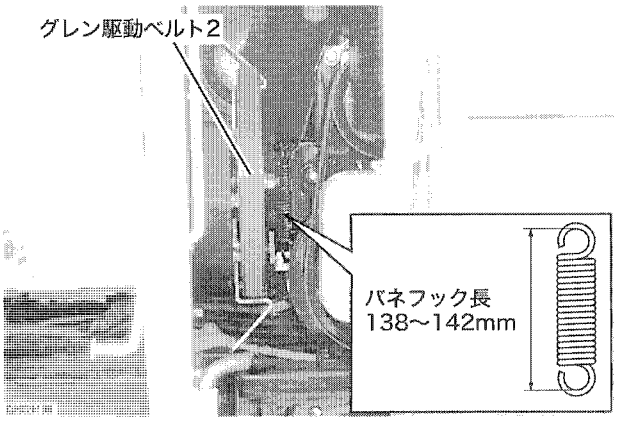


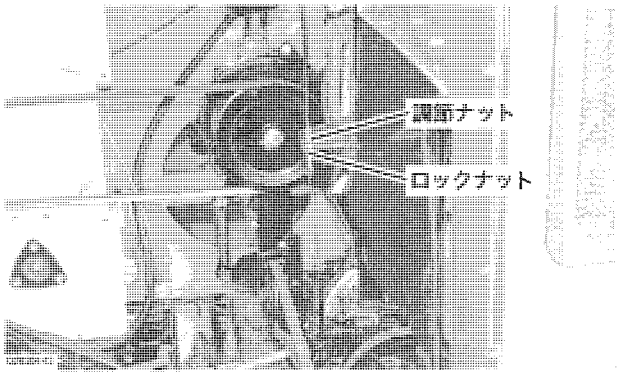
グレン駆動ベルト2(グレンタンク仕様のみ)

下部カバーを取り外し（147ページ参照）、エンジンルームをオープンして（148ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は、元通りに閉めてください。

〈点検のしかた〉
排出クラッチレバーを「入」位置にしてください。
テンションバネのバネフック長を測り、138～142mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉
1. グレンタンクをオープンしてください。（150ページ参照）
2. ロックナットをゆるめてください。
3. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
4. ロックナットを締め付けて固定してください。
5. グレンタンクを収納してください。
6. バネフック長の寸法を確認してください。規定寸法になっていない場合は、上記の作業を繰り返してください。
7. 排出クラッチレバーを「切」位置にしてしてください。





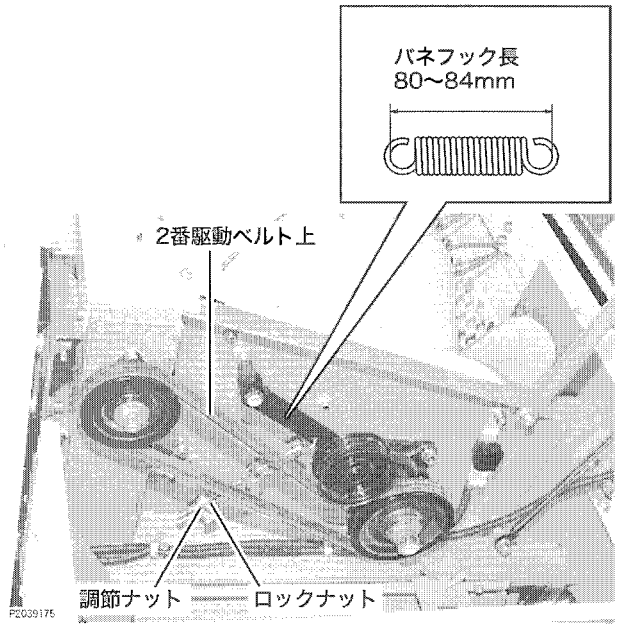
※グレンタンクをオープンしています。

2番駆動ベルト上

ロータカバーをオープンして（149ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は、元通りに閉じてください。

〈点検のしかた〉
テンションバネのバネフック長を測り、80～84mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。

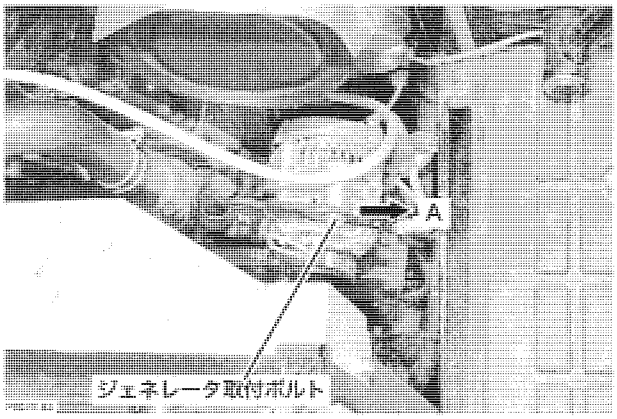


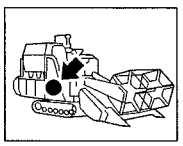
冷却ファンベルト（ジェネレータ駆動ベルト）

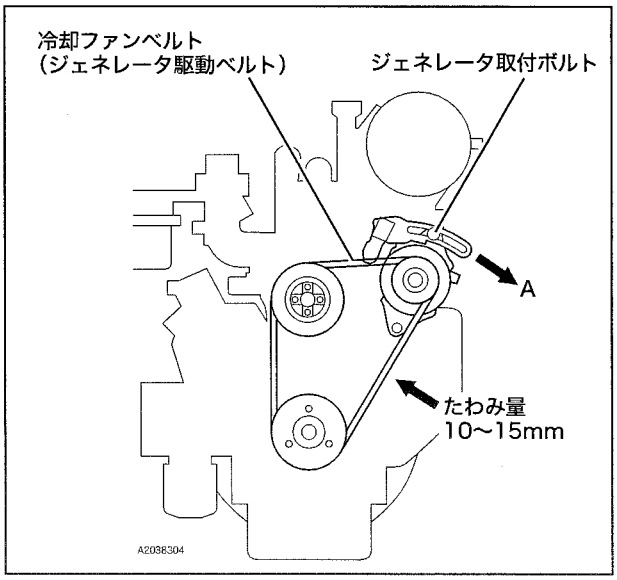
エンジンルームをオープンして（148ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は、元通りに閉めてください。

〈点検のしかた〉
ベルトの中央を指で押したとき、たわみ量が10～15mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ジェネレータ取付ボルトをゆるめてください。
2. ジェネレータを下図の矢印Aの方向に引っ張り、ベルトを張ってください。
3. ジェネレータ取付ボルトを締め付けて固定してください。





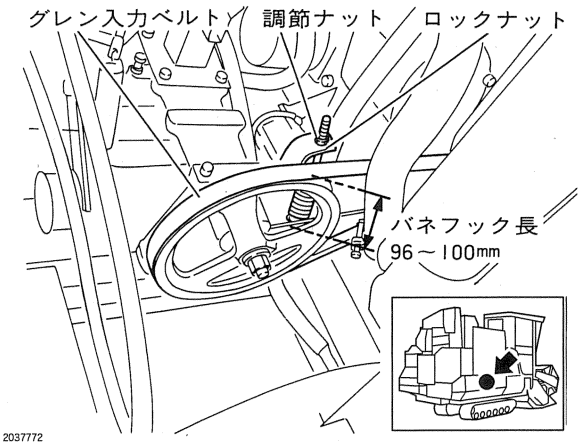


グレン駆動ベルト1(グレンタンク仕様のみ)

グレンタンクをオープンして（150ページ参照)、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は、元通りに閉めてください。

〈点検のしかた〉
テンションバネのバネフック長を測り、96～100mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。

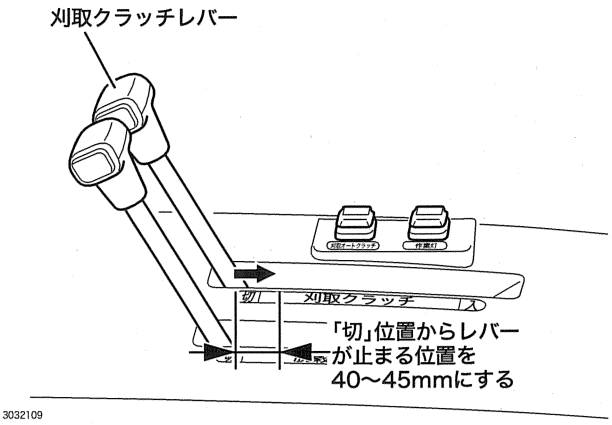


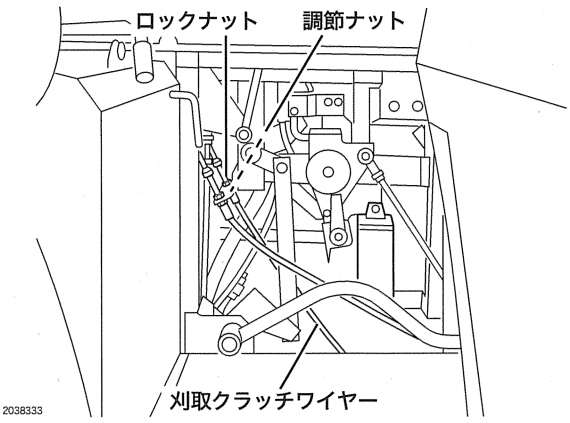
刈取駆動ベルト

サイドコラムカバーを取り外して（146ページ参照)、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は、元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉
1. 刈取クラッチレバーを「入」方向に軽く倒してください。
2. レバーの止まる位置が、「切」位置から40～45mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉
1. 刈取クラッチワイヤーのロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、レバー可動範囲を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。





脱こく駆動ベルト

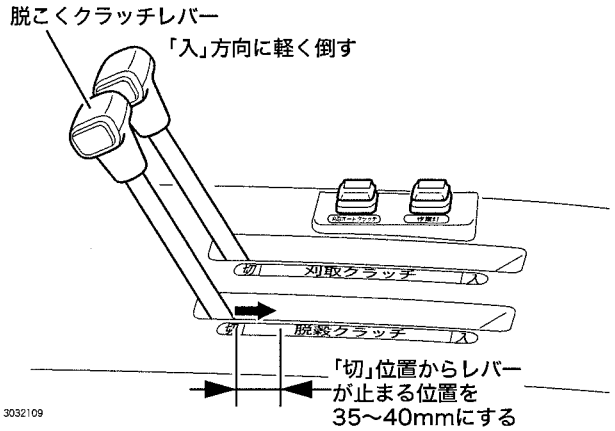
サイドコラムカバーを取り外して（146 ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は、元通りに取り付けてください。

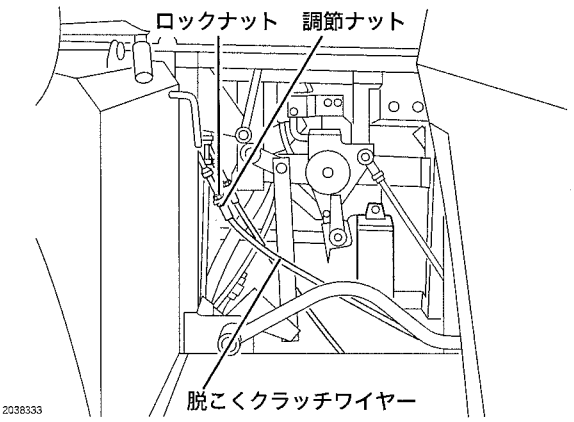
〈点検のしかた〉

1. 脱こくクラッチレバーを「入」方向に軽く倒してください。
2. レバーの止まる位置が、「切」位置から 35 ～ 40mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉

1. 脱こくクラッチワイヤーのロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、レバー可動範囲を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。





脱こくカウンタベルト

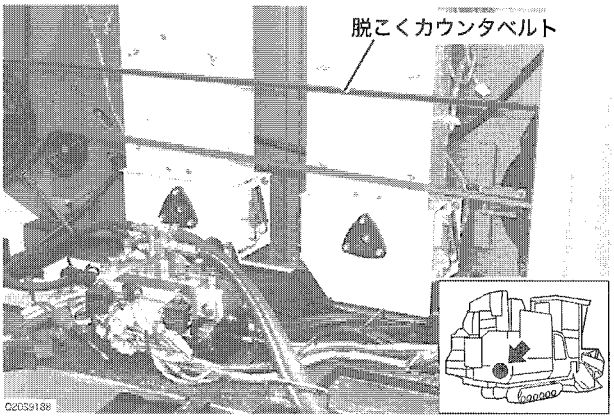
グレンタンク仕様の場合は、グレンタンクをオープンして（150ページ参照）、ワンマンホッパ仕様の場合は、ワンマンホッパをオープンし（152ページ参照）、脱こく右カバーを取り外して（147 ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は、元通りにセットしてください。

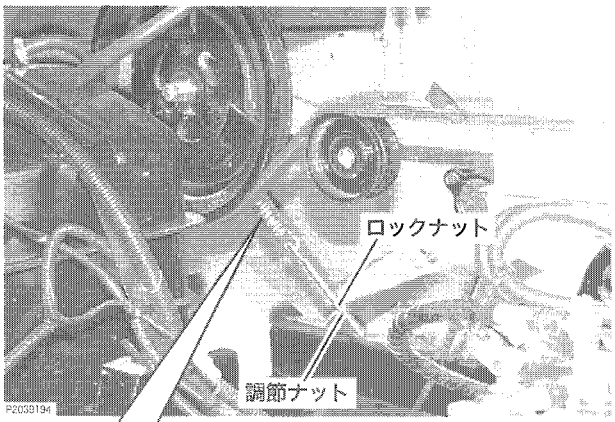
〈点検のしかた〉

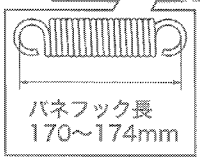
テンションバネのフック長を測り、170～174mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉

1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。





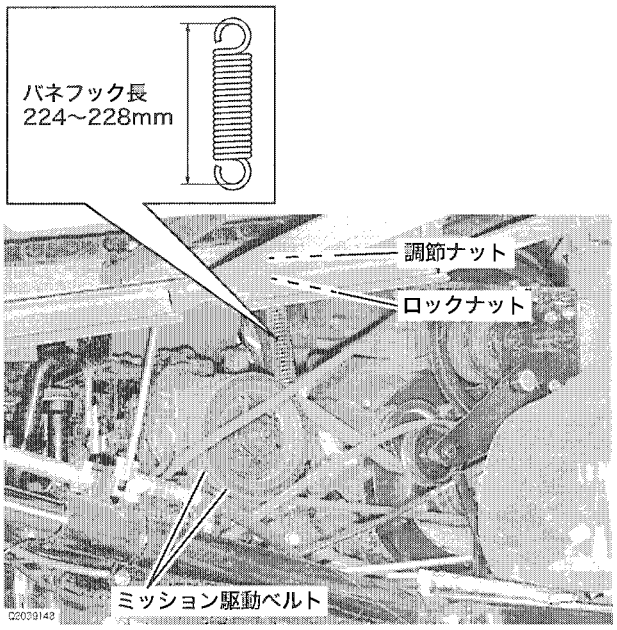


HST走行駆動ベルト

刈取部を最上げ状態にして、刈取部をロックして（158ページ参照）から、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は、元通りに下げてください。

〈点検のしかた〉
テンションバネのバネフック長を測り、224～228mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。



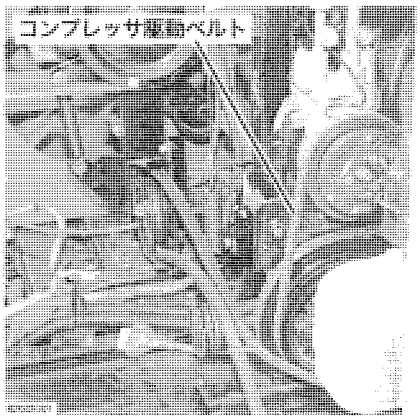
※写真は、刈取部を取り外しています。

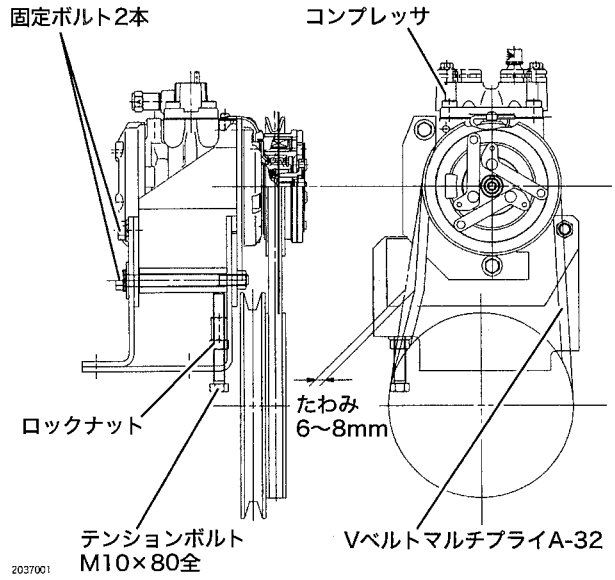
コンプレッサ駆動ベルト（キャビン仕様のみ）

グレンタンクをオープンして（150ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。点検・調節後は、元通りに収納してください。

〈点検のしかた〉
ベルトの中央を指で強く（荷重10kgf）押したとき、たわみ量が6～8mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉
1. 固定ボルト（2本）を約1回転ゆるめてください。
2. ロックナットをゆるめ、テンションボルトを締め込み、ベルトを張ってください。
3. 固定ボルトとロックナットを締め込んでください。



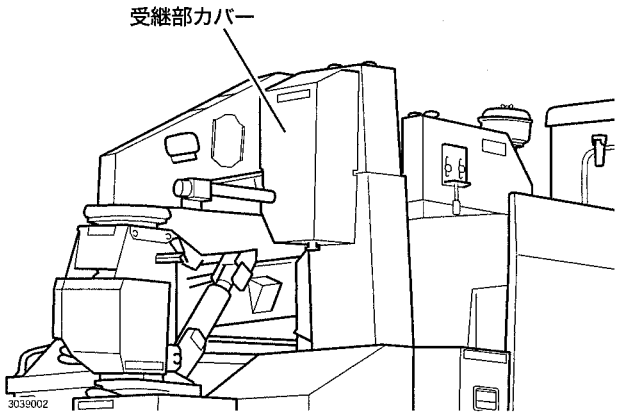


受継駆動ベルト(グレンタンク仕様のみ)

下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は、元通りにカバーを取り付けてください。

〈点検のしかた〉

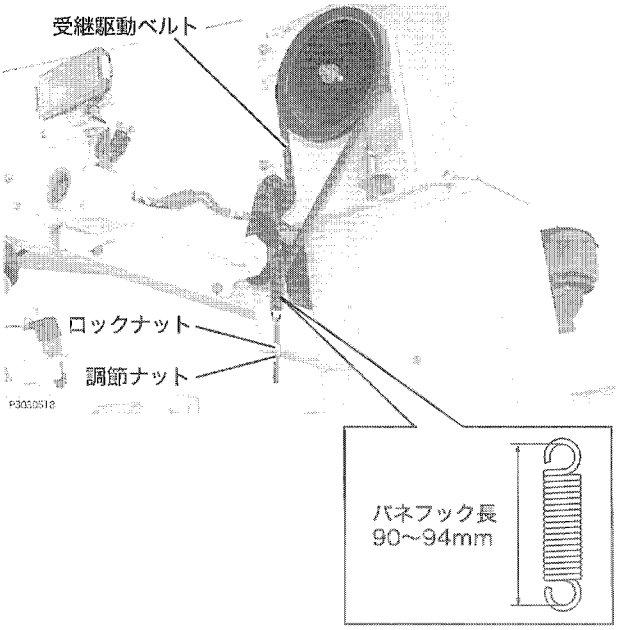
1. 受継部カバーを取り外してください。



2. テンションバネのフック長を測り、90～94㎜であるか確認してください。

〈調節のしかた〉

1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。



受継ベルト(グレンタンク仕様のみ)

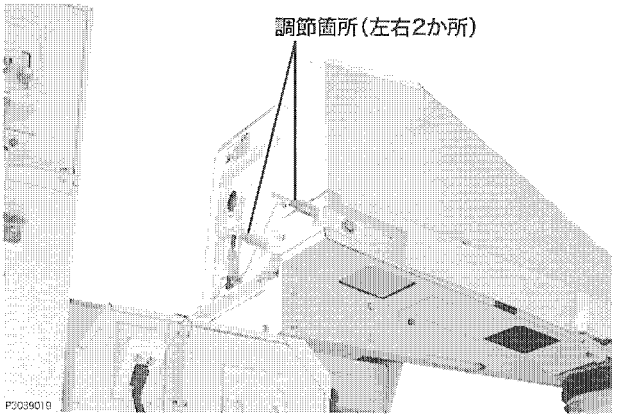
ベルトがゆるむと、騒音や詰まりの原因になります。
下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は、元通りにセットしてください。

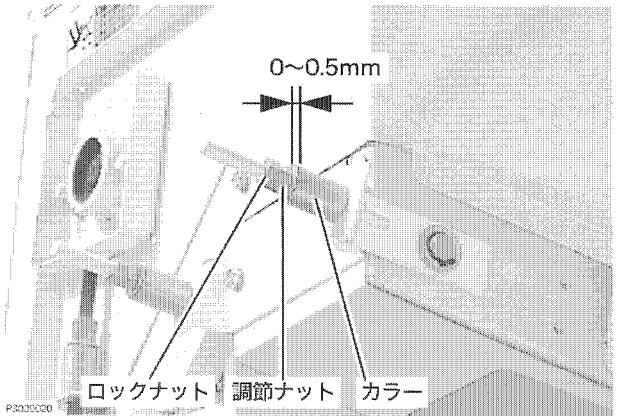
〈点検のしかた〉

座金とカラーのすき間を測り、0～0.5mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉

1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、ベルトを引っ張ってください。
3. 座金とカラーのすき間を調節してください。
4. ロックナットを締め付けて固定してください。



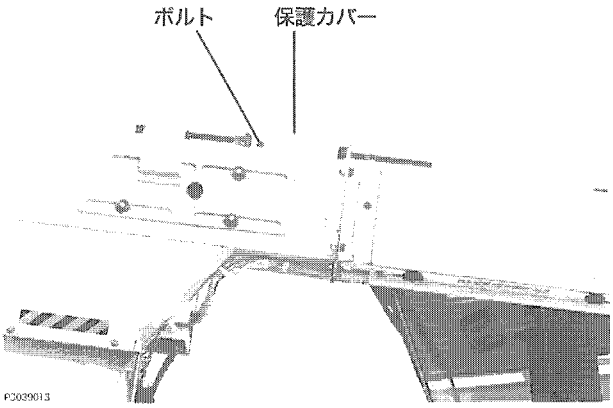


排出コンベア搬送ベルト

ベルトがゆるむと、騒音や詰まりの原因になります。
下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は、元通りにセットしてください。

〈点検のしかた〉

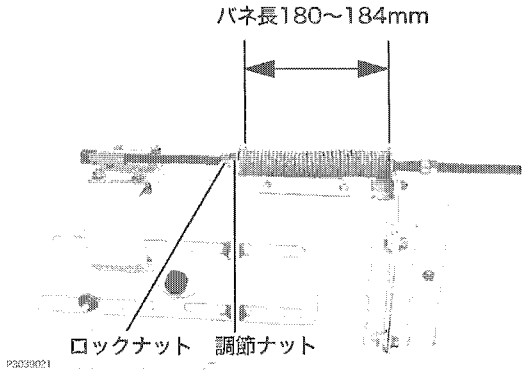
1. 排出コンベア上部の保護カバーを取り外してください。(ボルト左右各1本)



2. バネのバネ長を測り、180～184mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉

1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを締め込んで、バネ長を調節をしてください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。



29.駐車ブレーキの点検・調節のしかた

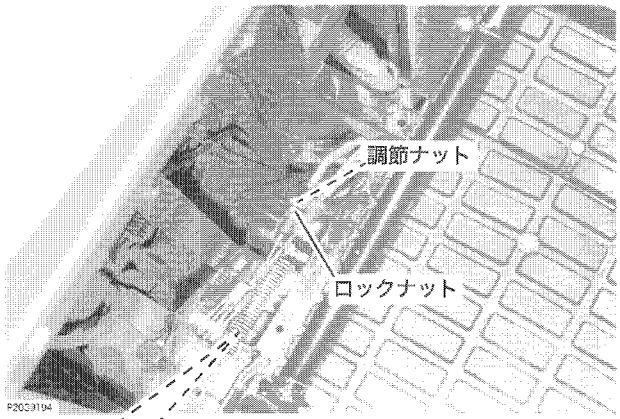
サイドコラムカバーを取り外し（146ページ参照)、
下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は、元通りに取り付けてください。

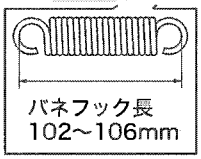
〈点検のしかた〉

1. 駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にしてください。(79ページ参照)
2. バネのバネフック長を測り、102～106mmであるか確認してください。
3. 調節後、駐車ブレーキレバーを「解除」位置にして、バネが自由長になっていることを確認してください。

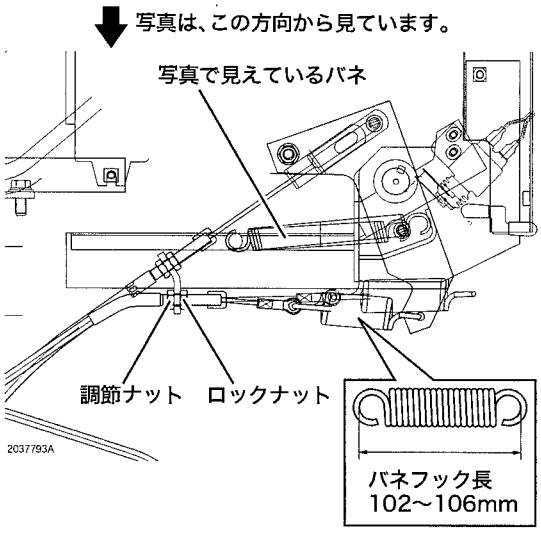
〈調節のしかた〉

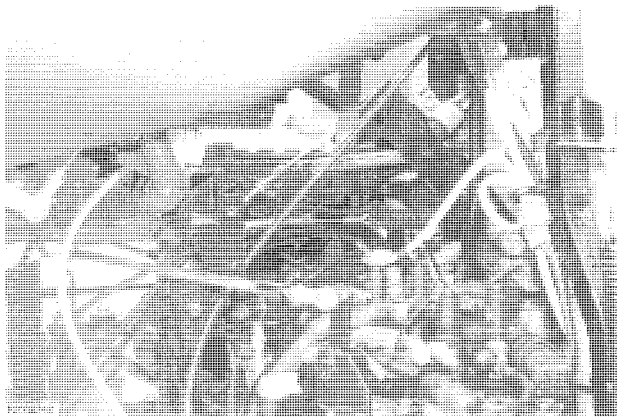
1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを締め込みながら調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。





※写真では、調節するバネは見えていません。下図を参照してください。





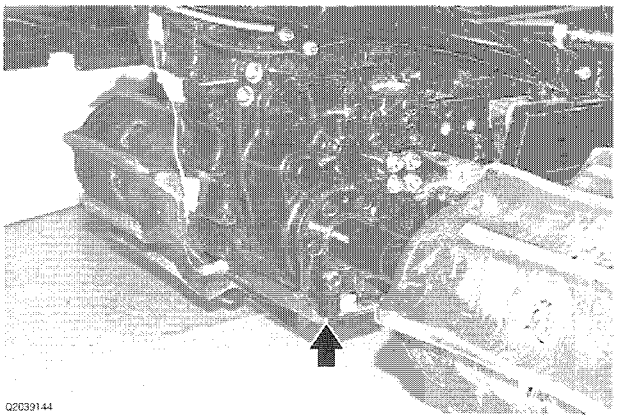
30.クローラの点検・調節のしかた

ミッション下部およびシャーシ左後・右後の3か所を同時にジャッキアップし、クローラを浮かせた状態で下記の点検・調節をしてください。

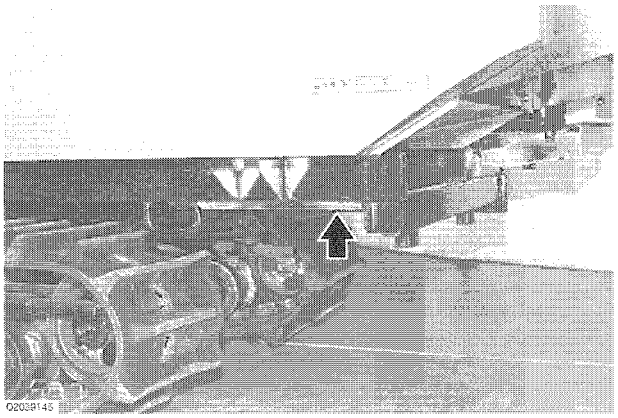
〈ジャッキアップ時の注意事項〉

ジャッキアップをするときは、地面が固く、平坦な場所で、必ず2トン以上の容量のジャッキを使用して行ってください。

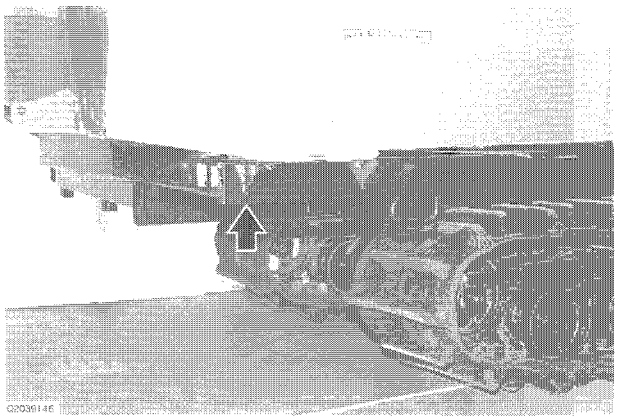
ミッション下部



シャーシ左後

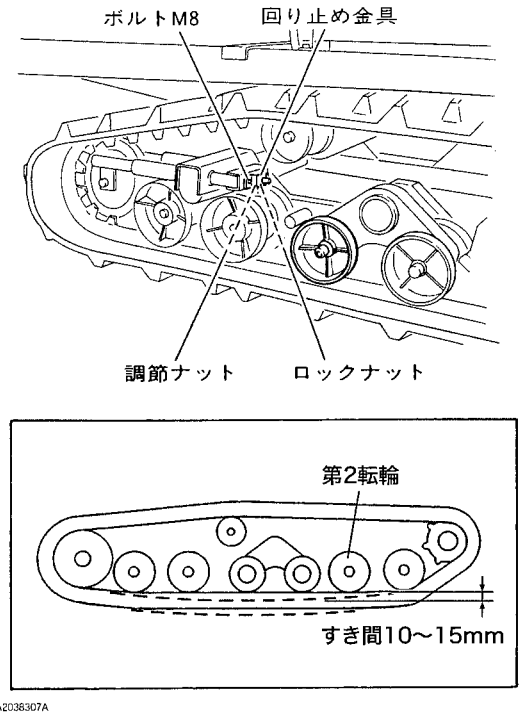


シャーシ右後



〈点検のしかた〉
第2転輪とクローラのすき間を測り、10～15mmであるか確認してください。

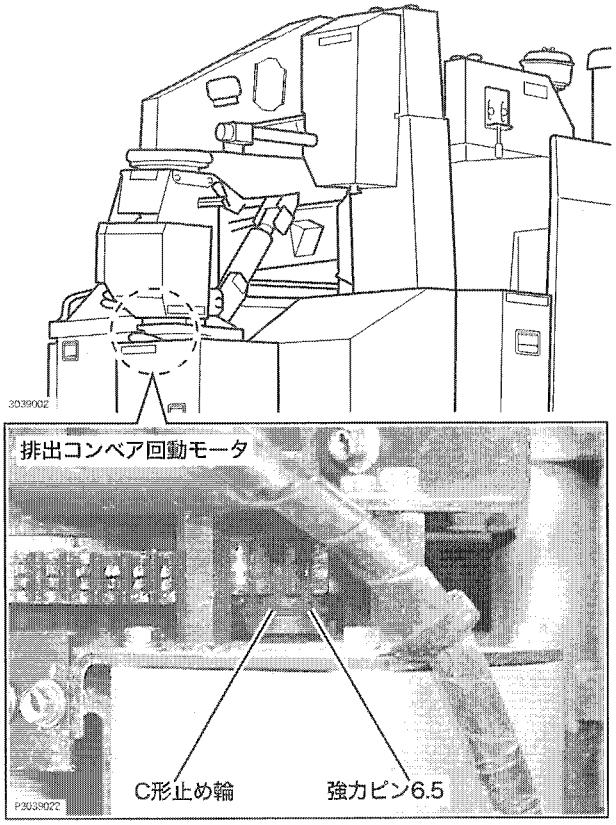
〈調節のしかた〉
1. ボルトM8を外してください。
2. 回り止め金具を取り外してください。
3. ロックナットをゆるめてください。
4. 調節ナットを回して、すき間を調節してください。
5. ロックナットを締め付けて固定してください。
6. 回り止め金具を取り付けて、ボルトM8で固定してください。



31.強力ピンの交換のしかた（グレンタンク仕様のみ）

過負荷から駆動部を保護するために、排出コンベア回動モータには強力ピンを設けています。
万一切れたときは、下記の要領で交換してください。

〈交換のしかた〉
1. 脱こく後中カバーを取り外してください。（147ページ参照）
2. C形止め輪をずらして、強力ピンを交換してください。
3. C形止め輪を元の位置に戻してください。
4. 脱こく後中カバーを取り付けてください。



32.排気ガスの色について

エンジンの始動時は、少し黒色の排気ガスが出る場合もありますが、通常は無色です。

黒色……燃料が濃すぎるための不完全燃焼。
白色……エンジンオイルが燃焼しています。ただし、気温の低い場合は水蒸気で白く見えることもあります。

黒色・白色の排気ガスが、エンジンに負荷をかけなくてもでるときは、お買い求め先で整備してください。

33.クーラーガス(冷媒)の点検のしかた(キャビン仕様のみ)

クーラーガス（冷媒）が不足していると、冷房性能が低下します。
整備工場で点検・補充を受けてください。

⚠警告

- クーラーガスは、液が目に入ったり、手にかかると、失明したり凍傷にかかるおそれがあります。冷媒回路の部品はゆるめないでください。
- エンジン回転中は、エンジンや回転部に手を触れないよう十分に注意してください。

[重要]

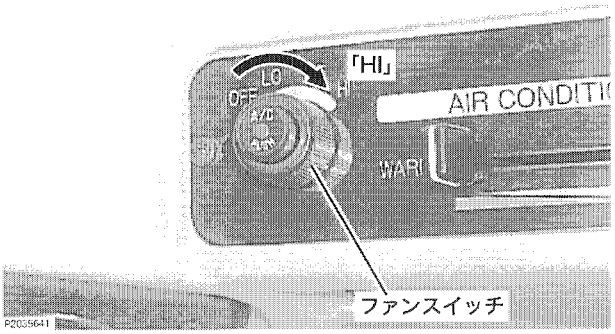
- クーラーガスはR-134aを使用しています。これ以外のクーラーガスは、絶対に使用しないでください。

使用冷媒(クーラーガス)	フロン R-134a
充てん量	900g

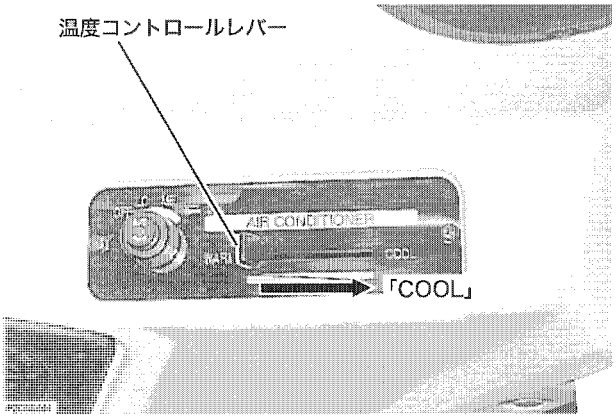
- フロン類をむやみに大気中へ放出することは、法律で禁じられていますので、絶対にしないでください。

〈点検のしかた〉

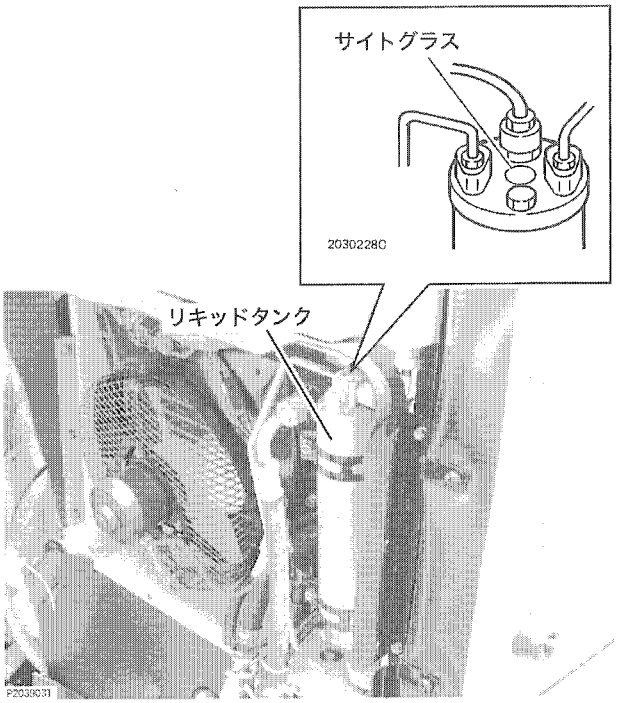
1. エンジンを始動し、エンジン回転数を定格回転にしてください。
2. ファンスイッチを「HI」位置（最大風量）にしてください。



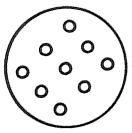
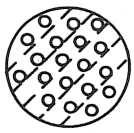
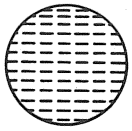
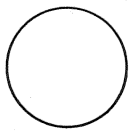
3. 温度コントロールレバーを「COOL」位置（強冷）にしてください。



4. エアコンスイッチを「ON」（ランプ点灯）にしてください。
5. リキッドタンクのサイトグラス（点検窓）から、クーラーガスの気泡の流れを見て、ガス量の点検をしてください。（220ページ参照）



クーラーガス量チェック表

クーラーの状態	異常なし	異常あり		
高・低圧パイプの温度	高圧パイプは熱く、低圧パイプは冷たい。温度差がはっきりある。 ●コンプレッサ吐出側温度70℃ ●コンプレッサ吸入側温度5℃	高圧パイプは暖かく、低圧パイプはやや冷たい。温度差はあまりない。	高圧パイプ、低圧パイプにほとんど温度差が感じられない。	高圧パイプは熱く、低圧パイプはやや暖かい。温度差はあまりない。
サイトグラスの状態	ほとんど透明。気泡の流れが見えても、エンジン回転を上げたり下げたりすると透明になる。 ※1  1018720D	気泡の流れるのが見える。透明または白泡のときもある。  1018720D	霧のようなものが流れているのがわずかに見える。  1018720D	ドアを全開にして、ファンを最大風量にし、アイドリングで回しても気泡が見えない。 ※2  1018720D
パイプ接続部の状態	異常なし。	油が汚れている所がある。	油の汚れが著しい所がある。	異常なし。
このクーラーの状態は	ガス量も不足なく異常はない。	少しガスがもれている所がある。	ガスがほとんどもれてなくなってしまった。	ガスが過充てんになっている。

※1 外気温度が低いときには、ガス充てん量が適正でも気泡が見えることがあります。
※2 クーラーガスがない場合があるので、高・低圧パイプの温度差がないことを確認してください。
この場合、全く冷えない状態にあります。

[重要]

- 連続した気泡が見えるときは、冷媒が不足していますので、販売店ですぐに補充を受けてください。冷媒不足の状態で運転を続けると、コンプレッサの破損の原因になります。
- 点検窓に全く冷媒が確認できず、エアコンスイッチを「ON」（ランプ点灯）にしても冷えないときは、冷媒が入っていませんので、次の処置を行ってください。
  1. 販売店で、冷媒もれ箇所のチェックをしてもらってください。
     （配管ジョイント部、ホースなど）
  2. 冷媒を規定量補充してください。（点検窓でチェック）
  3. ND-8オイルを120cc、低圧側より追加してください。
     （コンプレッサ内・低圧ホース内など）
- 冷媒もれによって、サイクル内のオイルが不足していると、そのまま冷媒だけを追加してもコンプレッサロックの原因になります。

34.冷媒ガス(サービス缶)の取り扱い、および充てんの注意(キャビン仕様のみ)

取り扱いを誤ると、有害物質が発生したり、缶が破裂して、失明・凍傷などの危険があります。

⚠警告

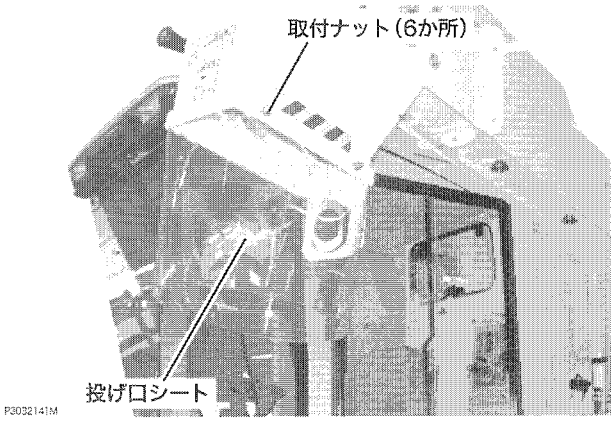
- 裸火や高温部のある所では、冷媒ガスをもらさないでください。
  通常の取り扱いでは無毒・無害ですが、冷媒ガスが裸火や高温部（ストーブやタバコなど）に触れると、分解して有害物質が発生します。
- 換気の悪い場所では作業はしないでください。充てん作業は、換気の良い場所で行ってください。
- ハライドトーチ式リークデテクターでの冷媒ガスもれ点検は、絶対に行わないでください。従来のハライドトーチ式リークデテクターは、塩素との反応を利用して冷媒ガスもれを検知するため、塩素を含まないR-134aは、ガスもれ検知できないだけでなく、吸い込んだR-134aを分解して有害物質も発生させます。
- 冷媒ガスが、裸火や高温部に触れて分解し、発生したガスを吸い込まないでください。裸火や高温部（ストーブやタバコなど）に触れて発生したガスは、有害です。
- サービス缶は加熱しないでください。
  - 温度が 40 ℃以上になるところに置かないでください。
  - 缶を、エンジンやラジエータの上に置かないでください。
  - 缶の温度を40℃以上に上げないでください。
  - やむを得ずサービス缶を暖める場合は、40℃以下の温水を使用してください。
  - 缶を火の中に入れないでください。
- 缶に1MPa（10kgf/cm^2）以上の圧力を加えないでください。
- 缶に冷媒を戻さないでください。
- 缶を落としたりして、缶に衝撃を与えないでください。
- 缶は強く振らないでください。サービス缶バルブが取付不十分だと外れることがあり、冷媒がもれる原因になります。
- サービス缶を、顔の近くで取り扱わないでください。また、必ず保護メガネを着用してください。
- 冷媒が直接皮膚にかからないように注意してください。
- エンジン回転中、マニホールドゲージの高圧側バルブ（HI）を開かないでください。エンジン回転中に高圧バルブを開くと、高圧ガスがサービス缶に逆流して破裂する危険があります。
- 冷媒液が目に入ったときの処置
  - 目を、手やハンカチでこすらないでください。
  - 直ちに清浄な流水で15分以上洗眼し、速やかに専門の眼科医の手当てを受けてください。
- フロン類をむやみに大気中へ放出することは、法律で禁じられていますので、絶対にしないでください。
- 冷媒ガス（フロン類）を廃棄する場合には、専門の業者に引き取ってもらうなどの適切な方法で処分してください。

35.投げ口シートの交換のしかた

投げ口シートが破損している場合は、以下の手順で交換してください。

〈交換のしかた〉

1. 取付ナット（6か所）を外して、投げ口シートを取り外してください。
2. 新しい投げ口シートを取り付け、取付ナット（6か所）で元通りに固定してください。



13章 不調診断のしかた

⚠警告

●機械の調子が悪いときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてから診断してください。守らないと、回転物にはさまれて傷害事故の原因になります。

下記の処置をしても改善されないときは、最寄りの販売店に連絡してください。

1. キースイッチを「始動」位置にしてもスタータが回らない場合

この確認をしてください	処置	参照ページ
セフティペダルを踏み込んでいますか。	セフティペダルを完全に踏み込んでから、キースイッチを「始動」位置にしてください。	72
バッテリが放電していませんか。	バッテリを満充電にしてください。	194
バッテリ端子部のゆるみ・外れ、または腐蝕していませんか。	端子部を清掃し、確実に締め付けて、グリスを塗布し防錆してください。	195
スローブローヒューズ、またはヒューズが溶断していませんか。	スローブローヒューズ、またはヒューズを交換してください。	196
バッテリの接続がプラス・マイナス逆になっていませんか。	指定したバッテリを使用して、プラス・マイナスを正しく接続してください。	192
脱こくクラッチレバー、または排出クラッチレバーが「入」位置になっていませんか。	脱こくクラッチレバー・排出クラッチレバーを「切」位置にしてください。	71

2. スタータは回るがエンジンが始動しない場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
副変速レバーが「N」(中立) 位置になっていますか。	副変速レバーを「N」(中立) 位置にしてください。(走行中または作業中にエンジンが停止したときは、副変速レバーを「N」(中立) 位置にしないと、エンジンが始動しない場合があります。)	70・71
燃料タンクに燃料が入っていますか。	燃料を満タンに給油し、エア抜きをしてください。	178
燃料にエアが混入していませんか。	燃料のエア抜きを行ってください。	187
燃料コックが「閉」位置になっていませんか。	燃料コックを「開」位置にしてください。	71
燃料に水が入っていませんか。	燃料コシ器に水がたまっていれば、水を抜いてください。	185

3. 運転中に水温パイロットランプが点灯し、ブザーが鳴る場合

[重要]

● エンジンがオーバーヒートですので、速やかに本機を停止し、刈取・脱こくの各クラッチレバーを「切」、Eモードスイッチを「切」位置にして、エンジン回転をローアイドリング（低回転）に下げて冷却運転をしてください。水温パイロットランプが消灯してから、エンジンを停止し、エンジンが十分冷えてから適正な処置を行ってください。

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
冷却水が不足していませんか。	冷却水を補給してください。	182
冷却ファンベルトがゆるんでいませんか、または破損していませんか。	ベルトの張り調整、または交換してください。	210
ラジエータ冷却フィンが目詰まりしていませんか。	清掃してください。	189
エンジンオイルが不足していませんか。	オイルを補給してください。	178
過負荷運転をしていませんか。	負荷を軽くしてください。（作物の状態に応じて、適正な作業速度を選んでください。）	109

4. 運転中に油圧パイロットランプが点灯し、ブザーが鳴る場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
エンジンオイル量が少なくなっていませんか。	オイルを規定量まで補給してください。	178
エンジンオイルの粘度が低くありませんか。	適正粘度のオイルと交換してください。	178
プレッシャスイッチが故障していませんか。	スイッチを交換してください。	—
オイルポンプが故障していませんか。	サービス工場で修理してください。	—

5. 運転中にチャージパイロットランプが点灯し、ブザーが鳴る場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
ジェネレータが故障していませんか。	サービス工場で修理してください。	—
冷却ファンベルトのゆるみ、または破損していませんか。	ベルトの張り調整、または交換してください。	210

6. 作物を搬送しない場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
刈刃駆動ベルトがスリップしていませんか。	刈刃駆動ベルトの調節を行ってください。	208
刈取駆動ベルト、脱こく駆動ベルトの張りがゆるくないですか。	刈取駆動ベルトおよび脱こく駆動ベルトの調節を行ってください。	211・212
刈刃や搬送部に、雑草、引き抜き株、泥、石などの異物がかみ込んでいませんか。	刈刃・搬送部を点検して、異物があれば取り除いてください。	—

7. 株の引き抜きがある場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
デバイダが株の根元に突っ込んでいませんか。	刈高さ調節レバーで、デバイダの先端を地面から５～10cmの範囲に調節してください。	103
刈取速度が速すぎませんか。	作物、ほ場の状態に合わせて、適正な速度で刈取りを行ってください。	109
刈刃がよく切れますか。	刈刃と受刃のすき間を調節してください。	198

8. 刈取部でのロスが多い場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
刈刃の前で作物が滞留していませんか。	リールの高さを低くセットし、作物が刈刃からオーガへスムーズに送り込まれるようにしてください。	109～112
プラットホームが高すぎて、作物を短く刈りすぎていませんか。	作物をオーガへ均一に送り込むのに必要な長さになるまで、プラットホームを低くしてください。	118
向い刈りで、リールが作物を押さえつけていませんか。	リール高さを適正にしてください。	109～112

9. リールに巻き上げや巻き付きがある場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
タイン角度が小さすぎませんか。	タイン角度を適正にしてください。	109～112
リール高さが低すぎませんか。	リールの高さを適正にしてください。	109～112

10.土や石が入る場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
プラットホームが低すぎませんか。	プラットホームは、できるだけ高く上げてください。	109～112
刈高さ自動制御を使っていますか。	刈高さ自動制御を使ってください。	130

11.こぎ残しがでる場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
ロータの回転数が低くありませんか。	回転計を見ながら、アクセルダイヤルで規定回転数にするか、E モードスイッチを「入」位置にしてください。また、ロータのプーリが作物に合っているか、確認してください。	109～112
送塵調節レバーが「開」側になっていませんか。	「標準」または、「閉」側にしてください。	41
作物の供給量が不十分ではありませんか。	走行速度を少し速くしてください。	—
作物の不均一な送り込みがありませんか。	走行速度を少し速くしてください。リールが前過ぎれば、後ろに下げてください。	109～112

12.こく粒の飛散が多い場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
送塵調節レバーが「開」側になっていませんか。	送塵調節レバーを「閉」側に調節してください。	41
チャフシーブ後の調節は適正ですか。	チャフシーブ後を「 開」 の側に調節してください。	104
エンジンの回転数が高くありませんか。	回転計を見ながら、アクセルダイヤルで規定回転数にしてください。	110
クリーンシフトの調節が間違っていませんか。	正しく調節してください。	117
唐箕の回転数調節は適正ですか。	正しく調節してください。	117

13.こぎ室内でゴトゴト音がして、能率があがらない場合

この確認をしてください	処置	参照ページ
作物が朝つゆなどでぬれていませんか。	よく乾燥してから刈取ってください。	93～95
ロータの回転数が低くありませんか。	回転計を見ながら、アクセルダイヤルで規定回転数にするか、E モードスイッチを「入」位置にしてください。また、ロータのプーリが作物に合っているか、確認してください。	110
作業速度が速すぎませんか。	現在の速度より少し落として作業してください。	—
送塵調節レバーが「閉」側になっていませんか。	こく粒の含水率が高いときには、送塵調節レバーを「開」側にしてください。	116
作物の不均一な送り込みがありませんか。	不均一な送りの原因を調べて、取り除いてください。	—

14.選別が悪い場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
クリーンシフトの調節が間違っていませんか。	作物の条件に合わせて、クリーンシフトレバーで適正位置に調節してください。	117
エンジンの回転数が低すぎませんか。	回転計を見ながら、アクセルダイヤルで規定回転数にするか、Eモードスイッチを「入」位置にしてください。	110
唐箕の風路、および風吸入口にワラクズなどがたまっていませんか。	ワラクズなどを取り除いてください。	159
唐箕の回転数調節は適正ですか。	正しく調節してください。	102

15.損傷粒が多い場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
供給量が不適正ではありませんか。	走行速度を速くしてください。こぎ室内でゴトゴト音がしているときは、走行速度を落として作業してください。	—
作物の不均一な送り込みがありませんか。	不均一な送りの原因を調べて、取り除いてください。	—
クリーンシフトレバーの調節が間違っていませんか。	正しく調節してください。	117
揚こく、排出シュータ部に土が付着していませんか。	土をきれいに落としてください。	—
ロータ回転数が高くありませんか。	回転計を見ながら、アクセルダイヤルで規定回転数にするか、Eモードスイッチを「入」位置にしてください。	109・110

16.脱こくクラッチを切っても車高が下がらない場合

この確認をしてください	処置	参照ページ
ヒューズボックスの「排出コントローラ 5A」のヒューズが切れていませんか。	車高調節レバーを使用して、車高を下げてください。 ヒューズボックス内のヒューズを点検し、切れている場合は、交換してください。 ※ヒューズが切れていない場合は、サービス工場に修理の依頼をしてください。	196

17.キャビン内が冷えない場合(キャビン仕様のみ)

この確認をしてください	処置	参照ページ
風量が少ない。また、風が出ないのではありませんか。	ブロアモータの作動を調べてください。	—
吹出し空気が送風になっていませんか。	温度コントロールレバーを「COOL」側にしてください。	89
吹出し空気温度が高くありませんか。	コンプレッサの回転を調べてください。	—
コンプレッサが回転しないのではありませんか。	ベルトの張りを適正に調整してください。	213
	電磁クラッチの作動を調べてください。	—
冷媒量が不足していませんか。	補充してください。	218
コンデンサが詰まっていませんか。	掃除してください。	190

18.キャビン内が冷えすぎる場合(キャビン仕様のみ)

この確認をしてください	処置	参照ページ
クーラー吸気口(室内)が開いていませんか。	閉じてください。	−

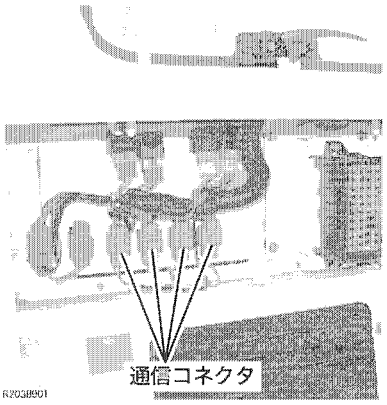
19.自動装置関係

このコンバインでは、コントローラが自己診断を行い、通信によって、診断結果を液晶コンビネーションメータにエラーコードとして表示します。
エラー発生時には、液晶コンビネーションメータの「エラーコード」の文字が点滅します。
エラーコードを、液晶コンビネーションメータのエラーコード表示部に表示するには、ブザー停止ボタンを5秒間連続で押します。コントローラ識別コードとエラーコードが表示されます。

コントローラの識別コードは、次のようになっています。

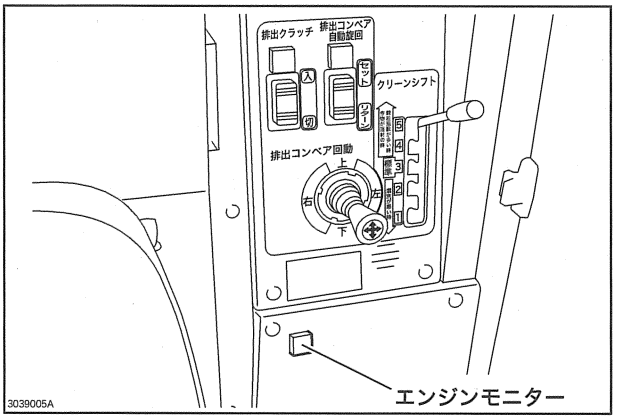
コントローラ識別コード	内容
C1: コントローラ(水平) (シート後コントロールBOX 内)	水平制御を行います。 また、手動の水平左右傾斜・車高昇降を行います。 排出クラッチと排出コンベアの入切制御を行います。
C2: コントローラ(刈取) (シート後コントロールBOX 内)	刈高さ自動制御を行います。 また、手動の刈取昇降・リール昇降を行います。
C4: コントローラ(排出) (シート後コントロールBOX 内)	排出コンベアの自動旋回制御を行います。 また、手動操作時の排出コンベアの昇降・旋回を行います。

次のようなエラーコードが表示された場合は、点検と処置を行ってください。

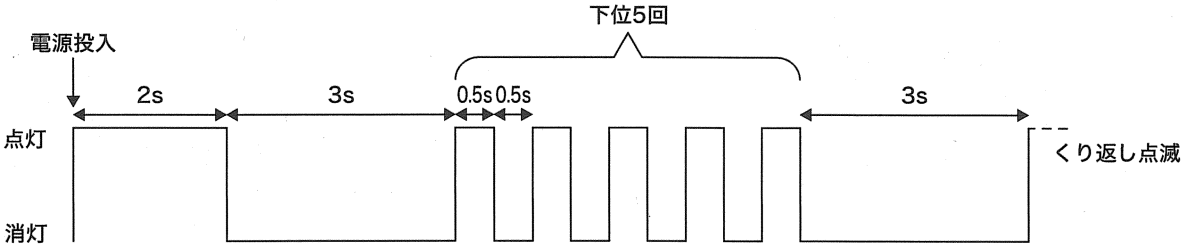
エラーコード	状況	不具合現象	点検箇所	処置
66 (各コントローラ共通)	通信回路の異常です。	—	通信コネクタが抜けていませんか。 通信コネクタは、シート後のコントロールBOX内にあります。	抜けている場合は、確実に差し込んでください。 
	通信回路の異常です。	—	各コントローラのヒューズが切れていませんか。 ヒューズボックス内のヒューズを点検してください。 キャビン仕様は、シート後のコントロールBOX内にあります。キャビンなし仕様は、サイドコラム内にあります。	ヒューズを交換してください。 ※電線が短絡している場合は、修理を依頼してください。
68 (各コントローラ共通)	コントローラの異常です。	—	コントローラ・コントローラ(水平)・コントローラ(刈取)は、シート後のコントロールBOX内にあります。	コントローラを交換してください。

20.エンジンコントローラ自己診断について

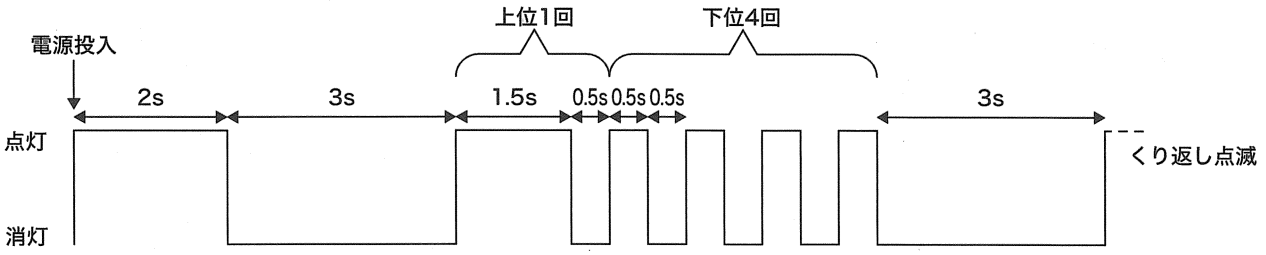
エンジン関係のセンサやコントローラに異常が発生したときに、エンジンモニターの点滅回数により異常を知らせます。
ランプが点滅している場合は、販売店に連絡してください。



例:アクセルセンサ異常

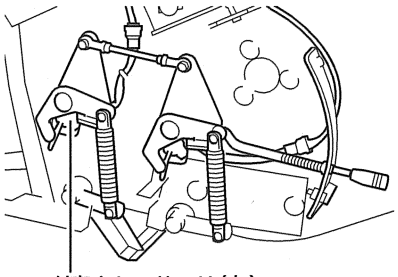
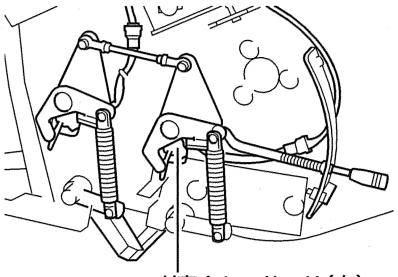


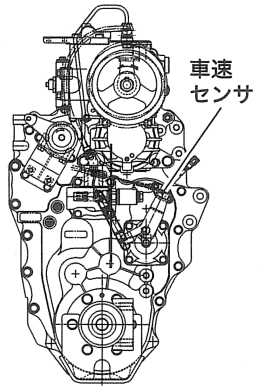
例:CSD電磁弁の異常



ランプ点滅回数		状況	不具合現象
長い点滅	短い点滅		
−	4	冷却水温センサの異常です	通常運転可能
−	5	アクセルセンサの異常です	アクセルダイヤルでエンジン回転の調節ができません。
−	6	回転センサの異常です	エンジン停止
−	7	ラック位置センサの異常です	エンジン回転は正常なのに、エンジンに粘りがない。
−	8	ラックアクチュエータの異常です	エンジン停止
−	9	過回転異常です	エンジン停止
1	4	CSD電磁弁の異常です	
1	5	始動補助リレーの異常です	エンジン回転したままですが、一度止めると再始動できません。
1	6	メインリレーの異常です	通常運転可能可能ですが、バッテリ上がりのおそれがあります。
1	7	ラックアクチュエータリレーの異常です	エンジン停止
2	3	電源電圧の異常です	通常運転可能
2	4	センサ5Vの異常です	通常運転可能
2	5	エンジンコントローラの温度上昇警報です	通常運転可能
3	6	冷却水温上昇警報です	冷却水の温度が高すぎます。
4	1	エンジンコントローラの異常です	エンジン停止または通常運転可能。

21.刈取コントローラ関係

エラーコード	状況	不具合現象	点検箇所	処置
C2−22	刈高さ調節ダイヤルの異常です。	刈高さ調節ダイヤルで、刈取部の高さ調節ができません。	コネクタが抜けていませんか。	抜けている場合は、確実に差し込んでください。
C2−32	刈高さセンサソリ左の異常です。	刈高さ自動制御装置・対地平行制御装置での刈取部の高さの検出ができません。	コネクタが抜けていませんか。 刈取部左側面にあります。	抜けている場合は、確実に差し込んでください。  刈高さセンサソリ(左) 3032145
C2−38	刈高さセンサソリ右の異常です。	刈高さ自動制御装置・対地平行制御装置での刈取部の高さの検出ができません。	コネクタが抜けていませんか。 刈取部左側面にあります。	抜けている場合は、確実に差し込んでください。  刈高さセンサソリ(右) 3032145
C2−62	刈取オートセット・オートリフトボタンの異常です。	刈取オートセット・オートリフトともに働きません。	キースイッチを「入」位置にするときに、オートセットボタン・オートリフトボタンが押されていませんか。または、オートセットボタン・オートリフトボタンを同時に押しませんでしたか。	オートセットボタン・オートリフトボタンからいったん手を離した後、再度オートセットボタン・オートリフトボタンのいずれか一方のみを押してください。 ※上記でもエラー表示するときは、電線が短絡している可能性があります。修理を依頼してください。
C2−63	刈高さ調節レバーの異常です。	刈取部の昇降ができません。	キースイッチを「入」位置にするときに、刈高さ調節レバーが「上昇」側または、「下降」側になっていませんか。	刈高さ調節レバーを「切」(中立位置)にしてください。 ※上記でもエラー表示するときは、電線が短絡している可能性があります。修理を依頼してください。
C2−67	センサ電源の異常です。	刈取オートセット・オートリフトともに働きません。	コントローラの電源・電線が短絡していませんか。	修理を依頼してください。

エラーコード	状況	不具合現象	点検箇所	処置
C2−42	車速センサの異常です。	−	車速センサコネクタが抜けていませんか。 車速センサは、ミッションケース左側面にあります。	抜けている場合は、確実に差し込んでください。 

22.水平コントローラ関係

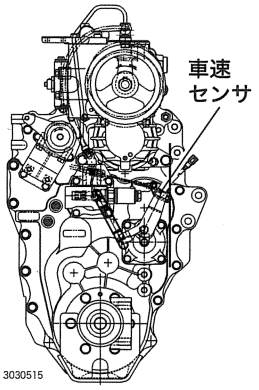
エラーコード	状　況	不具合現象	点　検　箇　所	処　置	参照ページ
C1−22	傾斜角調節ダイヤルの異常です。	水平制御が働きません。	コネクタが抜けていませんか。	抜けている場合は、確実に差し込んでください。	−
			傾斜角調節ダイヤルが故障していませんか。	傾斜角調節ダイヤルを交換してください。	54
C1−32	傾斜角センサの異常です。	水平制御が働きません。	コネクタが抜けていませんか。	抜けている場合は、確実に差し込んでください。	−
			傾斜角センサが故障していませんか。	傾斜角センサを交換してください。	−
C1−33	車高検出センサ(右)の異常です。	水平制御が働きません。 傾斜の調節ができません。	コネクタが抜けていませんか。	抜けている場合は、確実に差し込んでください。	−
			車高検出センサのアームがフリーになっていませんか。	車高検出センサのアームをセットしなおしてください。	133
C1−34	車高検出センサ(左)の異常です。		車高検出センサが故障していませんか。	車高検出センサを交換してください。	133
C1−62	車高調節レバーの異常です。	車高の調節ができません。	コネクタが抜けていませんか。	抜けている場合は、確実に差し込んでください。	−
			車高調節レバーが故障していませんか。	車高調節レバーを交換してください。	53
C1−63	コントローラ出力グランドの異常です。	車高の調節ができません。	コネクタが抜けていませんか。	抜けている場合は、確実に差し込んでください。	−

エラーコード	状　況	不具合現象	点検箇所	処　置	参照ページ
C1−65	排出クラッチスイッチの異常です。	排出クラッチが働きません。	コネクタが抜けていませんか。	抜けている場合は、コネクタを差し込んでください。	55
			排出クラッチスイッチが故障していませんか。	排出クラッチスイッチを交換してください。	
C1−66	コントローラとコンビネーションメータの通信異常です。	刈取昇降・リール昇降と同時に車高昇降を行ったときに機体が傾きます。	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。 ※電線が短絡している場合には、修理を依頼してください。	196
			コネクタが抜けていませんか。	抜けている場合は、確実に差し込んでください。	−
C1−67	センサ電源の異常です。	車高の調節ができません。	傾斜角調節ダイヤル、または車高検出センサが故障していませんか。	傾斜角調節ダイヤル、または車高検出センサを交換してください。	54・133
C1−68	コントローラデータの異常です。	車高の調節ができません。また、排出クラッチが働きません。	−	コントローラを交換してください。	−

※異常表示は、電線が短絡または切れているときでも発生します。その場合は、修理を依頼してください。

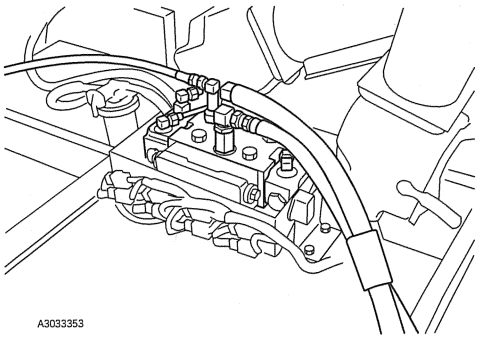
23.排出コントローラ関係(グレンタンク仕様のみ)

エラーコード	状　況	不具合現象	点検箇所	処　置	参照ページ
C4−38	排出コンベア上昇リミットスイッチ、または排出コンベア昇降電磁弁の異常です。	排出コンベア自動旋回制御(排出コンベアオートセット・オートリターン)が働きません。	コネクタが抜けていませんか。	抜けている場合は、確実に差し込んでください。	−
			排出コンベア上昇リミットスイッチが、確実に押されていますか。	排出コンベア上昇リミットスイッチが、確実に押される位置に再セットしてください。	137
			排出コンベア上昇リミットスイッチが故障していませんか。	排出コンベア上昇リミットスイッチを交換してください。	−
			ヒューズが切れていませんか。ヒューズボックス内のヒューズを点検してください。	ヒューズを交換してください。 ※電線が短絡している場合には、修理を依頼してください。	196

エラーコード	状　況	不具合現象	点検箇所	処　置	参照ページ
C4−39	排出コンベア右旋回リミットスイッチ、または旋回モータ、旋回モータ駆動ユニットの異常です。	排出コンベア、オートリターンが働きません。	コネクタが抜けていませんか。	抜けている場合は、確実に差し込んでください。	−
			排出コンベア右旋回リミットスイッチが故障していませんか。	排出コンベア右旋回リミットスイッチを交換してください。	−
			ヒューズが切れていませんか。ヒューズボックス内のヒューズを点検してください。	ヒューズを交換してください。 ※電線が短絡している場合には、修理を依頼してください。	196
C4−42	車速センサの異常です。	−	車速センサコネクタが抜けていませんか。 車速センサは、ミッションケース左側面にあります。	抜けている場合は、確実に差し込んでください。 	−
C4−84	排出コンベアオートセット位置スイッチ、または旋回モータ、旋回モータ駆動ユニットの異常です。	排出コンベアオートセットが働きません。	コネクタが抜けていませんか。	抜けている場合は、確実に差し込んでください。	−
			排出コンベアオートセット位置スイッチが故障していませんか。	排出コンベアオートセット位置スイッチを交換してください。	−
			ヒューズが切れていませんか。ヒューズボックス内のヒューズを点検してください。	ヒューズを交換してください。 ※電線が短絡している場合には、修理を依頼してください。	196
C4−85	排出コンベアクロスレバーの異常です。	排出コンベアの昇降・旋回ができません。	排出コンベアクロスレバーが故障していませんか。	排出コンベアクロスレバーを交換してください。	54
C4−86	排出自動旋回スイッチの異常です。	排出自動旋回制御(排出コンベアオートセット・オートリターン)が働きません。	コネクタが抜けていませんか。	抜けている場合は、確実に差し込んでください。	−
			排出自動旋回スイッチが故障していませんか。	排出自動旋回スイッチを交換してください。	55

※異常表示は、電線が短絡または切れているときでも発生します。その場合は、修理を依頼してください。

24.油圧が作動しない場合

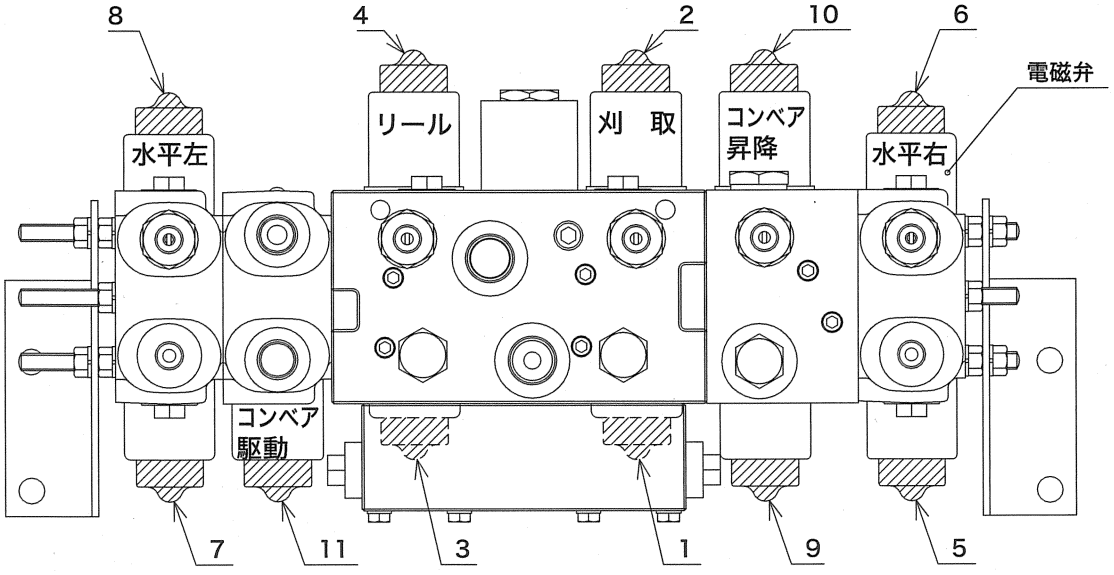
この確認をしてください	処置
油圧バルブを操作する各操作レバーと、電磁弁のカプラの接続を確認してください。	各カプラを確実に差し込んでください。
	作動しない場合の応急処置 グレンタンクをオープンして、油圧バルブを下記要領で手動操作していきください。  A3033353

〈グレンタンク仕様の場合〉

バルブの手動操作方法

※. 印は各電磁弁の両端の黒いゴムキャップです、強く押して操作してください。

1. 刈取部を上げる時、 1を押す。
2. 刈取部を下げる時、 2を押す。
3. リールを上げる時、 3を押す。
4. リールを下げる時、 4を押す。
5. 水平右を上げる時、 5を押す。
6. 水平右を下げる時、 6を押す。
7. 水平左を上げる時、 7を押す。
8. 水平左を下げる時、 8を押す。
9. 排出コンベアを上げる時、 9を押す。
10. 排出コンベアを下げる時、 10を押す。
11. 排出コンベアを駆動する時、 11を押す。



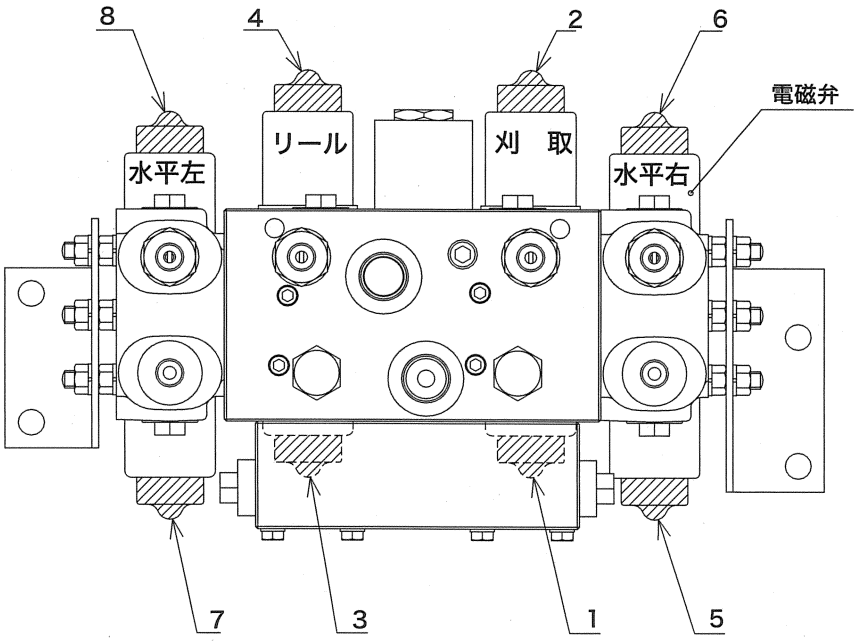
TE9047−97450

〈ワンマンホッパ仕様の場合〉

バルブの手動操作方法

※. ▨ 印は各電磁弁の両端の黒いゴムキャップです、強く押して操作してください。

1. 刈取部を上げる時、▨ 1を押す。
2. 刈取部を下げる時、▨ 2を押す。
3. リールを上げる時、▨ 3を押す。
4. リールを下げる時、▨ 4を押す。
5. 水平右を上げる時、▨ 5を押す。
6. 水平右を下げる時、▨ 6を押す。
7. 水平左を上げる時、▨ 7を押す。
8. 水平左を下げる時、▨ 8を押す。



1E9040-97450

1. 主要諸元

名称				三菱普通型コンバイン			
販売型式名				MCH400			
区分				—	GE	GCE	GCES
機体寸法	全長		(mm)	5010	5010	5010	5450
	全幅		(mm)	1790	1980	2140	2140
	全高		(mm)	2310	2690	2690	2690
機体質量(重量)			(kg)	2670	2950	3045	3115
エンジン	型式名			3TNV84T			
	種類			水冷4サイクル3気筒立形ターボディーゼル			
	総排気量		(L{cc})	1.496{1496}			
	最大出力/回転速度		(kW{PS}/rpm)	29.7{40.4}/2600			
	使用燃料			ディーゼル軽油			
	燃料タンク容量		(L)	50			
	始動方式			セルスタータ式			
走行部	クローラ	幅×接地長	(mm)	400×1420			
		中心距離	(mm)	1030		1065	
		平均接地圧	(kPa{kgf/cm^2})	23.0{0.235}	25.4{0.259}	26.3{0.268}	26.9{0.274}
	変速方式			HST無段変速(FDS)			
	変速段数		(段)	前後進無段×副変速3段			
	走行速度〈エンジン定格回転速度時〉	前進	(m/s)	低速:0~0.74, 標準:0~1.38, 走行:0~2.53			
		後進	(m/s)	低速:0~0.65, 標準:0~1.18, 走行:0~2.14			
刈取部	デバイダ先端間隔		(mm)	1535			
	刈取装置形式			リール+プラットホーム			
	刃幅		(mm)	1444			
	刈高さ範囲		(mm)	−50~880			
	リール	回転径×幅	(mm)	1000×1283			
		回転速度	(rpm)	低:0~38、高:0~47(車速同調)			
脱こく部	形式			軸流式(こぎ歯)			
	ローター	個数	(個)	1			
		こぎ歯の種類		ワイヤーツース			
		径×長さ	(mm)	350(ロータ外径)×1700			
		回転速度	(rpm)	大豆・小豆・ソバ:385、麦:805			
	コーンケーブ面積		(m^2)	0.94			
選別部	チャフシーブ面積		(m^2)	0.24			
	グレンシーブ面積		(m^2)	0.09			
	総選別面積		(m^2)	0.33			
こく粒処理部	タンクまたはホッパ容量		(L)	200	850		
	排出高さ		(mm)	—	3430		
	こく粒処理方式			ワンマンホッパ、3口排出	グレンタンク、バケット+ベルトコンベア排出		
排ワラ処理装置				—			スプレッダ
諸装置	警報装置・自動化装置			液晶モニター(ロータ・1番・2番・タンクシグナル・水温・燃料・チャージ)、自動刈高さ制御、機体水平制御、対地平行制御、オートリフト/オートセット、セイフティリフト、刈取オートクラッチ、自動定回転制御、オーバーロード警報、オートデセル、排出オートセット/オートリターン			
作業能率(計算値)			(分/10a)	12~54(大豆)			
適用作物				大豆・ソバ・麦			
安全鑑定番号				25096			

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

2. オプション

部位	No.	名　称	型式、仕様	MCH400				備　考
				ー	GE	GCE	GCES	
脱こく部	①	麦ソバ共用部品	BW320-K,KM	○	○	○	○	
	②	ソバ専用部品	BW380-K,SM	○	○	○	○	BW320-K,Kと共着 (BW360-K,Sのコンケーブ省略品)
	③	ムギ専用部品	BW320-K,MM	○	○	○	○	BW320-K,Kと共着
	④	ナタネ部品	BW360-K,NM	○	○	○	○	BW320-K,Kと共着
	⑤	雑穀部品	BW360-K,ZM	○	○	○	○	BW320-K,Kと共着
	⑥	雑穀部品 (チャフシーブ前)	BW360-K,ZAM	○	○	○	○	BW320-K,KおよびBW360-K,Zと共着
	⑦	掃除蓋5	BW360-K,SKFT5	○	○	○	○	昇降機底蓋目の幅4mm→5mm変更品
	⑧	小豆専用部品	RB320,HM	○	○	○	○	
	⑨	ハトムギキット	BW400-K,HT	○	○	○	○	BW320-K,KおよびB320-K,LFTと共着
	⑩	切刃キット	B380K-KIT,KIHM	○	○	○	○	切刃8個追加
	⑪	黒大豆キット	B400K-K,BBA	○	○	○	○	
刈取部	⑫	リフタキット	B320-K,LFT	○	○	○	○	作物を掬上げて取込向上。2本1組
	⑬	ビーンスラット	B320-K,S 15M	○	○	○	○	短稈大豆の取込時のこぼれ防止
	⑭	防塵ファンキット	B320-K,FAN	●	●	○	○	フィーダハウスから粉塵を吸いだす。
排ワラ部	⑮	スプレッダ	CSS360,M	○				
	⑯		CSS360,GEM		○			バランスウエイト30kg付
			CSS360,GCEM			○	●	
		集束装置	B320K-KIT,DRP	○	○	○	○	排稈、排塵をまとめて落とす。

●は仕様装備

※MCH320/360用切刃キット B320-KIT,KIHM（切刃4本追加キット）
※MCH360用脱こく改善キット 7E9530-08000（強度アップ、ゴトゴト音改善　MCH380同等の脱こく部への改善キット）
※上記のオプションのうち 黒大豆キットB400K-K,BBA、ハトムギキットBW400-K,HT がMCH400専用で、他はMCH380と共通。

3. 主要消耗部品

区分	No.	部品名	コード番号	個数	備考
ベルト	1	HST走行駆動ベルト LB51-AG8	97320000110	2	エンジンプーリ～走行HST CMP
	2	刈取駆動ベルト トクB68	97190000130	1	PTO2軸～FHカウンタージク
	3	刈刃駆動ベルト トクC72H	97090000120	1	PF駆動軸～刈刃駆動ケース
	4	脱穀カウンタベルト LC135(AG8)	97250005690	1	エンジンプーリ～脱穀カウンタ
	5	脱穀駆動ベルト トクC60(AG8)	97190000100	1	脱穀カウンタ～カウンタジク
	6	選別駆動ベルト トクB46H	97090000020	1	カウンタジク～揺動軸
	7	1番2番駆動ベルト トクB92H	97090000050	1	揺動軸～1・2番コンベア
	8	唐箕駆動ベルト トクB73H	97090000070	1	揺動軸～唐箕
	9	ロータ駆動ベルト トクC69	97190000090	1	カウンタジク～ロータ駆動ケース
	10	ロータ駆動ベルト トクC62H	97090000040	2	ロータ駆動ケース～ロータ
	11	2番駆動上ベルト B42(AG6)	97090015590	1	ロータ～2番コンベア
	12	オーガ入力ベルト LB44(AG4)	97190000140	1	エンジン～Gニュウリョク1ジク
	13	コンプレッサ駆動ベルト(マルチプライ A32)	97180000040	1	Gニュウリョク1ジク～コンプレッサ
	14	クラッチベルト トクB60H	97190000150	1	Gニュウリョク2ジク～下部コンベア
	15	冷却ファンベルト A:36インチ	97250001190	1	エンジン～CWポンプ～ジェネレータ
	16	受継コンベア駆動ベルト トクA40H	97190022750	1	下部コンベア～受継1軸
	17	受継搬送ベルト	97190020230	1	受継1軸～受継ローラB
	18	排出コンベア搬送ベルト	97190020241	1	油圧モータ～Eコンベア排出口
	19	スプレッダクラッチベルト LB68(AG6)	96000062881	1	カウンタジク～スプレッダ(オプション)
	20	ロータ駆動ベルト トクC59H	97090013760	2	ロータ駆動ケース～ロータ(オプション)
	21	ロータ駆動ベルト LB62	97330000040	3	ロータ駆動ケース～ロータ(オプション)
	22	刈刃駆動ベルト トクC70H	97090015570	1	PF駆動軸～刈刃駆動ケース(オプション)
チェン	23	チェン 50×55L	97190000200	1	刈取駆動
	24	チェン 50×174L	97190000190	1	
	25	チェン 415×80	97190000160	1	リールカウンタ
	26	チェン 415×194	97190000170	1	リール駆動
	27	チェン 50×85L	97330000080	1	掻き込み駆動
	28	フィーダチェン 80	97190023620	2	FHコンベア
	29	エレベータチェン 1バン	97250004860	1	ヨウコクコンベア
	30	エレベータチェン 2バン	97090000340	1	2番コンベア
	31	チェン 415×32	97190020200	1	下部コンベア
	32	エレベータチェン ハイシュツ(152L)	97190020250	1	排出駆動
	33	チェン 415×53	97190020210	1	Eコンベア駆動
	34	プラットフォームオーガチェン50×85L	97330000080	1	PF駆動
	35	チェン 50×80L	97330000090	1	掻き込み駆動(オプション)
その他	36	タイン 268	97190020610	108	
	37	刈刃総仕組	97330000070	1	
	38	扱歯 R7 EX	97300001250	96	
	39	ブレーキワイヤ	97250006430	1	
	40	刈取クラッチワイヤー	97190000270	1	
	41	脱穀クラッチワイヤー	97190000280	1	
	42	選別調節ワイヤー	97300002190	1	
	43	Gクラッチワイヤー	97190020220	1	
	44	1番コンベア	97090000300	1	
	45	下部コンベア	97300004390	1	
	46	2番軸B	97090000310	1	
	47	羽根	97090000320	1	
	48	バケット	97090000350	37	
	49	排稈羽根	94690005660	2	
	50	パイプコンケーブ 21	97300003871	4	大豆・小豆・ソバ用

区分	No.	部品名	コード番号	個数	備考
その他	51	コンケーブ(クリンプアミ	97090013750	4	麦用
	52	コンケーブ(クリンプ 12	97300002840	4	雑穀用
	53	コンケープ A	97330000050	3	黒大豆用
	54	コンケープ B	97330000060	1	黒大豆用
	55	コンケープ 25×625	97090000370	2	コンケープ前(ハトムギ用)
	56	バッテリ 95D31R	97250008180	1	
	57	2番スラット	97090000360	27	
	58	サイドシール L	97190022781	1	
	59	サイドシール R	97190023630	1	
	60	スクレーパ上	97190022980	1	
	61	投げ口シート	97190023540	1	
	62	フィルタ80×80L(エンジンオイルエレメント)	90300004972	1	
	63	エレメントASY(HST フィルタ)	94690071390	1	
	64	エレメント(ウォータセパレータ)	97250002650	1	
	65	FO フィルタ(FO コシ器エレメント)	97250002491	1	
	66	エレメント(アウター(エアクリーナーエレメント)	90760000640	1	